

vol.10

キャンパスライフ 第10回

CAMPUS LIFE

大学院生生活実態調査報告書



ま え が き

大学院生生活実態調査も第10回を迎え、最新の報告書がまとまりました。本調査は、本学大学院生の生活実態や要望を多角的に把握し、福利厚生や修学指導の改善に繋げることを目的として、2年ごとに行われています。今回は、令和6年11月に6研究科・2教育部の修士・博士前期課程、博士・博士後期課程に在籍する全大学院生1,422名を対象にアンケート調査を実施し、31.2%にあたる441名から貴重な回答を得ることができました。

本報告書では、調査の概要に始まり、①基本的事項（属性、経済状況等）、②家族・住居・通学、③収入・支出、④健康状態、⑤学生生活上の問題点、⑥修学状況、⑦進路選択・就職という7つの大項目、計105の質問について、日本語と英語による回答を集計・分析した結果を詳細に示しています。さらに、各研究科・教育部の現状と課題を浮き彫りにし、全体を総括した提言をまとめることで、今後の大学院教育の発展に資する内容となるよう努めました。

今回の調査からは、本学大学院生の多様な生活実態が明らかになりました。例えば、前期課程学生の半数以上がアルバイトに従事しており、経済的な負担が大きいことが伺えます。また、前期・後期課程学生ともに約7割が何らかの悩みや不安を抱えており、約半数が身体的な不調を感じていると回答しています。これらの悩みや不安の相談相手としては、友人や家族が最も多く、指導教員とのコミュニケーションについては、9割近くが「充分」または「ある程度」と回答しており、良好な関係が築けていることが窺えます。一方で、海外渡航経験のある学生は少なく、国際学会での発表経験を持つ学生も限られていることから、グローバルな研究活動への支援が今後の課題であると考えられます。

大学院教育を取り巻く環境は、平成30年の中央教育審議会大学分科会の答申「2040年を見据えた大学院教育のあるべき姿」において、社会を先導する人材育成に向けた体質改善が求められるなど、変革期を迎えています。本学においても、各研究科が主体となり、教育プログラムの充実や多様な学生への支援体制の構築に取り組んでいます。

研究活動を支える基盤として、学生を取り巻く環境整備は不可欠です。グローバル化の進展に伴い、留学生の増加や社会人学生の多様化が進む中、経済的支援、就労支援、生活基盤の安定など、きめ細やかなサポートが求められています。本調査は、学生生活全般にわたる広範な質問項目を含み、教員が把握しきれない学生の実情を浮き彫りにする貴重な資料となるでしょう。

最後に、本調査の実施にご尽力いただきました高等教育研究センターキャリア支援部門学生生活支援室の皆様、キャンパスライフ健康支援センター、キャリア支援部門、学務部の皆様に深く感謝申し上げます。また、調査にご協力いただきました大学院生の皆様にも、この場を借りて心より御礼申し上げます。本報告書が、本学大学院教育の更なる発展に貢献することを願い、まえがきといたします。

令和7年3月

徳島大学副学長（教育担当）

河野文昭

目 次

まえがき	1
序 章 大学院生生活実態調査の概要	4
1 調査の目的	4
2 調査の組織	4
3 調査の対象及び方法	4
4 調査の時期	4
5 調査の内容	4
6 回答票の回収状況	5
7 図中の%表示	5
8 前期課程・後期課程	5
9 研究科等の略語表示	5
10 在籍者数の些少な研究科・教育部について	5
附表「令和6年度学生生活実態調査」(日本人学生用)	7
附表「2024 STUDENT LIFE SURVEY」(外国人留学生用)	22
第1章 本調査の対象者について	40
1-1 出身地	40
1-2 最終学歴	41
1-3 社会人大大学院生と留学生	42
第2章 家族・住居・通学について	44
2-1 家庭の年間所得	44
2-2 住居区分	46
2-3 住居費	47
2-4 配偶者や子供の有無	49
2-5 通学方法	52
2-6 通学時間	53
第3章 収入・支出について	56
3-1 1か月の平均収入額	56
3-2 親等からの援助額	57
3-3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く)	59
3-4 奨学金	61
3-5 アルバイト	62
3-6 アルバイト従事時間数	63
3-7 アルバイトの目的	65
3-8 アルバイト収入金額	67
3-9 アルバイトにおけるトラブル	68
第4章 健康状態について	71
4-1 睡眠時間	71
4-2 気になる症状	72
4-3 症状の内容	73

4-4	主な悩みと不安	74
4-5	相談相手	75
4-6	現在の精神状態	76
4-7	喫煙	76
4-8	飲酒	77
4-9	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識	77
第5章	学生生活上の問題点について	79
5-1	迷惑行為	79
5-2	総合相談部門（総合相談室）の利用	82
5-3	交通事故・違法薬物使用	84
5-4	大学事務室の対応	85
第6章	修学状況について	87
6A-1	教育理念・方針と教育に対する満足度	87
6A-2	本学を選んだ理由と目的	90
6B-1	研究活動と研究指導	97
6B-2	研究環境と所属大学院に対する満足度	104
6C-1	図書館の利用状況	106
6C-2	学習への取り組み	111
6C-3	海外渡航の経験と英会話	113
6D-1	日本語会話	117
6E-1	本学の教育への期待	120
第7章	進路選択・就職について	124
7-1	後期課程への進学意思	124
7-2	進学希望先	125
7-3	就職希望職種	126
7-4	進路選択の要件	127
7-5	進路選択の情報入手手段	129
7-6	キャリア支援室の利用状況	131
7-7	就職に関する大学への要望	132
第8章	研究科・教育部の現状と課題	137
8-1-1	創成科学研究科 地域創成専攻・臨床心理学専攻	137
8-1-2	創成科学研究科 理工学専攻	139
8-1-3	創成科学研究科 生物資源学専攻	140
8-1-4	創成科学研究科 創成科学専攻	142
8-2	医学研究科	143
8-3	口腔科学研究科	149
8-4	薬学研究科	151
8-5	医科栄養学研究科	155
8-6	保健科学研究科	159
特記	留学生の現状と課題	164
第9章	総括と提言	168
	あとがき	170

序章 大学院生生活実態調査の概要

1 調査の目的

この調査は、本学大学院学生の生活の実状を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施した。

2 調査の組織

この調査は、徳島大学高等教育研究センターキャリア支援部門学生支援班学生生活支援室の委員及び協力者が中心となり調査を実施し、分析作業を行った。

区分	氏名	所属	職名
室長	難波康祐	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	饗場和彦	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	米村重信	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	濱田賢一	大学院医歯薬学研究部	教授
委員	真壁和裕	大学院社会産業理工学研究部	教授
委員	宇都義浩	高等教育研究センターキャリア支援部門	部門長
委員	TRAN HOANG NAM	高等教育研究センター学修支援部門国際教育推進班	講師
委員	井ノ崎敦子	キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門	講師
委員	高柳俊夫	大学院社会産業理工学研究部	教授
協力者	井崎ゆみ子	キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門	センター長 教授

3. 調査の対象及び方法

この調査は、本学大学院修士・博士前期課程及び博士・博士後期課程に在学する大学院学生全員 1,422人（令和6年11月1日に在籍する者のうち休学者を除いた者）を調査対象とした。

調査方法は、教務システムのアンケート機能を利用し、WEBにより実施した。

4. 調査の時期

この調査は、令和6年11月1日から11月25日まで実施し、11月1日現在の実状について回答を依頼した。

5. 調査の内容

調査項目は、大学院学生の生活全般を把握できるように精選した。

6. 回答票の回収状況

調査票の回収状況は、調査対象者 1,422 人のうち回答数は 444 人で、回収率は 31.2%であった。研究科・専攻別、学年別の回収状況は次表のとおりである。

7. 図中の%表示

端数処理の関係で合計が 100%にならない場合や、複数回答の場合で実回答者数を母数として、それに対する各設問の回答数を百分率で表したグラフには合計が 100%を超えるものがある。

8. 前期課程・後期課程

報告書中では、修士課程と博士前期課程を合わせて前期課程、博士後期課程と 4 年生博士課程（医・歯・薬）を合わせて後期課程と表現した。

9. 研究科等の略語表示

報告書中では、研究科等を以下のとおり略語で記載する。

創成科学研究科	→	創成科学
医学研究科	→	医学
口腔科学研究科	→	口腔科学
薬学研究科	→	薬学
医科栄養学研究科	→	医科栄養学
保健科学研究科	→	保健科学
令和 2 年度学生生活実態調査（大学院学生）	→	前々回調査
令和 4 年度学生生活実態調査（大学院学生）	→	前回調査

10. 在籍者数の些少な研究科・教育部について

報告書中では、在籍者数の些少な研究科・教育部について以下の取扱いとする。

- ・口腔科学研究科前期課程については研究科名及びグラフは非表示とする。
- ・総合科学教育部博士課程、先端技術科学教育部博士課程については、創成科学専攻に回答を含める。

令和6年度 学生生活実態調査（大学院学生対象）

令和6年11月
徳島大学

お願い

この調査は、みなさんの学生生活を把握し、今後の福利厚生等の改善並びに修学指導に資する基礎資料を得ることを目的として実施するものです。

本調査は、令和6年11月1日現在、本学に在学する大学院学生全員を対象に匿名で行います。他の目的に使用することはありませんので、ありのままを正確にお答えください。

質問事項も多く、大変とは思いますが、この調査の趣旨をご理解のうえ、ご協力をお願いします。

〔調査実施期間 11月1日（金）～11月11日（月）〕

<回答記入上の注意事項>

- 1 令和6年11月1日現在で回答してください。
- 2 回答内容の該当するものを一つだけ選んでください。ただし、複数回答可を指定している場合は、複数選んでも差し支えありません。
- 3 回答者を指定している箇所は、指定された人のみ回答してください。
- 4 末尾に自由記載欄を設けています。学生生活全般について、気づいたことや要望したいこと、あるいは期待することがあれば、自由に記入してください。

学生生活実態調査票（大学院）

A. 基本的事項について

1 【常三島地区：修士・博士前期課程の方のみ回答】所属はどこですか。

1. 創成科学研究科（地域創成専攻）
2. 創成科学研究科（臨床心理学専攻）
3. 創成科学研究科（理工学専攻・社会基盤デザイン）
4. 創成科学研究科（理工学専攻・機械科学）
5. 創成科学研究科（理工学専攻・応用化学）
6. 創成科学研究科（理工学専攻・電気電子システム）
7. 創成科学研究科（理工学専攻・知能情報システム）
8. 創成科学研究科（理工学専攻・光システム）
9. 創成科学研究科（理工学専攻・数理科学）
10. 創成科学研究科（理工学専攻・自然科学）
11. 創成科学研究科（生物資源学専攻）

2 【常三島地区：博士後期課程の方のみ回答】所属はどこですか。

1. 総合科学教育部（地域科学専攻）
2. 先端技術科学教育部（知的力学システム工学専攻）
3. 先端技術科学教育部（物質生命システム工学専攻）
4. 先端技術科学教育部（システム創生工学専攻）
5. 創成科学研究科（創成科学専攻・社会基盤システムプログラム）
6. 創成科学研究科（創成科学専攻・化学生命工学系プログラム）
7. 創成科学研究科（創成科学専攻・機械科学系プログラム）
8. 創成科学研究科（創成科学専攻・電気電子物理科学系プログラム）
9. 創成科学研究科（創成科学専攻・知能情報・数理科学系プログラム）
10. 創成科学研究科（創成科学専攻・生物資源学系プログラム）
11. 創成科学研究科（創成科学専攻・光科学系プログラム）

3 【蔵本地区】所属はどこですか。

1. 医学研究科（医科学専攻）
2. 医学研究科（医学専攻）
3. 口腔科学研究科（口腔保健学専攻）
4. 口腔科学研究科（口腔科学専攻）
5. 薬学研究科（創薬科学専攻）
6. 薬学研究科（薬学専攻）
7. 医科栄養学研究科（医科栄養学専攻）
8. 保健科学研究科（保健学専攻）

4 【全員】何年生ですか。

1. 修士・博士前期課程1年生
2. 修士・博士前期課程2年生
3. 博士後期課程1年生
4. 博士後期課程2年生
5. 博士後期課程3年生
6. 博士課程1年生
7. 博士課程2年生
8. 博士課程3年生
9. 博士課程4年生

5 【全員】性別はどちらですか。

1. 男
2. 女
3. その他

6 【全員】出身地はどこですか。

1. 徳島県
2. 四国（徳島県以外）
3. 九州
4. 中国
5. 近畿
6. 中部（新潟，富山，石川，福井，山梨，長野，岐阜，静岡，愛知）
7. 関東（茨城，栃木，群馬，埼玉，千葉，東京，神奈川）
8. 東北
9. 北海道
10. その他（海外）

7 【全員】現在所属している研究科又は教育部に進学する前の最終学歴はどこですか。

1. 徳島大学
2. 徳島大学以外の国内の大学
3. 高等専門学校専攻科
4. 外国の大学
5. 徳島大学大学院修士・博士前期課程
6. 徳島大学大学院以外の国内の大学院
7. 外国の大学院

8 【全員】社会人または留学生ですか。

1. 社会人大学院生
2. 留学生
3. どちらでもない

B. 家族・住居・通学について

9 【全員】あなたの生計を支援している家庭の年収（税込み）はおよそどれくらいですか（自活者は自己の年収、同居している者は同居者を含めた家庭の年収）。

1. 250万円未満
2. 250～500万円未満
3. 500～750万円未満
4. 750～1,000万円未満
5. 1,000～1,500万円未満
6. 1,500万円以上
7. わからない

10 【全員】あなたの住居区分はどれですか。

1. 自宅（家族と同居）
2. アパート・マンション（家族と別居）
3. 学生寮
4. 親戚・知人宅
5. その他

11 【学生寮を除く自宅外通学者】1か月の家賃（電気代，ガス代等諸費用を除く）はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3万円～4万円未満
3. 4万円～5万円未満
4. 5万円～6万円未満
5. 6万円～7万円未満
6. 7万円～8万円未満
7. 8万円～9万円未満
8. 9万円～10万円未満
9. 10万円以上

12 【全員】あなたには現在，生計を共にしている配偶者・子供がいますか。

1. 配偶者なし，子供なし
2. 配偶者なし，子供あり
3. 配偶者あり，子供なし
4. 配偶者あり，子供あり

13 【問12で「2」「4」を選んだ方】授業や研究をしているとき，子供の世話は誰がみていますか。（複数回答可）

1. 配偶者
2. 親や親戚
3. 保育施設にあずける
4. 小学校等の学校に通っている
5. その他

(注：要望事項があれば末尾の自由記入欄に Q13 とともに書いてください)

14 【全員】あなたの主な通学方法は何ですか。

1. 徒歩
2. 自転車
3. バイク (原付自転車・自動二輪)
4. 自動車
5. バス・JR

15 【全員】通学時間はどれですか。

1. 15分未満
2. 15分～30分未満
3. 30分～1時間未満
4. 1時間～2時間未満
5. 2時間以上

C. 収入・支出について

16 【全員】あなたの1か月の平均収入額 (親等からの援助を除く) はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満
8. 25～30万円未満
9. 30万円以上

17 【全員】親等からの援助はいくらありますか。

1. 全くない
2. 3万円未満
3. 3～5万円未満
4. 5～7万円未満
5. 7～10万円未満
6. 10～15万円未満
7. 15～20万円未満
8. 20万円以上

18 【全員】あなたの1か月の平均支出額 (授業料支出は除く) はいくらですか。

1. 3万円未満
2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満
4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満
6. 15～20万円未満
7. 20～25万円未満
8. 25～30万円未満
9. 30万円以上

19 【全員】奨学金を受けることを希望しますか。

1. 現在受給中であるが、更に希望する
2. 現在受給していないが、希望する
3. 現在受給していないし、希望もしない

20 【全員】現在、アルバイトをしていますか。

1. はい
2. いいえ

21 【問20で「1」を選んだ方】①1週間の従事時間は平均何時間ですか。(移動に要する時間も含む)

1. 5時間未満
2. 5～10時間未満
3. 10～15時間未満
4. 15～20時間未満

5. 20～25時間未満 6. 25時間以上

22 【問20で「1」を選んだ方】②アルバイトは主にどのような目的でしていますか。(複数回答可)

1. 生活費や学費のため 2. 学会参加のため
3. レジャー・旅行費のため 4. 日常の娯楽・嗜好品等購入のため
5. 高額商品(パソコン, バイク, 自動車等)購入のため
6. 社会体験のため 7. その他

23 【問20で「1」を選んだ方】③あなたのアルバイトによる収入(1か月平均)はいくらですか。

1. 3万円未満 2. 3～5万円未満
3. 5～7万円未満 4. 7～10万円未満
5. 10～15万円未満 6. 15万円以上

24 【問20で「1」を選んだ方】④アルバイトでトラブルを経験したことがありますか。どのようなトラブルですか。(複数回答可)

1. ない 2. 給料の不払い
3. 雇用契約と異なる(給料, 業務内容, 業務時間) 4. 客とのトラブル
5. 解雇 6. 雇用者との意見の不一致
7. 事故・ケガ 8. アルバイト同士の人間関係
9. その他

25 【問24で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

D. 健康状態について

26 【全員】1日の睡眠時間は平均何時間ぐらいですか。(休日を除く)

1. 4時間未満 2. 4時間以上～5時間未満
3. 5時間以上～6時間未満 4. 6時間以上～7時間未満
5. 7時間以上～8時間未満 6. 8時間以上～9時間未満
7. 9時間以上～10時間未満 8. 10時間以上

27 【全員】現在気になる身体症状はありますか。

1. ない
2. 時々ある
3. 常にある

28 【問27で「3」を選んだ方】気になる症状は何ですか。(複数回答可)

1. 頭痛 2. 腹痛・嘔気
3. 下痢・便秘 4. 動悸・不整脈
5. めまい・立ちくらみ 6. 咳・痰
7. 生理痛・生理不順 8. アトピー・アレルギー
9. 不眠 10. その他

29 【全員】現在悩みや不安はありますか。それは主にどんなことですか。(複数回答可)

1. ない
2. 経済状態
3. 勉学
4. 交友・異性関係
5. 身体的不調
6. 家族関係
7. 自分の性格
8. 就職や進路
9. 生き甲斐や目標
10. SNS・ゲーム・ギャンブル
11. アルコール・薬物
12. その他

30 【全員】悩み事は誰に相談しますか。(複数回答可)

1. 友人
2. 家族
3. 指導教員
4. 指導教員以外の教員
5. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門 (総合相談室)
6. キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門
7. 学務 (教務) 係
8. 1～7以外の人
9. 誰にもしない

31 【全員】現在の精神状態はどうか。

1. 充実している
2. 気分は普通
3. いらいらする
4. なんとなく不安
5. 落ち込みやすい
6. やる気がでない
7. その他

32 【全員】喫煙しますか。

1. 喫煙しない
2. ときどき喫煙する
3. 毎日喫煙する
4. 過去に喫煙していたが、現在はしない

33 【全員】飲酒をしますか。

1. 飲酒はしない
2. たまに飲酒する
3. 1週間に1～2日飲酒する
4. 1週間に3～4日飲酒する
5. 1週間に5日以上飲酒する

34 【全員】キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を利用したことがありますか。(複数回答可)

1. 健康診断のために行ったことがある
2. 健康診断以外 (診療, 相談, 健康機器の利用, 証明書作成など) で利用したことがある
3. キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門があることを知らなかった
4. キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門は知っているが、行ったことがない

E. 学生生活上の問題点

35 【全員】あなたは、現在所属の大学院入学以来、盗難 (盗み)、強盗、傷害、性犯罪・性暴力等事件の被害や迷惑行為に遭ったことがありますか。(複数回答可)

1. 被害に遭ったことがない
2. 盗難 (盗み)
3. 強盗
4. 傷害
5. 性犯罪・性暴力

6. 悪徳商法に引っかかった
7. いたずら電話を受けた
8. ストーカーにあった
9. 飲酒を強要された
10. インターネットによる誹謗・中傷を受けた
11. カルトのような集団への勧誘を受けた
12. 大学内でセクハラを受けた
13. 大学内でアカハラを受けた
14. その他

セクハラ（セクシュアル・ハラスメント）とは

相手を不快にさせる性的な言動を行い、それに対する反応によって学習・研究上で一定の不利益を与えたり、精神的な苦痛などを与えること。

アカハラ（アカデミック・ハラスメント）とは

大学などで、指導教員が学生に対し、教育・研究活動への妨害を含めた学習・研究上の嫌がらせを継続的に行うこと。

36 【問35で「2」～「11」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）
5. 学務（教務）係
6. 警察
7. 1～6以外の人
8. 誰にもしない

37 【問35で「12」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

38 【問35で「13」を選んだ方】誰に相談しましたか。（複数回答可）

1. 友人
2. 家族
3. 教員
4. キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）
5. 学務（教務）係
6. 1～5以外の人
7. 誰にもしない

39 【問35で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

40 【全員】キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）を利用したことがありますか。

1. 利用したことがある
2. 総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが、利用したことがない
3. 総合相談部門（総合相談室）を知らない

41 【問40で「1」を選んだ方】総合相談部門（総合相談室）を利用して対応はどうか。

1. 満足である
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

4 2 【問4 1で「3」「4」を選んだ方】内容を記載して下さい。

4 3 【全員】あなたは、交通事故の被害者または加害者になったことがありますか。

1. 被害者・加害者の両方になったことがある
2. 被害者になったことがある
3. 加害者になったことがある
4. 被害者・加害者両方ともなったことがない

4 4 【問4 3で「1」～「3」を選んだ方】事故の時の状況を記載して下さい。

(例：「朝、自転車で通学していると交差点で左折の自動車に巻き込まれた」「帰省のため自動車を運転していると信号機のない横断歩道で歩行者と衝突した」等)

4 5 【全員】大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物を使用したことがありますか。

1. ある
2. ない

4 6 【全員】大学事務室の対応に満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足である
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

4 7 【問4 6で「3」「4」を選んだ方】理由」を記載して下さい。

F. 修学状況

4 8 【全員】所属する研究科又は教育部の教育理念や教育方針を知っていますか。

1. 良く知っている
2. だいたい知っている
3. あまり知らない
4. 知らない

4 9 【問4 8で「1」「2」を選んだ方】上記の研究科又は教育部の教育理念や教育方針で教育を受けていると思いますか。

1. 思う
2. 思わない

5 0 【全員】あなたは学位の授与（修了）に至るまでの教育課程について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

5 1 【問5 0で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

5 2 【徳島大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

5 3 【他大学卒業者】大学院進学の際、現在所属する大学院はあなたの第一志望でしたか。

1. 第一志望だった
2. 第二志望だった
3. 第三志望だった
4. その他

5 4 【全員】あなたが現在所属する大学院に入学した主な理由は何ですか。(複数回答可)

1. 出身大学だから
2. 希望する研究分野があるから
3. 指導教員に勧められたから
4. 地元の大学だから
5. 就職等将来を考慮して
6. 研究環境が整っているため
7. 希望する就職先がなかったから
8. 継続して修学するため
9. 先輩や友人に勧められて
10. その他

5 5 【問5 4で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

5 6 【全員】大学院で勉学することにより、あなたの目指すものは何ですか。

1. 高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人
2. 創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者
3. 確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員
4. 知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人
5. その他

5 7 【問5 6で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

5 8 【全員】あなたは、あなたが受講している授業の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

5 9 【問5 8で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

60 【全員】授業以外の自分で行う研究活動は週何時間ですか。

1. 30分未満
2. 30分～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10～20時間未満
6. 20～40時間未満
7. 40～60時間未満
8. 60時間以上

61 【全員】研究の直接の指導教員は誰ですか。

1. 教授
2. 准教授
3. 講師
4. 助教
5. その他

62 【全員】指導教員から週何時間ぐらい研究指導を受けていますか。

1. 30分未満
2. 30～90分未満
3. 90分～5時間未満
4. 5～10時間未満
5. 10時間以上

63 【全員】あなたは研究指導の内容や進め方について満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

64 【問63で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

65 【全員】あなたは修士（博士）論文の研究テーマに満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

66 【問65で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

67 【全員】指導教員とコミュニケーションがとれていると思いますか。

1. 充分とれている
2. ある程度とれている
3. あまりとれていない
4. まったくとれていない

68 【全員】大学院に相応しいレベルでの教育が行われていると思いますか。

1. 充分に行われている
2. ある程度行われている
3. あまり行われていない
4. 全く行われていない

69 【問68で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

70 【全員】現在の研究環境についての満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

71 【問70で「3」「4」を選んだ方】その理由はどれですか。(複数回答可)

1. 施設・設備
2. 研究費用
3. 研究時間
4. その他

72 【問71で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

73 【全員】あなたは所属している研究科又は教育部・専攻に全体として満足していますか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

74 【問73で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

75 【全員】図書館をどのくらいの頻度で入館利用（実際に登校して入館すること）しますか。

1. ほぼ毎日
2. 1週間に2～3回
3. 1週間に1回程度
4. 2週間に1回程度
5. 1か月に1回程度
6. 半年に1回程度
7. 1年に1回程度か、それ以下

76 【全員】図書館を利用する主な目的は何ですか（オンライン等の非来館利用も含む）。(複数回答可)

1. 図書等の貸し出し
2. 図書等の閲覧やコピー
3. 自習
4. グループ研究(学習)
5. パソコンの利用
6. 電子ジャーナル・データベース
7. 授業等の間の時間調整

8. その他

77 【全員】図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

78 【問77で「3」「4」を選んだ方】内容を記載して下さい。

79 【全員】現在所属している大学院に相応しい学習をしていますか。

1. よく学習している
2. かなりしている
3. あまりしていない
4. 全然していない

80 【全員】入学後、海外渡航をしたことがありますか。

1. ない
2. 1回
3. 2回
4. 3回
5. 4回以上

81 【問80で「1」以外を選んだ方】海外渡航の目的はどれでしたか。（複数回答可）

1. 留学
2. 語学研修
3. 学会参加
4. 学術調査
5. 社会活動
6. 観光
7. 一時帰国
8. その他

82 【日本人の方】国際学会において自身で研究発表をしたことがありますか。

1. 海外の国際学会で口頭発表したことがある
2. 海外の国際学会でポスター発表したことがある
3. 国内の国際学会で口頭発表したことがある
4. 国内の国際学会でポスター発表したことがある
5. 国際学会で研究発表をしたことはない

83 【日本人の方】英会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

84 【日本人の方】語学力を高めるために何をしていますか。（複数回答可）

1. 英会話等の学校に通っている
2. ラジオ・テレビの英会話番組で学習している
3. TOEIC, TOEFL 等を受験する
4. 外国語の新聞、雑誌を購読している
5. 外国のラジオ、テレビを視聴している
6. つとめて外国人と英語でコミュニケーションする
7. 何もしていない

85 【留学生の方】日本語会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

86 【留学生の方】英語会話はどの程度できますか。

1. 専門用語を使った会話ができる
2. 日常会話ができる
3. なんとか日常会話ができる
4. あまりできない
5. できない

87 【留学生の方】徳島大学が開講する日本語コースを受講していますか。

1. 受講している
2. 以前受講したことがある
3. 今後受講する予定である
4. 受講の予定はない

88 【問87で「1」「2」を選んだ方】日本語コースの満足度はどの程度ですか。

1. 満足している
2. どちらかといえば満足している
3. どちらかといえば不満足である
4. 不満足である

89 【問88で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

--

90 【全員】あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか。(複数回答可)

1. 統合的な学習課題を体系的に履修するコース
2. 複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導
3. 企業等での長期間の実践的なインターンシップ
4. 高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会
5. 産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究
6. 個々の教員の教育・研究指導能力の向上
7. その他
8. 特にない

91 【問90で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

--

92 【全員】本学は国際化への対応について積極的であると思いますか。

1. 非常に積極的であると思う
2. どちらかといえば積極的であると思う
3. どちらかといえば積極的とは思わない
4. 積極的とは思わない

93 【問92で「3」「4」を選んだ方】理由を記載して下さい。

G. 進路選択・就職について

94 【修士・博士前期課程の方】博士（後期）課程への進学を考えていますか。

1. 進学したい（進学予定者を含む）
2. 奨学金等の経済的支援があれば進学したい
3. 就職したい
4. 未定

95 【問94で「1」「2」を選んだ方】それは本学ですか、他大学ですか。

1. 本学
2. 他大学
3. 未定

96 【問94で「3」「4」を選んだ方及び博士後期・博士課程の方】希望職種は何ですか。（複数回答可）

- | | |
|------------------|-------------|
| 1. 大学・官公庁の教育・研究職 | 2. 1以外の公務員 |
| 3. 技術職 | 4. 事務職 |
| 5. 企業等の研究職 | 6. 教育職 |
| 7. マスコミ関係 | 8. 専門職（医師等） |
| 9. 既に就職している | 10. その他 |

97 【問96で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

98 【全員】進路選択で重視するものは何ですか。（3個以内で回答）

1. 収入
2. 就職先の将来性・安定性
3. 就職先の社会的評価
4. 能力を発揮できること
5. 勤務地の地理的条件
6. 先端技術を駆使しているところ
7. 仕事に対して適正な評価をしてくれるところ
8. 経営方針
9. 企業規模
10. 転勤・異動の有無
11. その他

99 【問98で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

100 【全員】進路を考える上での情報入手手段は何ですか。(複数回答可)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 指導教員 | 2. 就職担当教員 |
| 3. キャリア支援室の情報または就職相談員 | 4. 先輩・知人 |
| 5. 直接会社に照会 | 6. 就職情報誌・新聞・マスコミ |
| 7. 家族等 | 8. 大学内資料 |
| 9. Web・インターネット | 10. 会社説明会 |
| 11. その他 | |

101 【問100で「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

102 【全員】本学のキャリア支援室を利用したことがありますか。

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1. 現在も利用している | 2. 以前に利用したことがある |
| 3. 利用したことがない | |

103 【全員】就職に関して大学に要望することはありますか。(複数回答可)

1. 就職情報誌など就職関係書籍の充実
2. 面接対策・履歴書の書き方など個別相談の充実
3. 公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実
4. 企業説明会の内容充実
5. 就職ガイダンスの充実
6. 公的研究機関・病院等の求人情報の提供
7. 民間企業の求人開拓
8. すでに就職している
9. その他

104 【問103「その他」を選んだ方】内容を記載して下さい。

105 自由記載欄

その他ご意見・ご要望等があれば、具体的に記載してください。

ご協力ありがとうございました

2024 STUDENT LIFE SURVEY FOR GRADUATE STUDENTS

November 2024
Tokushima University

The purpose of this survey is to grasp the general life conditions of the students studying in Tokushima University. The collected data will be used to improve welfare facilities and to develop more effective educational support system for students.

This is an anonymous survey administered to all students enrolled at Tokushima University as of November 1, 2024. The collected information shall not be used for any other purposes, and your honest responses to the questions will be highly appreciated.

It may take considerable time to answer all the questions, but please understand the purpose and benefits. Your cooperation is greatly appreciated.

[Survey Period: November 1–11]

NOTES

- 1 . Please answer questions as of November 1, 2024.
- 2 . Please choose one answer for each question. Note that some questions allow multiple answers.
- 3 . Some questions are administered to only certain respondents. Answer questions that are applicable to you.
- 4 . You may also write comments or requests regarding school life on the entry space "104" at the end of this questionnaire (if any) .

STUDENT LIFE CONDITIONS SURVEY (GRADUATE SCHOOL)

A . BASIC INFORMATION

1. 【Subject: Only Master's students (“Hakase Zenki”) in Josanjima Area】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Regional Development)
2. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Clinical Psychology)
3. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Civil and Environmental Engineering)
4. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Mechanical Science)
5. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Applied Chemistry)
6. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Electrical and Electronic Engineering)
7. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Computer Science)
8. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Optical Science)
9. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Mathematical Science)
10. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Science and Technology · Natural Science)
11. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Bioresource Science)
12. Graduate School of Advanced Technology and Science (Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering)
13. Graduate School of Advanced Technology and Science (Systems Innovation Engineering)

2. 【Subject: Only doctoral students (“Hakase Koki”) in Josanjima Area】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Regional Development)
2. Graduate School of Advanced Technology and Science (Intelligent Structures and Mechanics Systems Engineering)
3. Graduate School of Advanced Technology and Science (Earth and Life Environmental Engineering)
4. Graduate School of Advanced Technology and Science (Systems Innovation Engineering)
5. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Social and Infrastructure System Program)
6. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Applied Chemistry and Biological Engineering Program)
7. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Mechanical Science Program)
8. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Electrical Engineering, Electronics and Physics Program)
9. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Computer Science and Mathematical Science Program)
10. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Bioresources Program)
11. Graduate School of Sciences and Technology for Innovation (Optical Science Program)

3. 【Subject:Kuramoto Area】

Which Graduate School do you belong to?

1. Graduate School of Medical Sciences (Medical Science)
2. Graduate School of Medical Sciences (Medicine)
3. Graduate School of Oral Sciences (Oral Health Science)
4. Graduate School of Oral Sciences (Oral Science)
5. Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmaceutical Sciences)
6. Graduate School of Pharmaceutical Sciences (Pharmacy)
7. Graduate School of Nutrition and Bioscience (Human Nutrition)
8. Graduate School of Health Sciences (Health Sciences)

4. 【Subject: ALL】

What grade are you in?

1. First year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
2. Second year in the Master's Course/first program of the Doctoral Course
3. First year in the second program of the Doctoral Course
4. Second year in the second program of the Doctoral Course
5. Third year in the second program of the Doctoral Course
6. First year of the Doctoral Course
7. Second year of the Doctoral Course
8. Third year of the Doctoral Course
9. Fourth year of the Doctoral Course

5. 【Subject: ALL】

What is your gender?

1. Male
2. Female
3. Other

6. 【Subject: ALL】

Where are you originally from?

1. Tokushima Prefecture
2. Shikoku Region (other than Tokushima)
3. Kyushu Region
4. Chugoku Region
5. Kinki Region
6. Chubu Region (Niigata, Toyama, Ishikawa, Fukui, Yamanashi, Nagano, Gifu, Shizuoka, Aichi)
7. Kanto Region (Ibaraki, Tochigi, Gunma, Saitama, Chiba, Tokyo, Kanagawa)
8. Tohoku Region
9. Hokkaido
10. Other than Japan (Write your country and the number of this question(6) on the entry space"104" at end of this questionnaite.)

7. 【Subject: ALL】

What is your academic history prior to the enrollment in the current graduate school?

1. Tokushima University
2. University in Japan other than Tokushima University
3. Advanced Course of a Technical College (Koutou-senmon Gakkou) in Japan
4. University abroad
5. Master's Course/first program of Doctoral Course of Tokushima University
6. Graduate School in Japan other than Tokushima University
7. Graduate School abroad

8. 【Subject: ALL】

Are you a working student or a foreign student?

1. Student working outside of the campus
2. Foreign student
3. Neither

B . FAMILY, LIVING CONDITION, COMMUTING

9. 【Subject: ALL】

How much is the annual income (including tax) of your family?(For self-supporting students, your own annual income, and for those who reside with a family member, annual household income including the family member)

1. Less than ¥2,500,000
2. ¥2,500,000 – 4,999,999
3. ¥5,000,000 – 7,499,999
4. ¥7,500,000 – 9,999,999
5. ¥10,000,000 – 14,999,999
6. More than ¥15,000,000
7. I don't know.

10. 【Subject: ALL】

What is your housing condition?

1. Family home (living with family)
2. Apartment (Not living with family)
3. Student Dormitory
4. Home of a relative/acquaintance
5. Others

11. 【Student Dormitory】 How much is the monthly rent for your housing (excluding electricity, gas, or other utilities) ?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000 – 39,999
3. ¥40,000 – 49,999
4. ¥50,000 – 59,999
5. ¥60,000 – 69,999
6. ¥70,000 – 79,999
7. ¥80,000 – 89,999
8. ¥90,000 – 99,999
9. More than ¥100,000

12. 【Subject: ALL】

Do you have a spouse or child (ren) living with you?

1. No spouse or child
2. No spouse, but have child (ren)
3. Have a spouse, but no child
4. Have a spouse and child (ren)

13. 【Subject: Those who chose (2) or (4) for Q12】

Who takes care of your child (ren) while you are attending a class or doing research? (Multiple answers allowed)

1. Spouse
2. Your or spouse's parent (s) /relative (s)
3. Daycare facility
4. School (elementary school, etc.)
5. Others

(Note: Please use the back of entry space"104" at the end of this questionnaire to write the number of this question (13) and the specifics.)

14. 【Subject: ALL】

How do you usually commute to the university?

1. By walking
2. By bicycle
3. By motorcycle (motor scooter, two-wheeled motor vehicle)
4. By car
5. By bus/JR

15. 【Subject: ALL】

How long does it take to commute to the university?

1. Less than 15 minutes
2. 15—less than 30 minutes
3. 30 minutes—less than 1 hour
4. 1—less than 2 hours
5. More than 2 hours

C . INCOME /EXPENDITURE

16. 【Subject: ALL】

How much is your average monthly income (excluding financial assistance from parents) ?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000—49,999
3. ¥50,000—69,999
4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999
6. ¥150,000—199,999
7. ¥200,000—249,999
8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

17. 【Subject: ALL】

How much is the average amount of financial assistance from your parents?

1. None
2. Less than ¥30,000
3. ¥30,000—49,999
4. ¥50,000—69,999
5. ¥70,000—99,999
6. ¥100,000—149,999
7. ¥150,000—199,999
8. More than ¥200,000

18. 【Subject: ALL】

How much is the average monthly expenditure (excluding tuition) ?

1. Less than ¥30,000
2. ¥30,000—49,999
3. ¥50,000—69,999
4. ¥70,000—99,999
5. ¥100,000—149,999
6. ¥150,000—199,999
7. ¥200,000—249,999
8. ¥250,000—299,999
9. More than ¥300,000

19. 【Subject: ALL】

Do you wish to receive a scholarship?

1. Yes. I am currently receiving a scholarship and wish to continue it.
2. Yes. I am NOT currently receiving any scholarship but wish to receive one.
3. No. I am NOT currently receiving any scholarship and do not wish to receive any.

20. 【Subject: ALL】

Do you have a part-time job?

1. Yes
2. No

21. 【Subject: Those who chose (Yes) for Q20】

① How much is the average weekly work hours (including commuting time) ?

1. Less than 5 hours 2. 5–less than 10 hours 3. 10–less than 15 hours
4. 15–less than 20 hours 5. 20–less than 25 hours 6. More than 25 hours

22. 【Subject: Those who chose (Yes) for Q20】

② What is the purpose of having a part-time job?

1. For living expenses or tuitions 2. To attend academic conferences
3. For leisure/travel 4. For daily leisure (ex. favorite food or beverages, etc.)
5. To purchase expensive products (PC, motorcycle, car, etc.)
6. To gain social experiences 7. Others

23. 【Subject: Those who chose (Yes) for Q20】

③ How much is the average monthly income from your part-time job?

1. Less than ¥30,000 2. ¥30,000–49,999 3. ¥50,000–69,999
4. ¥70,000–99,999 5. ¥100,000–149,999 6. More than ¥150,000

24. 【Subject: Those who chose (Yes) for Q20】

④ Have you experienced any difficulties with your part-time job?

1. No 2. Unpaid salary
3. Any conditions (salary, job description, work hours) that differ from those in the employment contract
4. Trouble with customer (s) 5. Termination of employment 6. Disagreement with employer
7. Accident/injury 8. Relationships among part-time workers
9. Others

25. 【Subject: Those who chose (Others) for Q24】

Please write the details.

D . HEALTH CONDITIONS

26. 【Subject: ALL】

How long do you sleep per day (excluding weekends and holidays) ?

1. Less than 4 hours 2. 4–less than 5 hours 3. 5–less than 6 hours
4. 6–less than 7 hours 5. 7–less than 8 hours 6. 8–less than 9 hours
7. 9–less than 10 hours 8. More than 10 hours

27. 【Subject: ALL】

Are there any physical conditions you are concerned about?

1. Yes 2. Sometimes 3. Constantly

28. 【Subject: Those who chose (Constantly) for Q27】

What is/are the symptom (s) ? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|------------------------------------|
| 1. Headache | 2. Stomachache/ nausea |
| 3. Dizziness/ light headedness | 4. Palpitation/irregular heartbeat |
| 5. Diarrhea/ constipation | 6. Coughs/sputum |
| 7. Menstrual cramps/ menstrual irregularities | 8. Atopy/allergy |
| 9. Insomnia | 10. Others |

29. 【Subject: ALL】

Do you have any other concerns or worries? If any, what is/are the main concern (s) ? (Multiple answers allowed)

- | | | | |
|----------------------------------|--------------------------|-----------------------|--------------------------|
| 1. No | 2. Financial concerns | 3. Research and Study | 4. Friends/relationships |
| 5. Poor physical condition | 6. Family relation | 7. Own personality | 8. Future career |
| 9. Motivation or purpose in life | 10. SNS, Games, gambling | 11. Alcohol and Drugs | |
| 12. Others | | | |

30. 【Subject: ALL】

Who do you usually consult concerns or worries? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|---|
| 1. Friend (s) | 2. Family |
| 3. Academic Advisor | 4. Faculty member other than academic advisor |
| 5. Student and Staff Counseling Division | 6. Health Service Division |
| 7. Section of Academic Affairs in your Department/Faculty | 8. Those other than 1-6 |
| 9. Nobody | |

31. 【Subject: ALL】

What is your current emotional state?

- | | | | |
|---------------------|---------------|--------------|-----------------------------------|
| 1. Fulfilled | 2. Normal | 3. Irritated | 4. Anxious for no apparent reason |
| 5. Easily depressed | 6. Low energy | 7. Others | |

32. 【 Subject: ALL 】 Do you smoke?

- | | |
|-------------|---------------------------------------|
| 1. Never | 2. Sometimes |
| 3. Everyday | 4. Smoked in the past but not anymore |

33. 【Subject: ALL】

Do you drink alcoholic beverages?

- | | | |
|---------------------|-----------------------------|---------------------|
| 1. No | 2. Sometimes | 3. 1–2 times a week |
| 4. 3–4 times a week | 5. More than 5 times a week | |

34 【Subject: ALL】

Have you ever visited the Health Service Division of the Health service, Counseling and Accessibility Center ? (Multiple answers allowed)

1. Yes, I have visited there for health check-ups
2. Yes, I have visited there for reasons other than health check-ups (examination, consultation, healthcare equipment, issuance of certificate, etc.)
3. No, I have never visited there, since I have never heard of the facility.
4. No, I have never been there, though I have heard of the facility.

E . ISSUES CONCERNING YOUR STUDENT LIFE

35. 【Subject: ALL】

Have you ever been a victim of any theft, robbery, assault sexual assault and other incidents and nuisance since the enrollment in the current graduate school? (Multiple answers allowed)

1. No
2. Theft
3. Robbery
4. Assault
5. Sexual assault
6. Fraud
7. Crank call
8. Stalking
9. Extortion of alcohol
10. Internet slander
11. Cult group recruitment
12. Sexual harassment on campus
13. Academic harassment on campus
14. Others

<p>SEXUAL HARASSMENT:</p> <p>It involves physical, verbal, or nonverbal behavior of a sexual nature in which a person may suffer certain disadvantage in academic/research conditions or emotional distress due to his or her response to the harassment.</p>	<p>ACADEMIC HARASSMENT:</p> <p>It refers to the continuous use of power by a teacher/professor to harass a student in academic and research situations, including disturbance to one's study or research activities.</p>
--	---

36. 【Subject: Those who chose 2~11 for Q35】

Have you consulted someone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|--|
| 1. Friend | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. Student and Staff Counseling Division |
| 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | 6. Those other than 1-5 |
| 7. Nobody | |

37. 【Subject: Those who chose 13 for Q35】

Have you consulted anyone regarding the harassment? (Multiple answers allowed)

- | | |
|---|--|
| 1. Friend | 2. Family |
| 3. Teacher/professor | 4. Student and Staff Counseling Division |
| 5. School Affairs (Educational Affairs) Section | 6. Those other than 1-5 |
| 7. Nobody | |

38. 【Subject: Those who chose (10) for Q35】

Please write the details.

39. 【Subject: ALL】

Have you ever visited Student and Staff Counseling Division of the Health service, Counseling and Accessibility Center?

1. Yes
2. No. I have never been there although I have heard of the facility.
3. No. I have never heard of such facility.

40. 【Subject: Those who chose (1) for Q39】

How was the service at the Student and Staff Counseling Division of the Health service, Counseling and Accessibility Center?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfying
4. Unsatisfying

41. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q40】

Please write the reason.

42. 【If you chose "1" to "3" in Q43】 Please describe the situation at the time of the accident.

(e.g. , "I was riding my bicycle to school in the morning and got caught in a left-turning car at an intersection," "I was driving my car to go home and collided with a pedestrian at pedestrian crossing without a traffic light," etc.)

43. 【Subject: ALL】

Have you ever used any illegal drug (s) such as marijuana or methamphetamine?

1. Yes
2. No

44. 【Subject: ALL】

How would you rate the service of the administration office of Tokushima University?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

45. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q44】

Please write the reason.

F . EDUCATION ENVIRONMENT

46. 【Subject: ALL】

Are you familiar with the educational philosophies or policies of your graduate school?

1. Very familiar
2. Moderately familiar

3. Slightly unfamiliar 4. Unfamiliar

47. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q46】

Do you think the education you are receiving reflects the philosophies or policies of your graduate school?

1. Yes 2. No

48. 【Subject: ALL】

How would you rate the curriculums of your graduate school?

1. Excellent 2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory 4. Unsatisfactory

49. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q48】

Please write the reason.

50. 【Subject: Graduates of Tokushima University】

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice. 2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice. 4. Others

51. 【Subject: Graduates of universities other than Tokushima University】

Was your current graduate school of Tokushima University the first choice when you were considering enrolling in a graduate school?

1. Yes, it was my FIRST choice. 2. No, it was my SECOND choice
3. No, it was my THIRD choice. 4. Others

52. 【Subject: ALL】

What is (are) the reason (s) you chose the graduate school you are currently enrolled in? (Multiple answers allowed) Because:

1. I am a graduate of Tokushima University.
2. the field that meets my interests is available.
3. it was recommended by the previous professor.
4. it is in my hometown.
5. the field is open to relatively wide range of career opportunities.
6. it has a well-developed research environment.
7. there were no jobs available that suited my preferences at that time.
8. I wanted to continue my education.
9. it was recommended by an experienced person or friend.
10. Others

53. **【Subject: Those who chose (others) for Q52】**

Please write the reason.

54. **【Subject: ALL】**

What do you hope to achieve through the education of the graduate school?

1. To be a highly-specialized professional with advanced knowledge and skills
2. To be a researcher with creativity and ability for research and development
3. To be a college professor with strong capability for research and education
4. To work as a sophisticated, intelligent member of society who can lead the knowledge-based society
5. Others

55. **【Subject: Those who chose (others) for Q54】**

Please write the reason.

56. **【Subject: ALL】**

How would you rate the contents and structures of the classes you are attending?

- | | |
|----------------------------|-------------------|
| 1. Excellent | 2. Satisfactory |
| 3. Slightly unsatisfactory | 4. Unsatisfactory |

57. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q56】**

Please write the reason.

58. **【Subject: ALL】**

What is the average amount of hours spent for self research per week?

- | | | |
|--------------------------|----------------------------|---------------------------------|
| 1. Less than 30 minutes | 2. 30—less than 90 minutes | 3. 90 minutes—less than 5 hours |
| 4. 5—less than 10 hours | 5. 10—less than 20 hours | 6. 20—less than 40 hours |
| 7. 40—less than 60 hours | 8. More than 60 hours | |

59. **【Subject: ALL】**

Who provides guidance to you throughout your research?

- | | | |
|------------------------|------------------------|-------------|
| 1. Professor | 2. Associate Professor | 3. Lecturer |
| 4. Assistant Professor | 5. Others | |

60. **【Subject: ALL】**

How long do you receive guidance from the person you answered in Question 59?

1. Less than 30 minutes per week
2. 30–less than 90 minutes per week
3. 90 minutes–less than 5 hours per week
4. 5–less than 10 hours per week
5. More than 10 hours per week

61. 【Subject: ALL】

How would you rate the contents and structures of the research guidance?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

62. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q61】

Please write the reason.

63. 【Subject: ALL】

Are you satisfied with the research thesis for your Master's (Doctoral) Degree?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

64. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q63】

Please write the reason.

65. 【Subject: ALL】

How is the communication between you and your instructor?

1. Excellent
2. Satisfactory
3. Slightly unsatisfactory
4. Unsatisfactory

66. 【Subject: ALL】

Do you think the level of the guidance you are receiving is appropriate for graduate school?

1. Highly appropriate
2. Moderately appropriate
3. Minimally appropriate
4. Not appropriate

67. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q66】

Please write the reason.

68. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the research environment?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

69. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q68】**

What is (are) the reason (s) ? (Multiple answers allowed)

1. Facility/equipment
2. Research funding
3. Research time
4. Others

70. **【Subject: Those who chose (others) for Q69】**

Please write the details.

71. **【Subject: ALL】**

How would you rate your overall satisfaction with the graduate school you belong to?

1. Satisfied
2. Relatively satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

72. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q71】**

Please write the reason.

73. **【Subject: ALL】**

How often do you “physically” visit the library?

1. Almost everyday
2. 2–3 times a week
3. Once a week
4. Once in two weeks
5. Once a month
6. Once in six months
7. Once a year or less

74. **【Subject: ALL】**

What is the main purpose of using the library ? (including non-visiting use)

1. Lending books.
2. Browsing and copying books
3. Self-study
4. Group study (learning)
5. Use of PC
6. Electronic journal database
7. Spending time between classes
8. Others

75. **【Subject: ALL】**

How would you rate your satisfaction with the library services (facilities, books, magazines, and electronic journal) ?

1. Satisfied
2. Relatively Satisfied
3. Relatively dissatisfied
4. Dissatisfied

76. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q75】

Please write the reason.

77. 【Subject: ALL】

How would you rate your efforts for your study/research as a graduate school student?

1. Very high
2. High
3. Low
4. No effort

78. 【Subject: ALL】

Have you ever been abroad (other than Japan) since the enrollment in the current graduate school?

1. No
2. Once
3. Twice
4. Three times
5. More than four times

79. 【Those who chose other than (No) for Q78】

What was the purpose of the travel abroad? (Multiple answers allowed)

1. To study
2. To learn language
3. To attend academic conference
4. For academic research
5. For social activities
6. Sightseeing
7. Returning home temporarily
8. Others

80. 【Subject: JAPANESE students】

Have you ever made a presentation at an international academic conference?

1. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held abroad.
2. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held abroad.
3. Yes, I have made a verbal presentation at an international academic conference held in Japan.
4. Yes, I have made a poster presentation at an international academic conference held in Japan.
5. No, I have never made a presentation at an international academic conference.

81. 【Subject: JAPANESE students】

How is your English conversational skill?

1. I can communicate in English using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in English.
3. I can somewhat communicate in English.
4. I can scarcely communicate in English.
5. I cannot communicate in English at all.

82. 【Subject: JAPANESE students】

Are you making any efforts to improve your language skills? (Multiple answers allowed)

1. Attending a language school.
2. Learning through language programs on radio/TV.

3. Taking language tests regularly (TOEIC, TOEFL, etc.)
4. Subscribing newspapers/magazines written in foreign language.
5. Watching/listening to TV/radio programs in foreign language.
6. Trying to communicate with foreigners using English.
7. Not making any particular efforts.

83. 【Subject: FOREIGN students】

How is your Japanese conversational skill?

1. I can communicate in Japanese using technical terms.
2. I can communicate about daily topics in Japanese.
3. I can somewhat communicate in Japanese.
4. I can scarcely communicate in Japanese.
5. I cannot communicate in Japanese at all.

84. 【For international students】

To what extent can you speak English?

1. Able to use technical terms.
2. Able to have daily conversation.
3. I can manage daily conversation.
4. Not so much.
5. Not very much.

85. 【Subject: FOREIGN students】

Are you taking the Japanese Courses provided by Tokushima University?

1. Yes, I am currently taking the Japanese course.
2. Not currently, but I used to take the Japanese course.
3. Not currently, but I am planning to take the Japanese course.
4. No, and I am not planning to take the Japanese course in the future.

86. 【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q85】

How would you rate your satisfaction with the Japanese Course of Tokushima University?

- | | |
|----------------------------|-------------------------|
| 1. Satisfied | 2. Relatively Satisfied |
| 3. Relatively dissatisfied | 4. Dissatisfied |

87. 【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q86】

Please write the reason.

88. 【Subject: ALL】

For the sake of your future, what do you expect from the education of Tokushima University?

1. Courses with comprehensive and systematic educational themes.

2. Education and research guidance from more than one teachers/professors to gain different perspectives.
3. Practical and long-term internship programs at companies and organizations.
4. Opportunities for education and research at other high-level graduate schools.
5. Proactive cooperation and joint researches with industries or communities.
6. Improvement in the educational/instructional capabilities of each teacher/instructor.
7. Others
8. No particular expectations

89. **【Subject: Those who chose (others) for Q88】**

Please write the details.

90. **【Subject: ALL】**

How would you rate the efforts of Tokushima University in responding to the trend of internationalization?

1. Very high
2. Relatively high
3. Relatively low
4. Very low

91. **【Subject: Those who chose (3) or (4) for Q90】**

Please write the reason.

G . FUTURE CAREER

92. **【Those who are currently in the Master's Course/first program of the Doctoral Course 】**

Are you planning to advance to the Doctoral Course (second program) ?

1. Yes (If you are already accepted, choose this answer.)
2. Yes, only if I could receive a financial support, such as a scholarship.
3. I would like to seek an employment.
4. Not decided yet.

93. **【Subject: Those who chose (1) or (2) for Q92 】 Where are you planning to receive the education?**

1. Tokushima University
2. Other university
3. Not decided yet.

94. **【 Subject: Those who chose (3) or (4) for Q92 / Those who are currently enrolled in the Doctoral Course/ second program of the Doctoral Course】**

What kind of career do you hope to pursue?

1. Educator/researcher at a university, government or other public offices
2. Government employee other than above
3. Technical career

- 4. Administrative career
- 5. Corporate researcher
- 6. Educator
- 7. Media
- 8. Professional career (medical practitioner, etc.)
- 9. Currently employed
- 10. Others

95. **【Subject: Those who chose (others) for Q94】**

Please write the details.

96. **【Subject: ALL】**

What do you place the most value on when choosing a career? (Choose up to three items.)

- 1. Income
- 2. Potential and stability of the employer
- 3. Social recognition/evaluation of the place of employment
- 4. That I can demonstrate my full potential and skills
- 5. Geographic condition
- 6. Whether or not the state-of-the-art technologies are used
- 7. Giving a fair evaluation of work.
- 8. Managerial policies
- 9. Business size
- 10. Possibility of transfer or relocation
- 11. Others

97. **【Subject: Those who chose (others) for Q96】**

Please write the details.

98. **【Subject: ALL】**

What is (are) the method (s) you use to access information on future career? (Multiple answers allowed)

- 1. Teacher/instructor
- 2. Occupational assistant teacher/instructor
- 3. Information provided by Career Support Room or Occupational counselor
- 4. Older students/friends
- 5. Direct inquiry to the companies/schools
- 6. Job information magazine/newspapers/media
- 7. Family
- 8. Information available at the university
- 9. Web/Internet
- 10. Company information session

11. Others

99. **【Subject: Those who chose (others) for Q98】**

Please write the details.

100. **【Subject: ALL】**

Have you ever used Career Support Room of Tokushima University?

1. Yes, I am currently using the facility.
2. Yes, I have used the facility in the past.
3. No

101. **【Subject: ALL】**

Do you have any requests for Tokushima University regarding future career? (Multiple answers allowed)

1. Enhancement of books/documents, such as career information magazines
2. Enhancement of individual guidance for interview practice or resume development
3. Enhancement of support for examination preparation Improvement of the contents of corporate orientation programs, etc.
4. Improvement of the contents of corporate orientation programs
5. Enhancement of the employment guidance
6. Identifying companies with job openings
7. Provision of information on employment opportunities at public research institutes, hospitals, etc.
8. Exploring job openings in the private sector.
9. Already employed.
10. Others

102. **【Subject: Those who chose (others) for Q101】**

Please write the details.

103. **If you have any other comment or request, please write "Comments/Requests"**

Thank you for your cooperation.

第1章 本調査の対象者について

本調査は、本学大学院の創成科学（総合科学教育部・先端技術科学教育部博士課程を含む）、医学、口腔科学、薬学、医科栄養学、保健科学の6研究科2教育部の前期課程に在籍する981名、および後期課程に在籍する441名の計1,422名を対象とした。

なお、在籍者数の些少な研究科・教育部については、研究科・教育部ごとに着目した傾向をみる場合などに対象からは除くことがある。また、個人情報保護の観点からグラフは非表示にしているが、全体数には反映している。

回答数は、前期課程で302、後期課程で142、計444であった。回収率は前期課程が30.8%、後期課程が31.5%、全体では31%であった。研究科・教育部ごとの回収率をみると、前期課程で26.9%から61.9%、後期課程で13.6%から65.4%で、前期課程での創成科学・医科栄養学研究科の回収率の低さが目についたが、おおむね堅調で、一方の後期課程では医学研究科の回収率が低かった。また、学年ごとの回収率では博士課程4年の回収率の低さが目立っており、調査結果の解釈の際には注意を要する。なお、男女間での回収率は、男子28%、女子38.4%であった。

1-1 出身地 (図1-1-1、図1-1-2)

最初に出身地をみる。前期課程では近畿（33%）が一番多く、次いで徳島県（24%）、徳島以外の四国（13%）と続く。前回の第9回調査と大きな違いはないが、徳島県出身者が7ポイント減少した点が目に付く。徳島県が減った分、その他（海外）が11%と前回より4ポイント増えたのをはじめ、徳島県以外のほとんどの地域で微増していることから、前期課程としては全国化の傾向が出ているのかもしれない。

後期課程においても前期課程と同様に徳島県及び近県出身者の割合が高い。後期課程では全般にその他（海外）の割合が高く、全体で3割を超すが、とくに医学においては前回調査より倍増して56%を占めているのが目立つ。

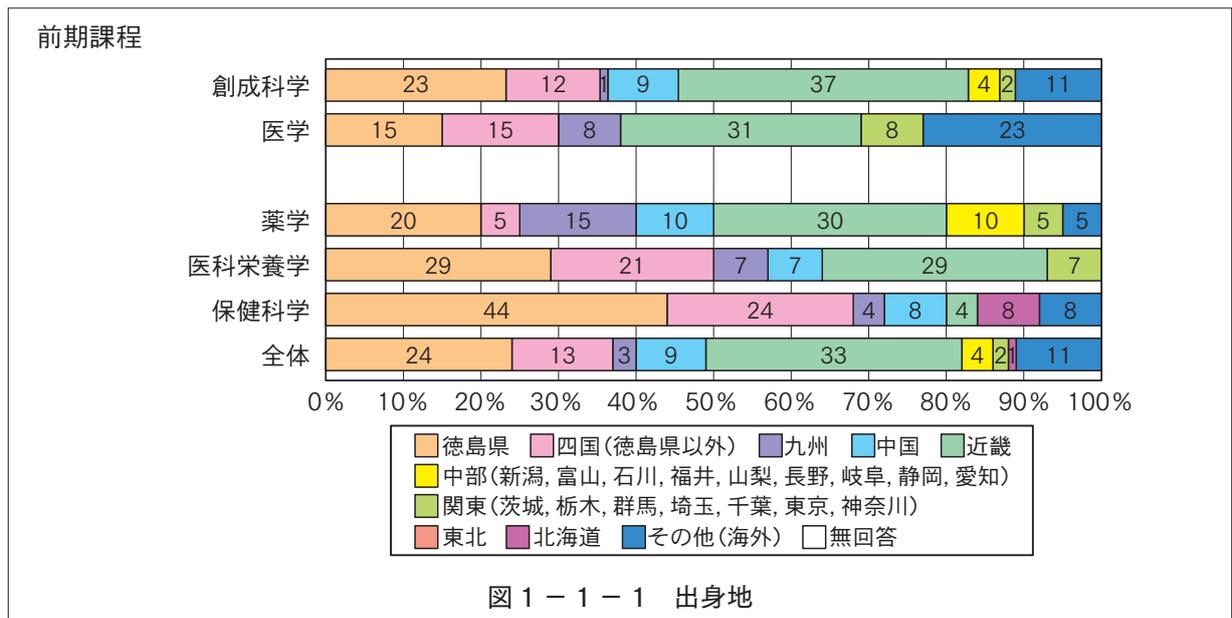
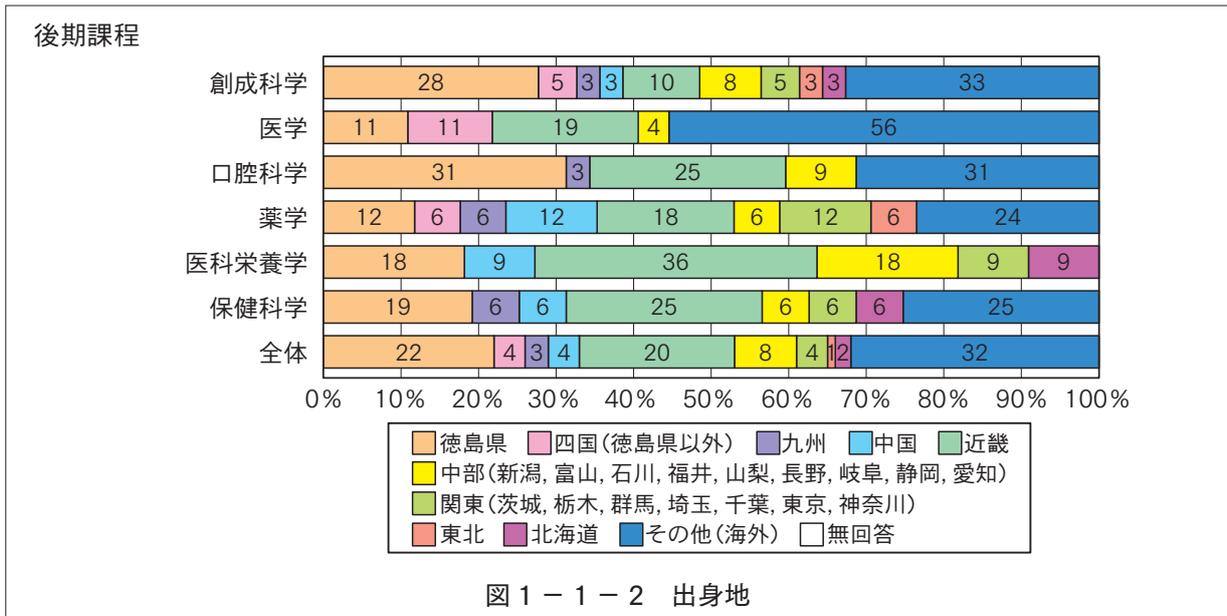


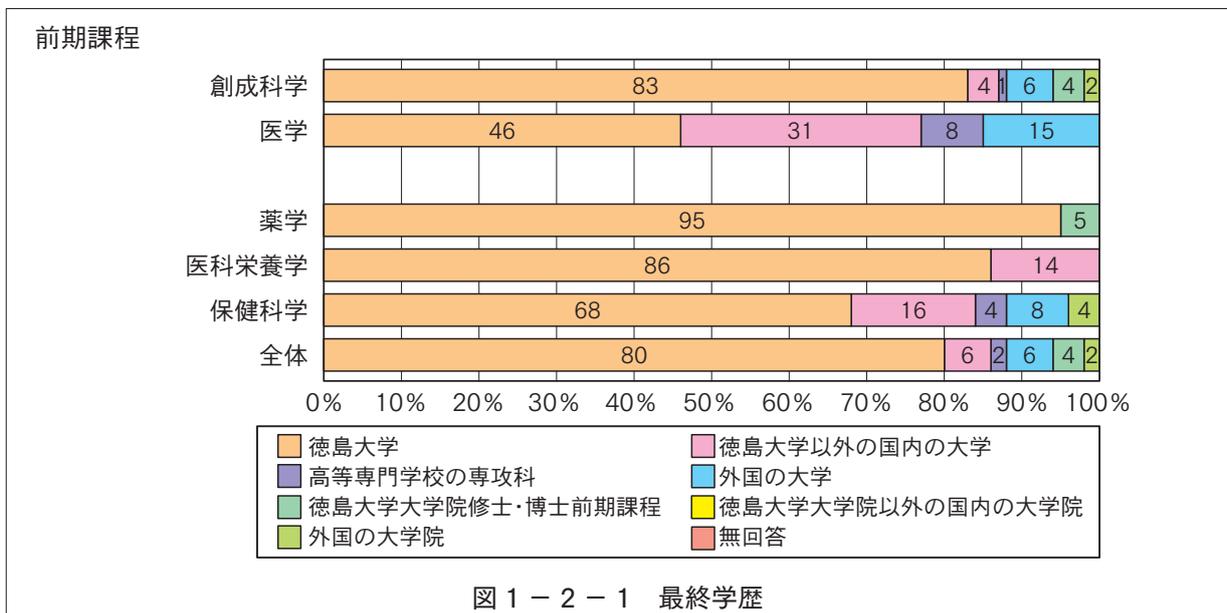
図1-1-1 出身地

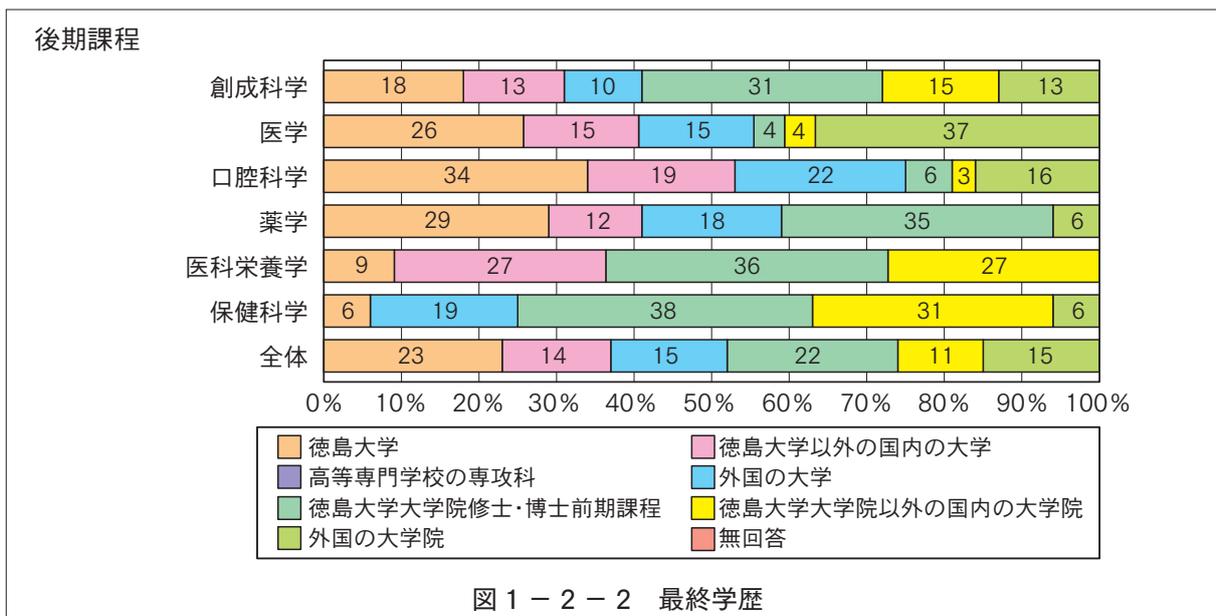


1 - 2 最終学歴 (図 1 - 2 - 1、図 1 - 2 - 2)

次に最終学歴についてみる。前期課程では、全体で 84%が本学（徳島大学または徳島大学大学院修士・博士後期課程）出身者であり、この傾向は変わっていない。研究科・教育部別では、医学が 46%と最も低かったのであるが、前回の 20%より倍加しており“徳大内部進学”の傾向が出ているようだ。最も徳島大学出身の比率が高いのは薬学で今回も 100%である。また創成科学も 87%と高いがこれは理工学部出身者が多く占めている背景があるだろう。外国の大学または外国の大学院の出身者は併せて 6%であった。次に述べる後期課程に比べて低い割合である傾向が続いている。前期課程からより多くの外国の大学および外国の大学院の出身者を受け入れる方策が求められよう。

後期課程における本学（徳島大学または徳島大学大学院修士・博士後期課程）出身者は、第 4 回調査以来、63%、50%、51%、56%、54%、52%と推移し、今回は 45%であったため、徳大以外から広く学生が集う一定の傾向が出ているように見える。外国の大学および外国の大学院の出身者も併せて 30%で、前回調査の 24%と比べ増えている。

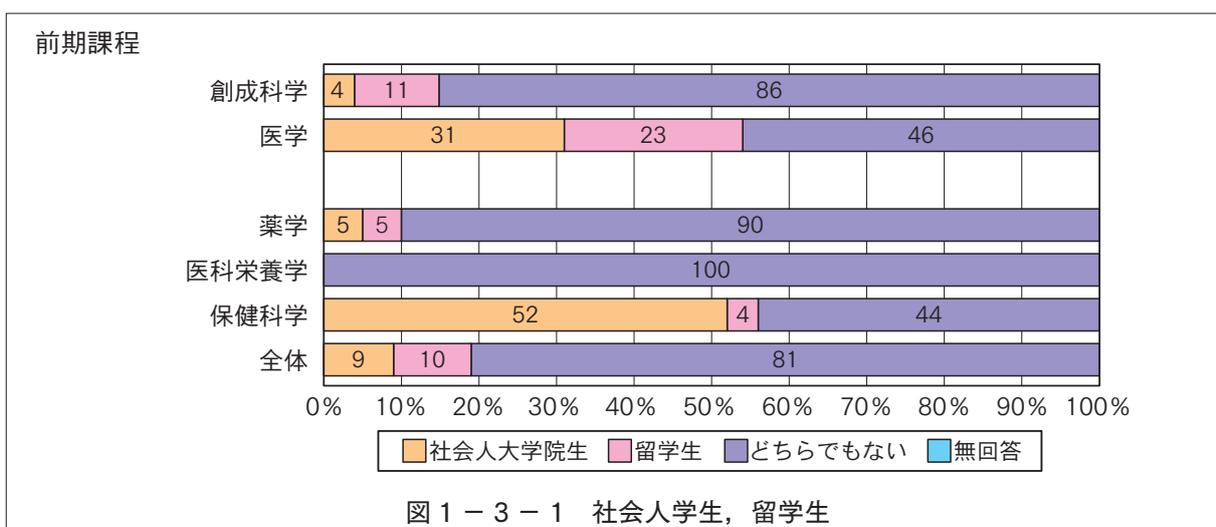




1 - 3 社会人大学院生と留学生 (図 1 - 3 - 1、図 1 - 3 - 2)

社会人からみる。前期課程においては、全体で9%であり、前回の8%とほぼ変わらない。研究科・教育部ごとの違いが大きいのは前回調査と同様であり、保健科学が52%、医学が31%と、社会人学生が多くなっている。逆に、医科栄養学0%（回収率は26.9%）、創成科学4%、薬学5%と少ない。後期課程においては、全体で前々回35%、前回43%と増え、今回も42%。社会人比率は従来と同様、前期課程に比べて高率を示しつつ、増加傾向もあるかもしれない。中で、保健科学の63%と創成科学の56%の高さが目に付く。

留学生の割合は、全体として前期課程で前回より3ポイント増の10%、後期課程で6ポイント増の32%と微増。留学生が最も多いのは医学で、前期課程23%、後期課程56%を占め、とくに後期課程で前回より大幅に増えた。



後期課程

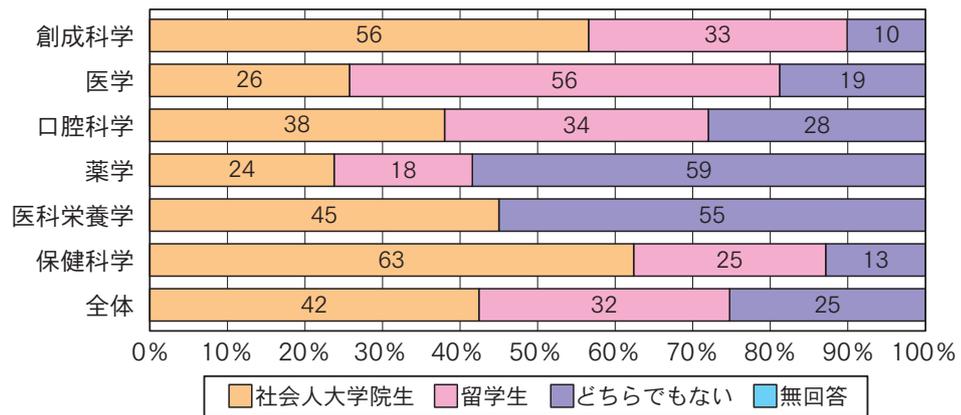


図 1 - 3 - 2 社会人学生，留学生

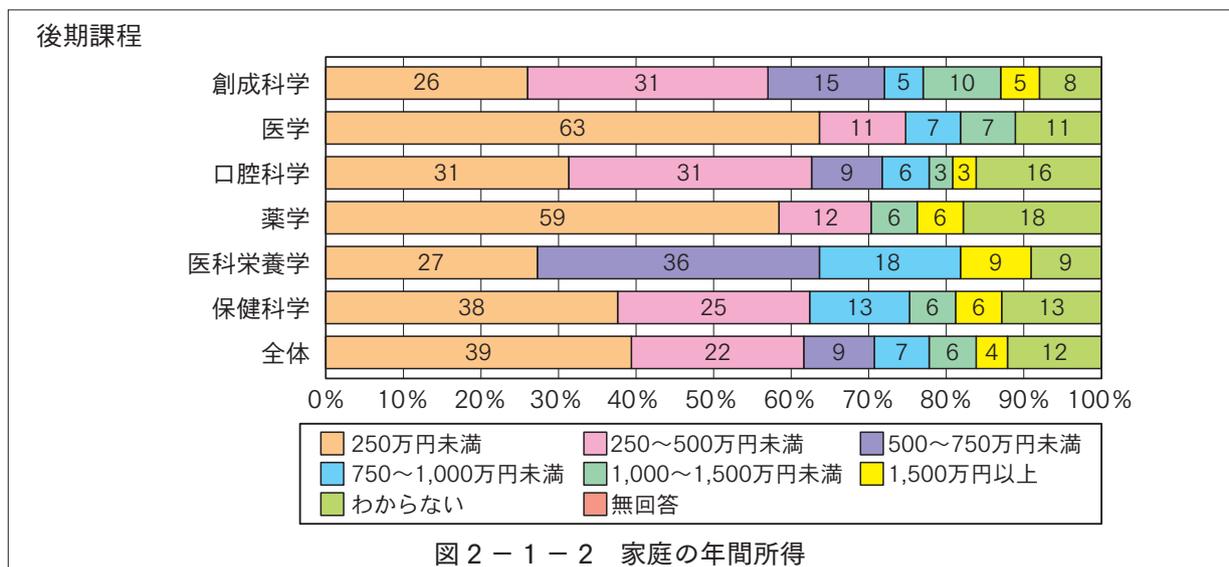
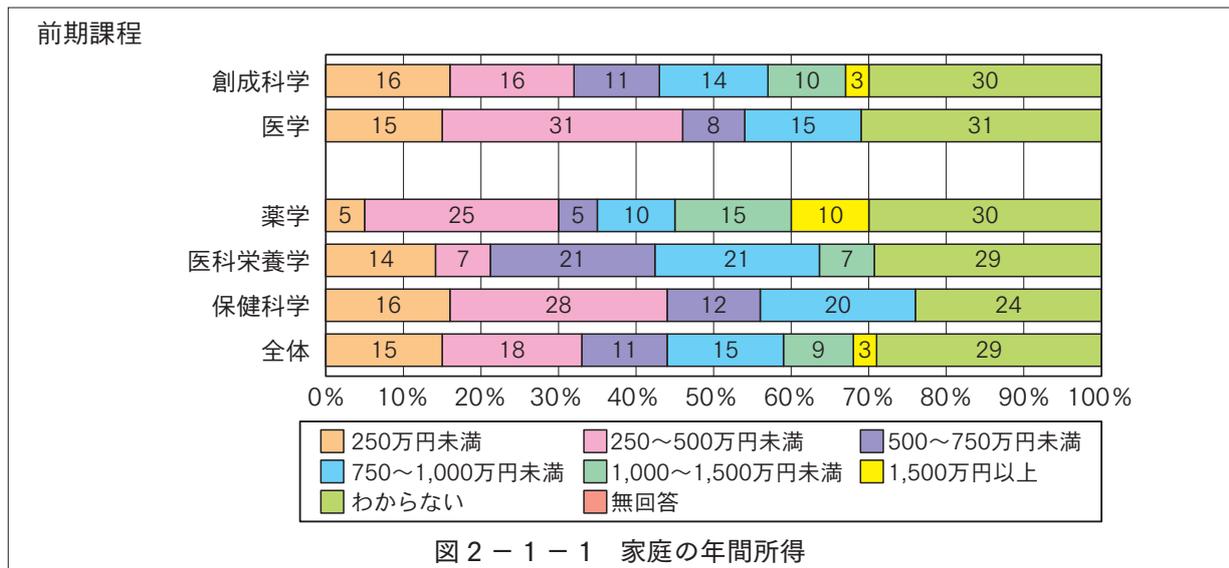
第2章 家族・住居・通学について

2-1 家庭の年間所得 (図2-1-1～図2-1-4)

大学院生の年間所得について、まず全体をみると、博士前期課程は各所得帯ほぼ大きな違いがなく分布するが、博士後期課程は250万円未満が39%と最も多くを占め、博士前期課程の15%より著しく多い。これは、前期課程では保護者の所得を示す一方、後期課程では学生本人が自活する場合が多いためであろう。

令和4年度の第9回調査と比べると、前期課程において、250万円未満の割合は同じだが、250～500万円未満は3ポイント増、500～750万円未満は6ポイント減、750～1,000万円未満が3ポイント減となっている。1,000万円以上は前回と同じ比率である。後期課程においては、250万円未満が8ポイント増え、逆に、500～750万円未満が7ポイント減っている。他の所得帯は前回とほぼ同じである。前期課程、後期課程とも前回より中位（500～1,000万円）の所得層の学生が減り、低所得層の学生が増えている傾向があるように見える。

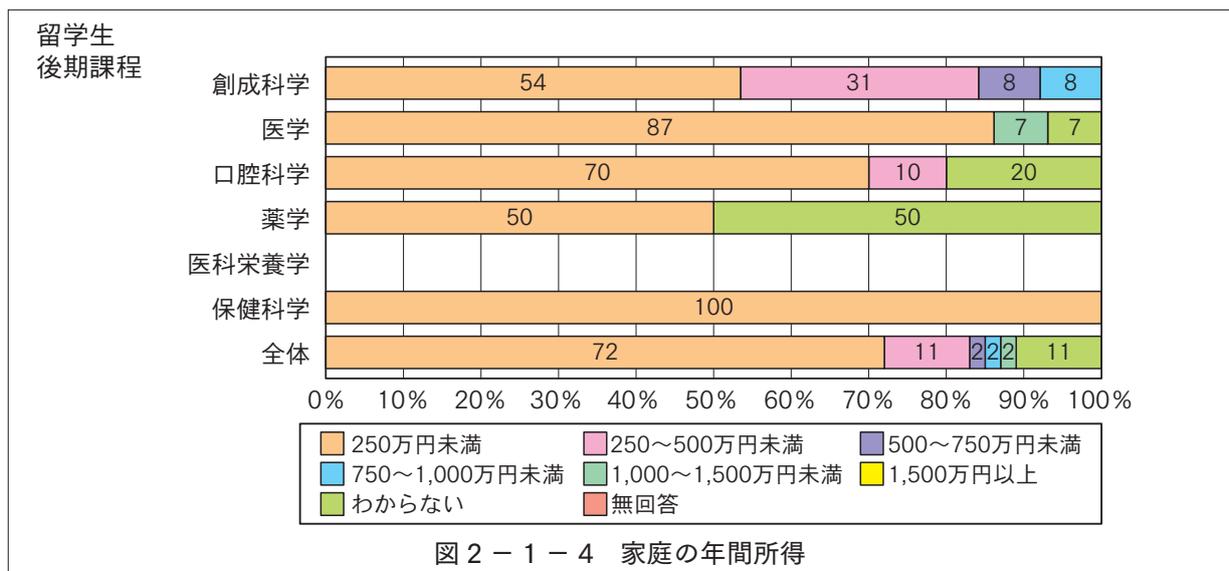
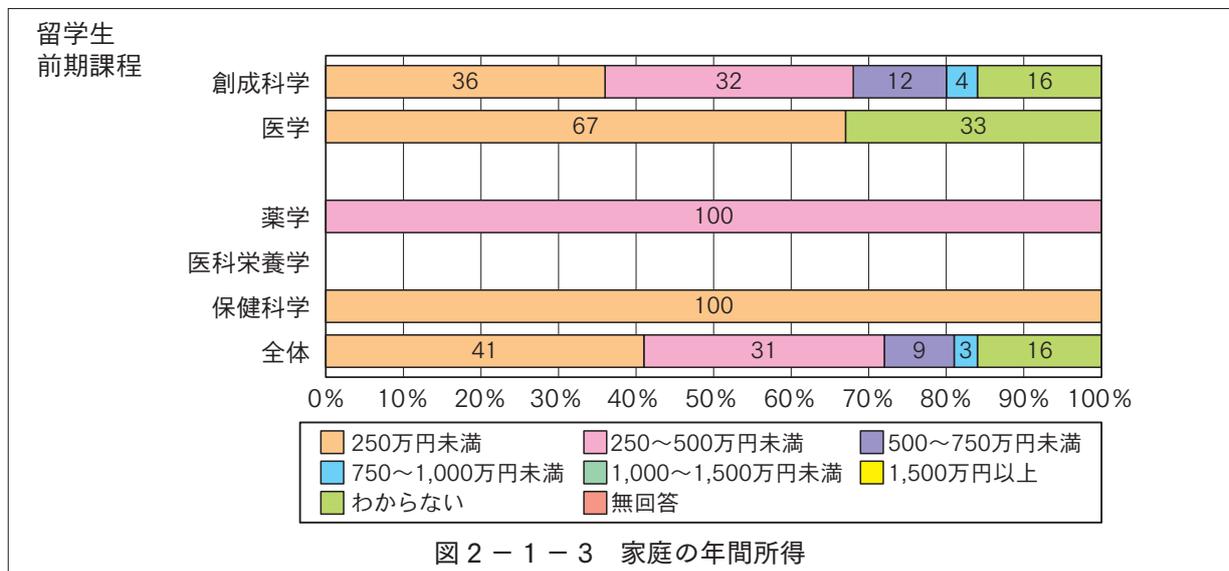
前期課程において、創成科学では、個々の割合は全体における割合とほぼ同様であった。全体の傾向



との違いでは、薬学が目立つ。薬学では250～500万円未満が25%と最も多いのであるが、250万円未満が5%であり他の研究科よりかなり低い。逆に1,000～1,500万円未満が15%、1,500万円以上が10%と高所得層が他の研究科より多い。医学、医科栄養学、保健科学では250万円未満が15%前後で全体平均と同じであるが、医学では最も多い層が250～500万円未満の31%、医科栄養学では500～750万円未満と750～1,000万円未満が各21%と最も多く、保健科学では250～500万円未満が28%で最多帯であった。

後期課程において、医学は250万円未満が63%と最も多く、薬学も250万円未満が59%と最も多い。医科栄養学は250万円未満が27%と相当少なく、中所得、高所得の層が相対的に多いが、これは前回と同様の傾向である。

留学生の全体では、前期課程において、250万円未満の層が41%で最も高いが、前回より24ポイント減った。後期課程では250万円未満は72%と高く前回より11ポイント増。全学生の傾向と同じく、後期課程になると低所得層が増える。



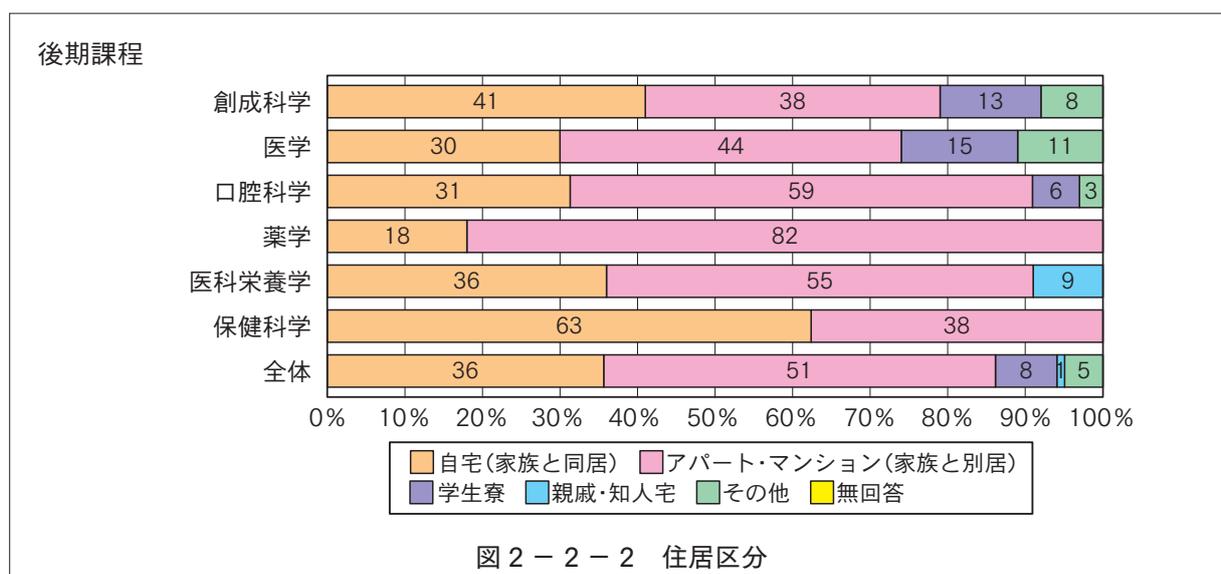
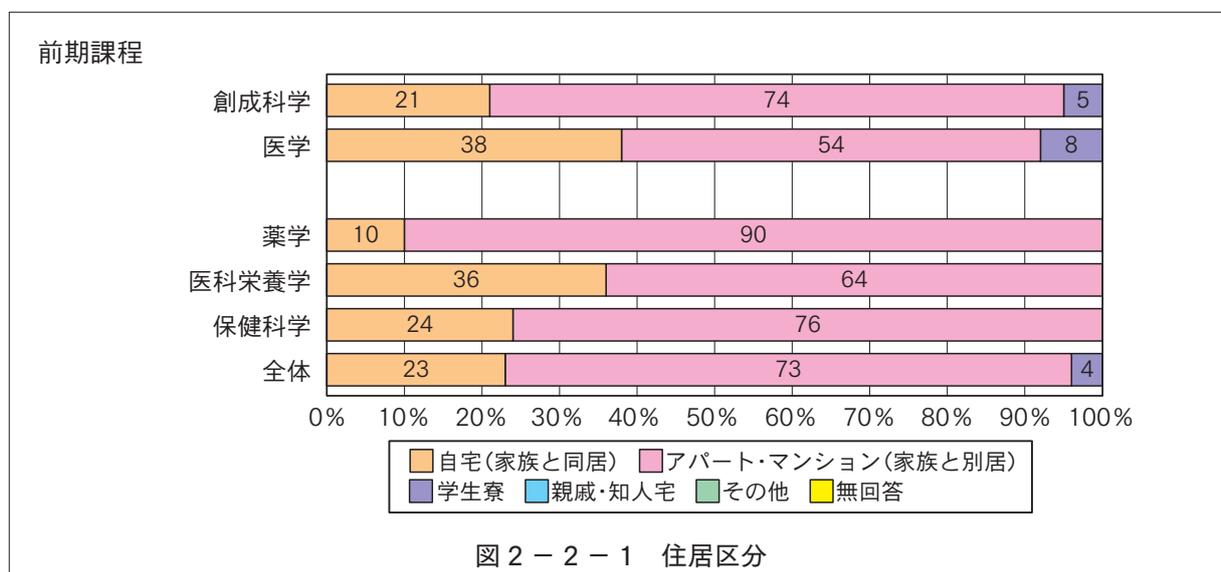
2-2 住居区分 (図2-2-1～図2-2-4)

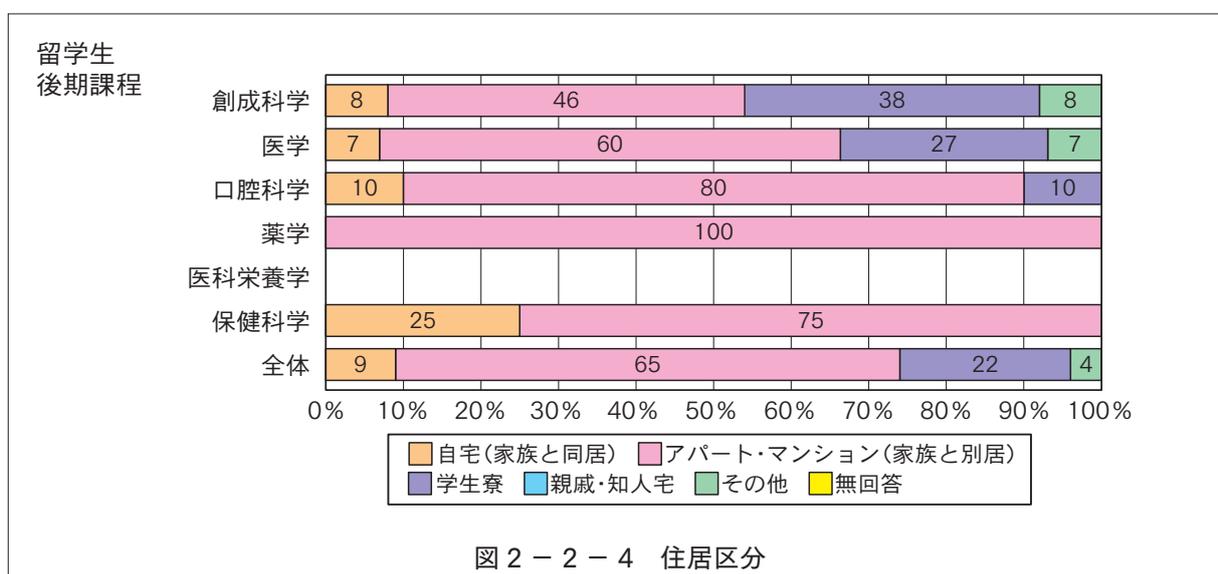
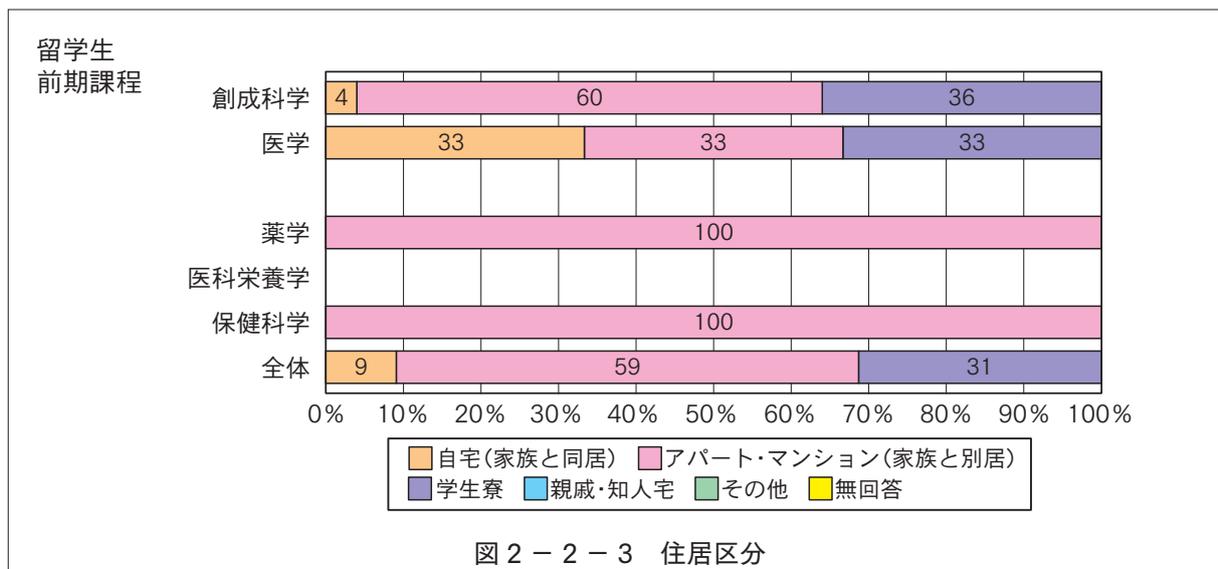
大学院生の住居区分について、全体の傾向として2～3割が自宅、6～7割が家族と別居という状況があり、学生寮は後期課程の学生のほうが多く利用している。

前回の令和4年度第9回調査と比べると、自宅(家族と同居)は前期課程では微減し23%(前回比-4ポイント)、後期課程では増えて36%(同+12ポイント)だった。逆にアパート・マンション(家族と別居)は、前期課程では73%と増え(同+7ポイント)、後期課程では51%に減った(同-9ポイント)。前期課程と後期課程で逆の変化がうかがえる。

前期課程において、自宅から通学は、薬学が10%と低く、創成科学21%、保健科学24%、医科栄養学36%、医学38%であった。しかし後期課程では、薬学が18%と最も低い一方、保健科学が63%とかなり高く、研究科によってばらつきがみられた。

留学生は全体として、学生寮の利用が多く、前期課程では31%、後期課程は22%であるが、前回と比較するとそれぞれ26ポイント、9ポイント減少している。留学生も6～7割はアパート・マンション(家族と別居)に住んでいる。





2 - 3 住居費 (図 2 - 3 - 1 ~ 図 2 - 3 - 4)

大学院生の住居費について、まず全体としてみると、前期課程学生より後期課程学生のほうが住居費は安い傾向にありそうだ。家賃 3 万円未満の割合は博士前期課程は 12%だが、後期課程では 21%に大きく増える。逆に 3 ~ 6 万円未満の価格帯では、博士後期のほうが博士前期より少ない。後期課程学生のほうが自活するケースが多く、経済力が低いという背景があるのかもしれない。

令和 4 年度の第 9 回調査と比べ、今回、前期課程で 3 万円未満は 12%、3 ~ 4 万円未満が 31%、4 ~ 5 万円未満が 22%、5 ~ 6 万円未満が 13%、6 ~ 7 万円未満が 2%と続くが、これは前回と同じ傾向。しかし今回、後期課程では 3 万円未満は 21%、3 ~ 4 万円未満が 22%、4 ~ 5 万円未満が 12%、5 ~ 6 万円未満が 8%、6 ~ 7 万円未満が 6%、7 ~ 8 万円未満が 2%と続くが、前回 3 万円未満は 14%あったので、後期課程の学生は低価格帯へ変化した動きがあるかもしれない。

各研究科別で目立つのは、前期課程の薬学だけ 3 万円未満が存在せず、3 ~ 4 万円未満の層が他の研究科より最も高く 45%占めている。ほとんどの前期課程の研究科で 3 ~ 4 万円未満の層が最も多くなっている。後期課程では、口腔科学と医科栄養学において 3 万円未満が少なく、全体平均が 21%のところ、それぞれ 7%、9%である。

前期課程

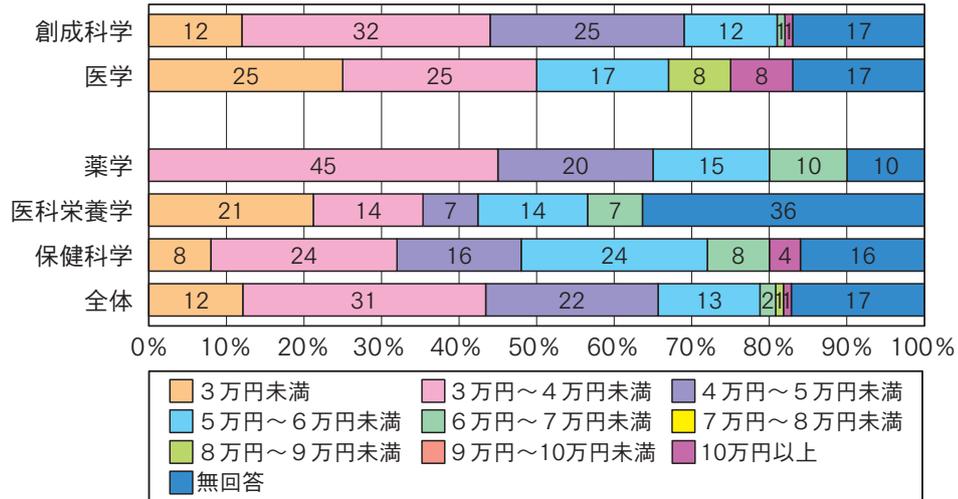


図 2 - 3 - 1 住居費

後期課程

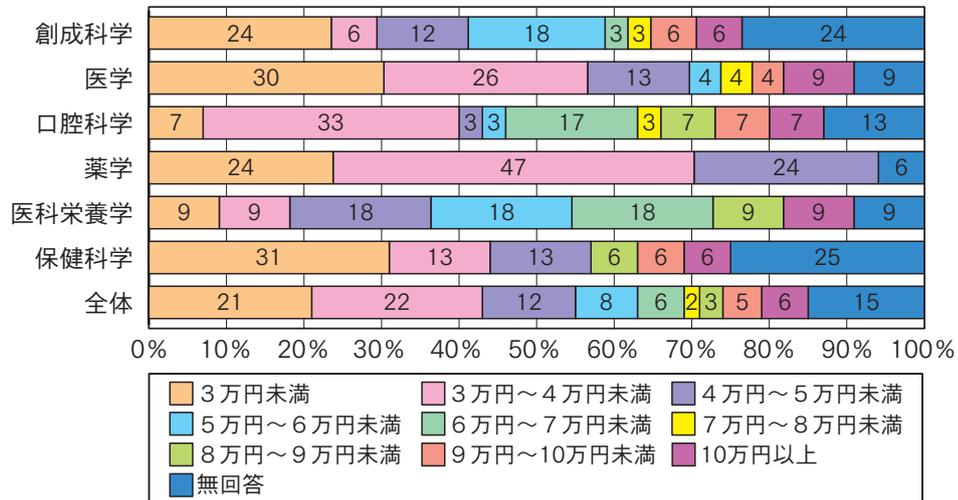


図 2 - 3 - 2 住居費

留学生
前期課程

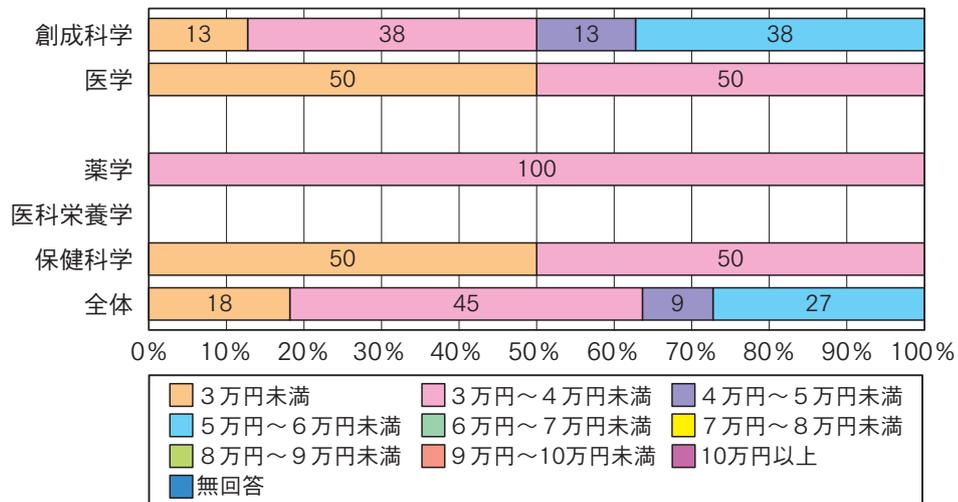
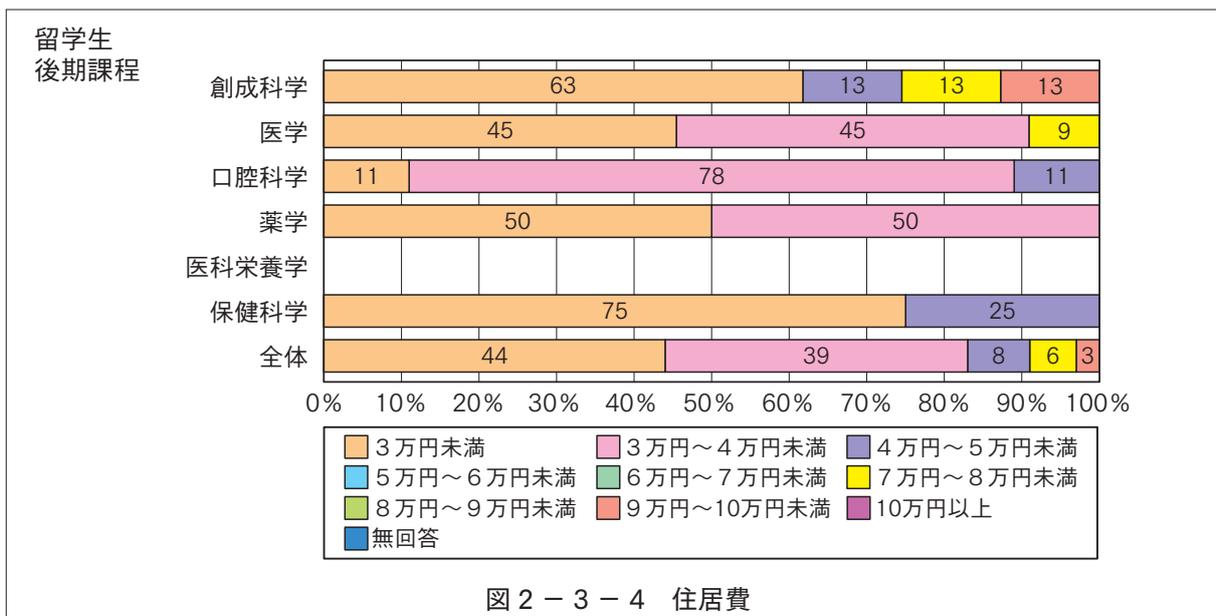


図 2 - 3 - 3 住居費

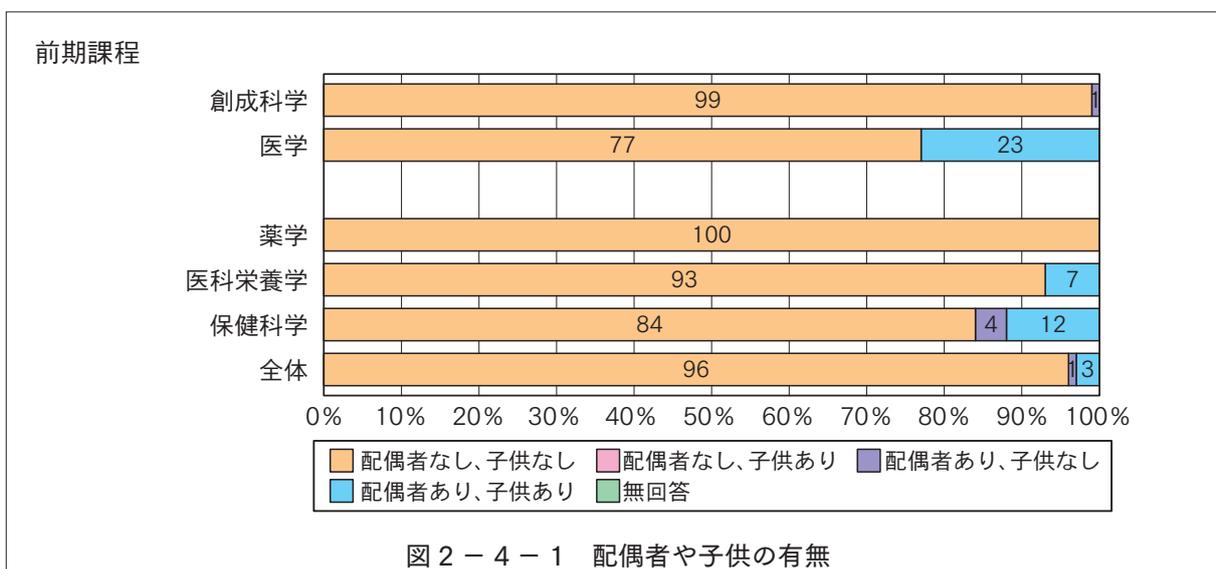


留学生の全体では、前期課程において、最も多いのは3万円～4万円未満で45%、5～6万円未満が27%、3万円未満が18%。後期課程では3万円未満が44%と最も多く、3万円～4万円未満も39%と多い。留学生も後期課程のほうが低価格帯に居住する割合が多いようである。

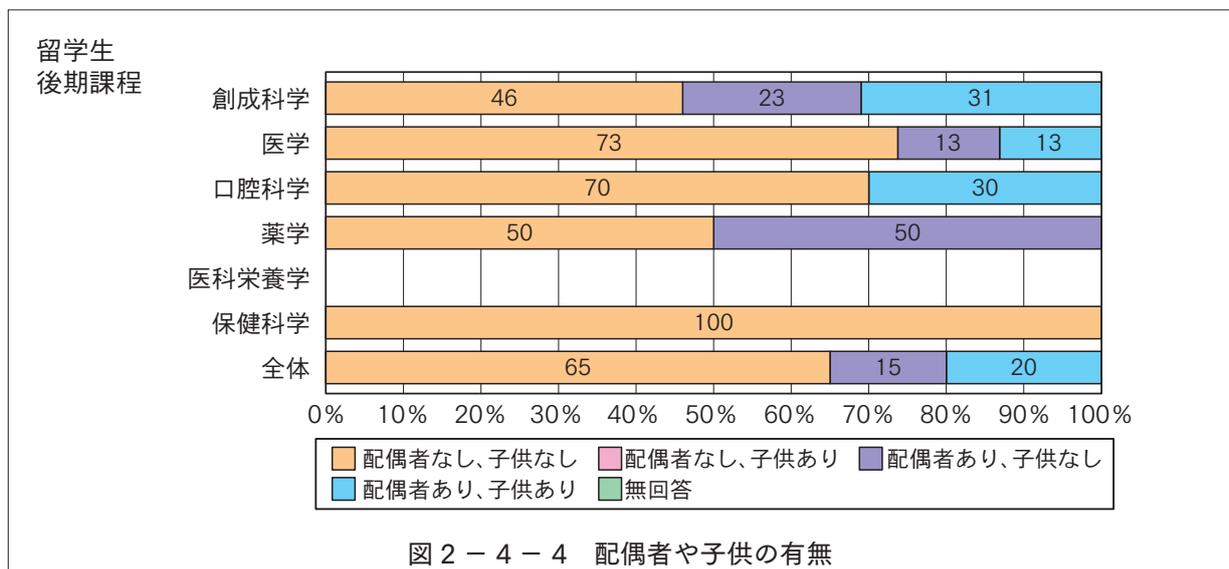
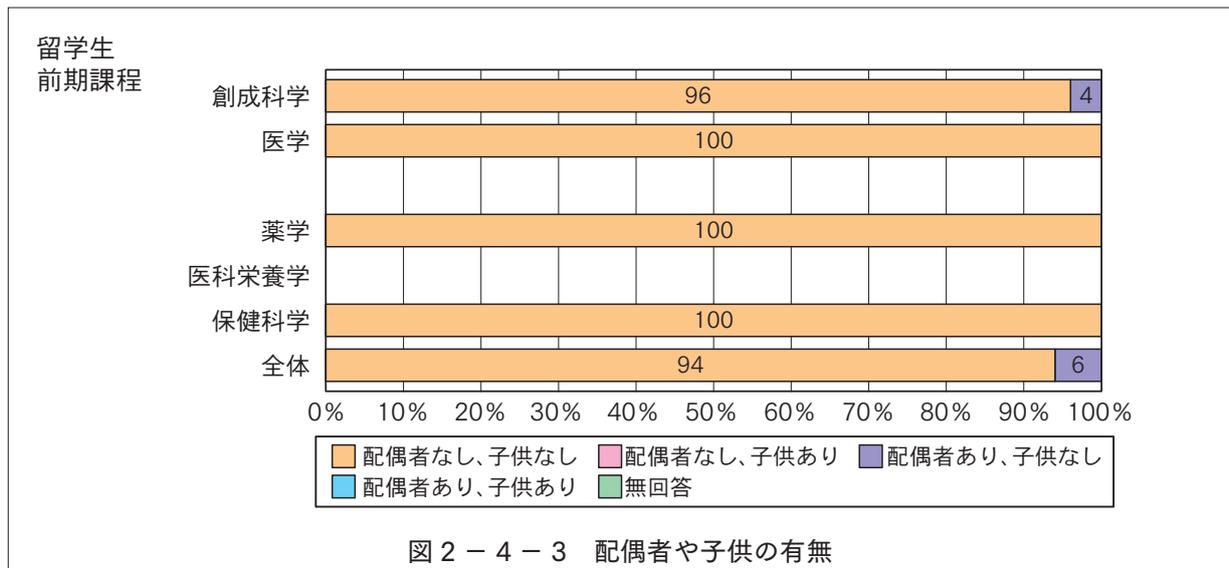
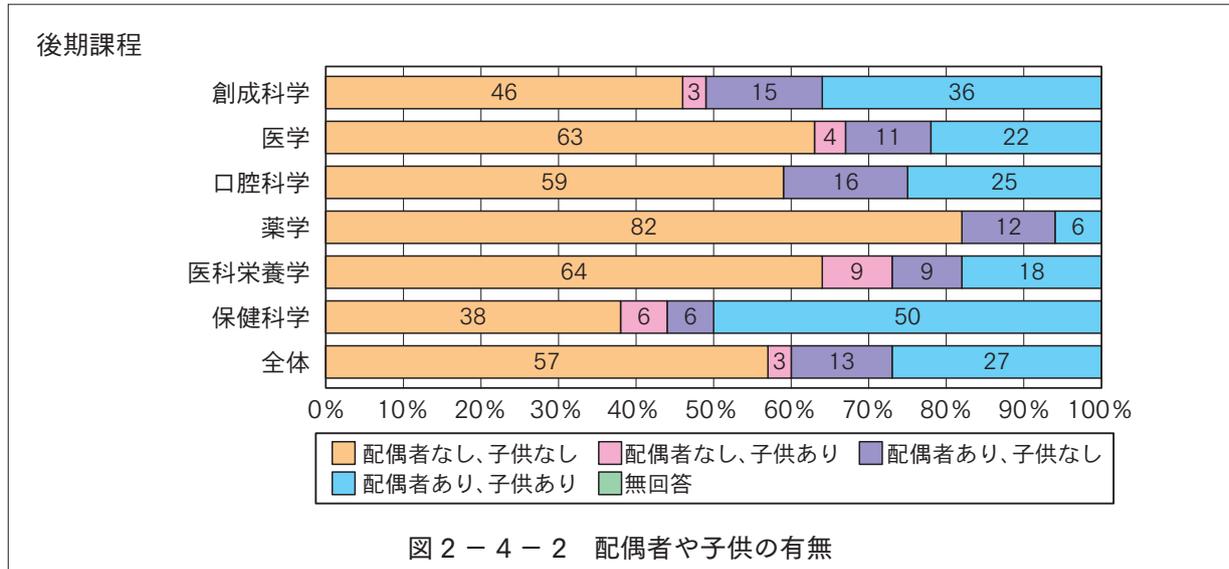
2-4 配偶者や子供の有無 (図 2-4-1～図 2-4-7)

大学院生の配偶者や子供について、全体として、前回とほぼ同じ傾向にあり、前期課程において、配偶者と子供がない割合が96%、配偶者があり子供なしの割合が1%、配偶者と子供がある割合が3%であり、後期課程において、配偶者と子供がない割合が57%、配偶者があり子供なしの割合が13%、配偶者と子供がある割合が27%であった。後期課程では、前期課程と比べて、配偶者や子供のいる割合が高かった。また前回調査と比べ、後期課程では配偶者なし・子供なしが11ポイント減り、配偶者あるいは子供を持つ割合が微増した。

留学生の全体についても、ほぼ同様の割合がみられ、前期課程において、配偶者と子供がない割合が94%、配偶者あり子供ありが6%、後期課程において、配偶者と子供がない割合が65%、配偶者あり子供なしが15%、配偶者あり子供あり20%であった。

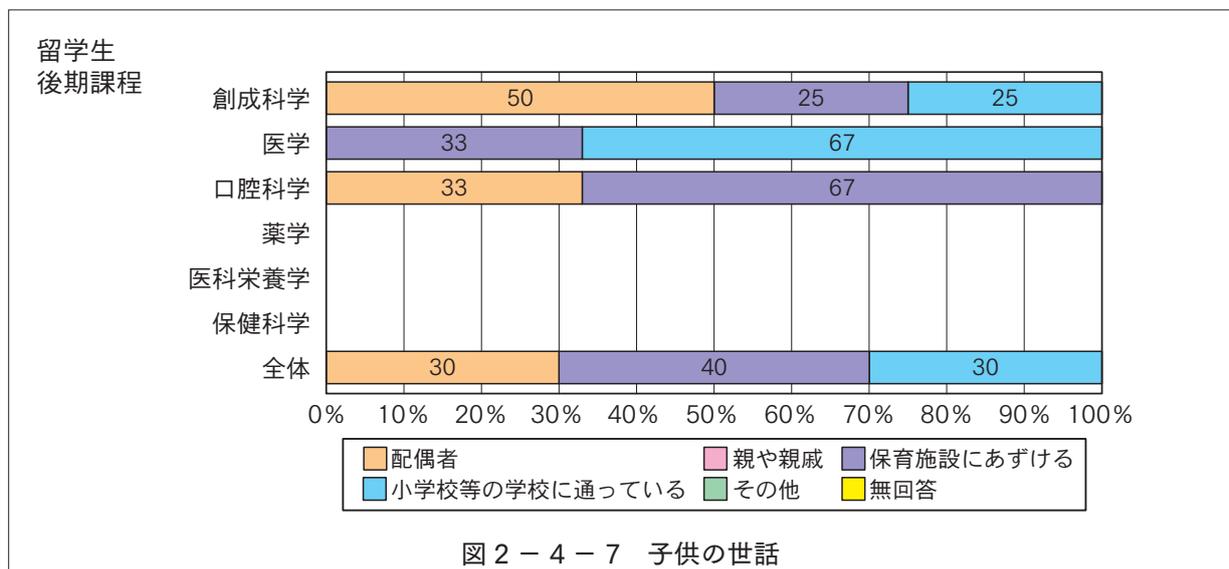
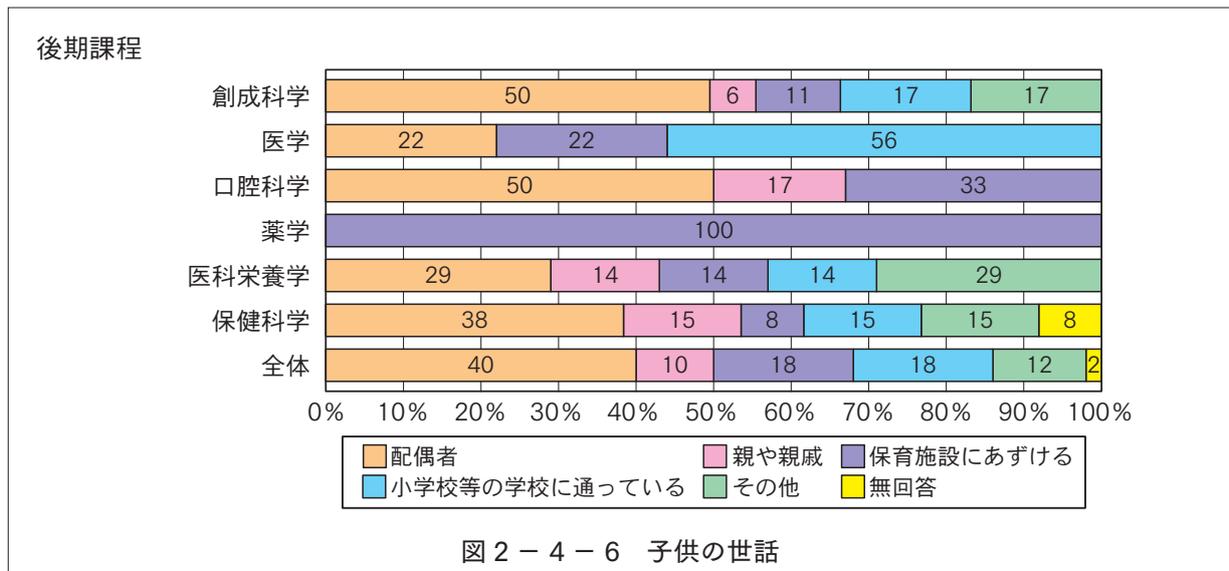
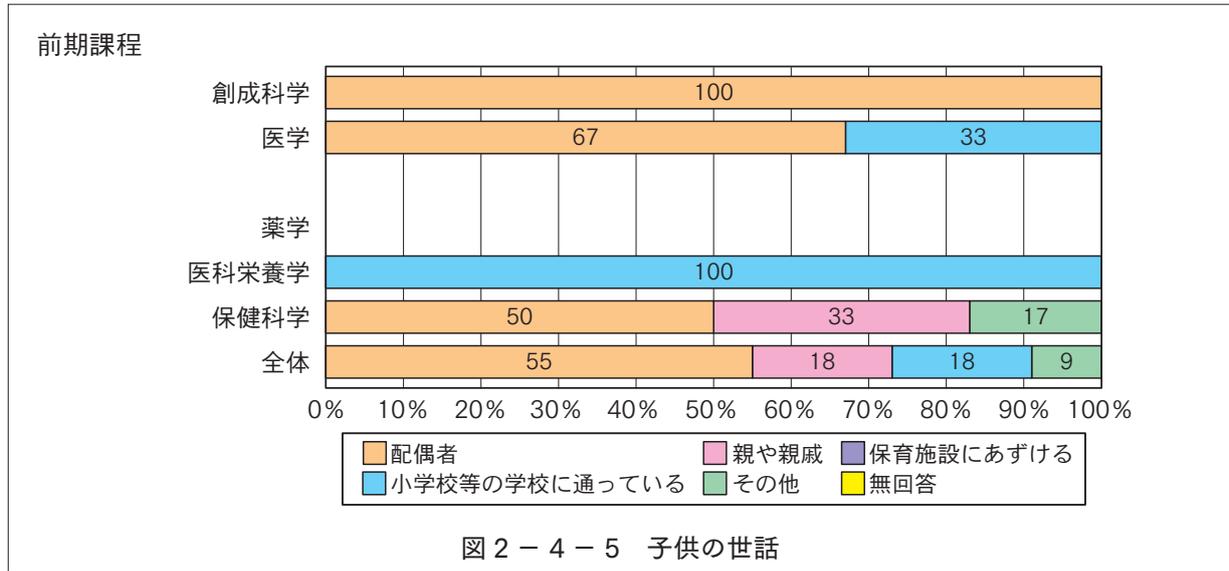


子供がいる大学院生について、授業や研究をしているときに誰が子供の世話をしているのかの点も、全体として、前回と似た傾向であった。前期課程において、配偶者が55%と最も高く、次いで親や親せきと小学校等の学校に通っているが18%で続き、後期課程においても、配偶者が40%で最も高く、



次いで保育施設にあずけると小学校等の学校に通っているが18%で、親や親せきが10%であった。

留学生については後期課程のみのデータであるが、若干、日本人学生とは違う傾向がうかがわれる。授業や研究をしているときに誰が子供の世話をしているのかは、配偶者、保育施設にあずける、小学校



等の学校に通っているがほぼ同じ割合であり、また、親や親せきという回答はない。

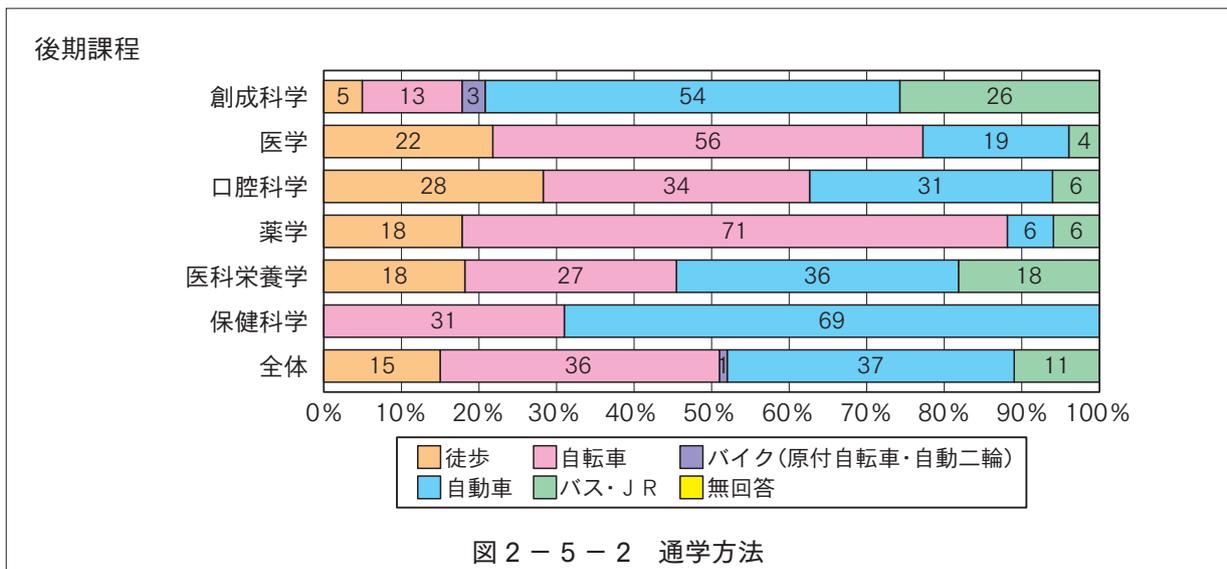
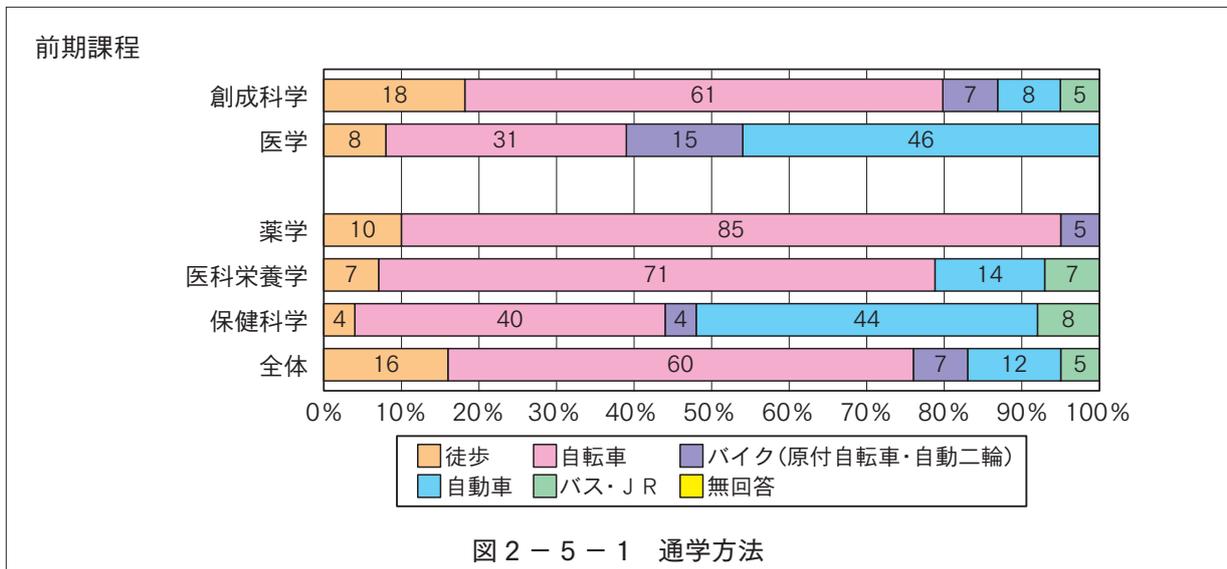
2-5 通学方法 (図2-5-1~図2-5-4)

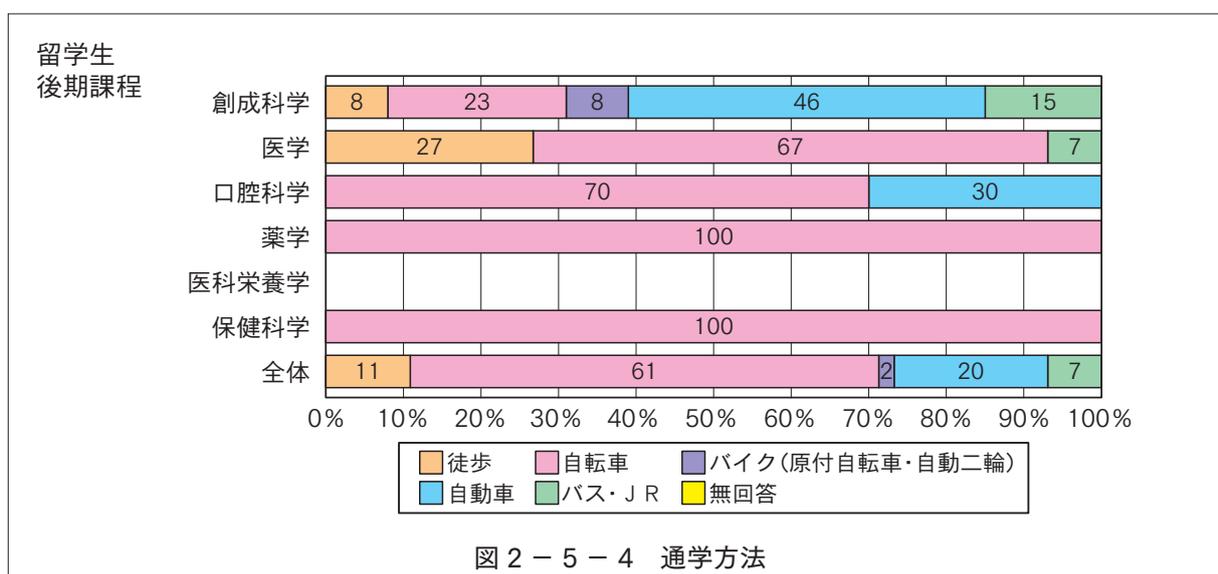
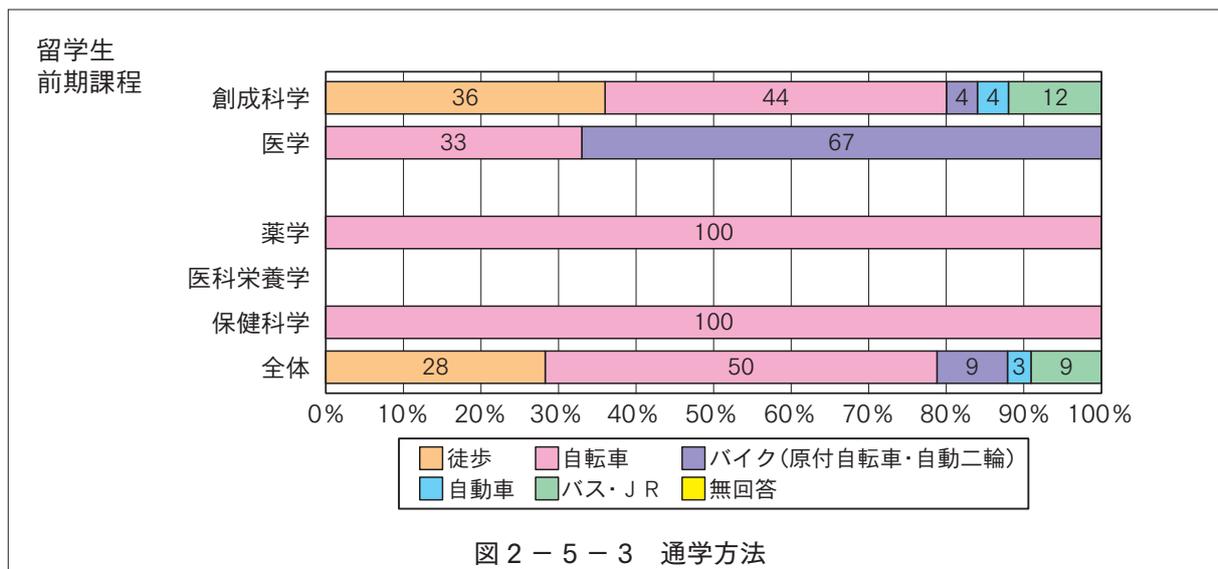
大学院生の通学方法について、全体として主な手段は自転車と徒歩であるが、留学生を含め後期課程になると自動車の割合が増加している。ただ留学生の自動車通学は、学生全体の割合より少ない。

前期課程では、自転車が最も多く60%、次いで徒歩16%、自動車12%、バイク(原付自動車・自動二輪)7%、バス・JR5%の順であった。医学と保健科学では自動車が全体の半分近くを占める半面、薬学では自転車が大半で自動車がいないという点が目立つ。

後期課程では、自動車が37%、自転車が36%と多く、続いて徒歩15%、バス・JR11%の順であった。薬学では自動車の通学が6%で大幅に少ない。

留学生は、前期課程で自転車の割合が50%と高く、徒歩は28%、バス・JRとバイク(原付自動車・自動二輪)が各9%、自動車が3%であった。後期課程でも自転車が61%と最も多いが、自動車が20%を占め、徒歩11%、バス・JR7%、バイク(原付自動車・自動二輪)が2%となっている。





2 - 6 通学時間 (図 2 - 6 - 1 ~ 図 2 - 6 - 4)

大学院生の通学時間について、全体として後期課程のほうが時間は長めの傾向があり、令和4年度の第9回調査の結果とほぼ同じであった。前期課程において、15分未満が69%と最も高く、次いで15～30分未満が14%、30分～1時間未満が11%、1時間～2時間未満が5%であり、後期課程においても、15分未満が46%と最も高く、次いで15～30分未満が23%、30分～1時間未満が15%、2時間以上が11%、1時間～2時間未満が5%であった。

研究科別には、前期課程において、前回に引き続き15分未満が薬学で最も多いが、おおよその研究科も大きな違いはない。後期課程においてもあまり大きな違いはないが、創成科学のみ15分未満が8%と他研究科と比べて著しく少なく、前回と同じ特色であった。

留学生については、全体で、前期課程において前回より通学時間が減ったようだ。15分未満の割合が15ポイント増えて63%と最も高く、逆に30分～1時間未満と15分～30分未満が減少し、それぞれ22%、13%であった。後期課程は前回と同様の傾向で、15分未満が54%で最も高く、次いで15分～30分未満が33%、30分～1時間未満が13%であった。

前期課程

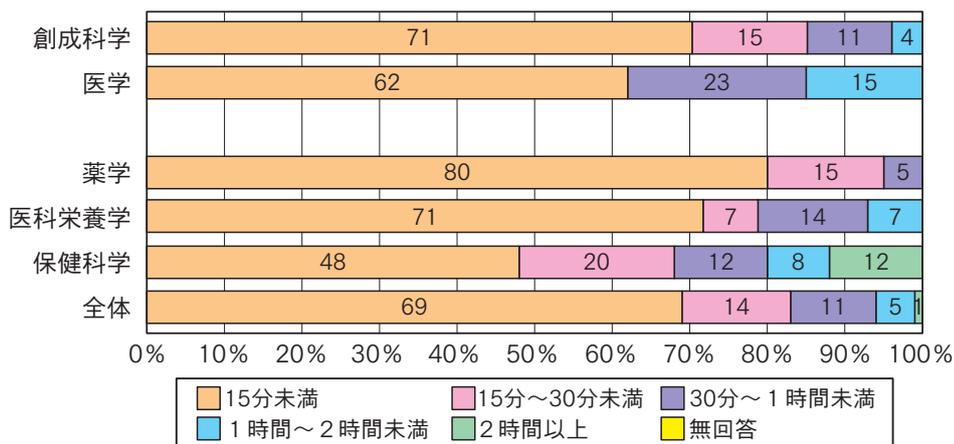


図 2 - 6 - 1 通学時間

後期課程

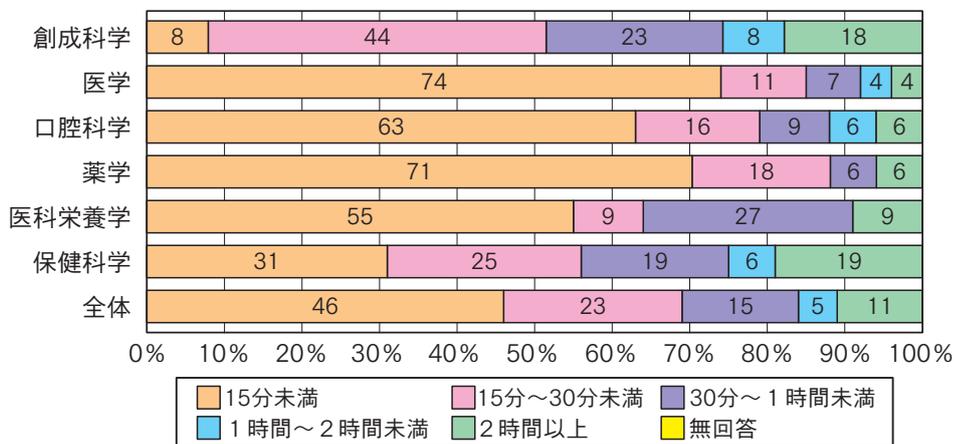


図 2 - 6 - 2 通学時間

留学生
前期課程

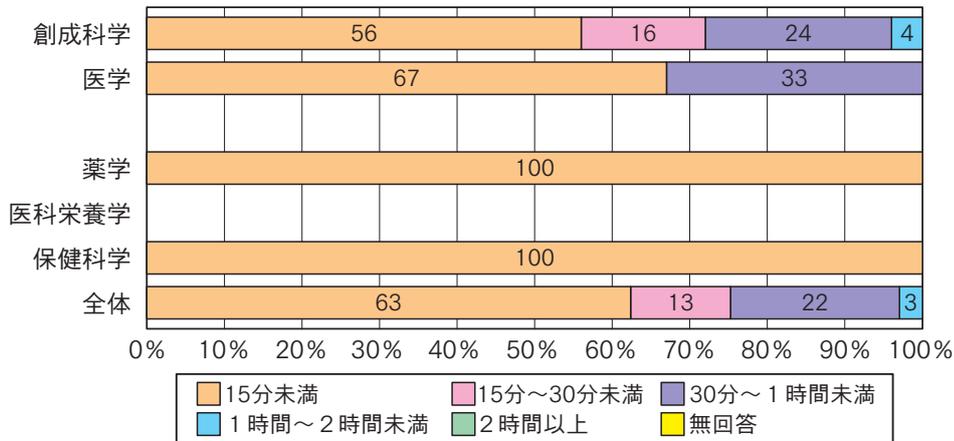


図 2 - 6 - 3 通学時間

留学生
後期課程

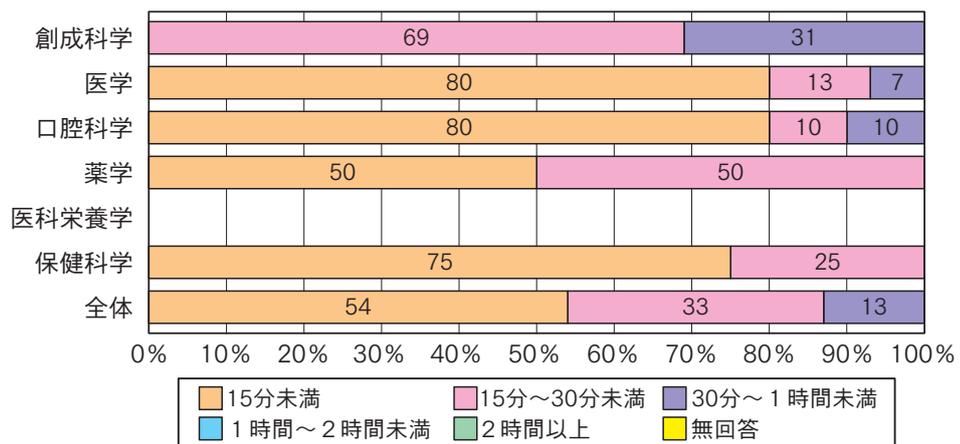


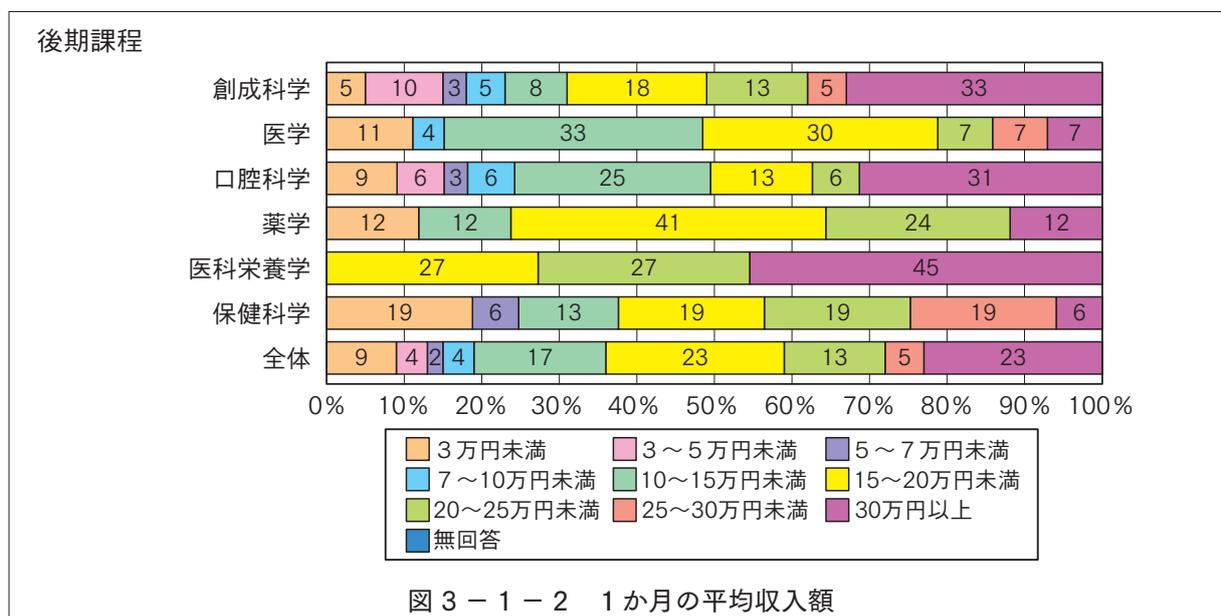
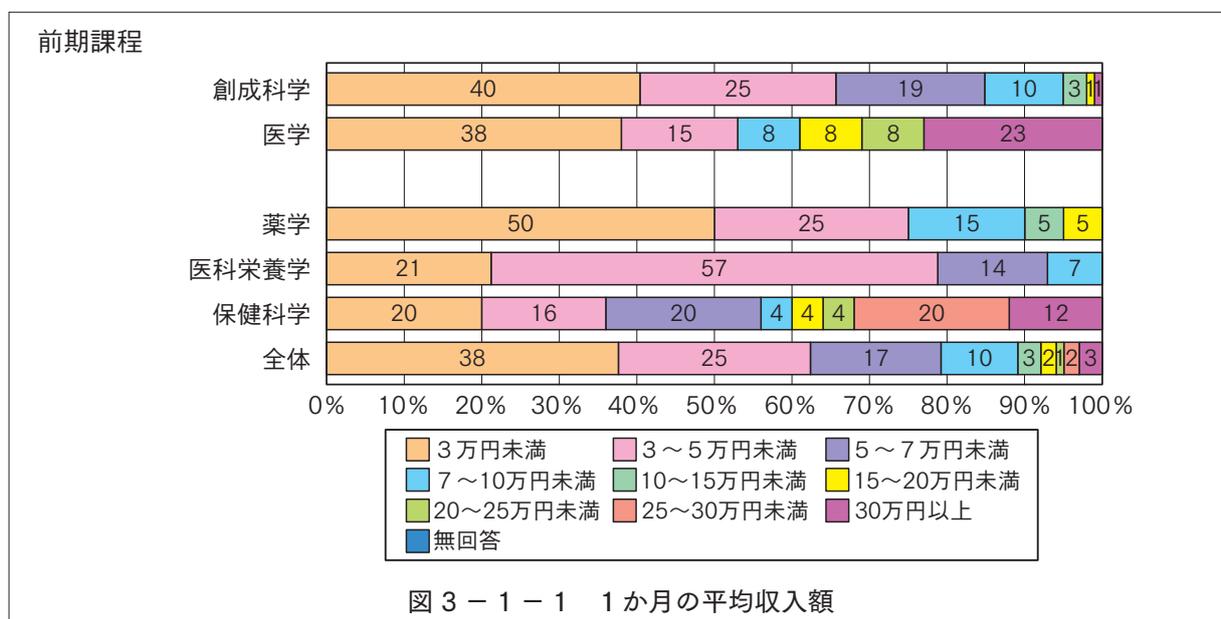
図 2 - 6 - 4 通学時間

第3章 収入・支出について

3-1 1か月の平均収入額 (図3-1-1～図3-1-4)

前期課程では、全体の中央値は3～5万円にある。第1回から第9回までの調査では、3万円未満が5回、3～5万円が4回であり、直近3回が3～5万円であることを考えると大きな変化はなかったと考えられる。一方、全体でも各研究科でも3万円未満の比率が前回より減少しており、収入は上方シフトしたと思われる。研究科別にみると、中央値が最も低い3万円未満であるのは薬学、最も高い5～7万円であるのは保健科学であり、前回と同傾向であった。保健科学では3万円未満の比率が前回より減少した一方で、前回の中央値7～10万円から下方シフトしているとも取れるが、同時に20～25万円の比率が前回より大幅に増加する傾向も見取れ、収入状況は多様化していると考えられる。ただし、サンプル数が少ないことから有意な変化であるかは判断できない。

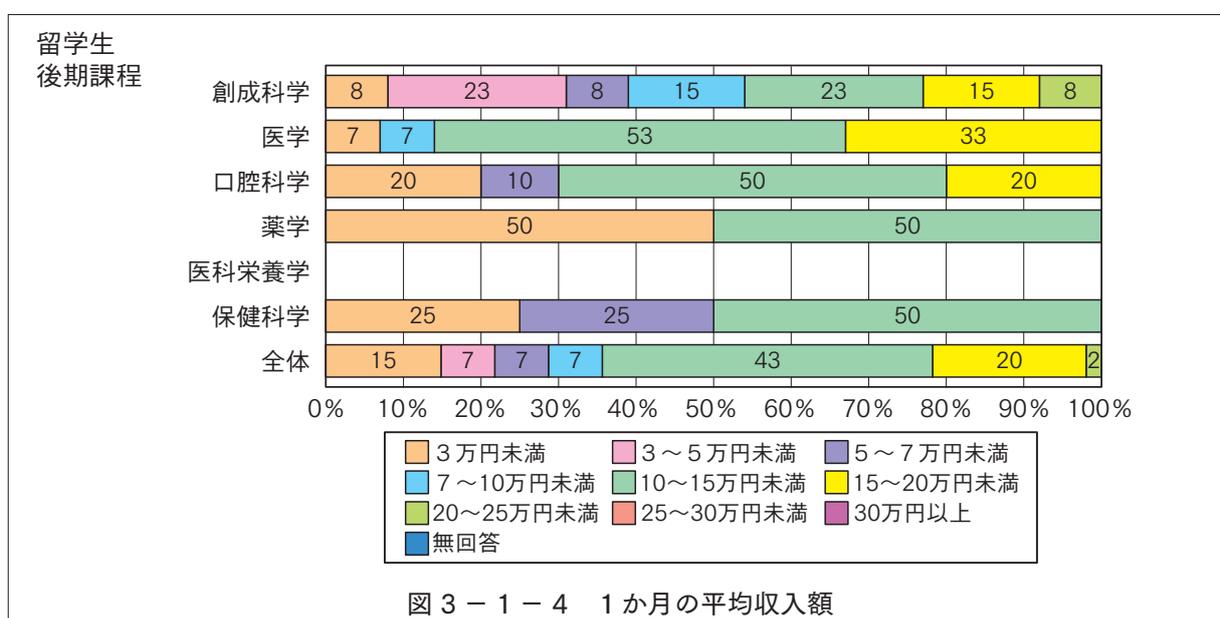
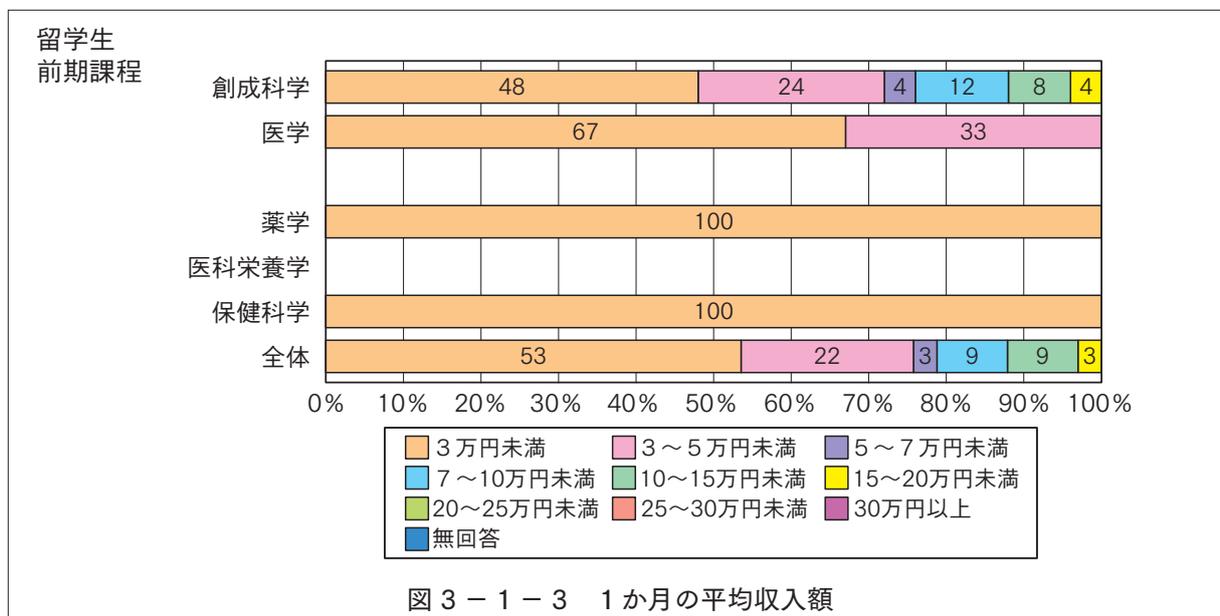
後期課程では、全体の中央値は15～20万円と第9回と同様である。第2回から第8回までの調査で



は10～15万円であり、漸増傾向が続いているとも考えられる。研究科別では、中央値が相対的に高いのは創成科学、医科栄養学であり、特に創成科学は前回より大きく増加している。

留学生前期課程全体の中央値は3万円未満であり、第9回調査と同様であったが、留学生のみのデータ収集は3回目であり、変動を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

留学生後期課程全体の中央値は25～30万円であり、第9回調査より大きく増加したが、留学生のみのデータ収集は3回目であり、傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。

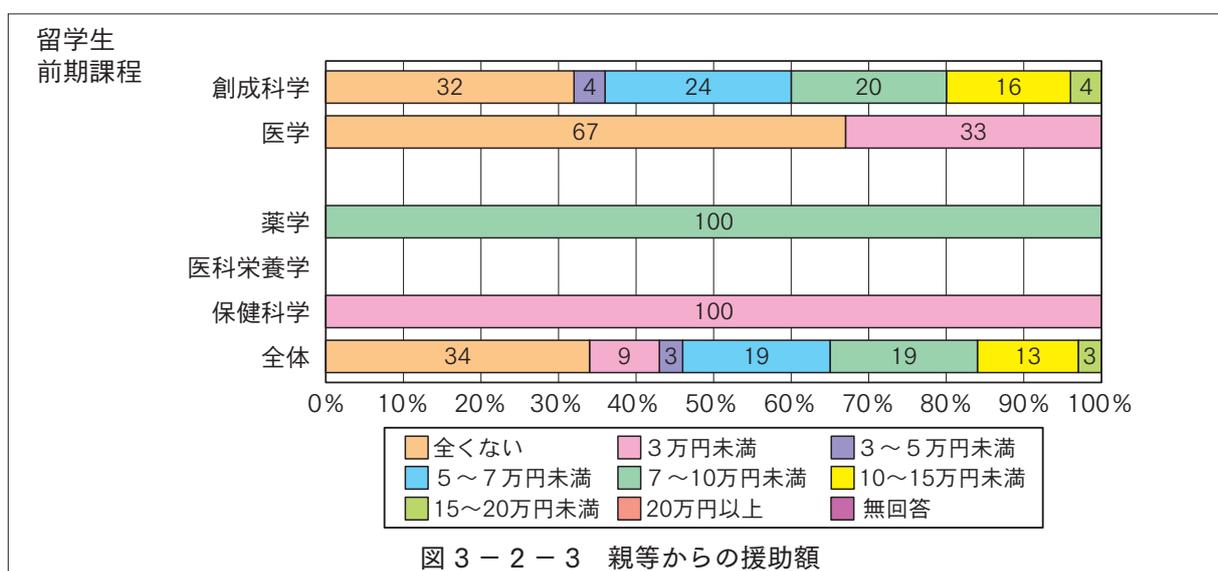
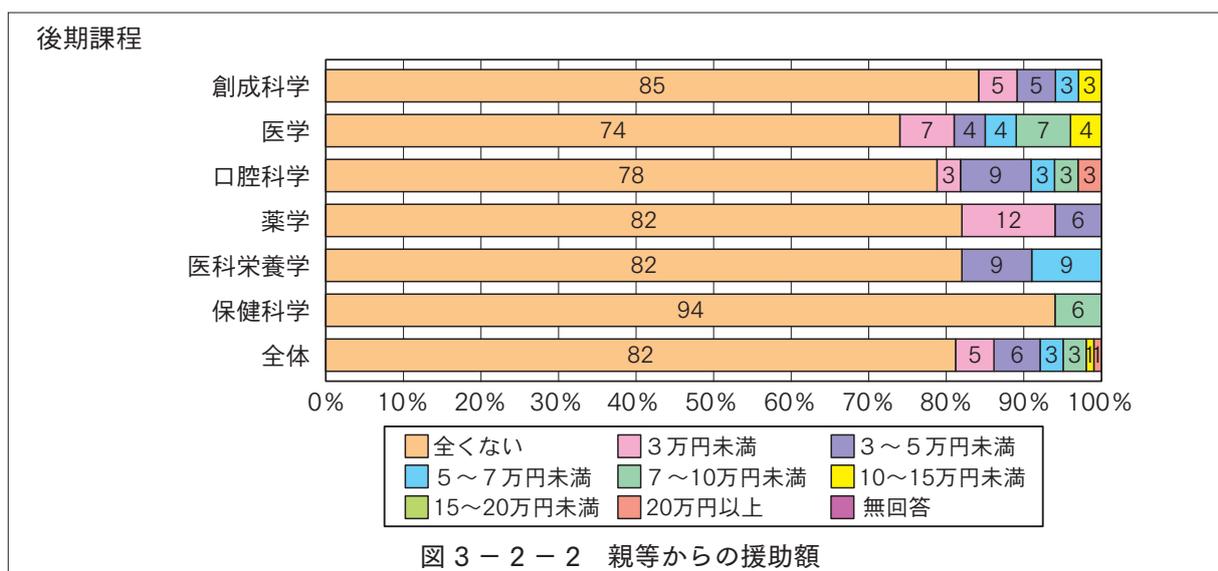
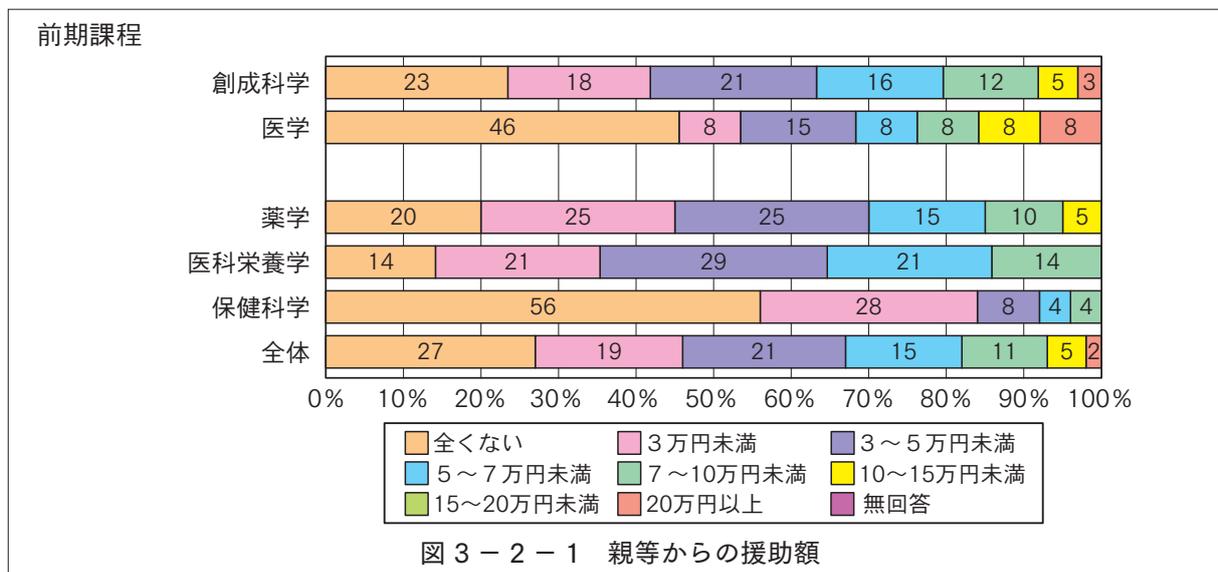


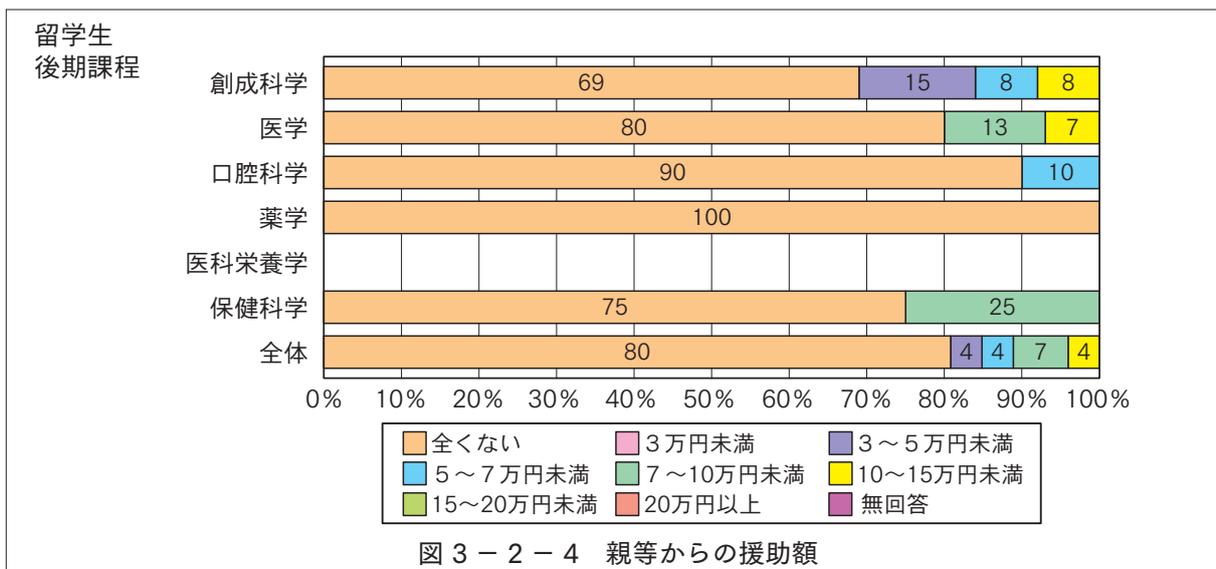
3 - 2 親等からの援助額 (図 3 - 2 - 1 ~ 図 3 - 2 - 4)

前期課程では、全体の中央値は前回の3万円未満から3～5万円に上方シフトし、第8回までと同等となった。研究科別では、創成科学、医学、医科栄養学では上方シフトしている一方、前回は該当回答がなかった「全くない」が増加するなど、全体的な傾向は明確ではない。

後期課程では、全体でも各研究科でも中央値は「全くない」であり、第9回までと概ね同傾向であったが、薬学で「全くない」が増加していた。

留学生前期課程では中央値は5～7万円であり、前回の3万円未満より増加した。留学生後期課程では中央値は「全くない」であり、前回と同等であった。留学生のみのデータ収集は3回目であり、傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。



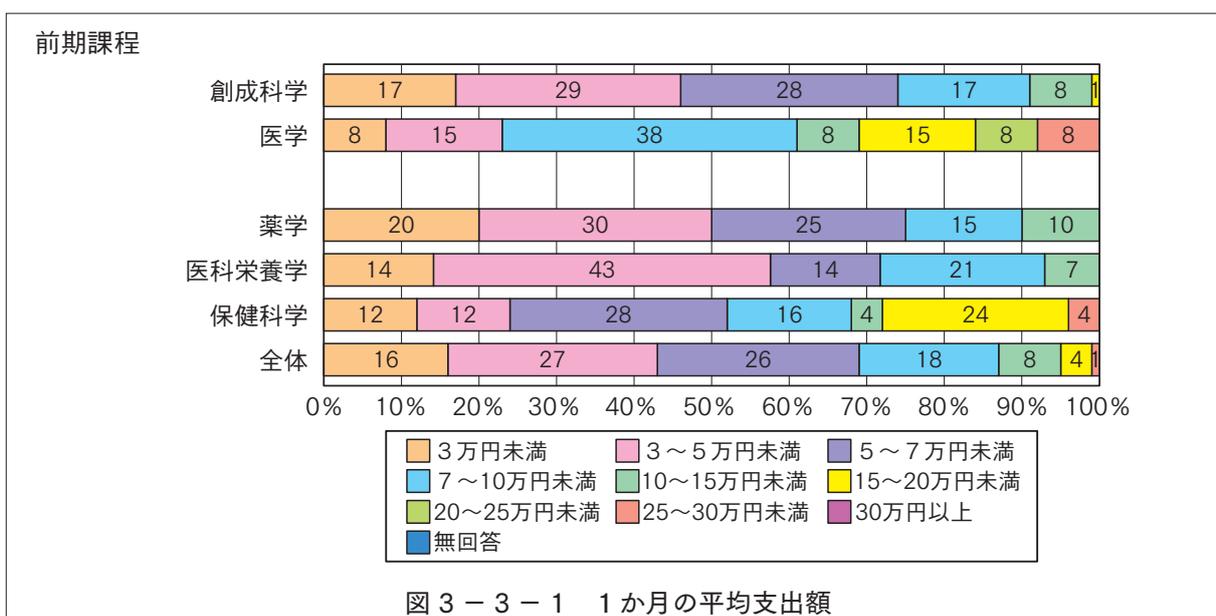


3 - 3 1か月の平均支出額(授業料支出は除く)(図 3 - 3 - 1 ~ 図 3 - 3 - 4)

前期課程の中央値は5~7万円であり、3~5万円に減少していた第8回から、第2回から第7回までの5~7万円に戻った。研究科別でも中央値は概ね3~5万円か5~7万円となっているが、医学科では5万円未満が前回より減少し、医科栄養学では5万円未満が前回より増加した。

後期課程の中央値は10~15万円であり、前回の7~10万円から上方シフトし、第4回から第8回までと同等に戻った。研究科別では、医科栄養学の中央値が高く前回より上方シフトしていた一方、前回高かった医学、保健科学は下方シフトしていた。ただし、本データからは変動の原因を明らかにすることはできず、他のデータとの相関から原因を探る試みが必要と考える。

留学生前期では、全体の中央値は7~10万円と前回より上方シフトした。前回調査でも留学生の方が高く、生活に必要な費用が高い可能性に留意する必要がある。留学生後期でも全体の中央値は10~15万円に上方シフトしており、物価高にともなう支出の増加が原因とも推測されるが、留学生のみのデータ収集は3回目であり、傾向を分析するには今後のデータの蓄積を待つ必要がある。



後期課程

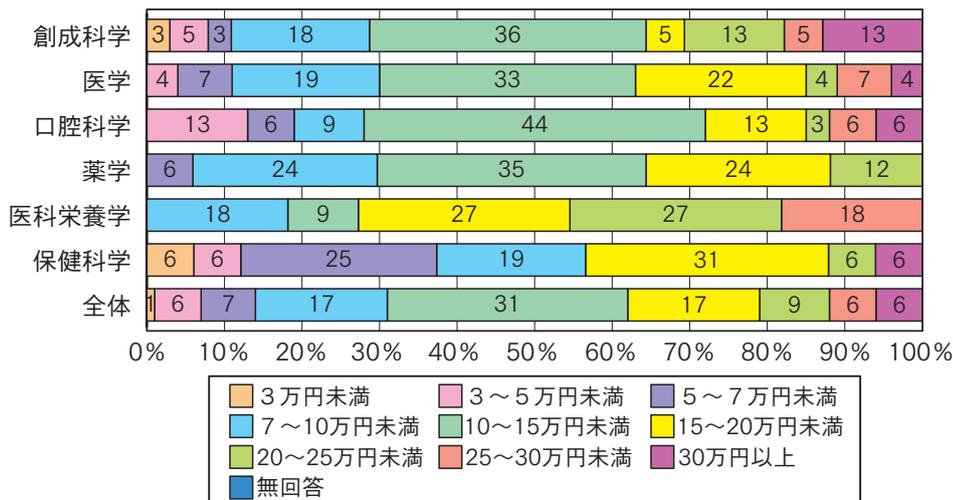


図 3 - 3 - 2 1 か月の平均支出額

留学生
前期課程

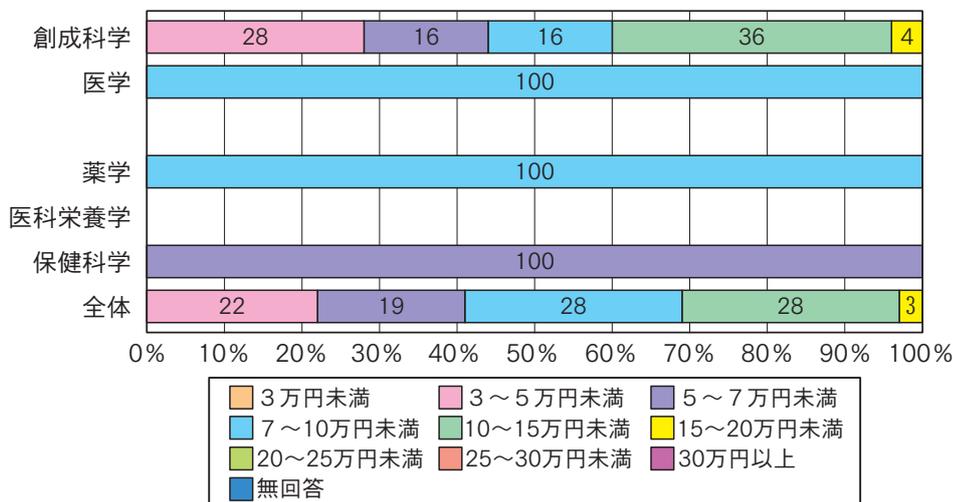


図 3 - 3 - 3 1 か月の平均支出額

留学生
後期課程

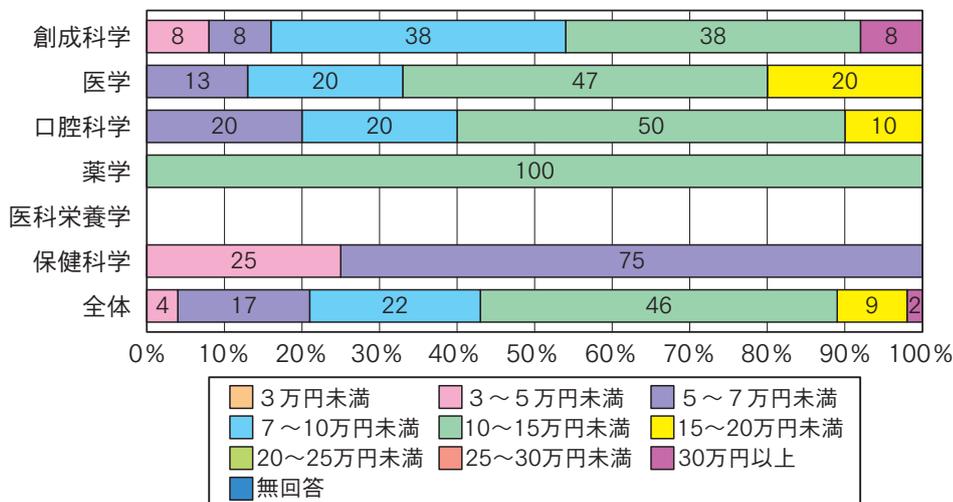
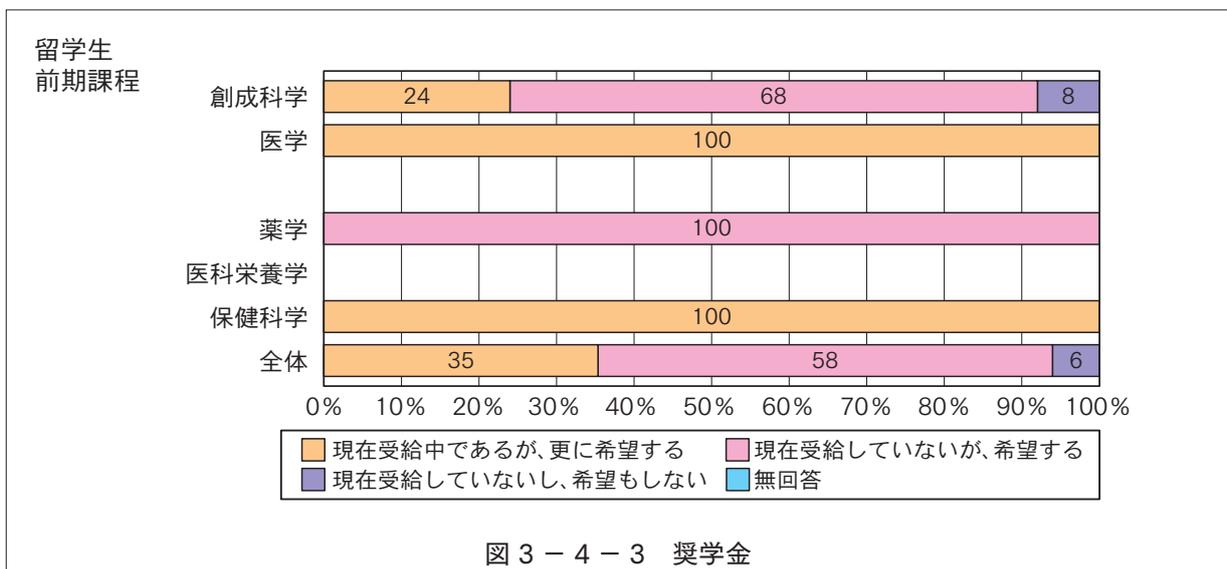
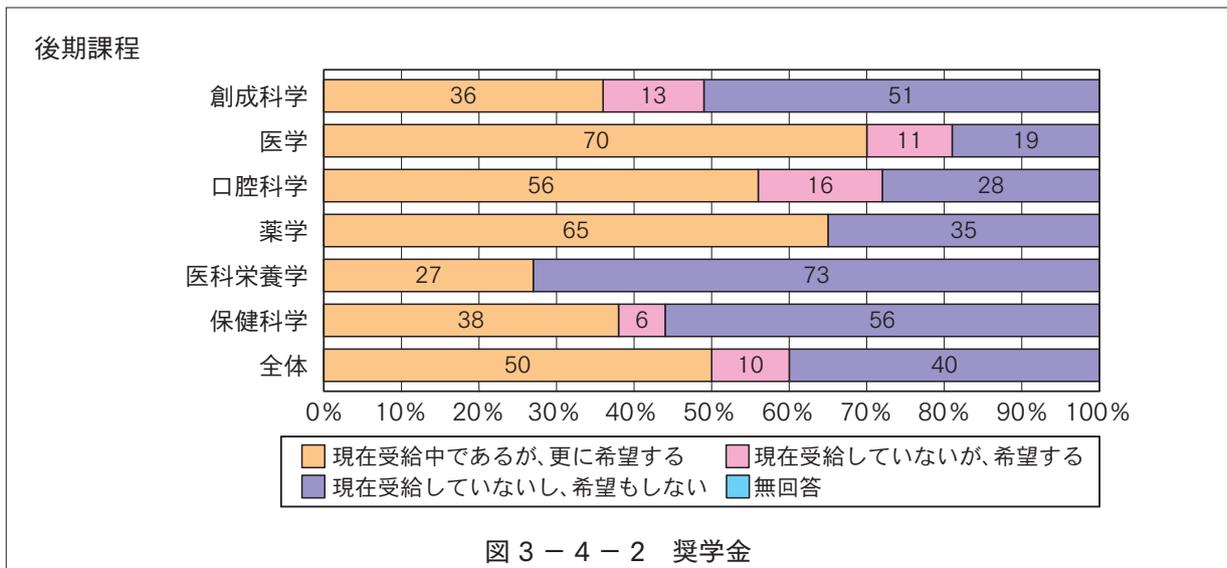
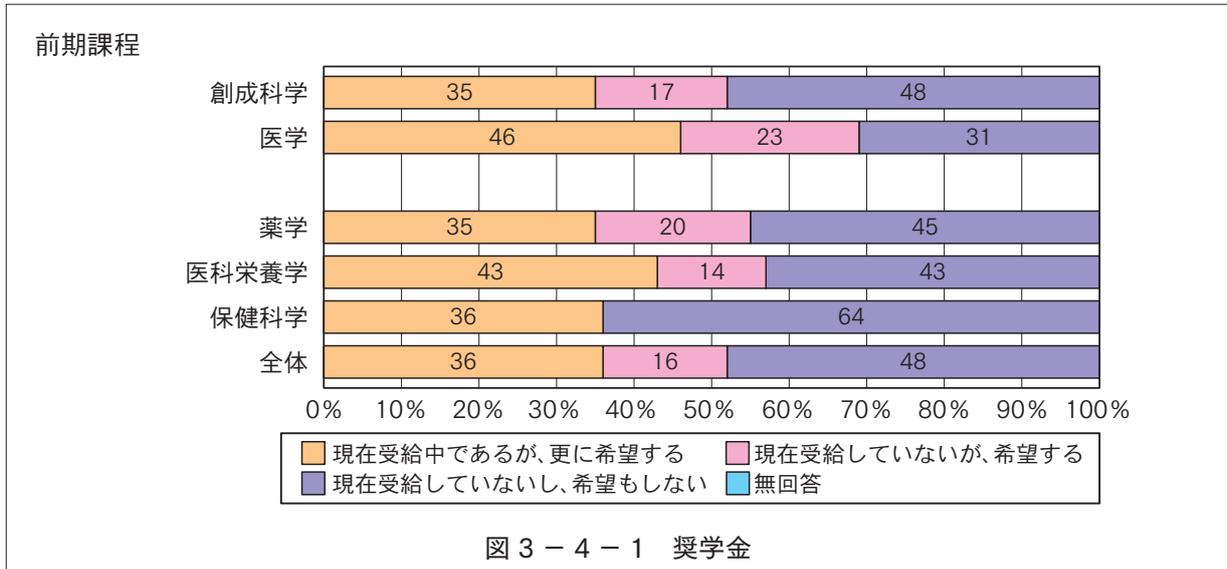
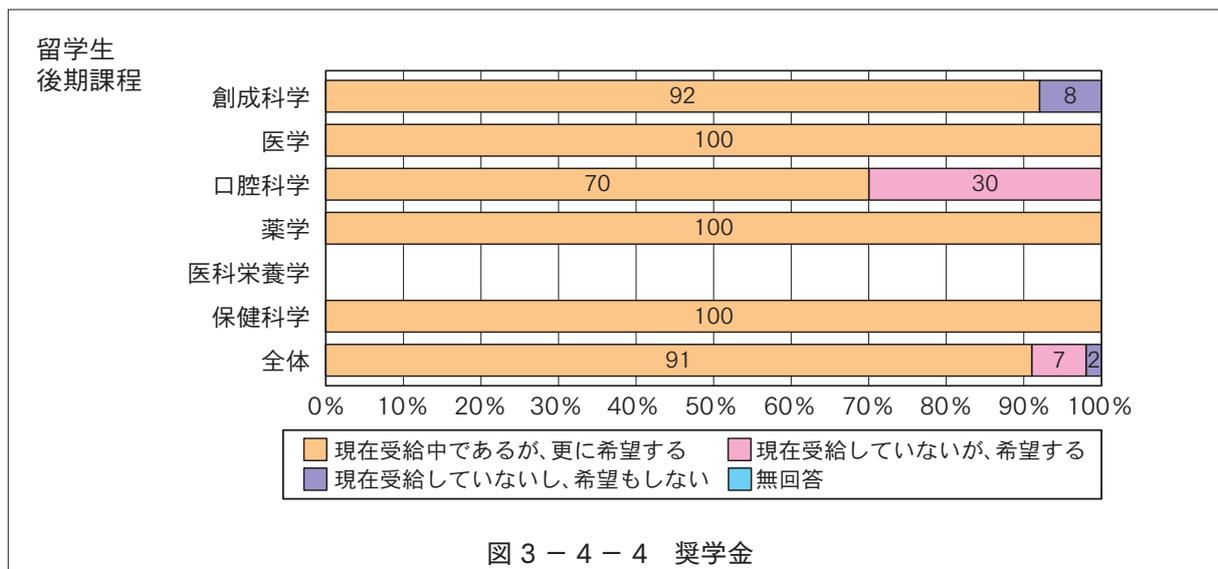


図 3 - 3 - 4 1 か月の平均支出額

3-4 奨学金を受けることを希望しますか (図3-4-1~図3-4-4)

前期課程の全体では、受給希望比率は第9回までと同程度で、傾向に顕著な変化は認められない。現





在の受給者比率は36%であり、第6回までの概ね40%台から漸減傾向が続いているとも考えられる。

後期課程の全体では、受給希望比率は従来の概ね60%前後と同程度で、顕著な変化は認められない。

留学生前期課程では、受給を希望しない回答者がわずかながら現れているが受給希望比率は高く、後期課程でも同様に受給希望比率は非常に高く、すでに受給している割合も高い。

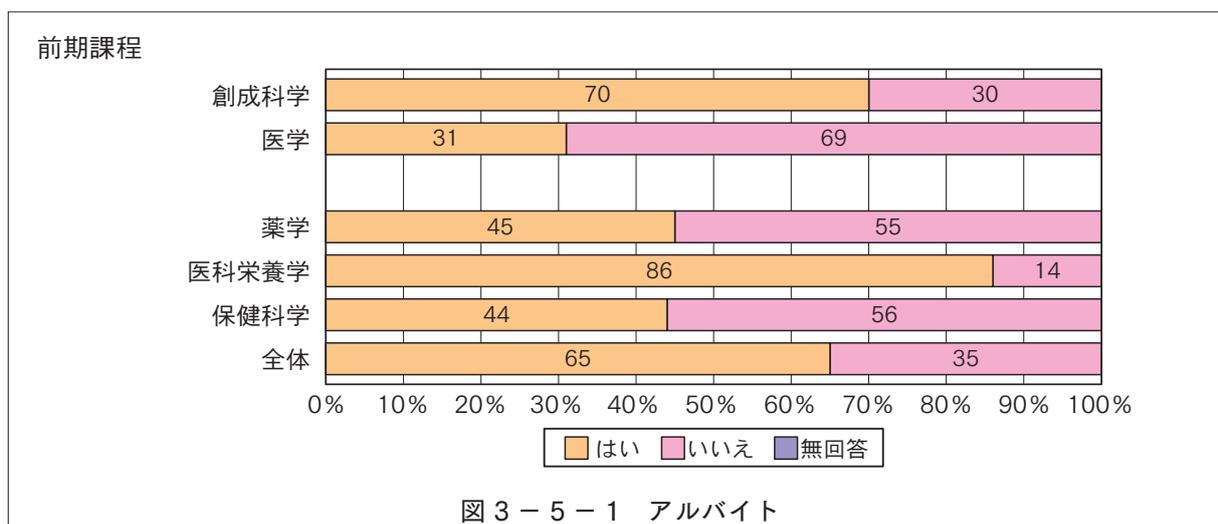
3-5 現在、アルバイトをしているか (図3-5-1~図3-5-4)

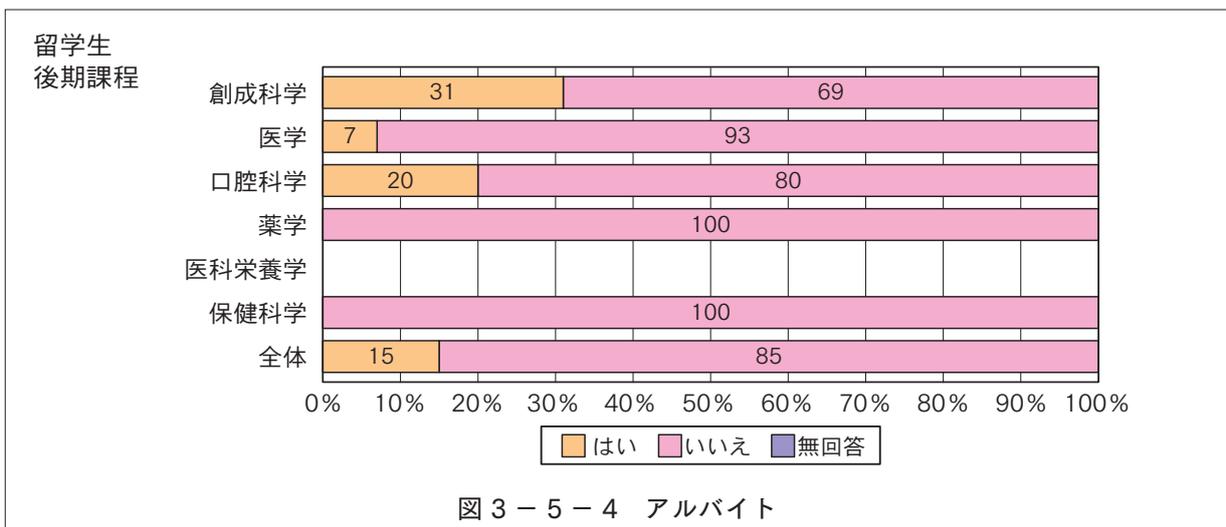
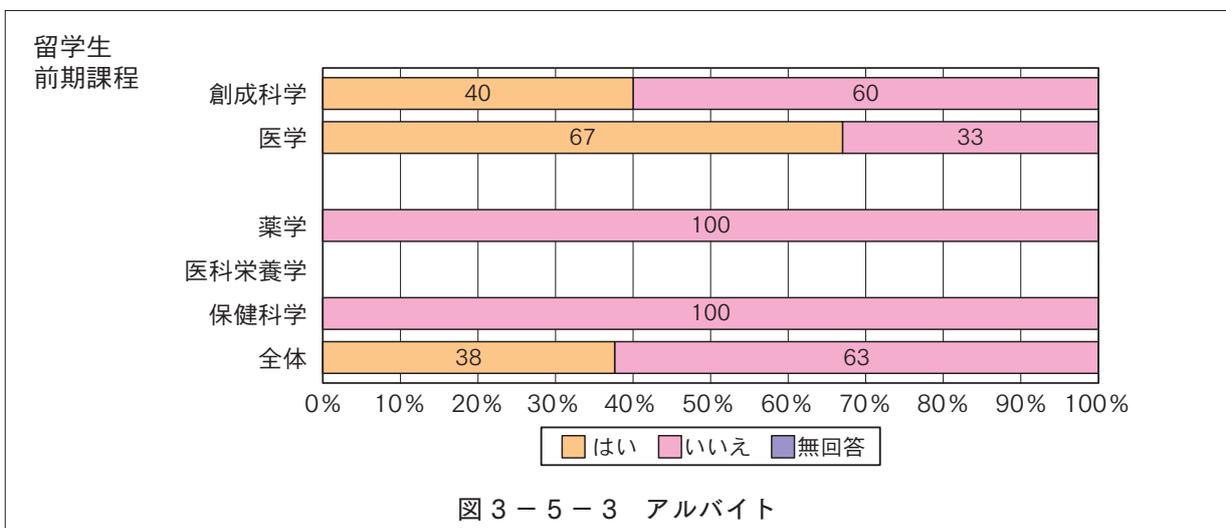
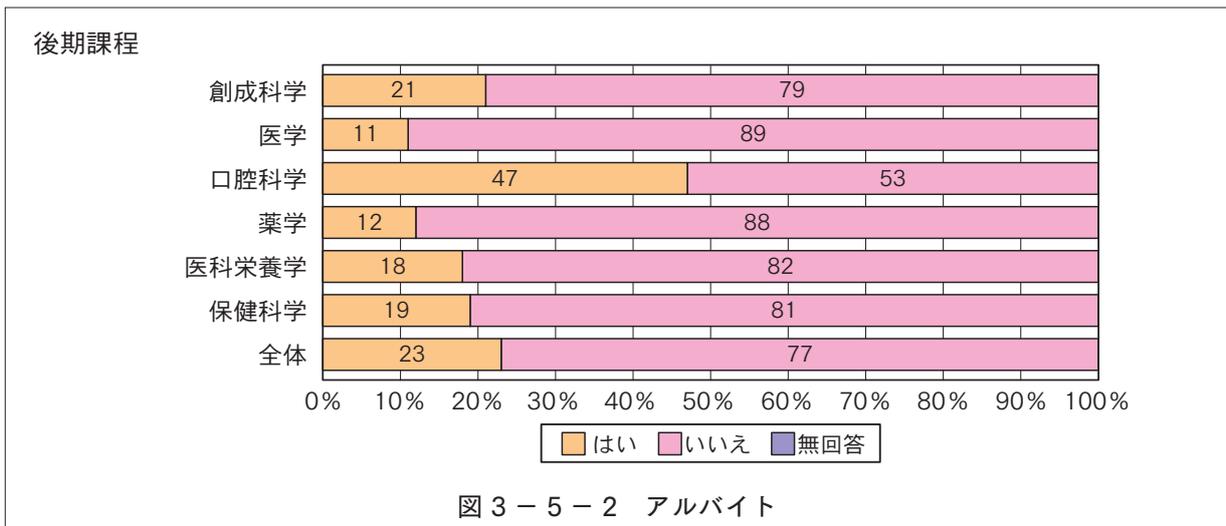
前期課程の全体では、アルバイトをしている者の比率は第9回までの概ね50~60%と同程度である。研究科別の比率には大きな差異があるが、経時的変動が大きく特筆すべき傾向は認められない。

後期課程の全体では、アルバイトをしている者の比率は9回までの概ね30%と同程度である。また、前期課程より低比率である傾向も同様である。研究科別では口腔科学が高率だが、調査ごとの変動の範囲内とも考えられる。

留学生前期課程では前回調査と同様の比率を示したが、傾向を分析するにはさらに調査を継続する必要がある。研究科ごとの比率の差は引き続き大きい、有意性は不明である。

留学生後期課程では、比率が前回調査より下方シフトしたが、これが何らかの社会的原因によるものかは不明である。



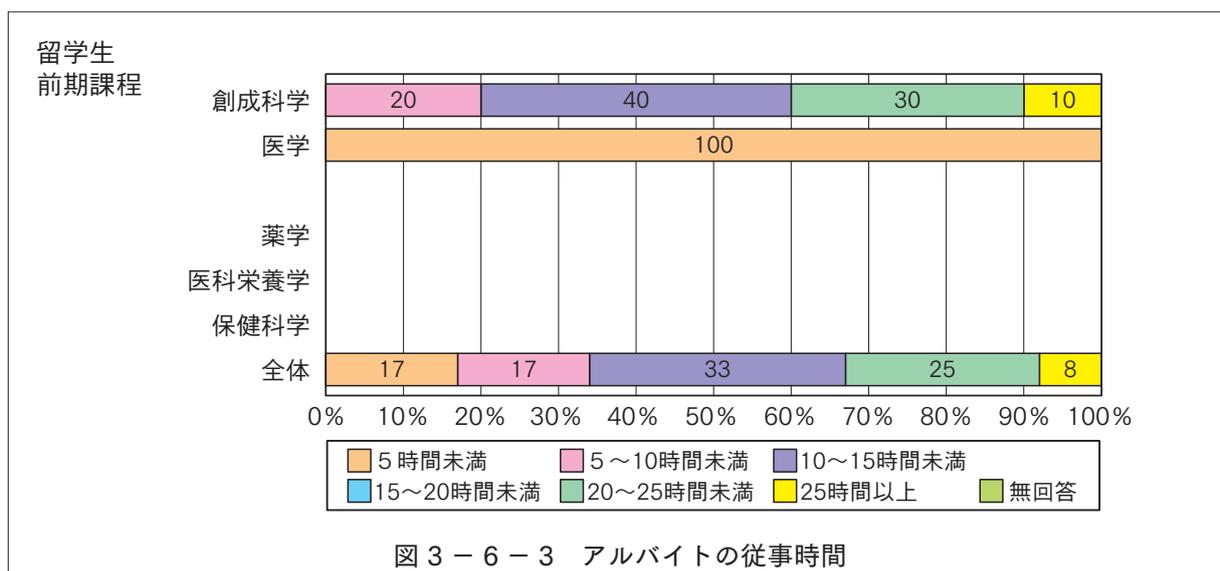
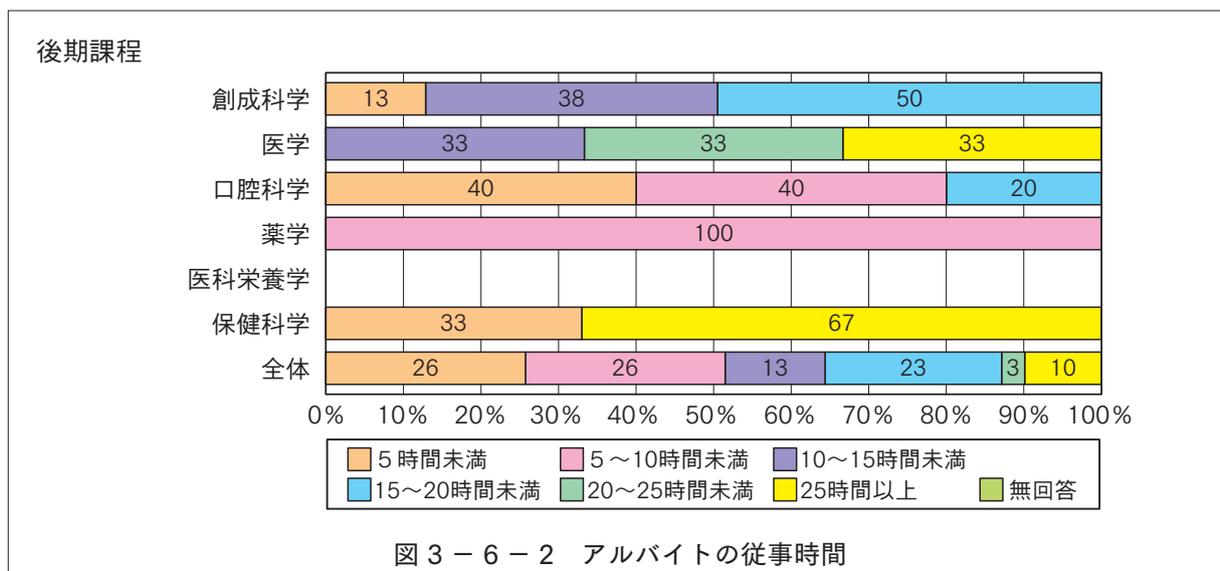
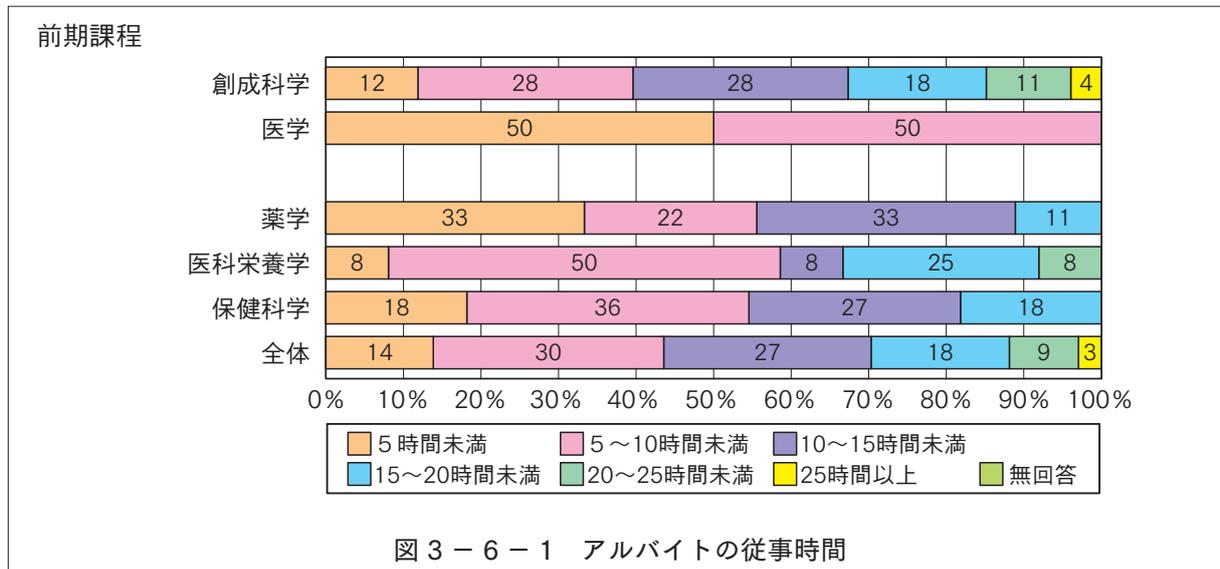


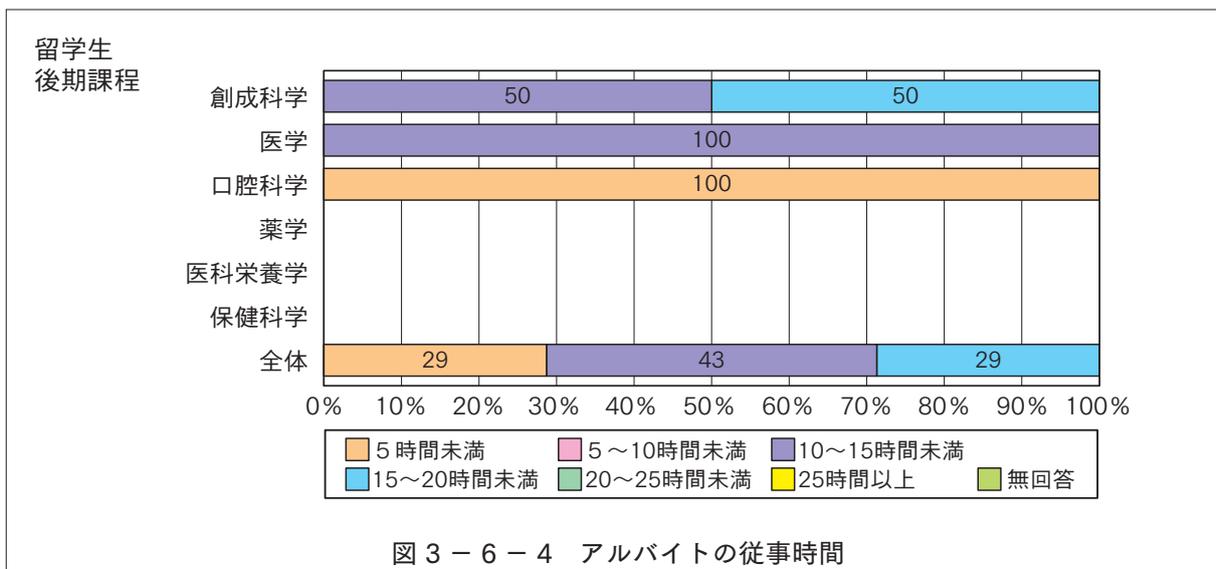
3-6 アルバイト従事時間数 (図 3-6-1 ~ 図 3-6-4)

前期課程の全体では、中央値は10～15時間で、第9回より上方シフトした。研究科別の差異は大きい、サンプル数が少ないことが原因とも考えられる。顕著な経時的変動傾向は認められない。

後期課程の全体では、中央値が5～10時間で、顕著な変化は認められなかった。医学と保健科学で

は前回より従事時間が増加しており、社会的要因でアルバイト時間を確保しやすくなった可能性や、収入減少を補うためにアルバイト時間を増やす必要に迫られた可能性などが考えられるが、原因解明にはより詳細なデータ収集と分析が必要である。



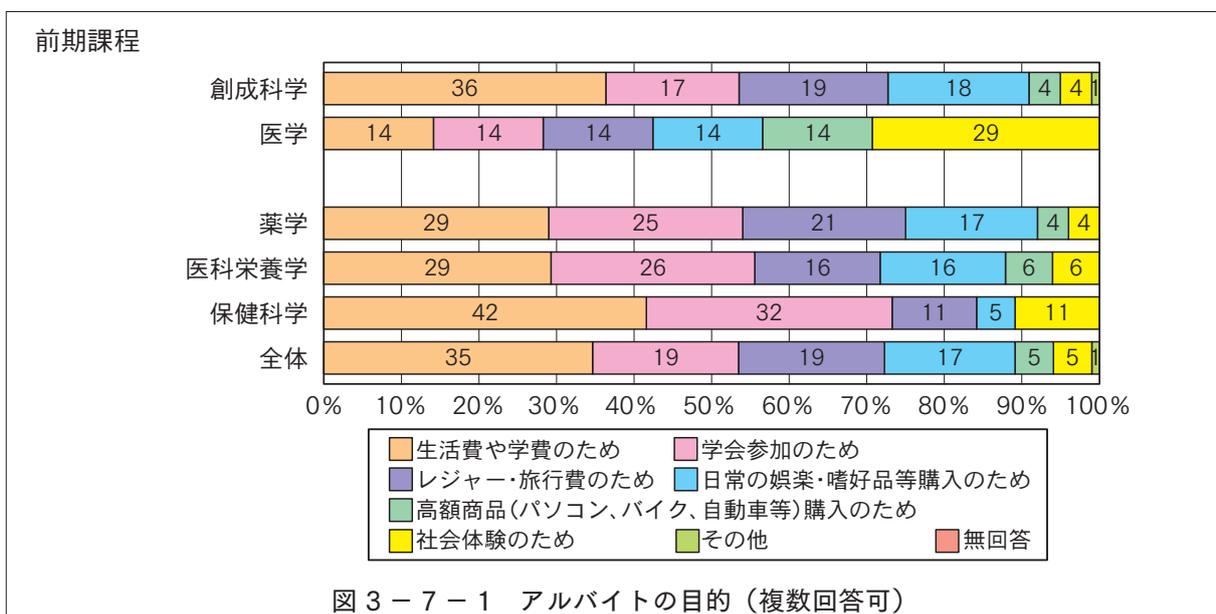


留学生前期課程の全体では、中央値が前回より上方シフトしたが、有意な変化傾向であるかは判断できない。留学生後期課程の全体では、中央値が前回と同程度であったが、変化傾向の分析にはデータの蓄積を待つ必要がある。

3-7 アルバイトの目的 (図3-7-1～図3-7-4)

前期課程の全体でもっとも高い比率を示したのは「生活費や学費」で、第9回までと同じ傾向であった。一方、「レジャー・旅行費」と「娯楽等」を合計すると「生活費や学費」に匹敵し、こちらも第9回までと同じ傾向であった。研究科別では、必ずしも「生活費や学費」がもっとも高いわけではないが、過去の調査を含め、ほとんどの研究科では主要目的の1つであった。また、今回の結果では前回より「学会参加」が上方シフトしており、コロナ禍後に学会に参加する機会が増えたことが原因の可能性がある。

後期課程の全体でも高い比率を示したのは「生活費や学費」で、第9回までと同じ傾向であった。前後期の「生活費や学費のため」の比較では、後期の方が高い比率を示したが、これも第9回までと同じ傾向であった。「レジャー・旅行費」と「娯楽等」の合計は後期の方が低比率を示し、これも第9回までと同じ傾向であった。



後期課程

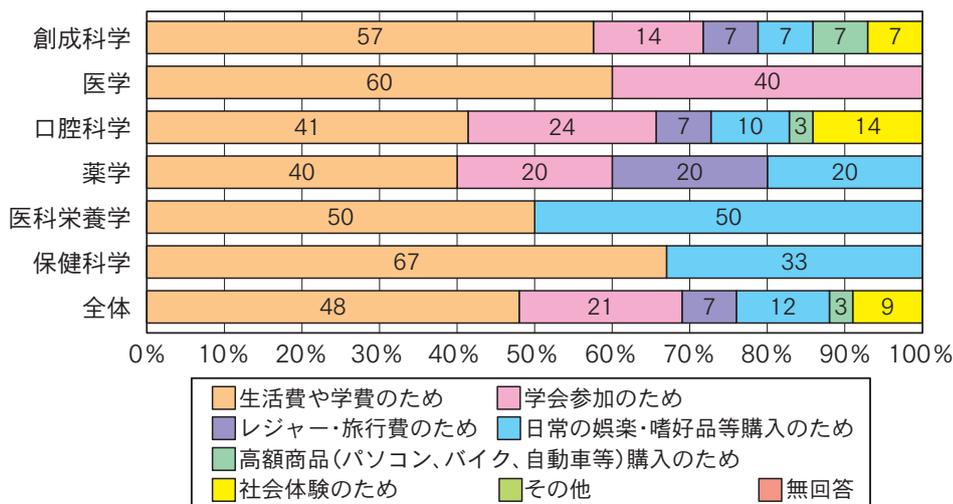


図 3-7-2 アルバイトの目的 (複数回答可)

留学生
前期課程

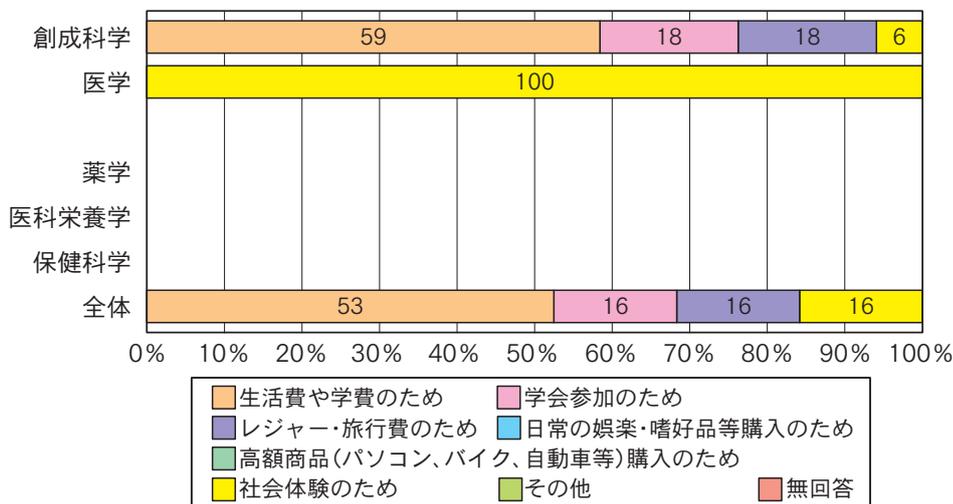


図 3-7-3 アルバイトの目的 (複数回答可)

留学生
後期課程

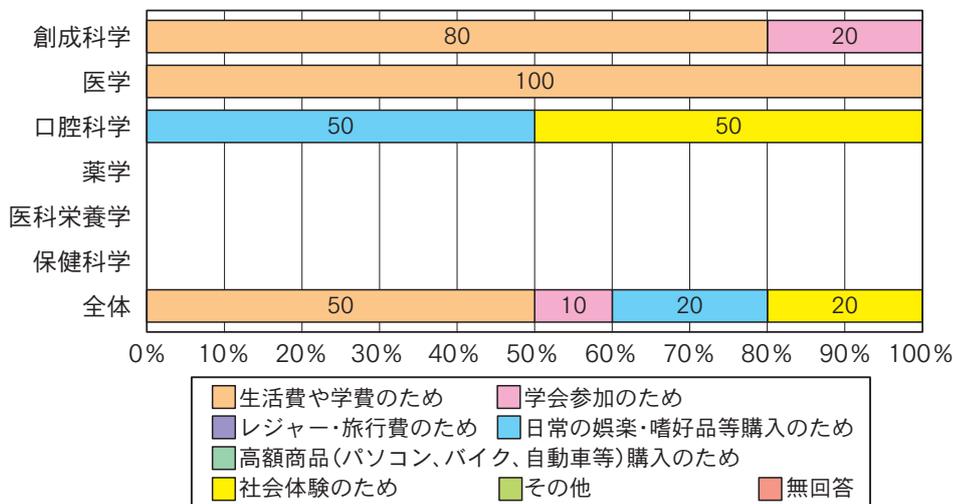


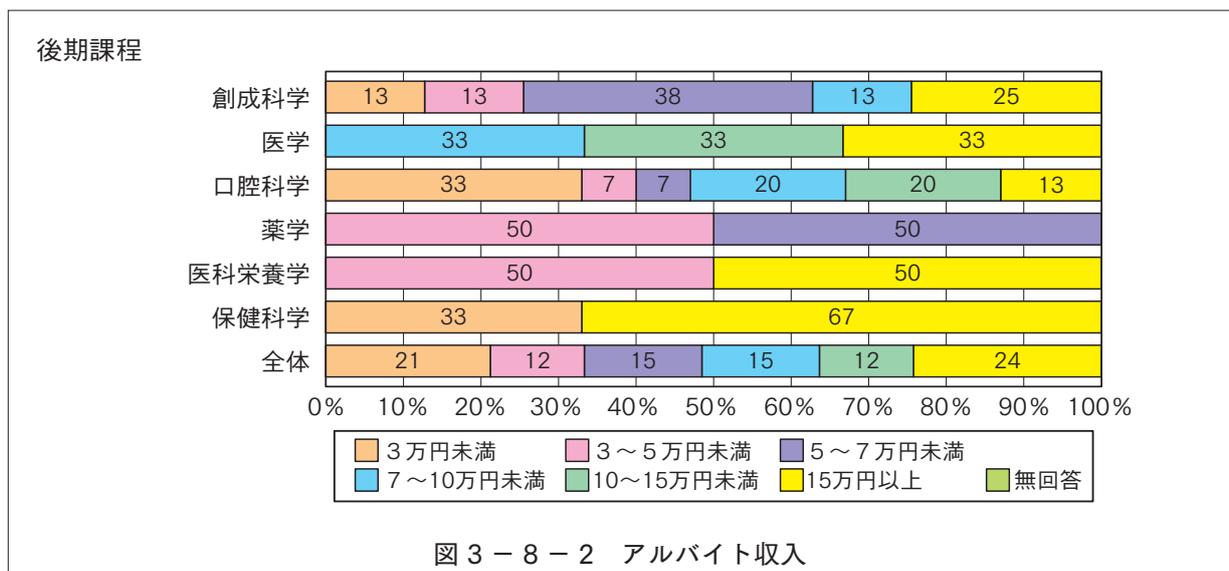
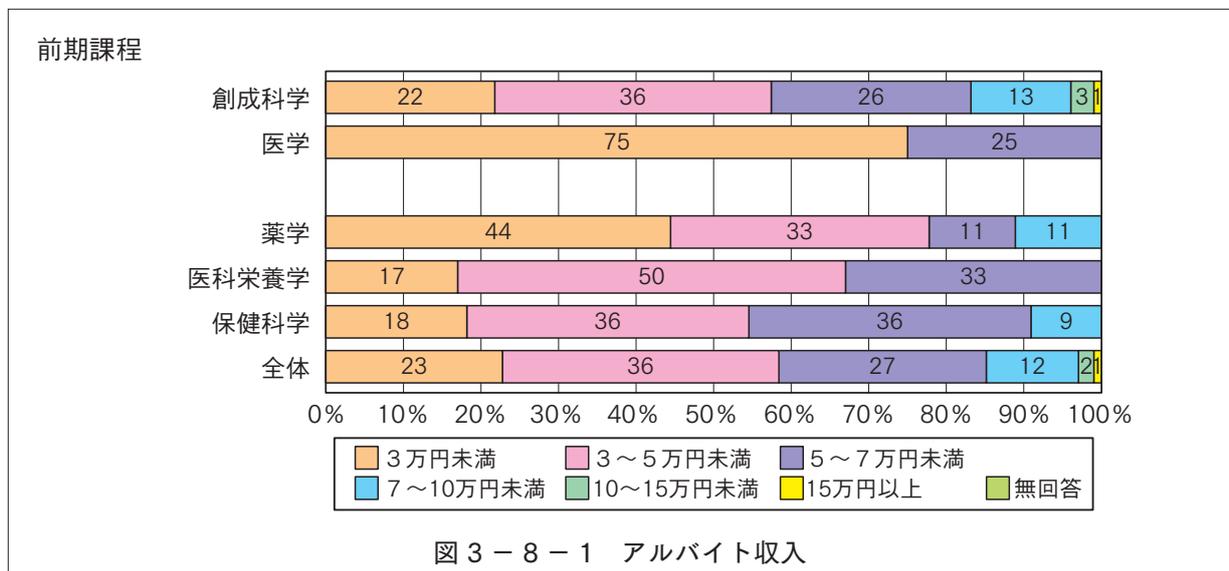
図 3-7-4 アルバイトの目的 (複数回答可)

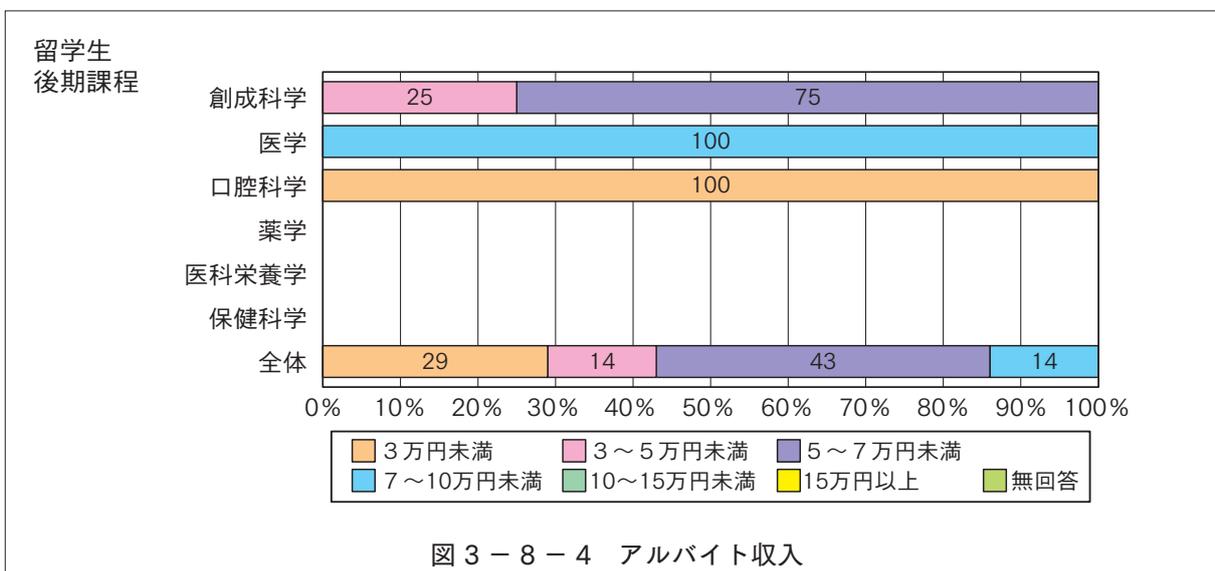
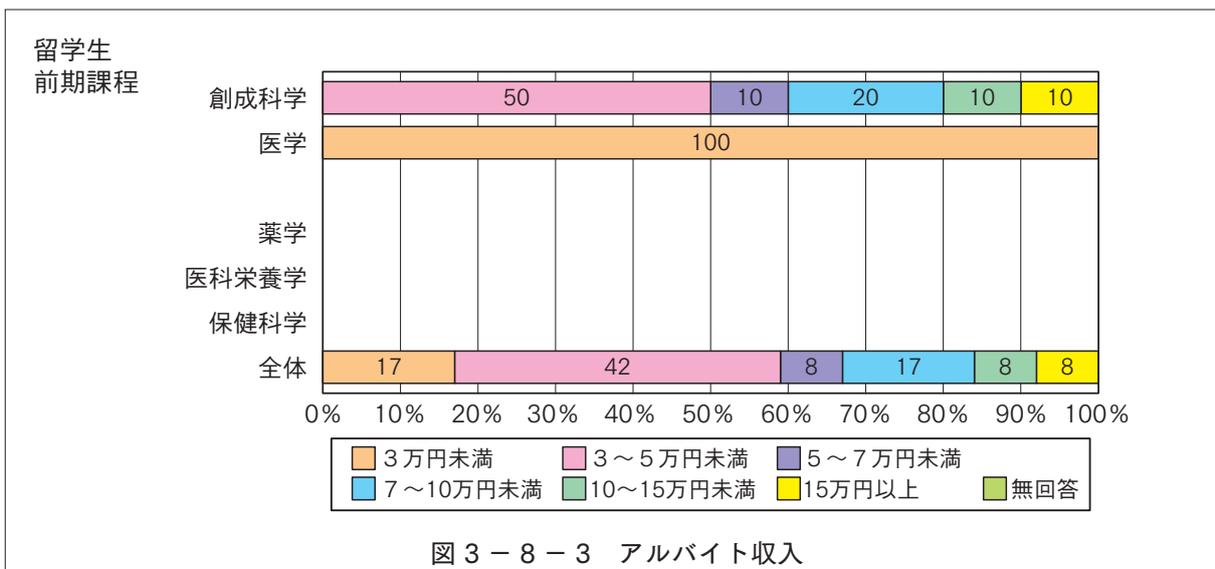
留学生前期、後期課程とも、全体では「生活費や学費」が主であり、「レジャー・旅行費のため」は相対的に低比率である。これは前回までの調査と同じ傾向である。

3-8 アルバイト収入金額 (図3-8-1~図3-8-4)

前期課程全体では、中央値は3~5万円で前回までと同様であり、研究科別の違いも大きくなかった。後期課程の全体では、中央値は7~10万円で、第8回、第9回で5~7万円に減少した局面から第3~7回と同じ区分に回復した。加えて15万円以上の比率が増え、特に医科栄養学、保健科学での増加が顕著である。保健科学は第8回までは15万円以上の割合はゼロであり、第9回からの新たな傾向が続いているとも考えられる。

留学生前期課程の全体では中央値は3~5万円であり、前回調査と同等だった。後期課程の中央値は前回の3~5万円から5~7万円に上方シフトしたが、サンプル数が少なく有意な分析は困難である。前回調査の5~7万円より低下した。とはいえ、長期的傾向を分析するにはデータ数と調査回数の蓄積が必要である。



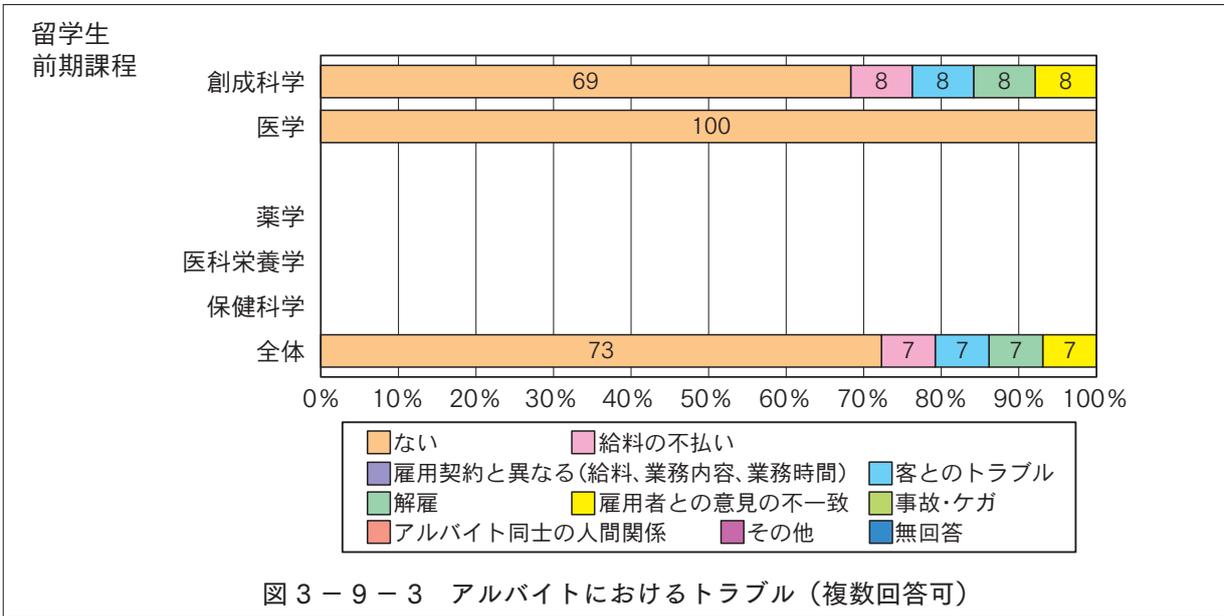
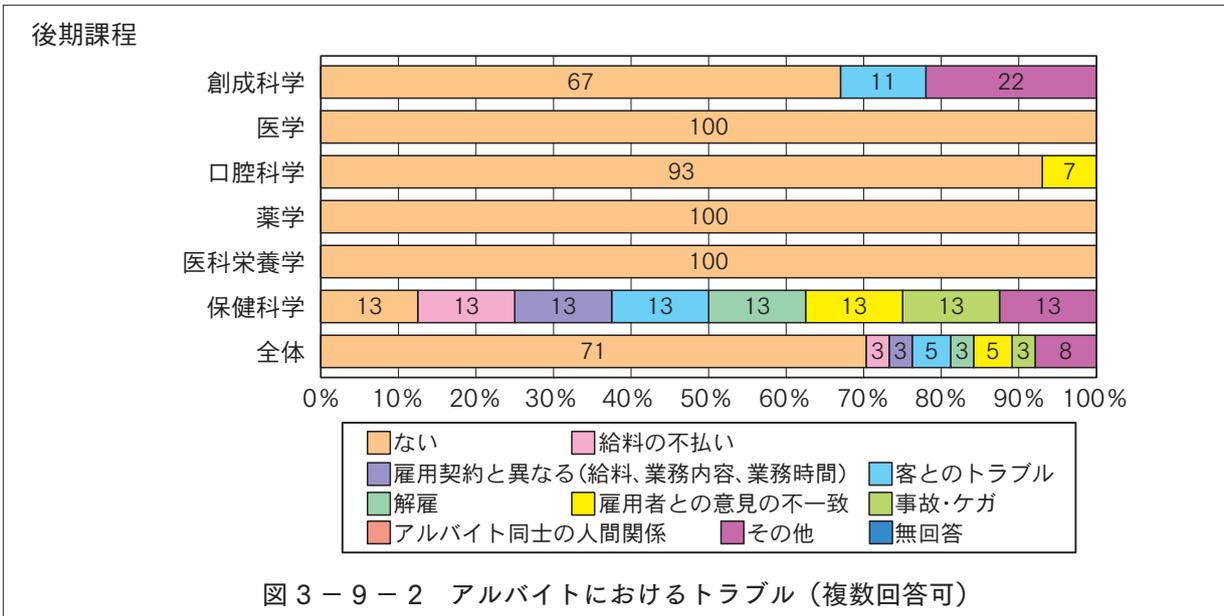
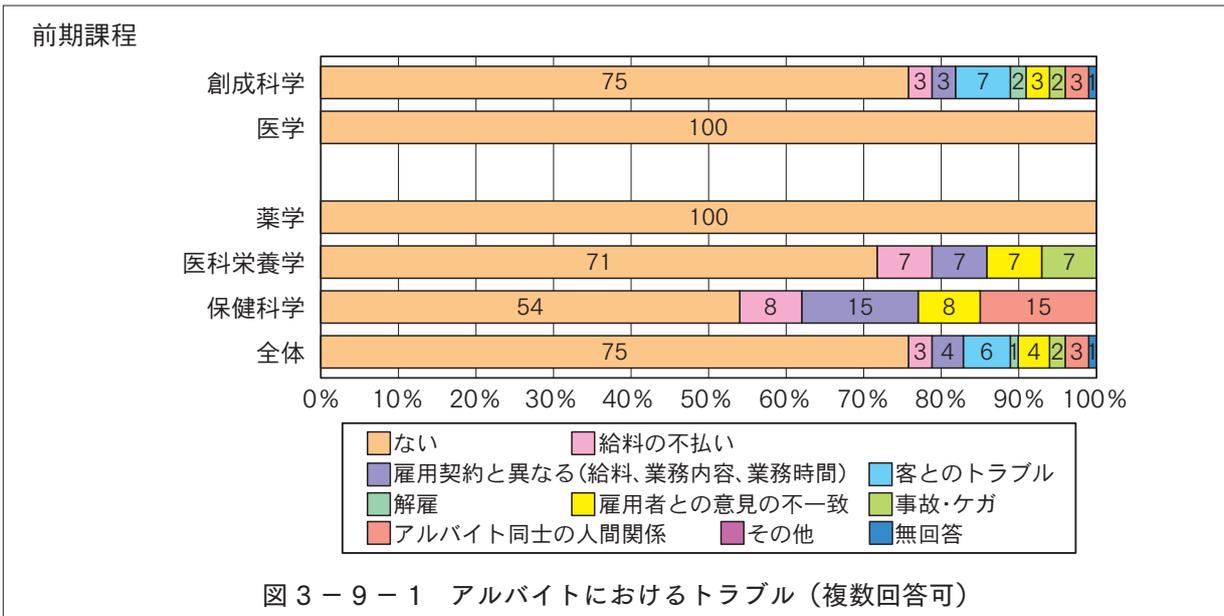


3-9 アルバイトにおけるトラブル (図3-9-1~図3-9-4)

前期課程全体では、トラブルを経験していない比率が前回より下方シフトしており、アルバイト従事時間や回数が増えたことでトラブルが増加した可能性が考えられた。研究科別では保健科学でトラブル経験の比率が高いが、トラブルの種類は多様であり、原因の解明は困難と思われる。全体で経験したトラブルの種類では「客とのトラブル」が高率で、これは第9回までと同様であった。

後期課程全体でも、トラブルを経験していない比率が前回より下方シフトしていた。研究科別では前期課程と同様に保健科学でトラブル経験の比率が高く、前期課程と同じ原因が存在する可能性がある。

留学生前期課程、後期課程ともにアルバイトのトラブル経験はゼロだった前回から上方シフトしており、同様の原因が考えられる。



留学生
後期課程

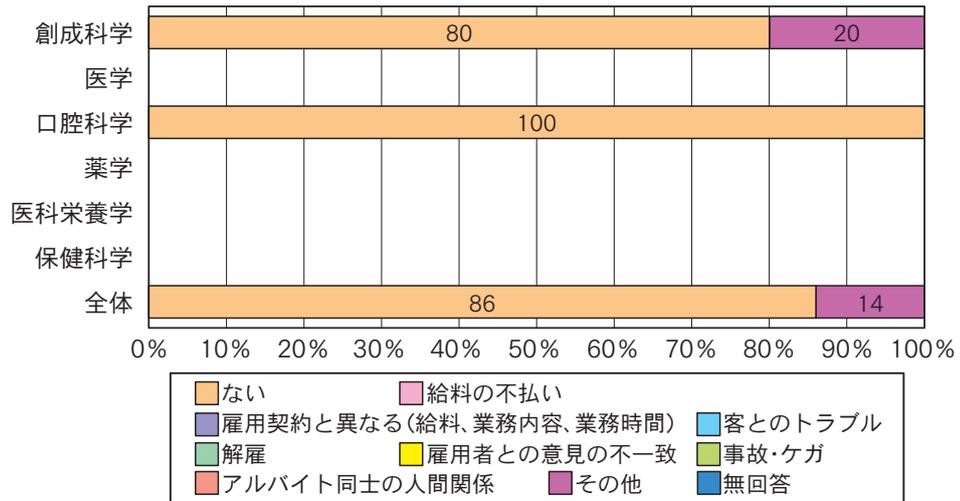


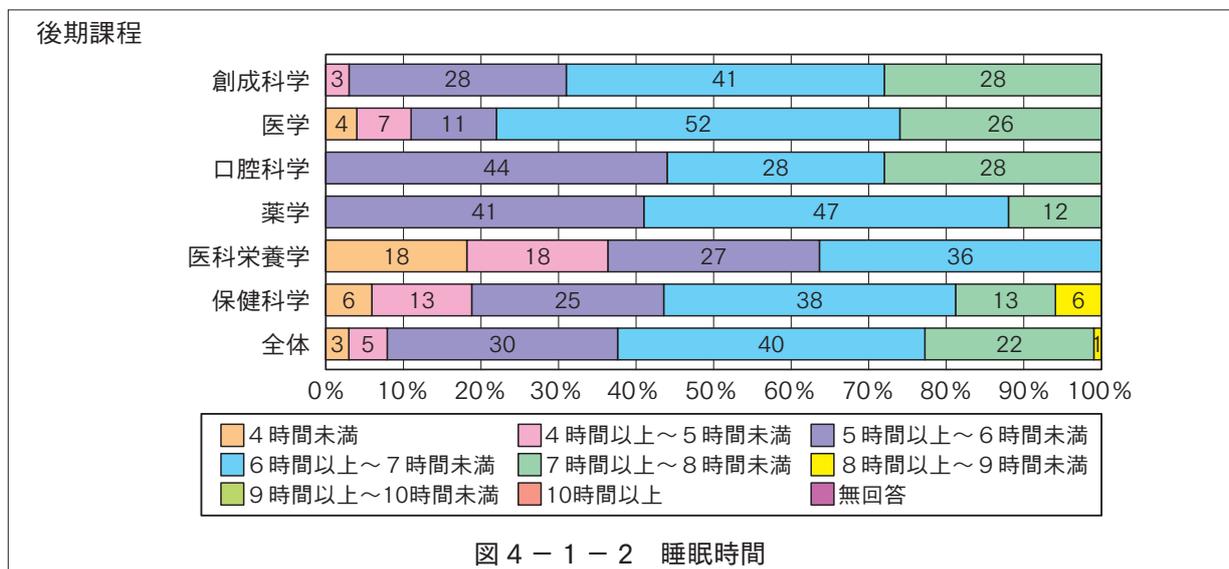
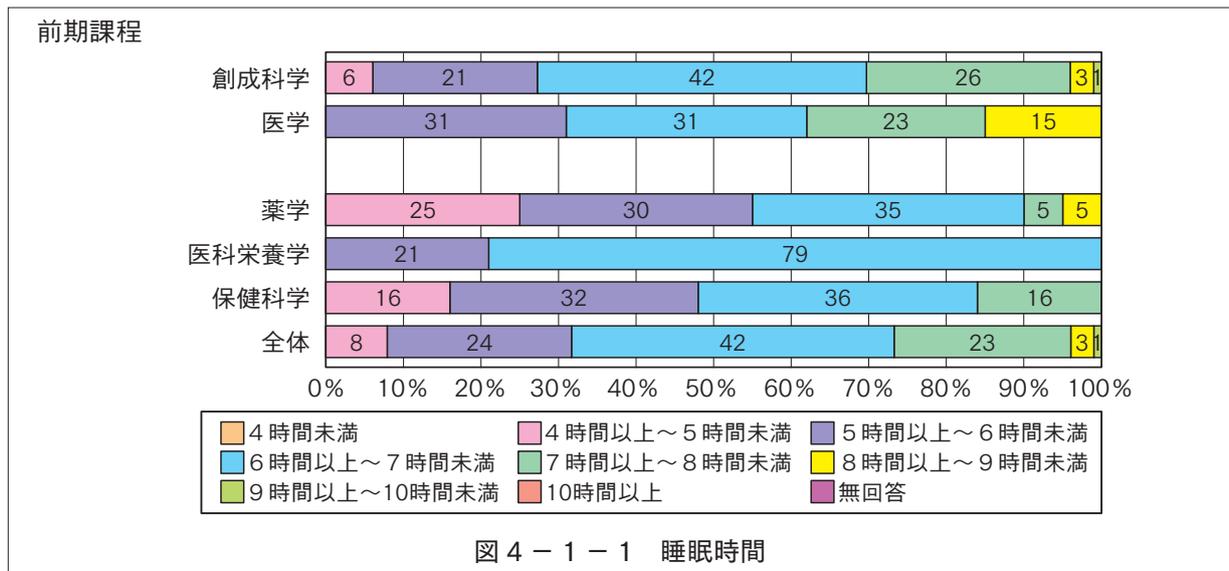
図 3-9-4 アルバイトにおけるトラブル (複数回答可)

第4章 健康状態について

4-1 睡眠時間 (図4-1-1、図4-1-2)

睡眠時間は、「6時間以上～7時間未満」の学生が前期課程、後期課程で、それぞれ42%、40%と最も多く、「7時間以上～8時間未満」がそれぞれ23%、22%であった。前回調査の「6時間以上～8時間未満」は前期課程59%、後期課程54%であったことから、「6時間以上～8時間未満」の学生は65%、62%と増加したといえるが、一般に最も健康的な睡眠時間は7～8時間といわれているが、今回調査では6時間台の睡眠時間の学生が最も多いことが見いだされた。また、「5時間以上～6時間未満」の学生が、前期課程で24%、後期課程で30%とそれぞれ2番目に多く、睡眠不足に留意が必要である。留学生では、前回調査までは、学生全体と比べてより十分な睡眠を確保している者が多かったが、今回調査では「6時間以上～7時間未満」前期38%・後期41%、「7時間以上～8時間未満」前期38%・後期30%、「5時間以上～6時間未満」前期19%・後期26%で、全体と同じ傾向であった。

学生健康白書2021掲載の全国の国立大学大学院生の睡眠時間調査結果(有効回答数40,068)では「4～5時間未満」1%、「5～6時間未満」9%、「6～7時間未満」29%、「7～8時間未満」39%、「8～9

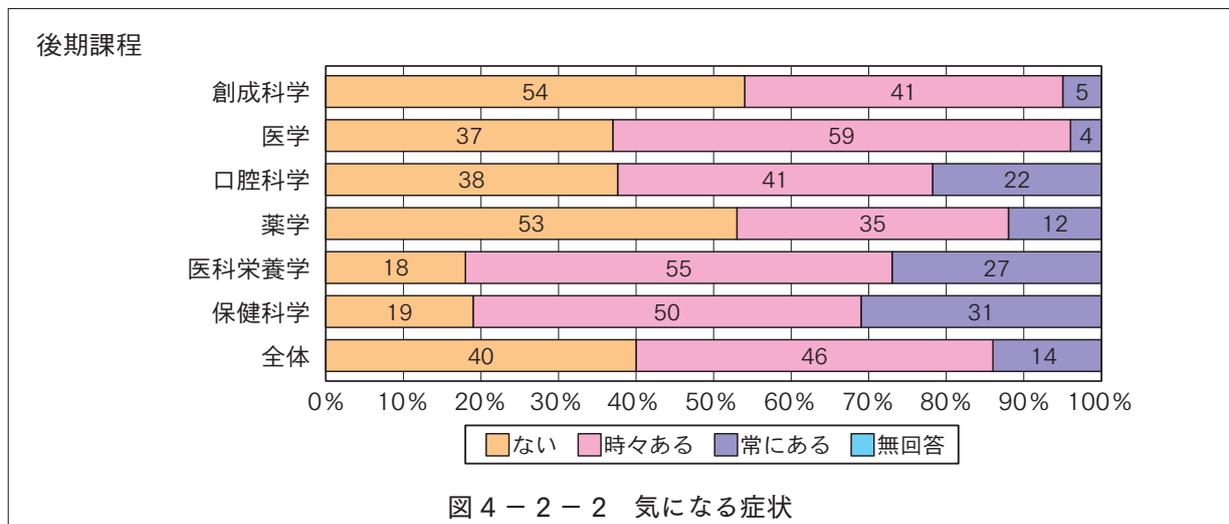
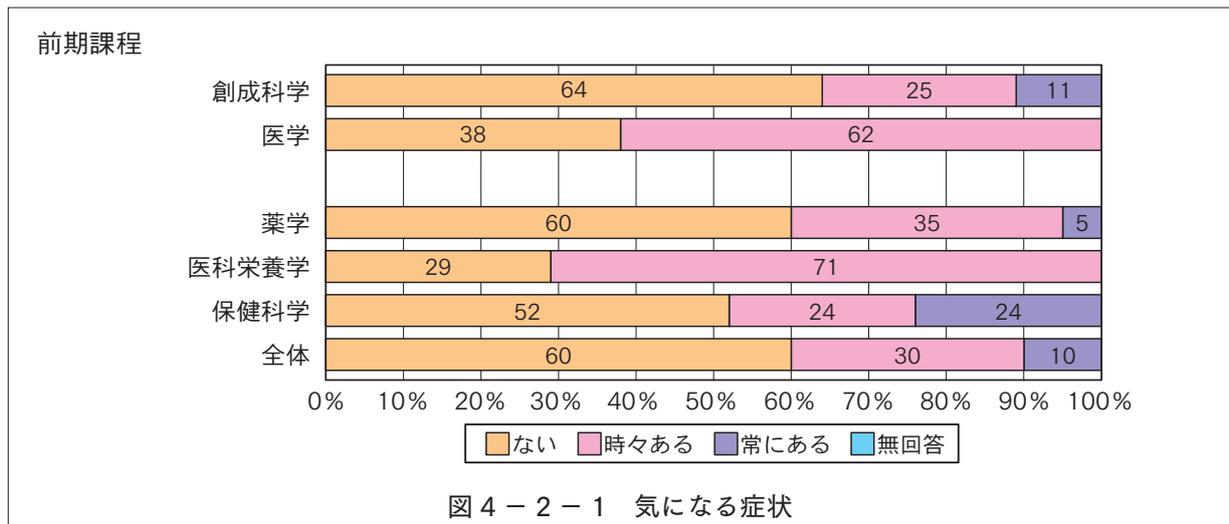


時間未満」17%となっており、今回調査と比較すると、本学の学生は睡眠時間が短い者の割合が多いことが伺えた。

平日の蓄積した睡眠負債を休日の朝寝で解消している場合は、睡眠リズムを乱し、夜間の入眠困難や日中の眠気につながる悪循環をもたらす場合もある。睡眠不足は心身の疲労を招き、活動性の低下や心身の変調、注意力低下による事故などにもつながることが実証されているため、健康・安全管理のために、適切な睡眠時間の確保の必要性を学生本人および指導者も認識しておく必要がある。また、4時間以上～5時間未満、または4時間未満の睡眠時間の学生で、不眠による睡眠不足が続いている場合は、睡眠衛生の見直しとともに、医療面での相談も検討したい。

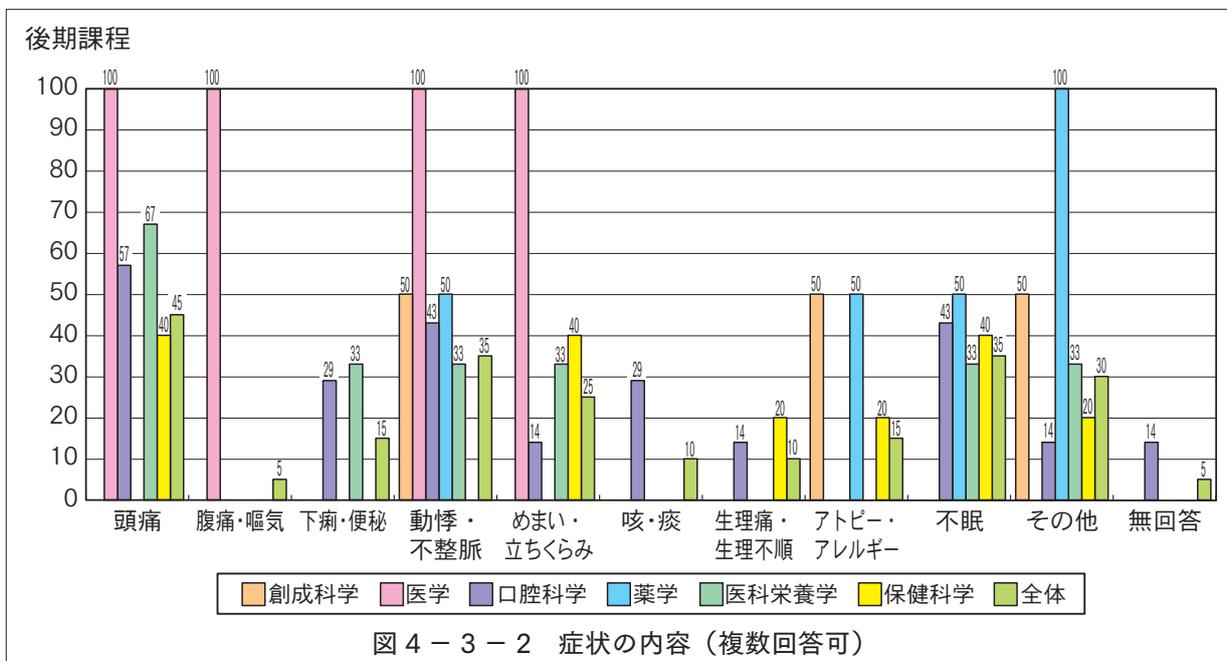
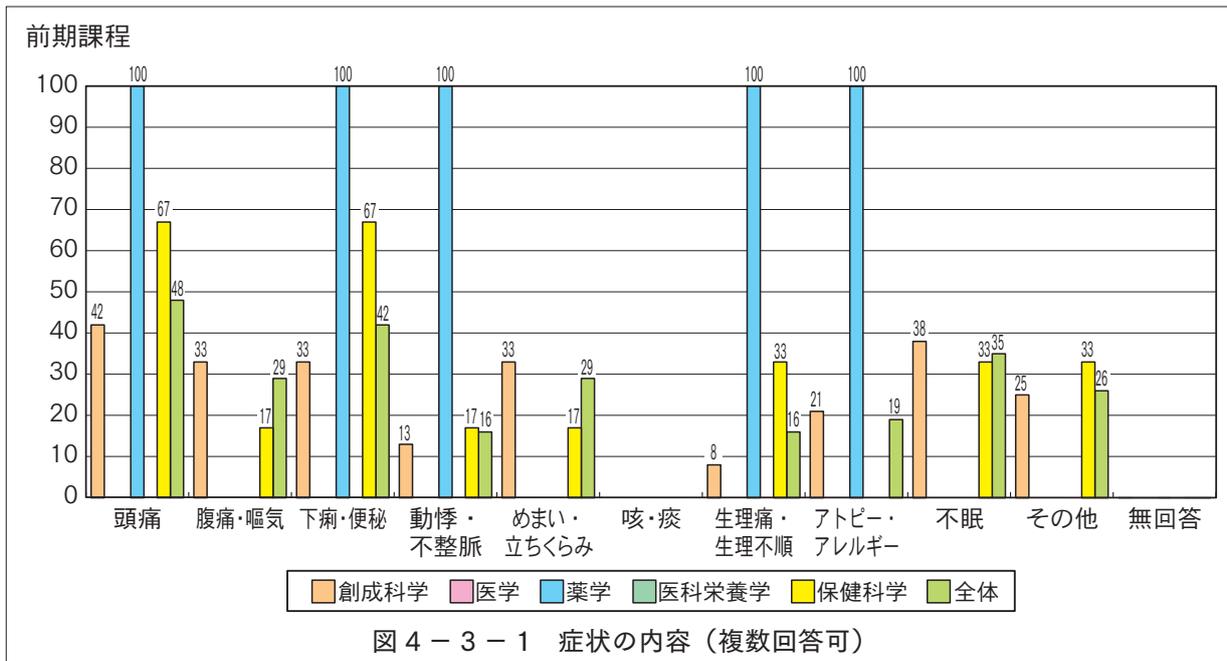
4-2 気になる症状 (図4-2-1、図4-2-2)

気になる症状が「ある」と答えた学生は、前期課程は近年の調査と同様で4割であったが、後期課程では増加し、半数を超えて6割となった。留学生においても、全体と同様の傾向だったが、気になる症状が「常にある」とした留学生はほとんどいなかった。気になる症状が「常にある」と答えた学生は前期課程で10%、後期課程で14%見られ、前回調査よりそれぞれ2～4%増加していた。これらの学生は、健康管理面での対策が必要であると考えられる。



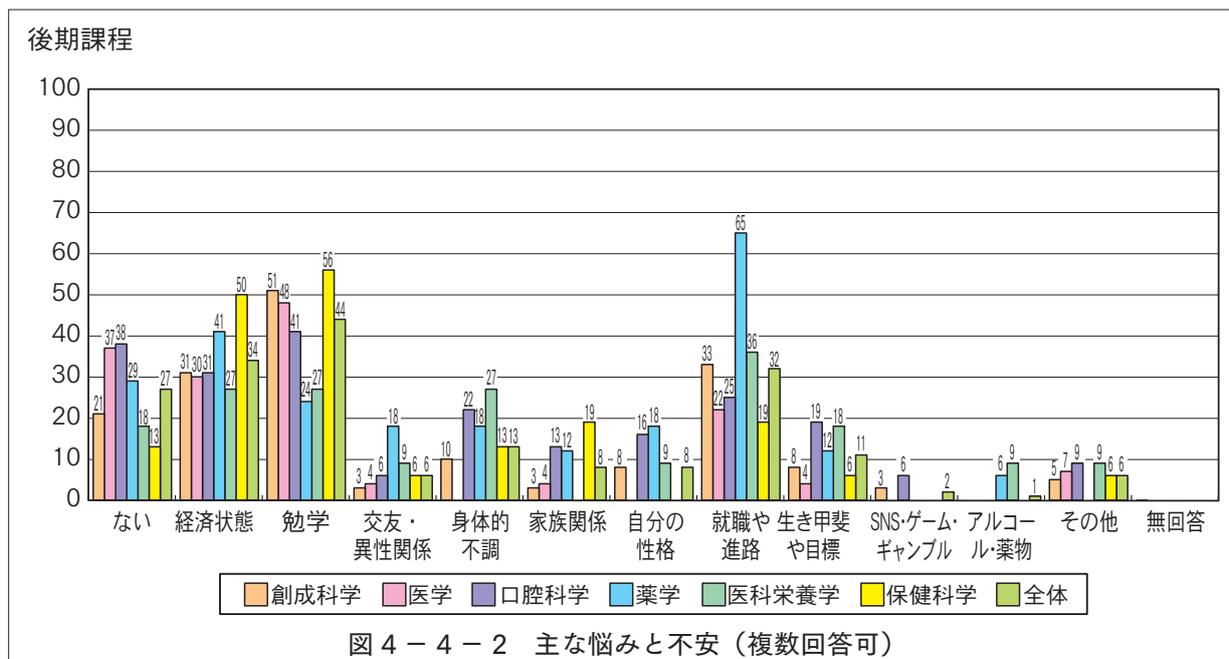
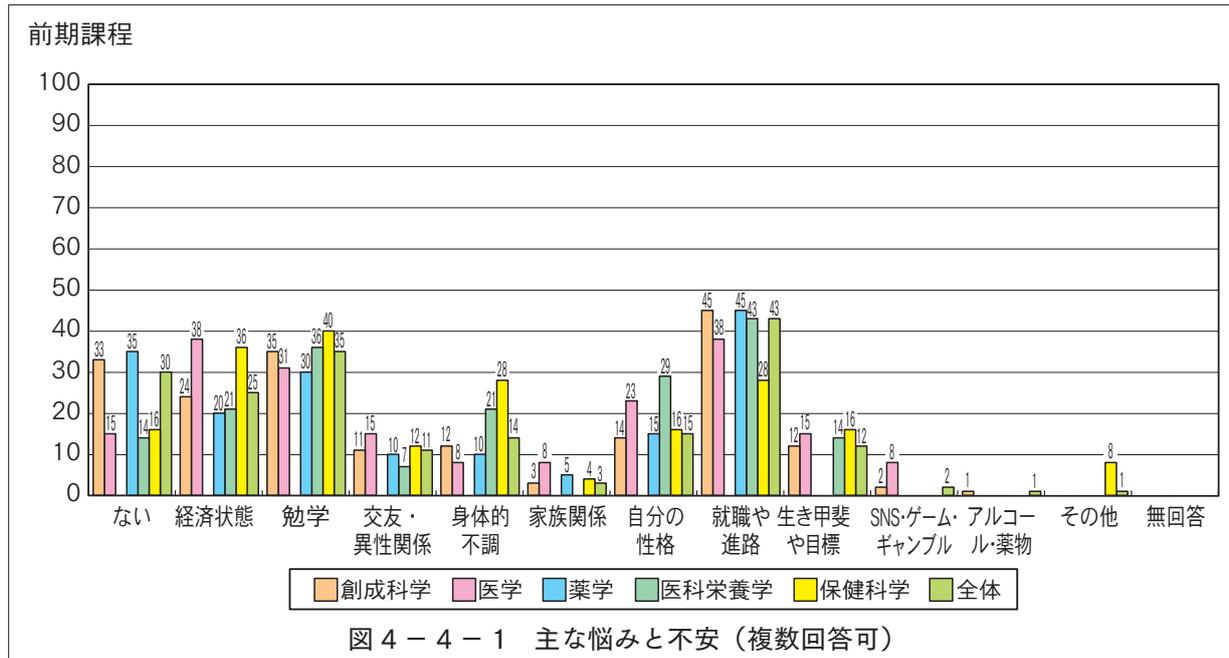
4-3 症状の内容 (図4-3-1、図4-3-2)

前期課程・後期課程ともに、気になる症状が常にあるとした学生は、平均2つを超える症状をもっており、症状の内容としては、前期課程では、頭痛、下痢・便秘、不眠、腹痛・嘔気の順に多く、後期課程では、頭痛が最も多く、動悸・不整脈、不眠、めまい・立ちくらみが続いた。症状の内容は前回調査と似た傾向であるが、生理痛・生理不順とアトピー・アレルギーは減少した。症状の改善のための対策や治療、生活習慣の見直しなど、適切な対策がとれていればよいが、そうでない場合は、保健管理部門を活用した心身の健康相談や医療機関で適切に加療を受けることなどが求められる。



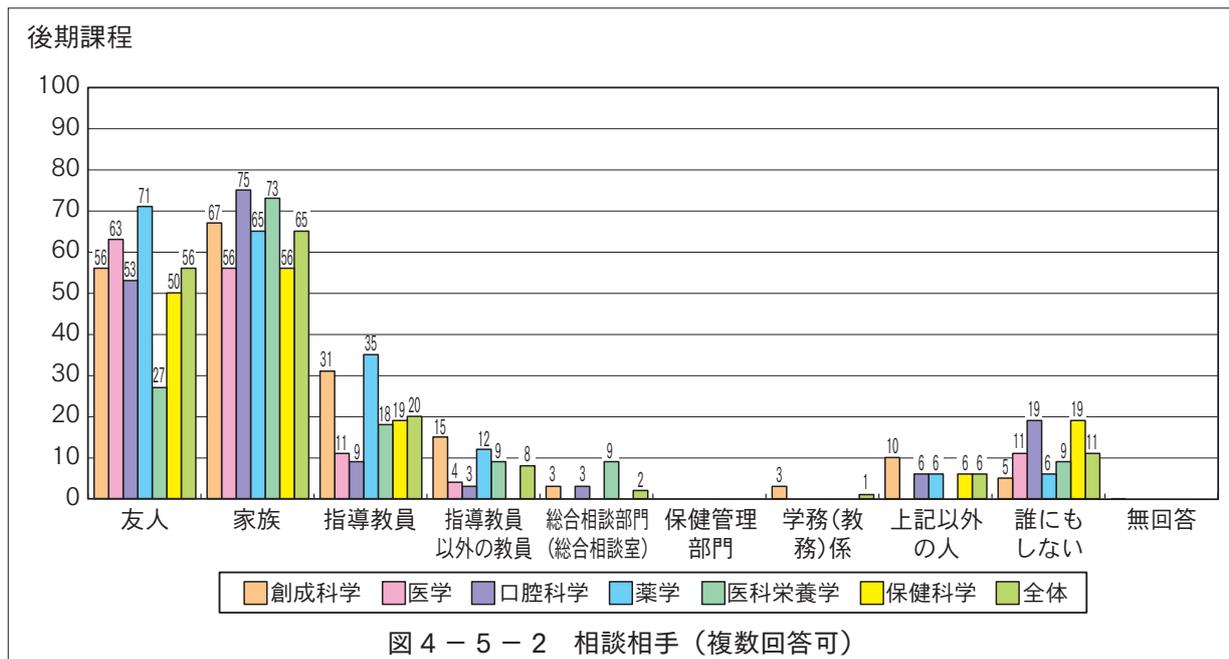
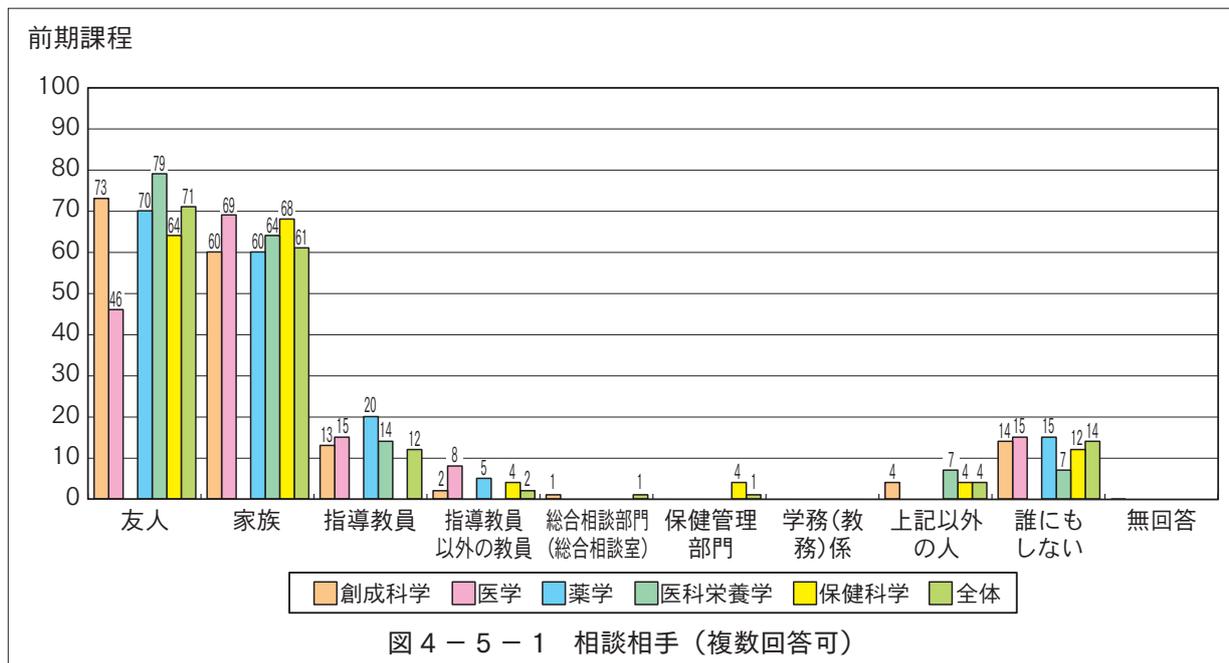
4-4 主な悩みと不安 (図4-4-1、図4-4-2)

悩みや不安がないとした学生の割合は、前期課程30%、後期課程27%で3割程度であるのは前回同様である。一方、悩みや不安がある者は、平均2.7個の悩みをもっていた。主な悩みや不安は、前期課程、後期課程とも「就職や進路」、「勉学」、「経済状態」が多い傾向はこれまでの調査と同様である。加えて、前期課程では、「自分の性格」、「身体的不調」の悩みや不安が14～15%、後期課程では「身体的不調」と「生きがいや目標」が11～13%見られた。留学生の悩みや不安も、前期・後期課程とも、「勉学」、「経済状態」、「就職や進路」が多くなっており、全体の傾向と同じだったが、前期課程では悩みや不安が「ない」とした者が13%と少ない傾向にあった。



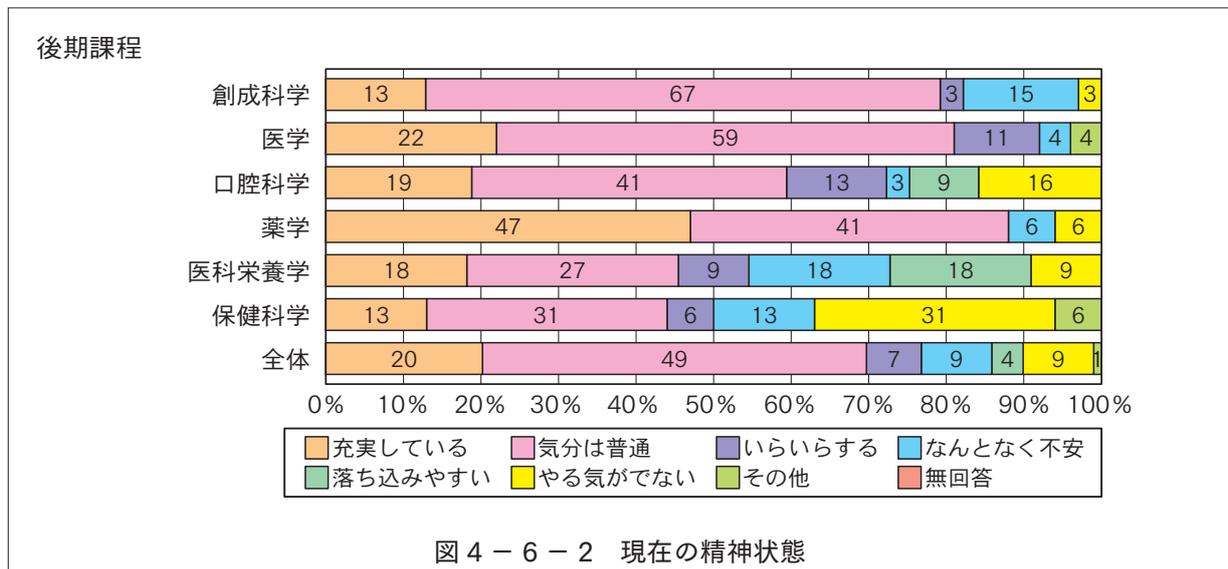
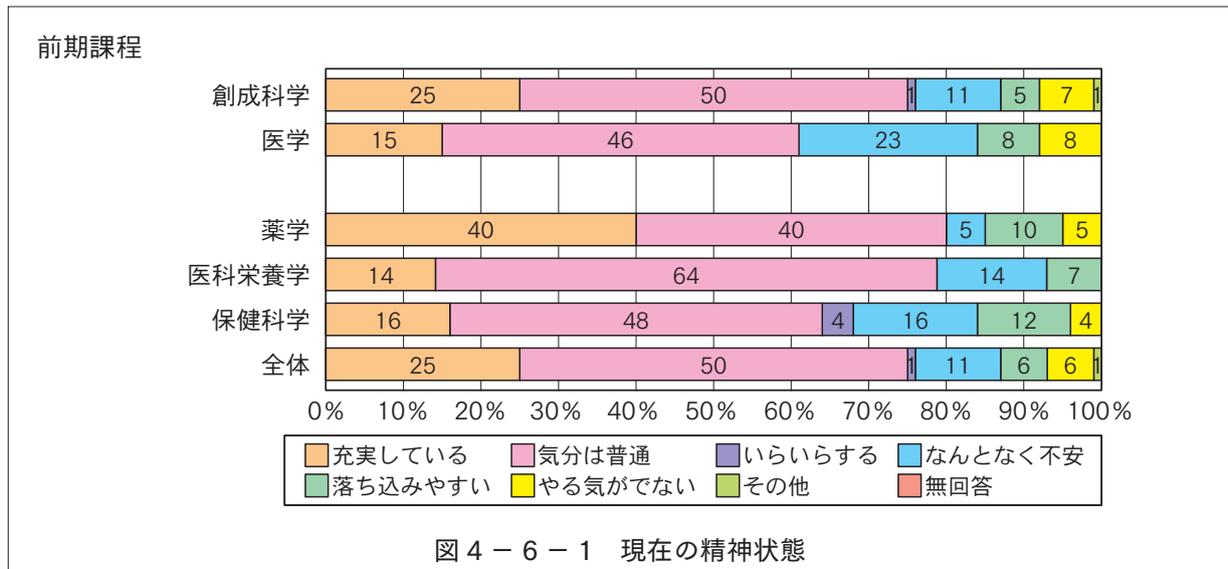
4-5 相談相手 (図4-5-1、図4-5-2)

悩み事は、友人や家族に相談する学生が前期・後期課程ともに多く、次いで指導教員となっており、前回調査と変わらず、この傾向は留学生でも同様であった。また、全体、留学生ともに、後期課程では、指導教員以外の教員への相談も含め、教員に相談する学生の割合が、より多くなっているのも前回同様である。多くの学生が悩みを最も身近な人と指導教員を含む教員に相談することで、悩みや問題への対処を行っていることが推測される。学内の専門相談機関である総合相談室や保健管理部門の利用は合わせて2%と変化はみられない。一方悩みを誰にも相談しないと回答した学生は1割強にみられた。悩みを誰にも相談しないことについては、自分で問題を解決可能、または自力で解決を図る傾向、相談するという行動自体に抵抗がある、信頼して相談できる人間関係を欠いている、など様々な理由が考えられるが、悩みを一人で長期間抱えこむことで、ストレス耐性が低くならないように心がけたい。



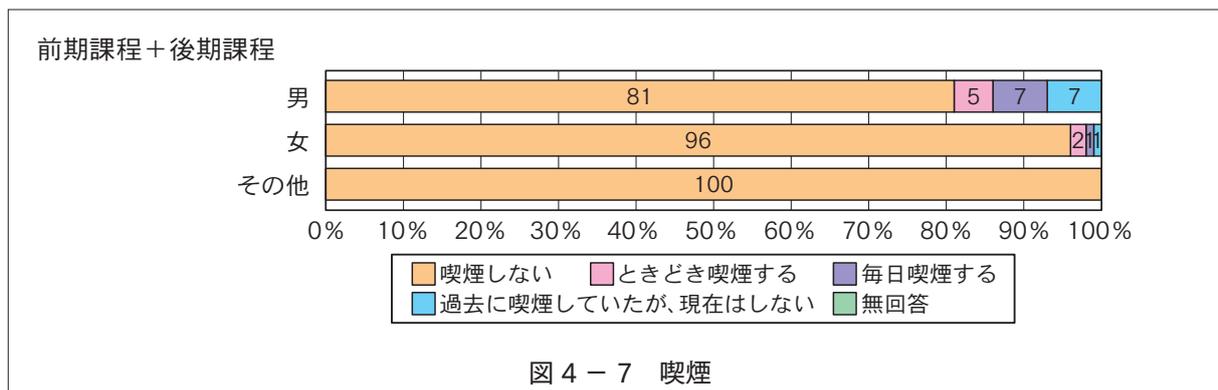
4-6 現在の精神状態 (図4-6-1、図4-6-2)

前期・後期課程ともに、7割前後の学生が「充実している」または「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられ、この傾向は前回・前々回調査と同様である。また、今回調査でも、留学生は8～9割が「充実している」または「気分は普通」を選んでいる。一方、全体では約3割の学生が何らかの精神的不調感を持っており、「なんとなく不安」を選んだ者が前期・後期課程ともに1割程度、後期課程では「いらいらする」を選んだ者が7%みられた。セルフケアや身近な人への相談等で解消しにくい場合は、学内外の専門機関の活用も検討したい。



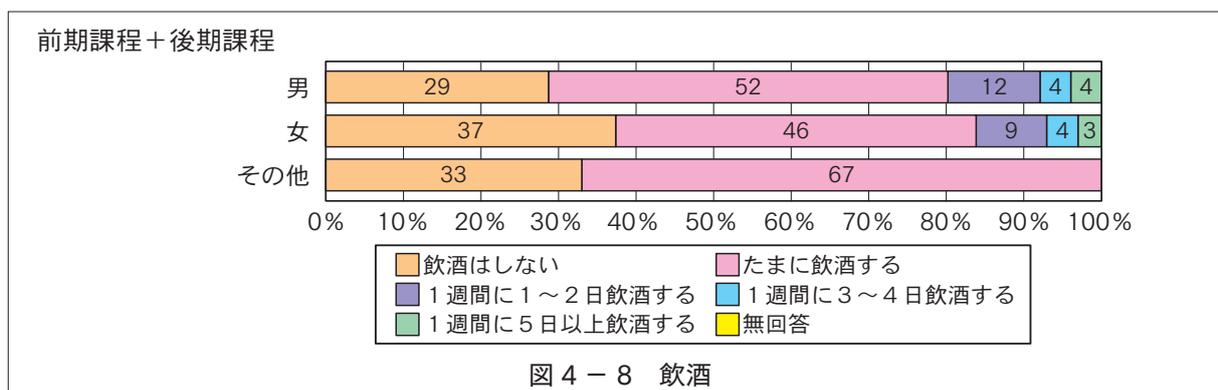
4-7 喫煙 (図4-7)

「喫煙しない」「過去に喫煙していたが、現在はしていない」を合わせた非喫煙者が男子88%、女子97%で、喫煙率は男子12%、女子3%で、前回調査と比べて男子の喫煙率は2%下がり、女子では逆に2%上がっていた。留学生の男子の喫煙率は18%で全体より高い喫煙率だった。長期間の喫煙習慣はさまざまな有害作用を健康に及ぼすため、さらに禁煙の啓蒙を続けていく必要がある。



4 - 8 飲酒 (図 4 - 8)

「飲酒はしない」と答えた学生は男子では 29%、女子では 37%で前回調査と比べてそれぞれ 4%増加した。「たまに飲酒する」と答えた学生は男子で 52%、女子で 46%と最も多かったが、前回調査と比べると、男子で 5%、女子で 9%減少していた。週に何回かの飲酒習慣があると回答した者は、男子で 20%、女子 16%で、男子では前回調査と変化なく、女子では 5%増加し、飲酒習慣のある者の男女差は小さくなる傾向にある。留学生ではほとんどが飲酒習慣はないとの回答であった。また、飲酒習慣のある学生のうち、週 3～4 日以上飲んでいる学生は男子で 8%、女子で 7%であり、前回調査（男子 11%、女子 6%）前々回調査（男子 12%、女子 4%）と比較すると、少しずつではあるが、男子では減少、女子では増加の傾向が続いている。飲酒習慣のある学生においては、生活習慣病のリスクを高める 1 回の飲酒量は男性で純アルコール 40 g 以上、女性で 20 g 以上とされており、また健康的な飲酒量は、1 回の平均が純アルコール 20 g（日本酒で 1 合）未満（女性では同じ量でも臓器障害を起こしやすいため、その 2 分の 1～3 分の 2）とされていることに留意する必要がある。また、飲酒を減らしたいが、減らせないなどの悩みがある場合は、保健管理部門や専門医療機関への相談も推奨される。

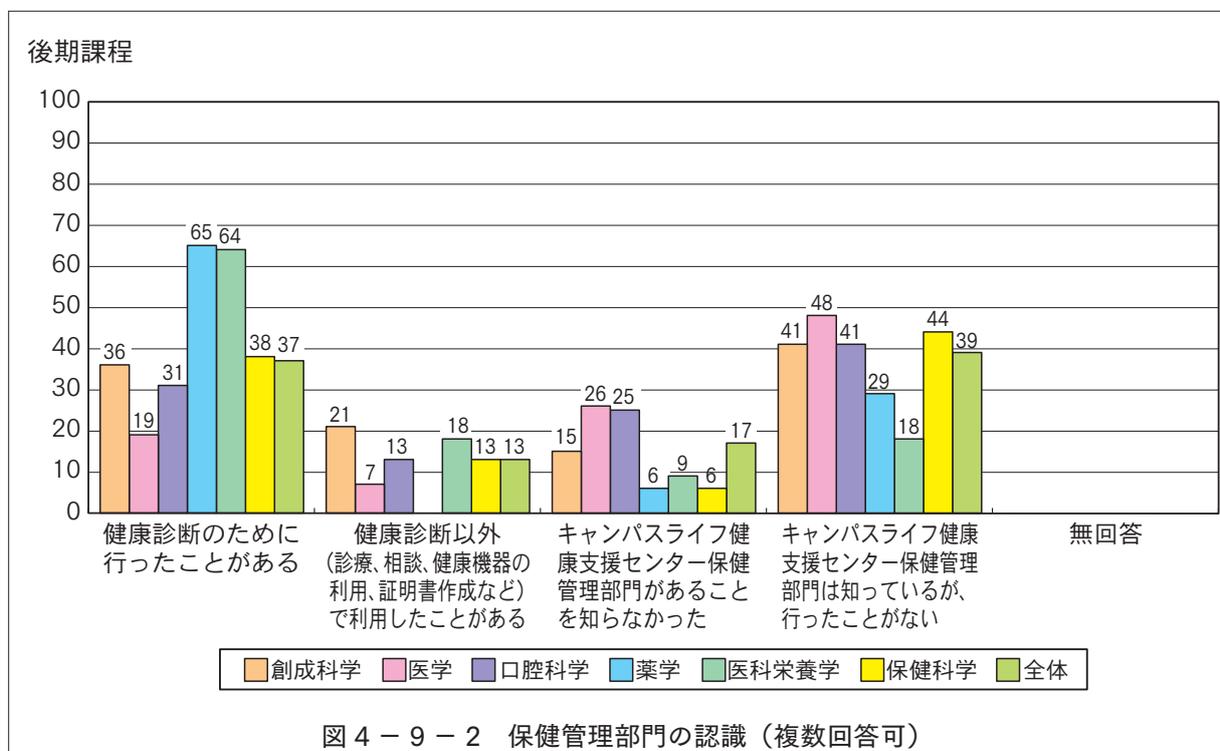
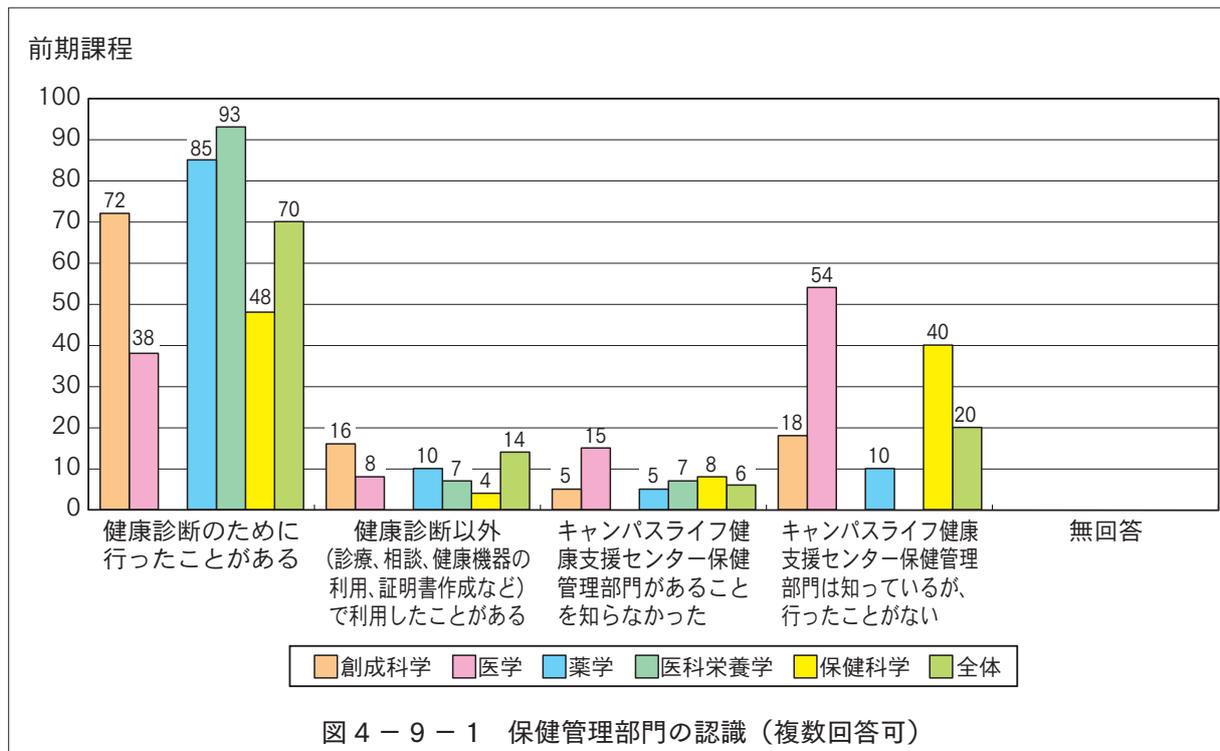


4 - 9 キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識

(図 4 - 9 - 1、図 4 - 9 - 2)

保健管理部門に「健康診断のために行ったことがある」学生は、前期課程で 70%と前回調査より 8%減少し、「保健管理部門は知っているが行ったことがない」が 20%で前回調査より 10%増加した。後期課程では、「健康診断のために行ったことがある」学生が 37%と前回調査同様に低く、「知っているが行ったことがない」が 39%と前回調査より 9%増加した。前期課程・後期課程とも、「知っているが行った

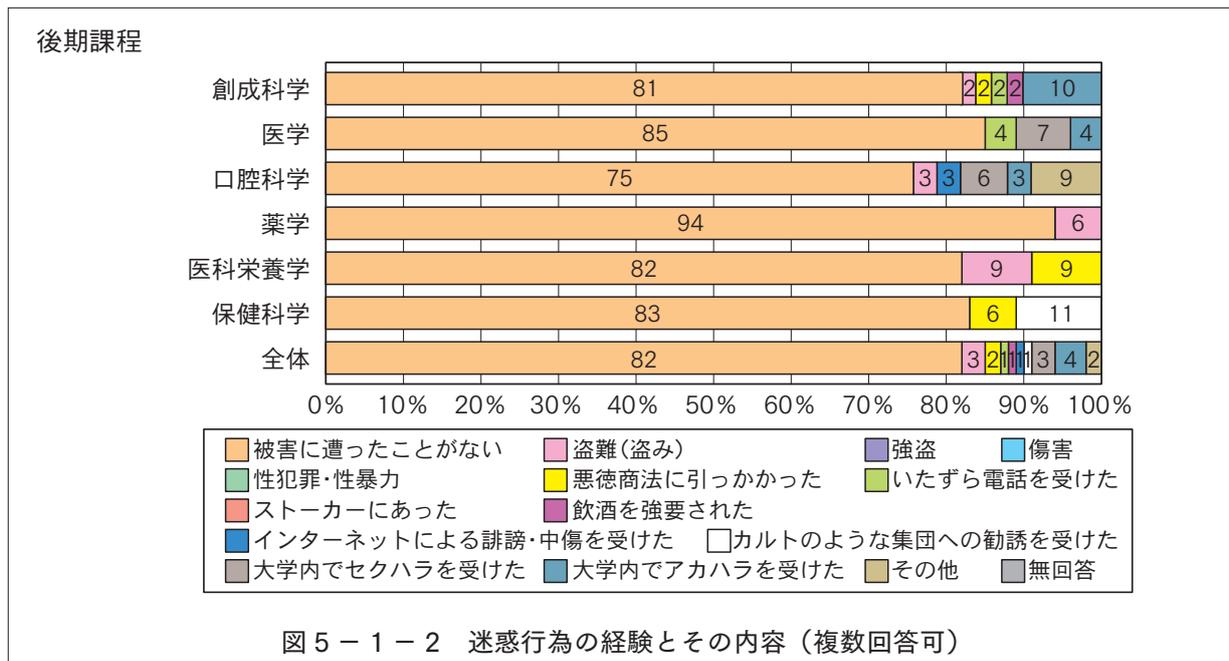
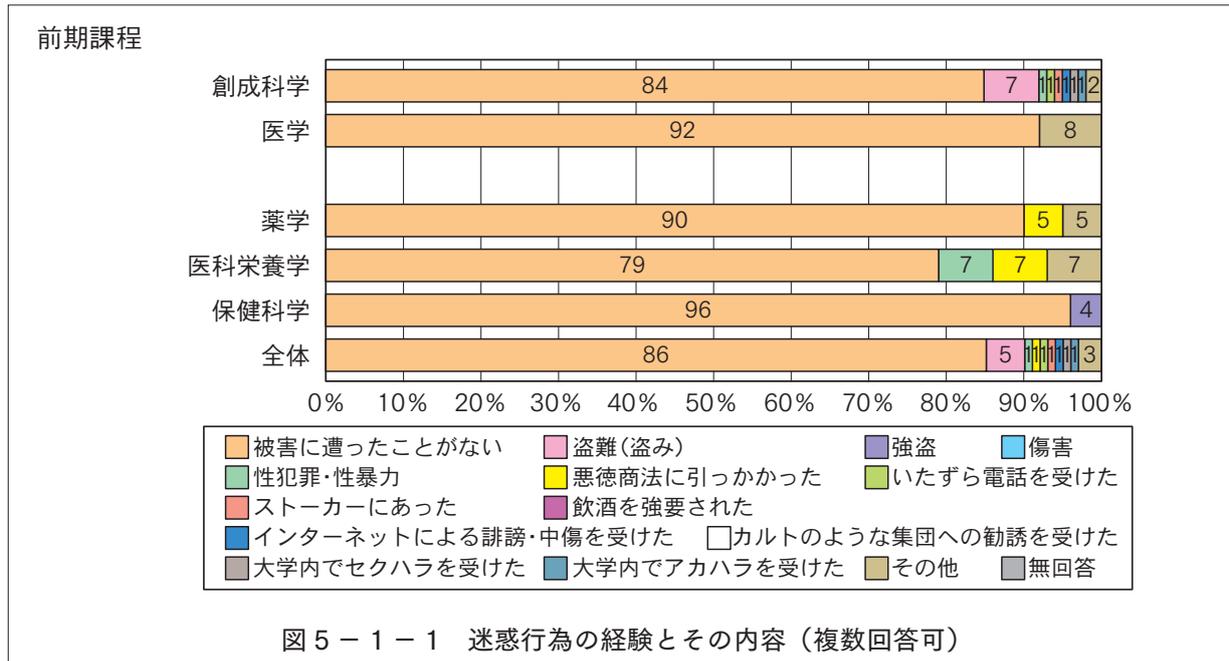
ことがない」を選んだ学生が、「健康診断に行った」に変わっていくと、健康診断受診率の向上につながると思われる。一方、保健管理部門を知らないという学生は前期・後期課程ともに前回調査より減少しており、健康診断以外にも、診療や心身の健康相談、健康教室、計測機器の利用、感染症対策のワクチン接種などの健康管理のための他のサービスが提供されていること等、周知は進んできたものと思われる。



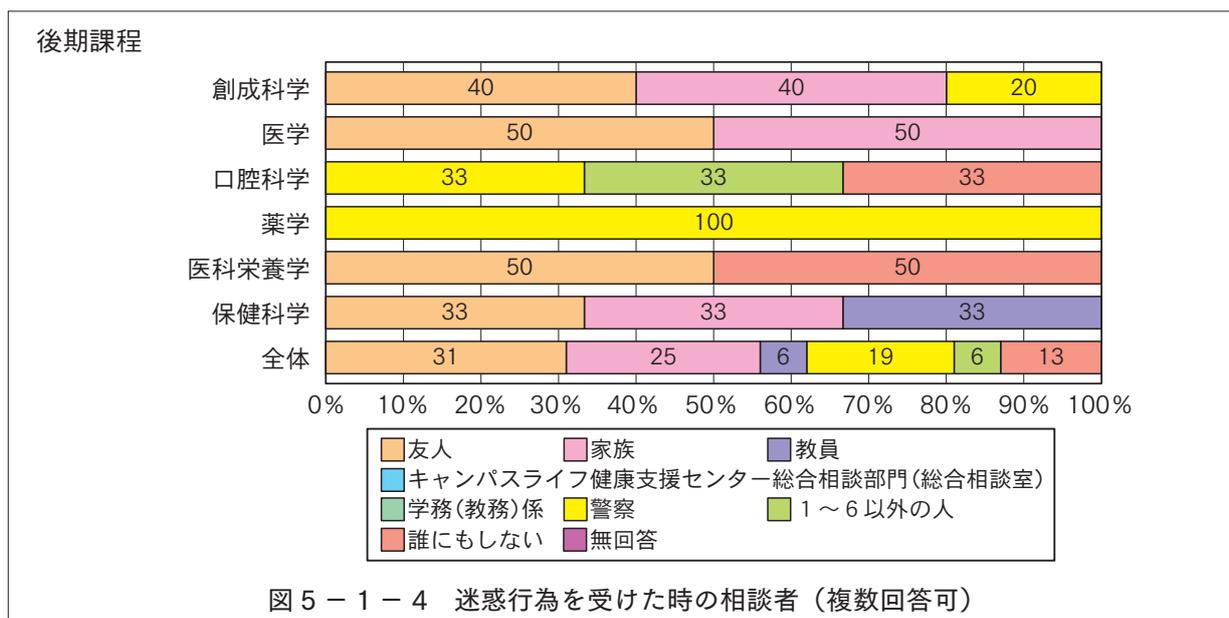
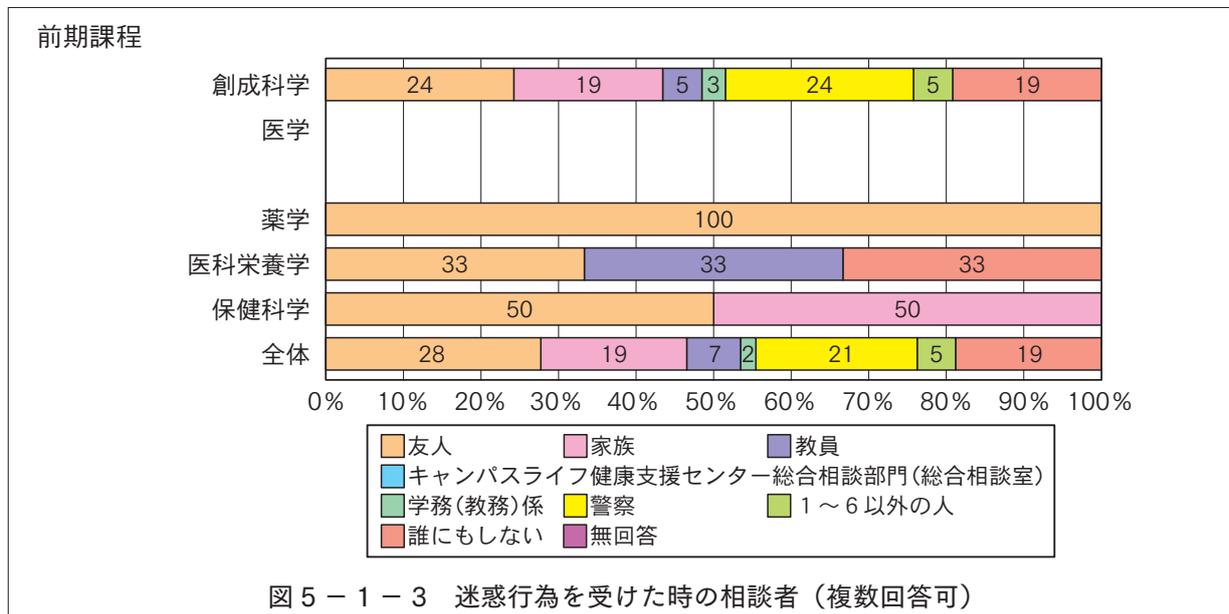
第5章 学生生活上の問題点について

5-1 迷惑行為 (図5-1-1～図5-1-8)

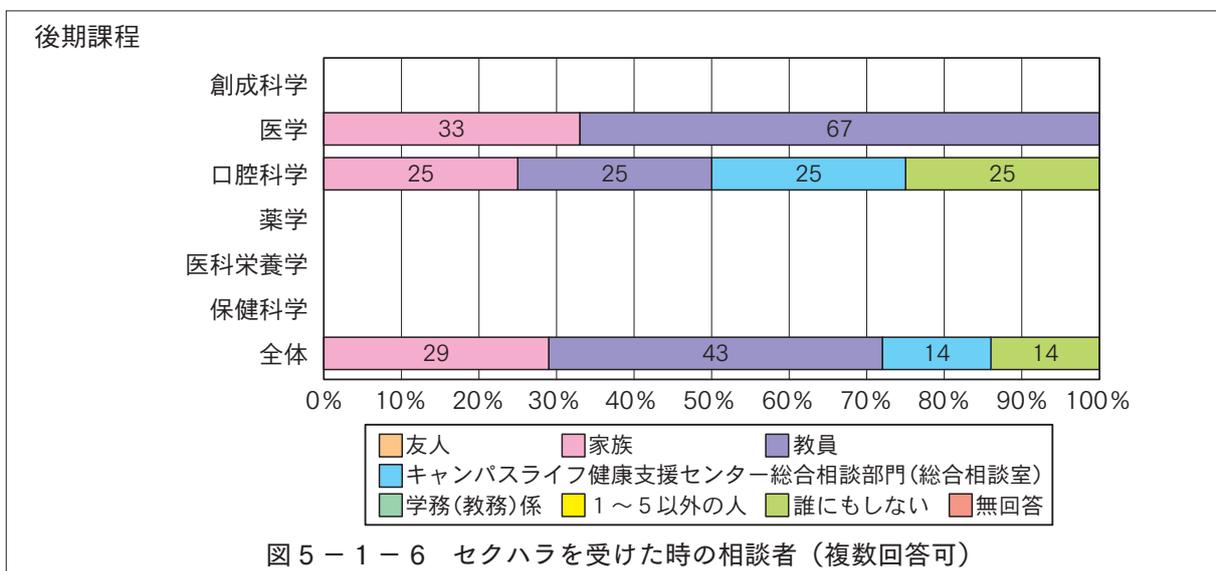
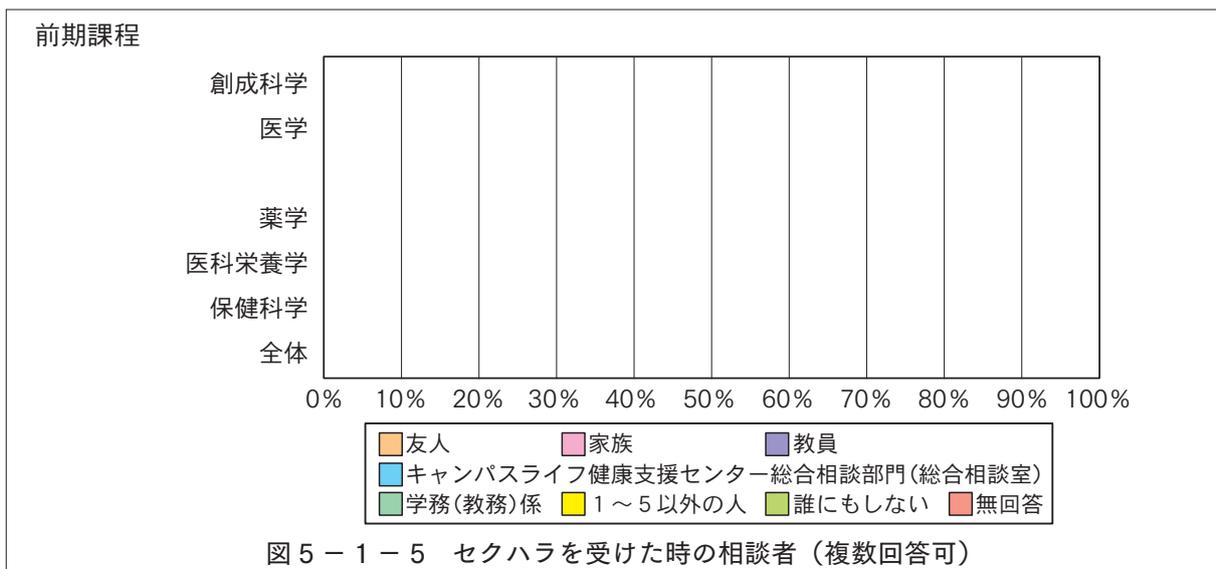
前期課程、後期課程ともに8割強の学生は被害経験を持たないが、前期課程全体では14%、後期課程全体では18%の学生が何らかの迷惑行為を受けていた。被害経験率は第9回調査時よりも前期課程では約50%減、後期課程では約60%減と大幅に減少、特に「大学内でのセクハラ」の減少率が大きかった。これは構成員におけるセクハラへの問題意識の高まりが背景にあると推察される。今後も迷惑行為が生じる要因を慎重に検討しつつ、丁寧な予防啓発活動を続ける必要がある。



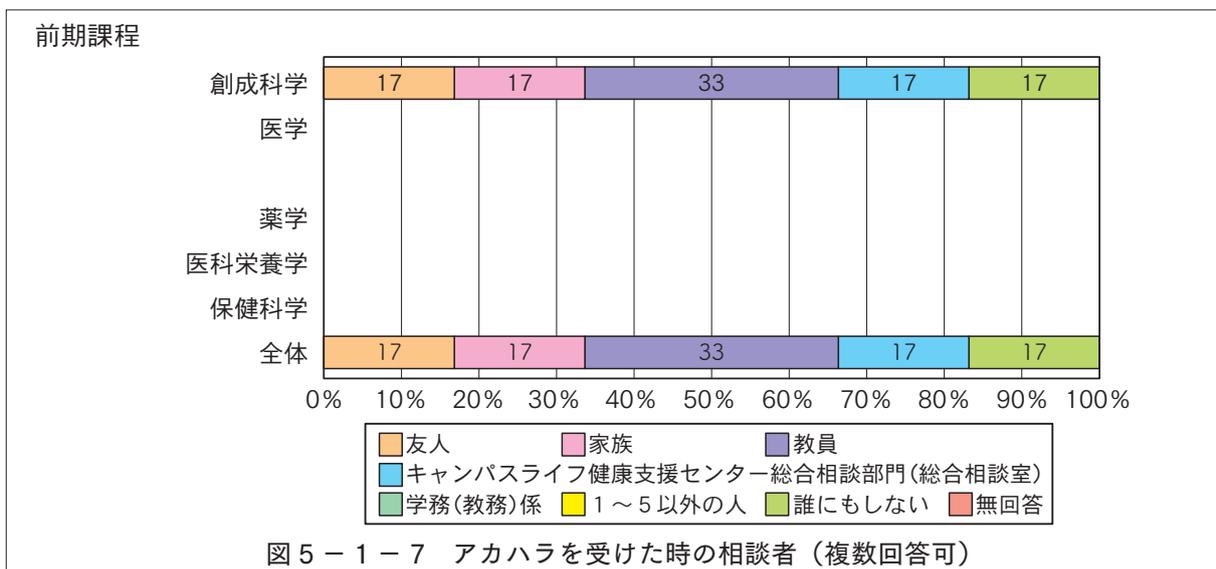
迷惑行為を受けた前期課程の学生は友人、警察、家族という順に相談することが多いことが示された。一方、後期課程の学生では友人、家族、警察という順に相談することが多く、前期課程の学生とは、警察と家族の順が入れ替わっている。これは前期課程の学生に比べると後期課程の学生は家族との信頼が深いことによると推察される。



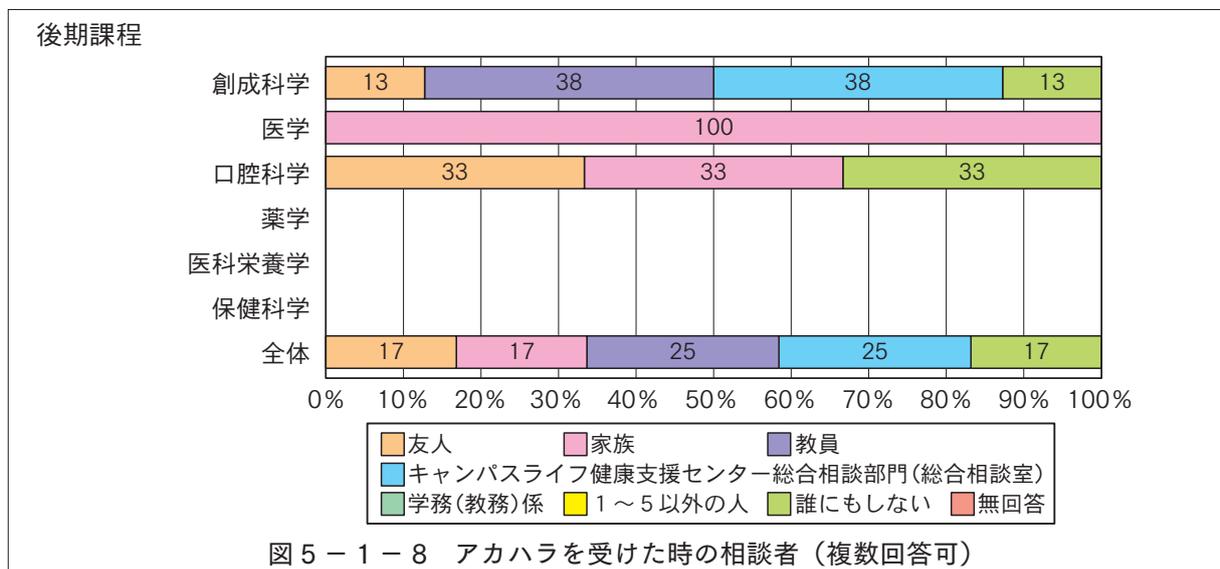
前期課程の学生ではセクハラを受けた時の相談相手に関する回答はなかった。一方、後期課程の学生では教員を相談相手として最も多く選んでいた。一般的に人は相談相手として最も信頼できる他者を選ぶ傾向がある。そうしたことから学生が相談相手として教員を最も多く選ぶということは、教員との信頼関係が深い証拠と捉えることができる。また、後期課程の学生において、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)を選んでいったものが14%存在した。キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)も信頼できる専門相談機関として後期課程の学生らに認識されている証拠と捉えることができる。



前期課程の学生ではアカハラの相談相手は教員が最も多く、友人、家族、キャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)が同率であった。後期課程の学生では、教員とキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門(総合相談室)が同率1位であり、友人と家族が次に続いた。アカハラ

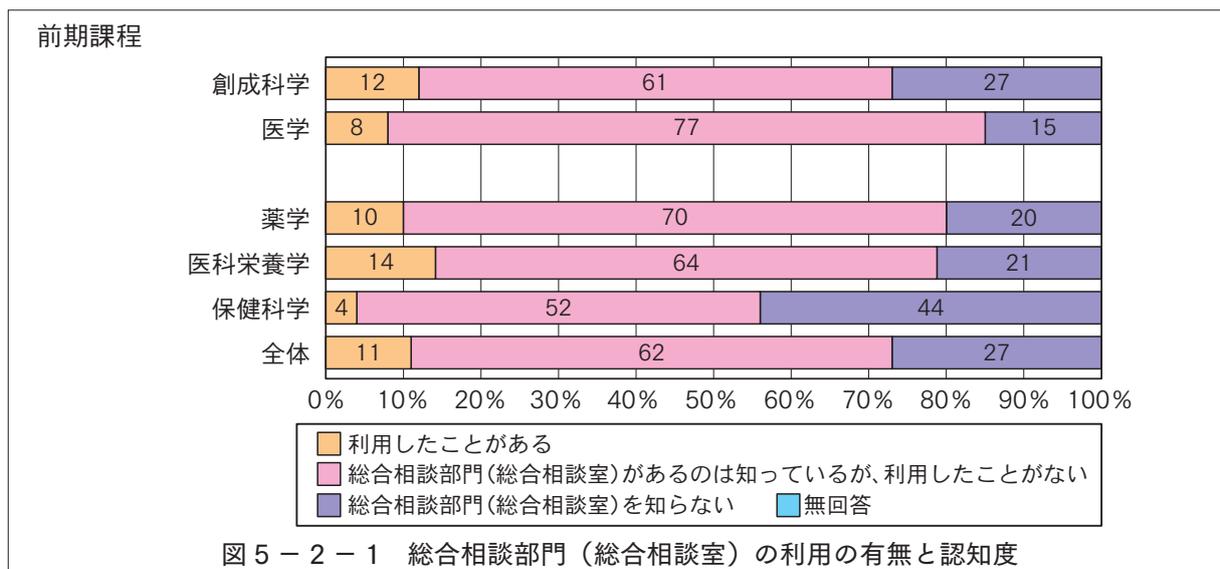


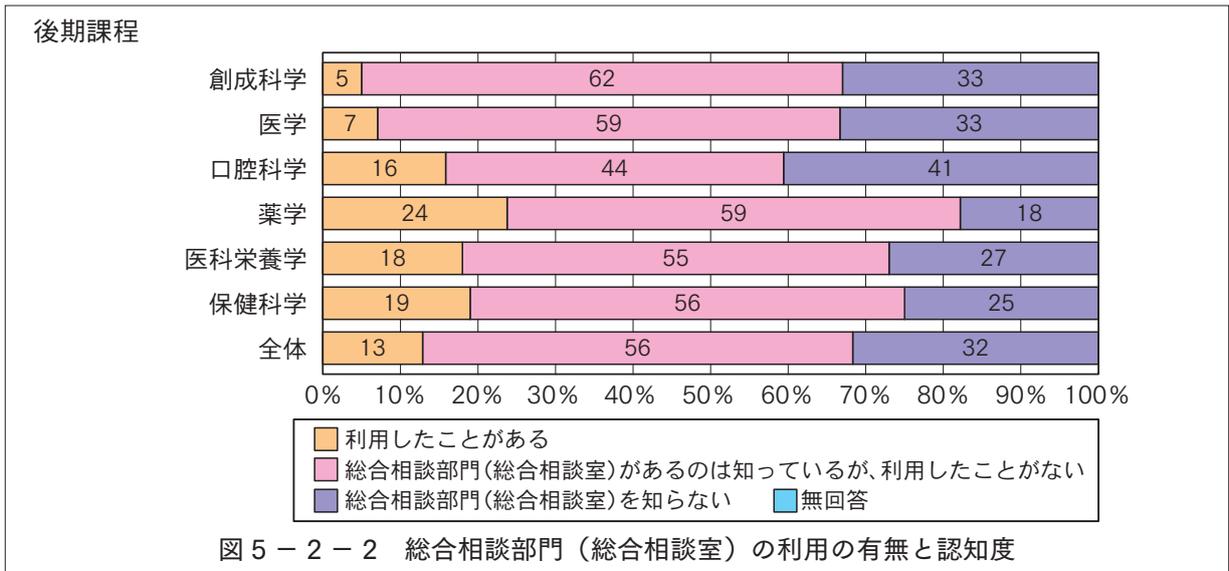
の場合は、大学環境をよく理解している構成員である、教員や学内専門相談機関に相談するほうが解決しやすいと認識していることが伺える。こうした期待に応えるべく、教員やキャンパスライフ健康支援センター総合相談部門（総合相談室）をはじめとする大学構成員すべてが、アカハラへの問題意識を高めて適切な予防と対処に努めることが求められる。



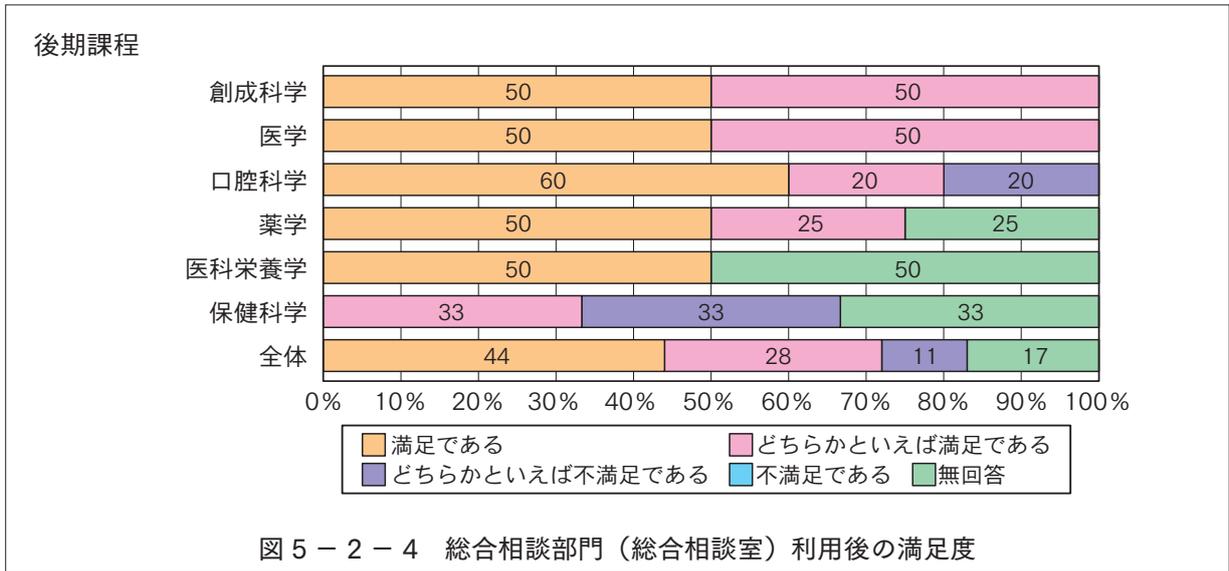
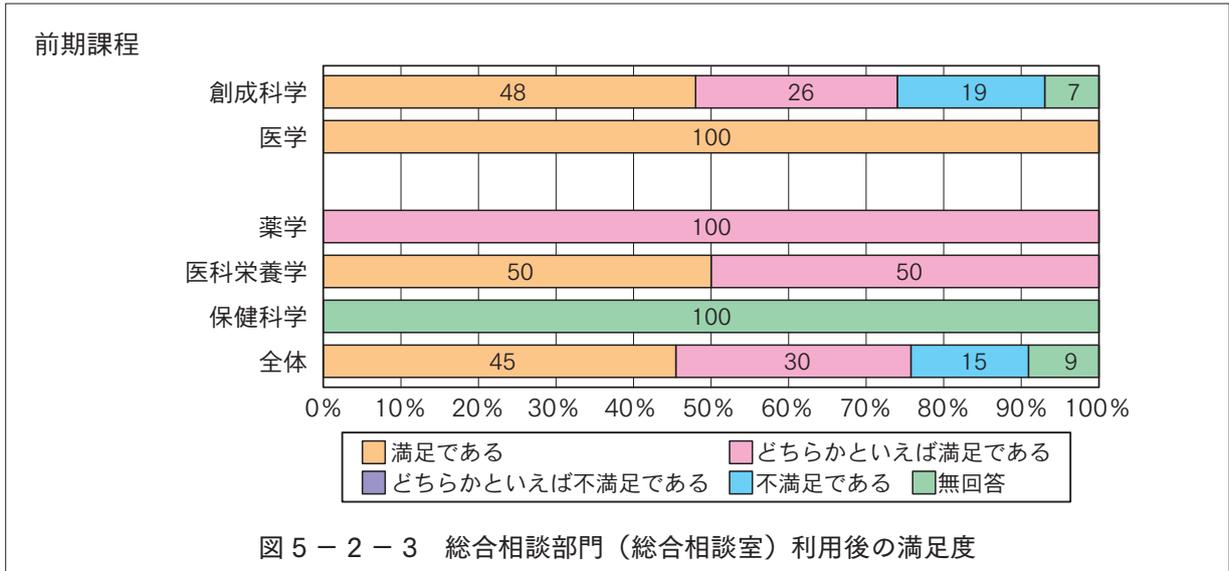
5 - 2 総合相談部門（総合相談室）の利用（図 5 - 2 - 1 ~ 図 5 - 2 - 4）

総合相談部門（総合相談室）を利用したことのある学生は前期課程で 11%、後期課程で 13%と前期課程では第 9 回調査時よりも微増した。総合相談部門（総合相談室）は何か困ったり悩みが生じたときに初めて利用する機関であるのでこの利用割合の微増は良い傾向であると考えられる。一方、総合相談部門（総合相談室）の存在を知らない学生が第 8 回調査時より微減したものの前期課程で 27%、後期課程で 32%となっていることから、総合相談部門（総合相談室）の周知活動を積極的に継続して行うことが求められる。





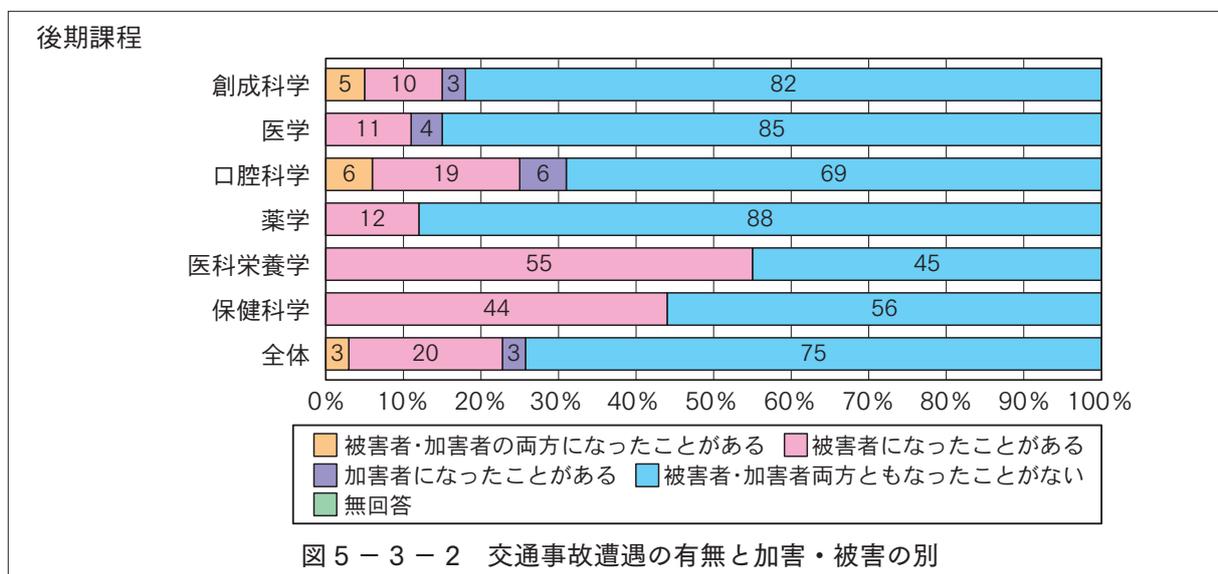
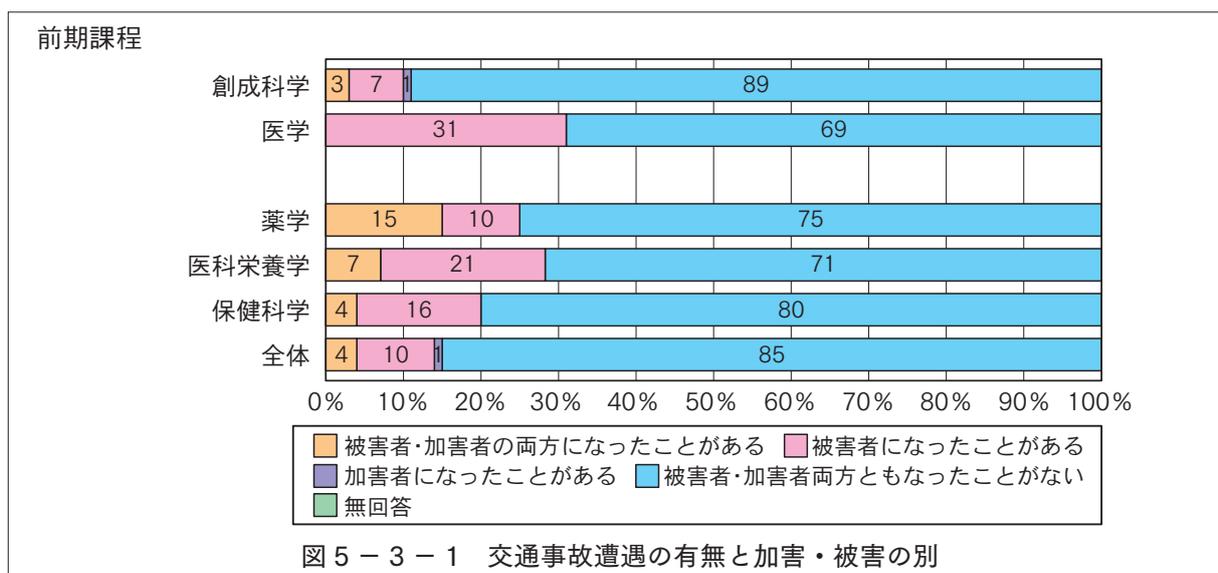
利用後の満足度に関しては前期課程において約 8 割、後期課程において約 7 割の学生が「満足である」または「どちらかといえば満足である」と回答しており、カウンセリング等による効果は十分にあると考えられる。ただ、不満足であると回答している学生が一定数存在する。自由記述においては、期待通



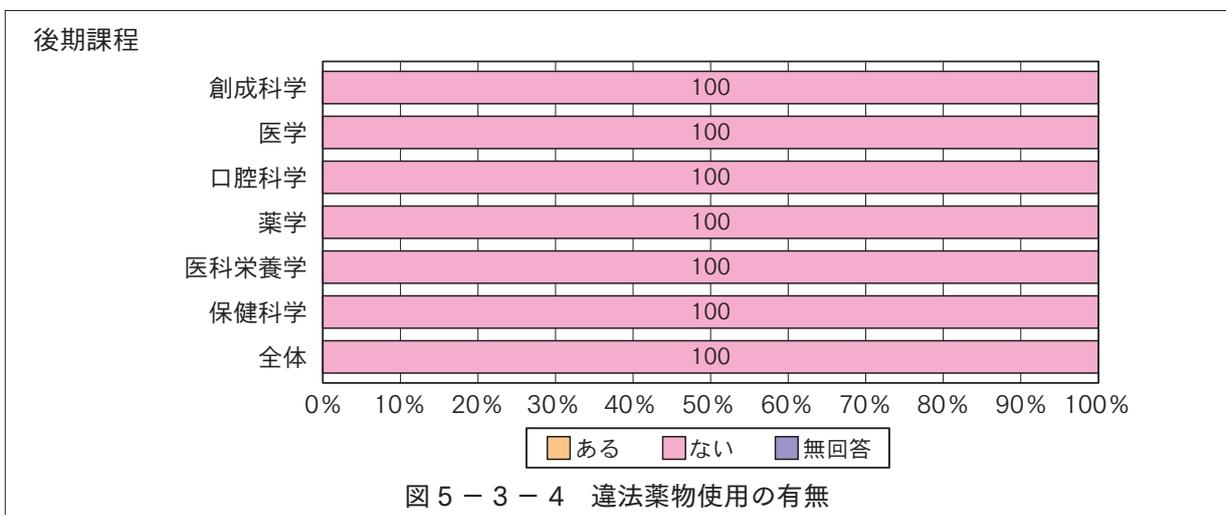
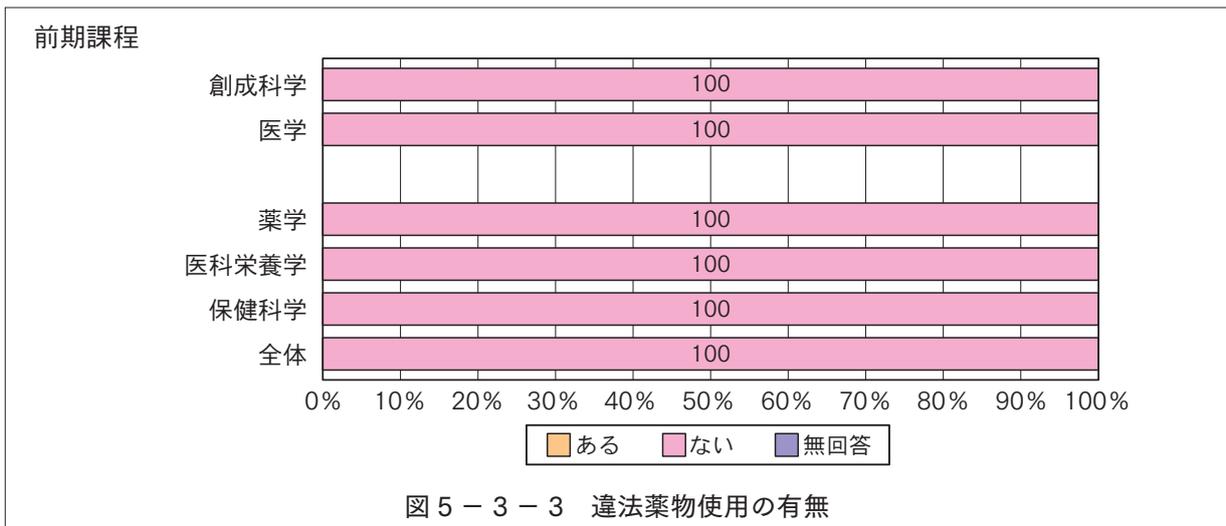
りの結果を得ることができなかつたことが理由として挙げられていたが、中には、総合相談部門（総合相談室）の機能に関する誤解によるものも見られた。総合相談部門（総合相談室）の機能を含めた周知の仕方と学生らのニーズを満たす支援のあり方をさらに検討することが求められる。

5-3 交通事故・違法薬物使用 (図5-3-1~図5-3-4)

交通事故に関しては前期課程で15%、後期課程で26%の学生が経験しており前期課程は第9回調査時より減少した。最近では、スマートフォンを見ながら自転車に乗るなど、周囲への注意がおろそかになっている学生がさらに増加し、重大事故につながる恐れがある。学生の心身の安全や命を守るために、今一度、自転車やバイク等の運転マナーの再確認を学生に促すことが求められる。

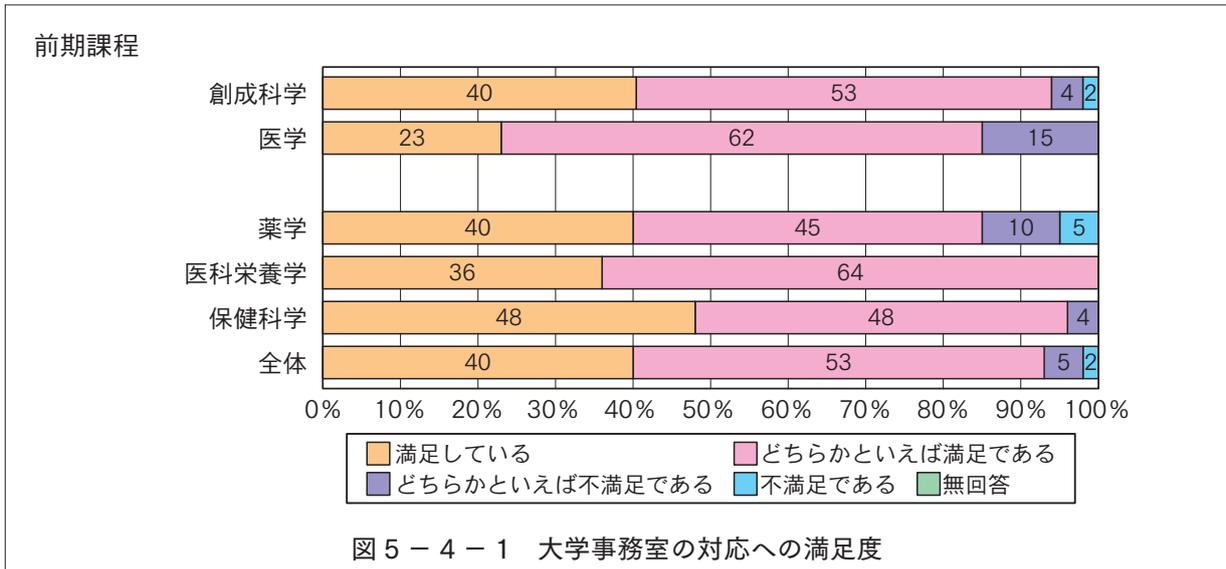


第9回調査時には少数見られた違法薬物の使用は、前期課程、後期課程両方において存在しなかつた。最近では直接購入するという入手方法だけでなく闇サイトなどからネット経由で手軽に購入できるようになっている。入手経路を完全に断つことができないため、薬物の危険性を繰り返し周知させていく活動が必要である。

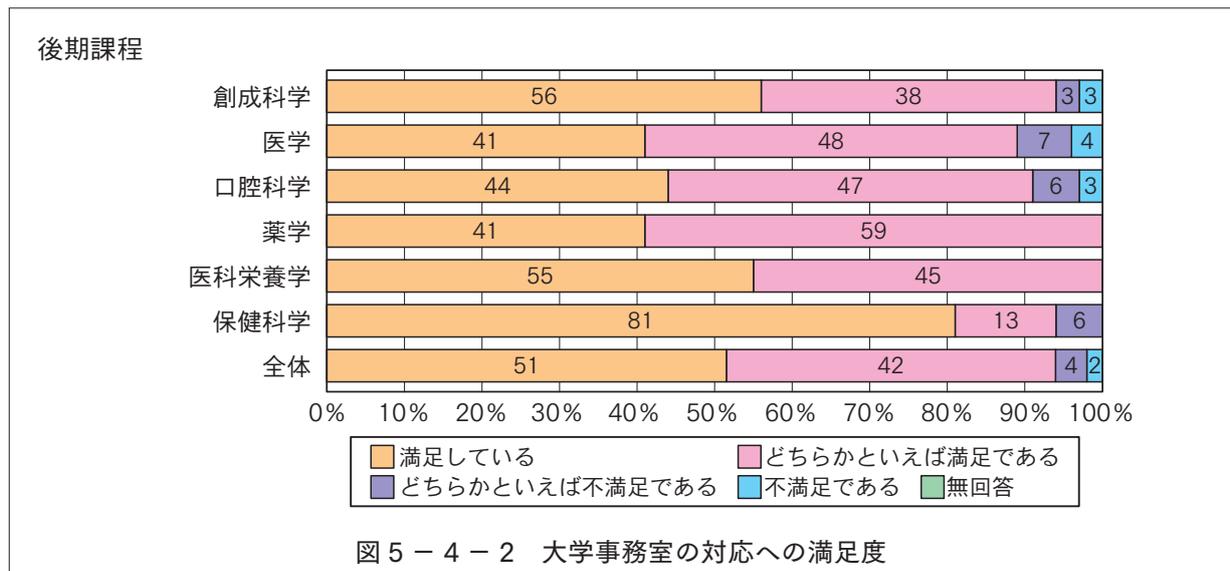


5 - 4 大学事務室の対応 (図 5 - 4 - 1、図 5 - 4 - 2)

前期課程、後期課程ともに約 9 割の学生が大学事務室の対応について「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答しており、第 9 回調査時と同程度となった。大学事務室が個々の学



生に日々丁寧に対応している成果であると推察される。ただし、他の学部比べて相対的に満足度の低かった学部においては学生への対応改善に努めることが求められる。

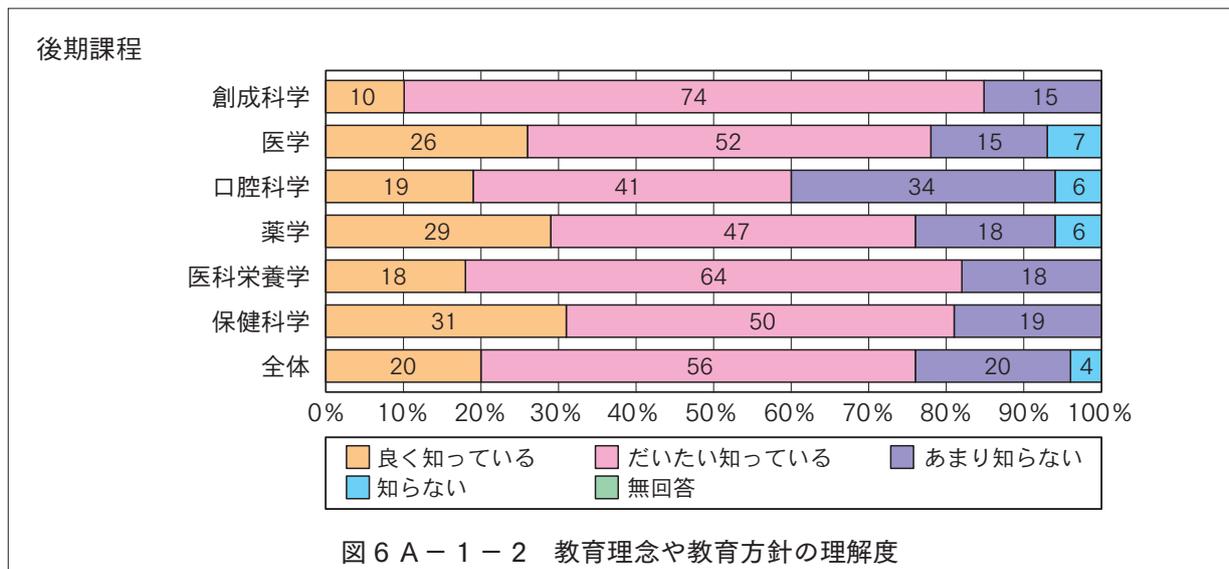
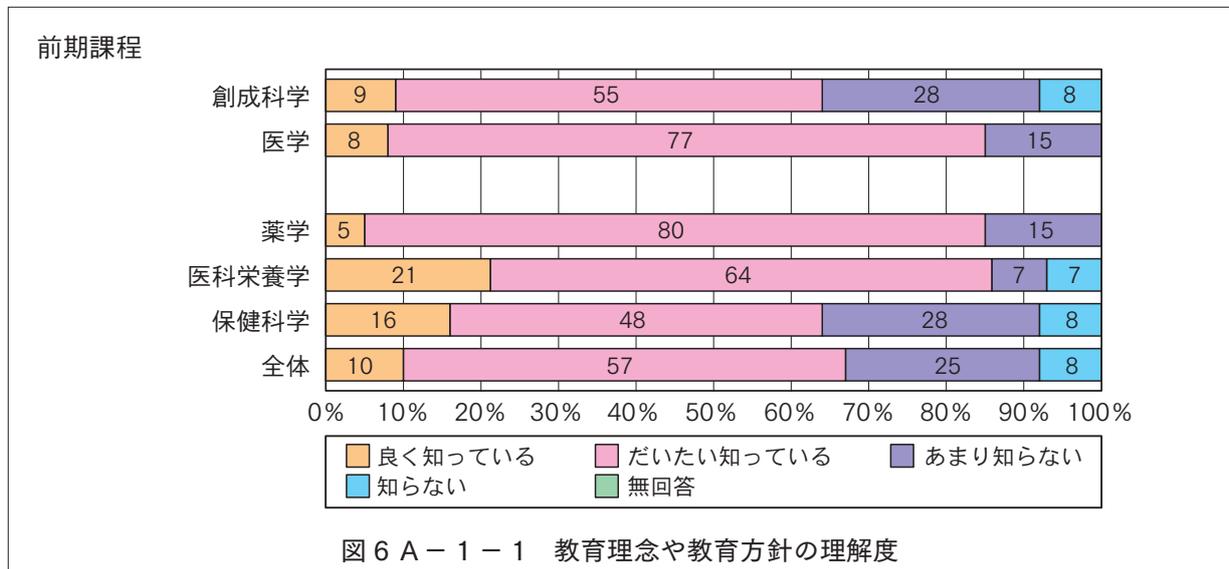


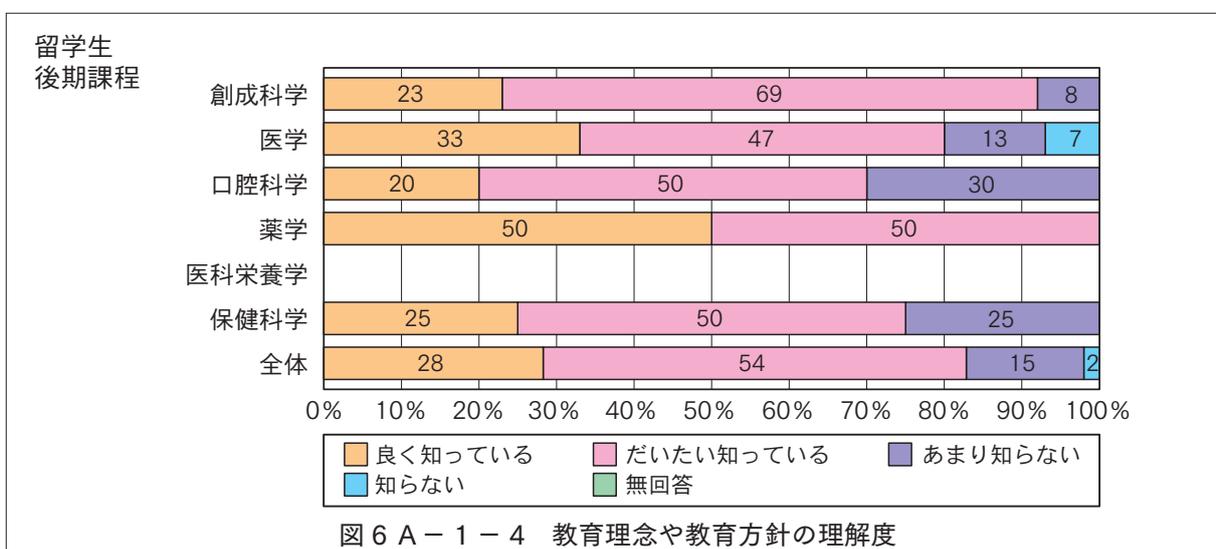
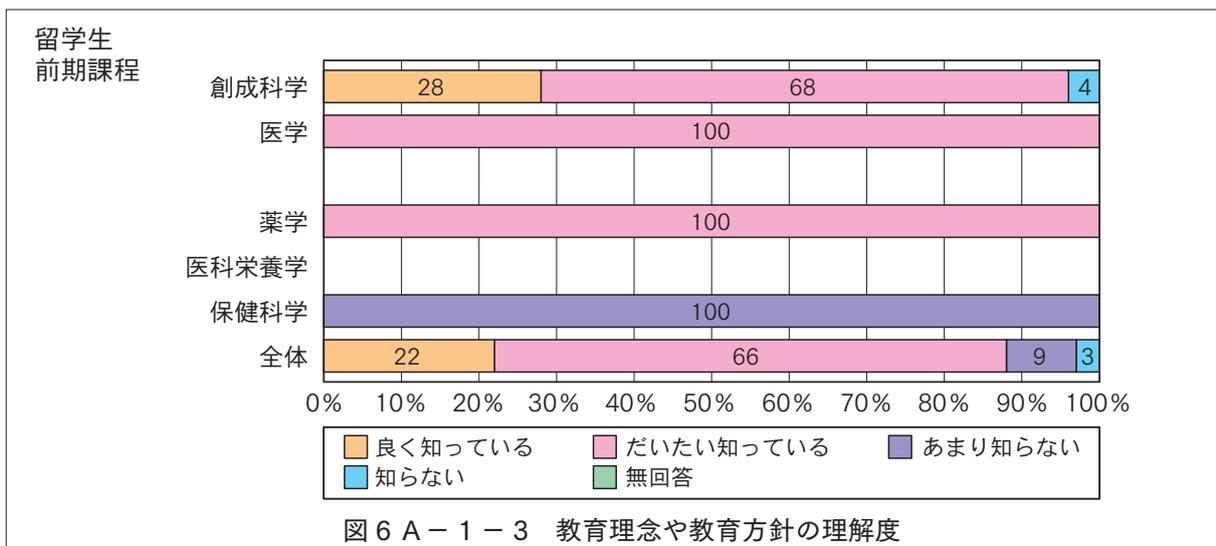
第6章 修学状況について

6A-1 教育理念・方針と教育に対する満足度

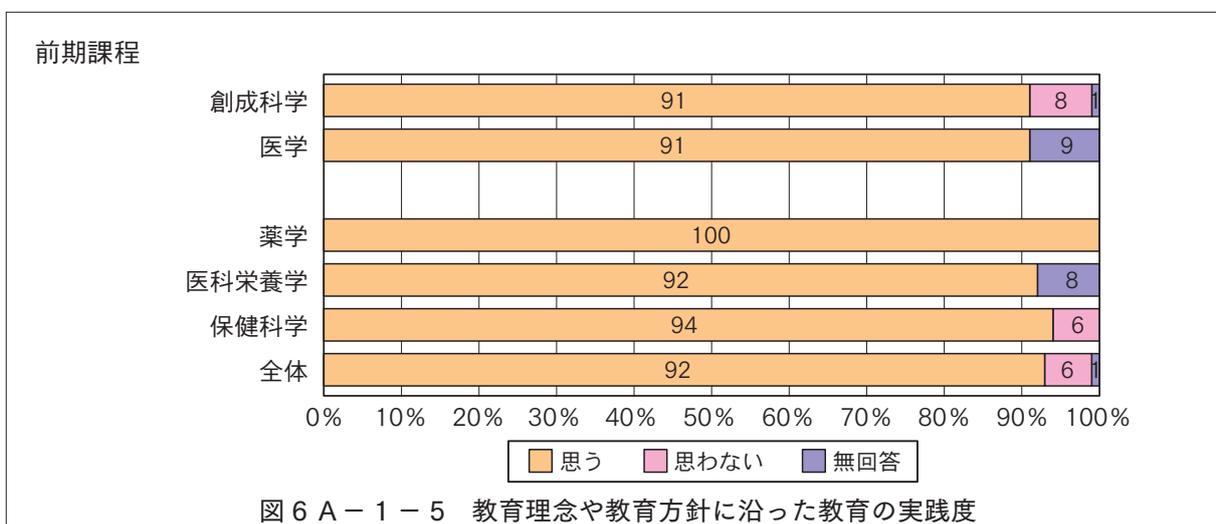
(図6A-1-1～図6A-1-10)

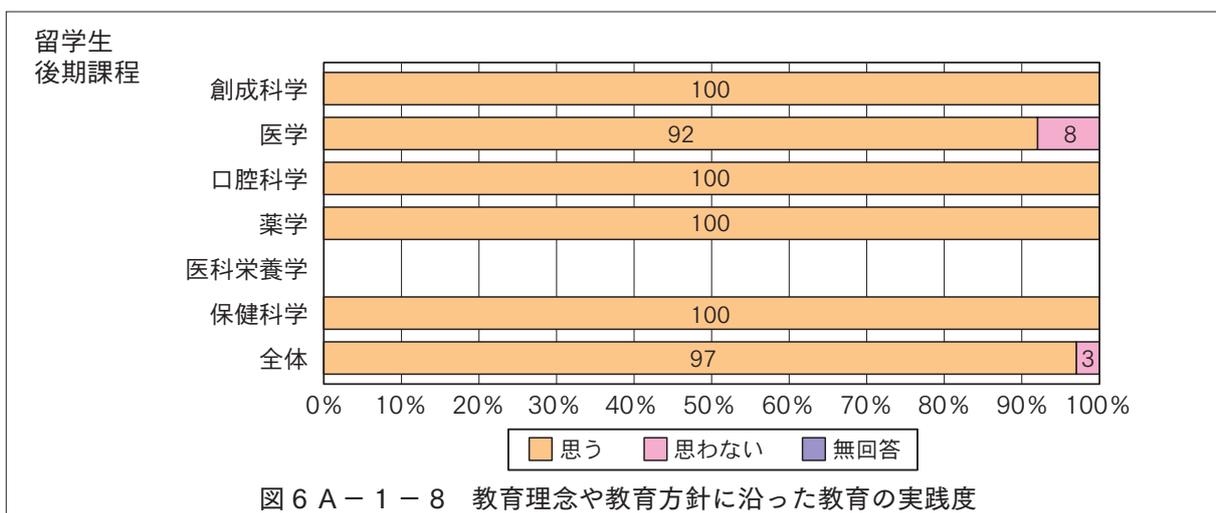
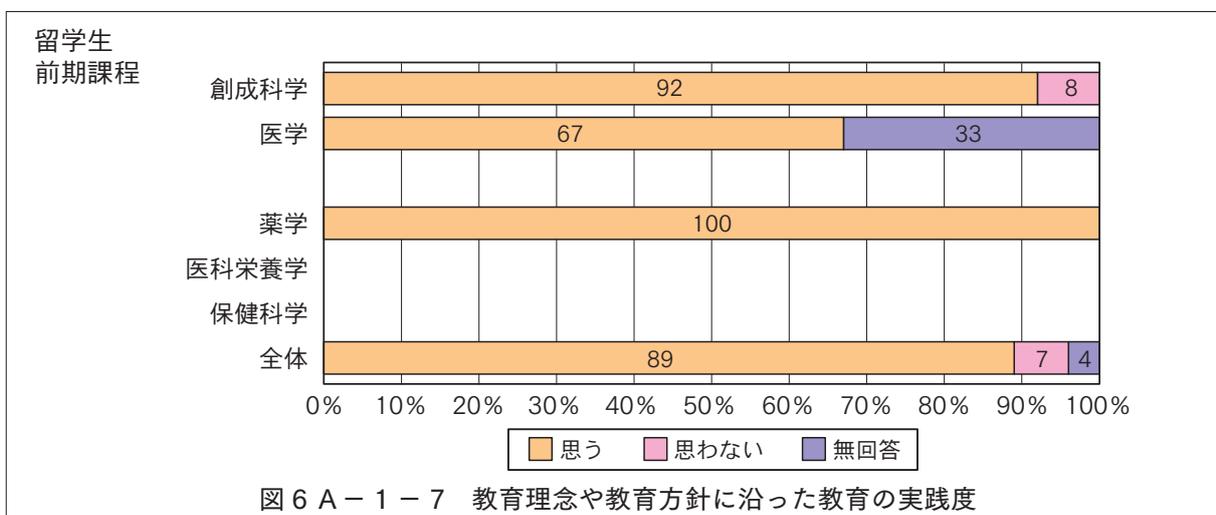
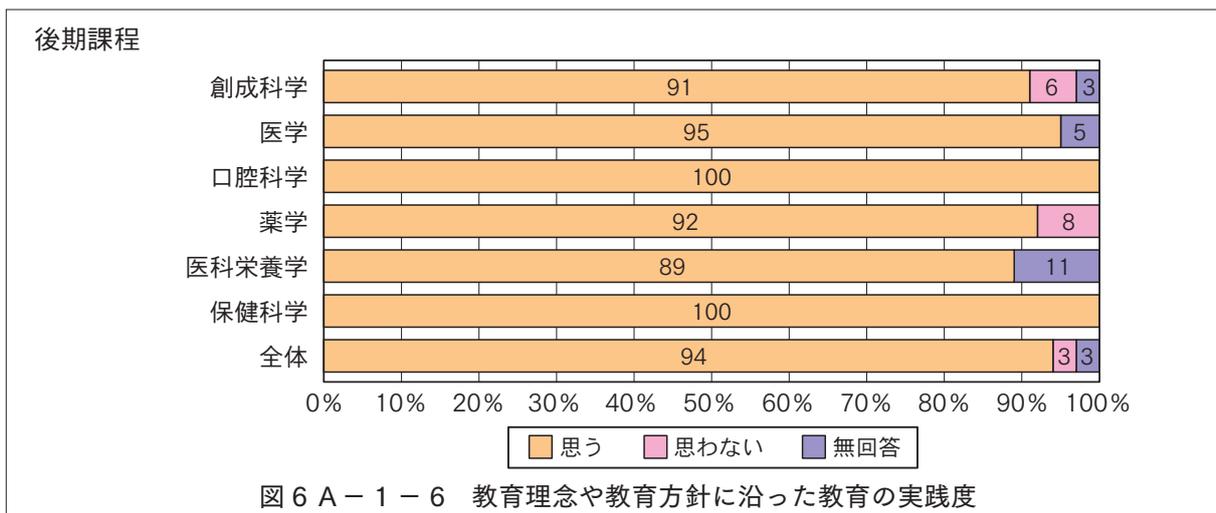
前期課程において、所属する研究科・教育部の教育理念や教育方針を知っている割合は67%（良く知っている：10%、だいたい知っている：57%）であり、いずれも前回の第9回調査（72%（良く知っている：14%、だいたい知っている：58%））からわずかに減少していた（図6A-1-1）。また、いずれの研究科においても60%以上と、6割以上の学生が概ね教育理念や方針を知っていると判断できる。一方、後期課程では、全体として76%の学生が認知しており、第9回調査から横ばいだった（図6-1-2）。留学生については、「良く知っている」または「だいたい知っている」と回答した割合が、前期課程で88%、後期課程で82%であり、前回調査の96%および80%に比べて微減している。さらなる周知が必要と考えられる。留学生への周知も順調に進んでいると判断できる数値であった。



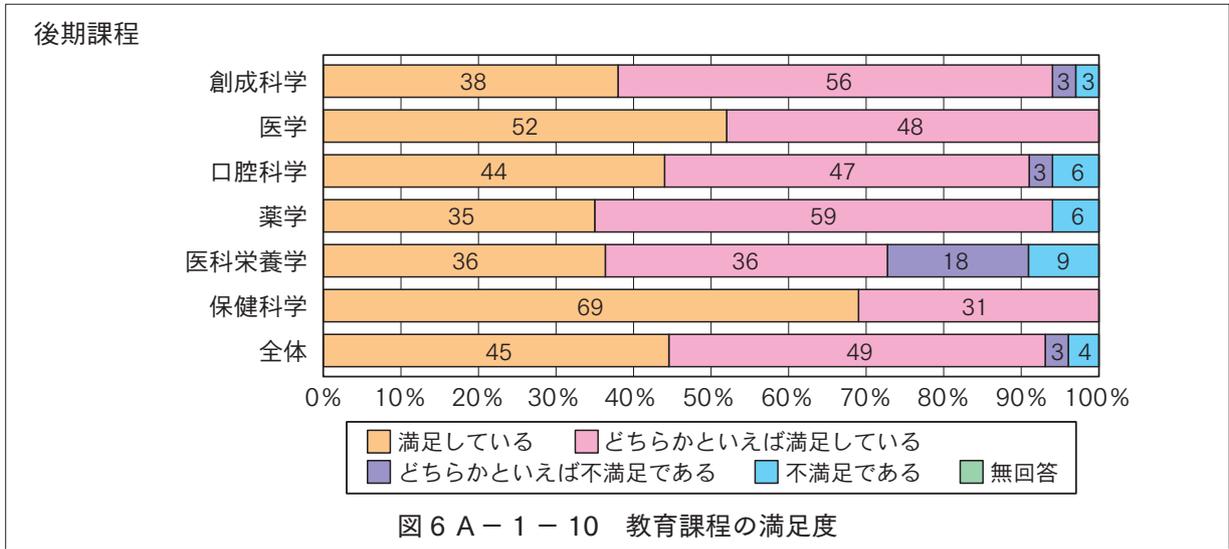
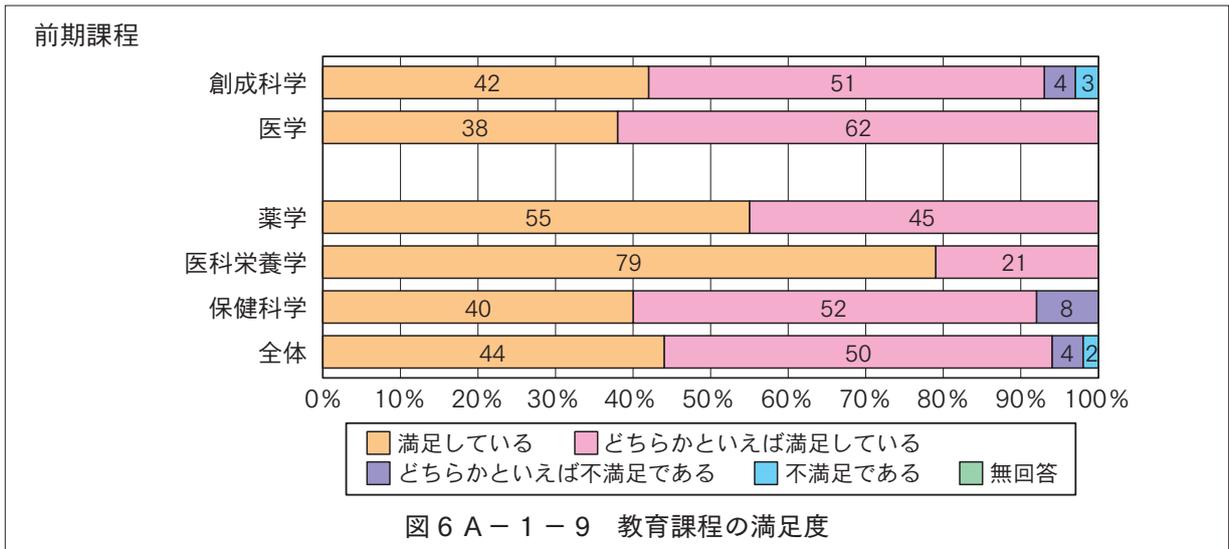


教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では92%、後期課程では94%が「思う」と答えており（図6 A - 1 - 5、図6 A - 1 - 6）、前回の第9回調査から前期課程は1ポイント減少し、後期課程は5ポイント上昇した。留学生については、「思う」と回答した割合が、前期課程89%、後期課程97%であった。いずれの結果も、満足できる数値であると思われる。



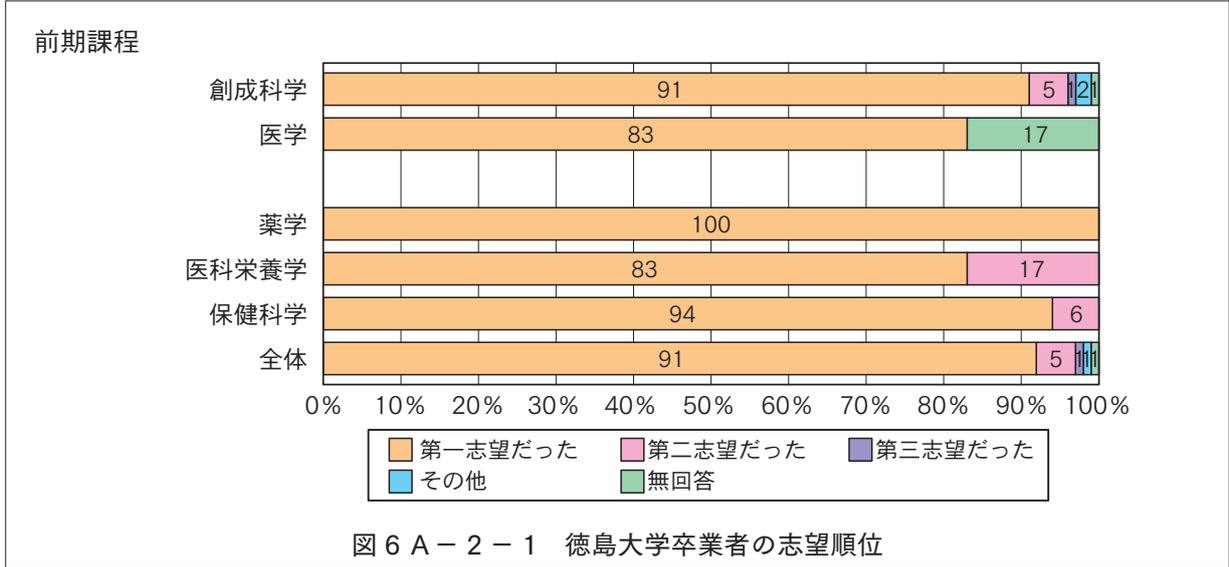


教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は44%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生(50%)と合わせると94%となり(図6A-1-9)、前回の第9回調査同様、十分満足できる数値であると思われる。注目すべき点としては、「満足している」と答えた学生が前回の36%から増加しており、前回よりも高い満足度が得られている結果となっている。後期課程では全体で94%がほぼ満足しており、こちらも十分満足できる数値であった(図6A-1-10)。留学生についても、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合は、前期課程、後期課程共に100%であり、こちらも満足できる数値であった。

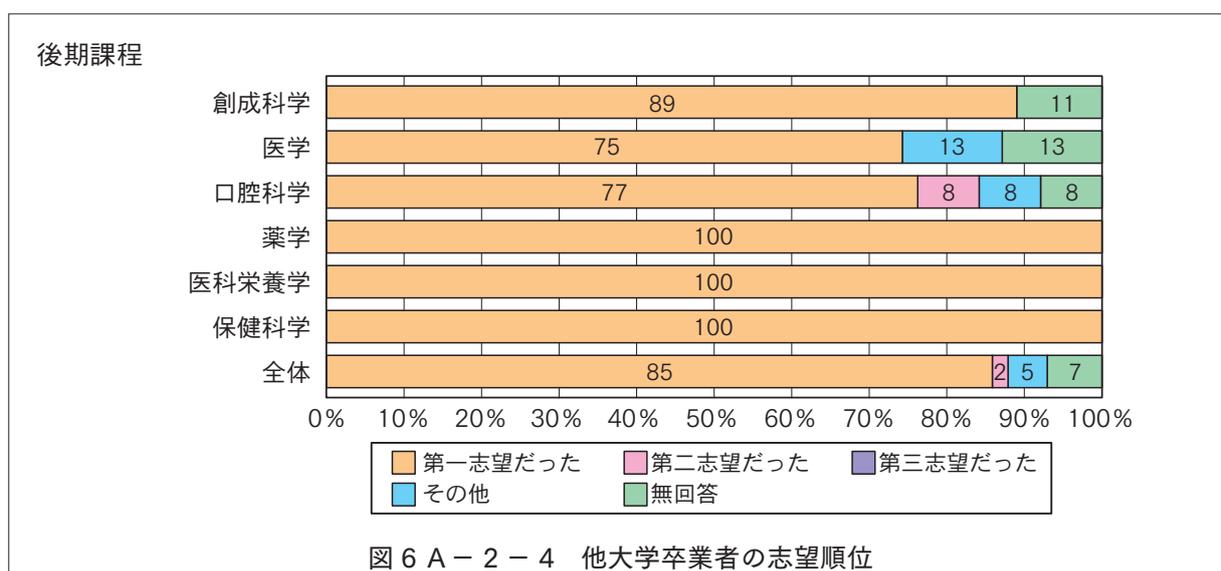
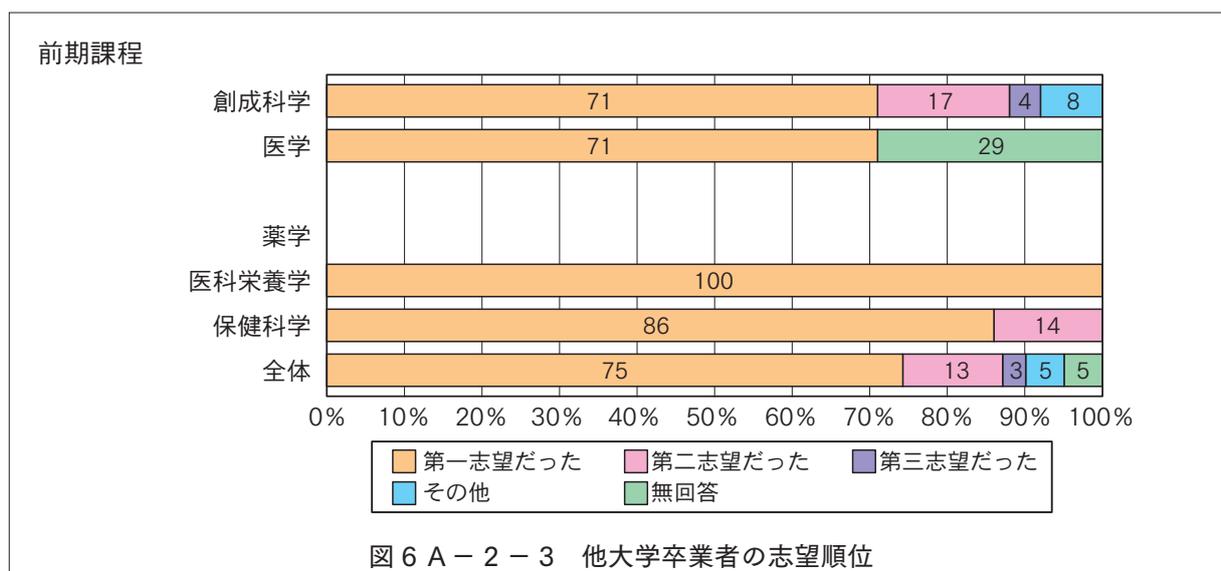
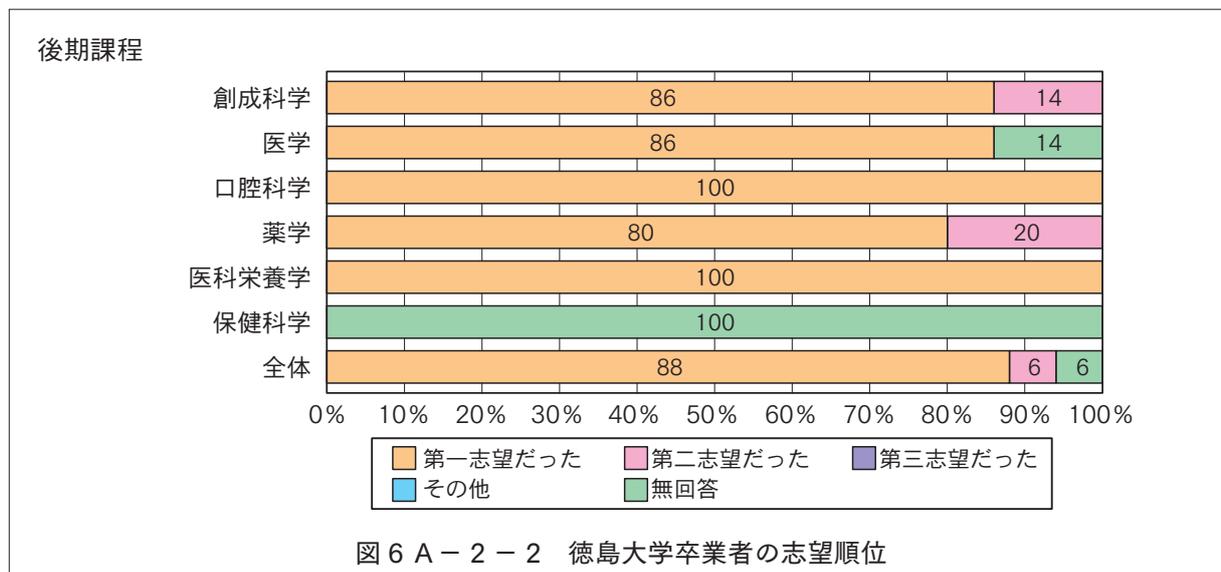


6 A - 2 本学を選んだ理由と目的 (図 6 A - 2 - 1 ~ 図 6 A - 2 - 16)

大学院進学に関する調査では、徳島大学卒業生と他大学卒業生に分類して調査を行った。まず徳島大

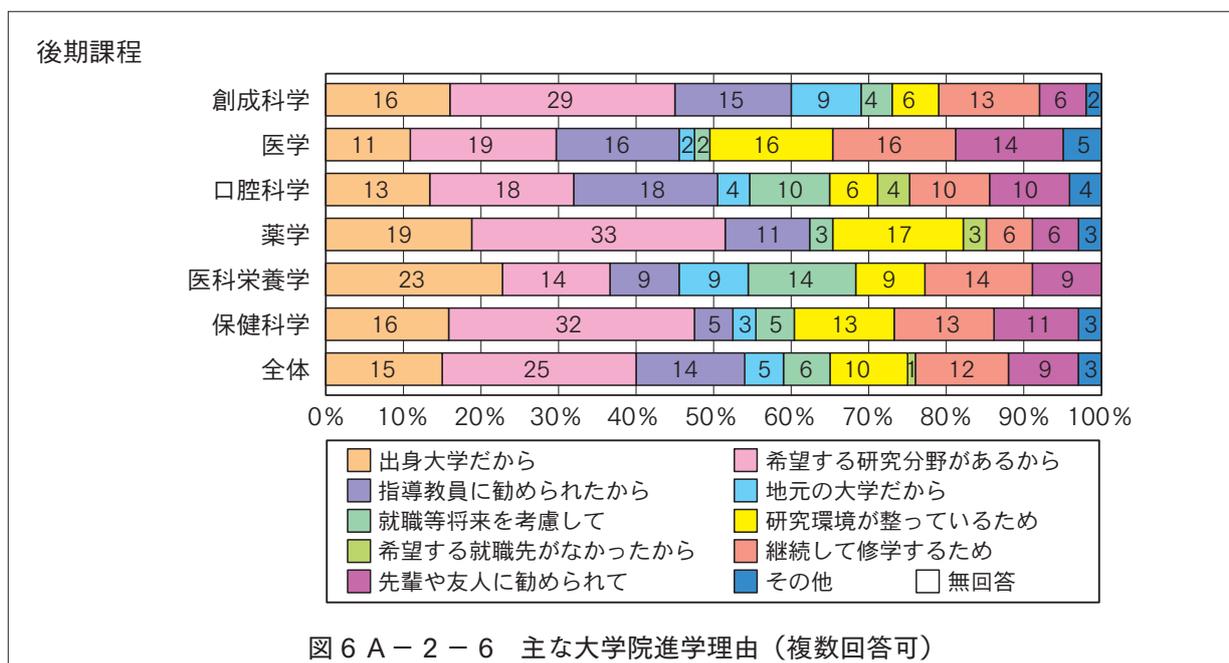
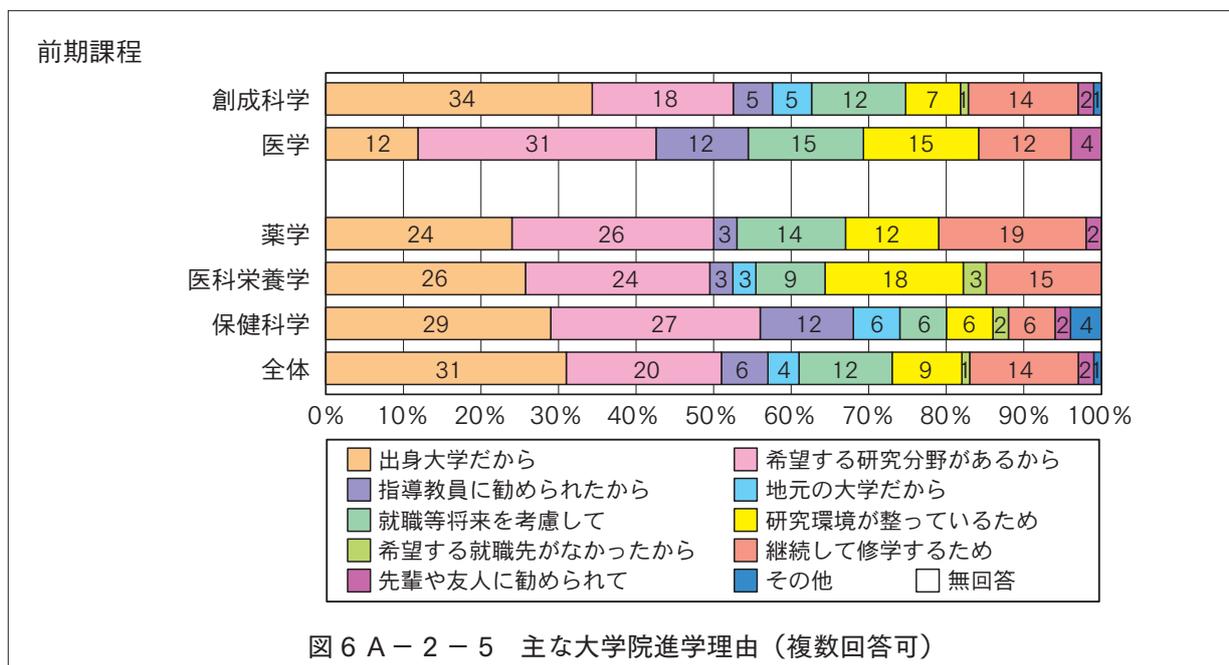


学卒業生について、「現在所属する大学院が第一志望だった」と回答した前期課程の学生は全体で91%であった（図6 A-2-1）。後期課程では「第一志望だった」と回答した学生が前回の93%から88%へと減少した。（図6 A-2-2）。

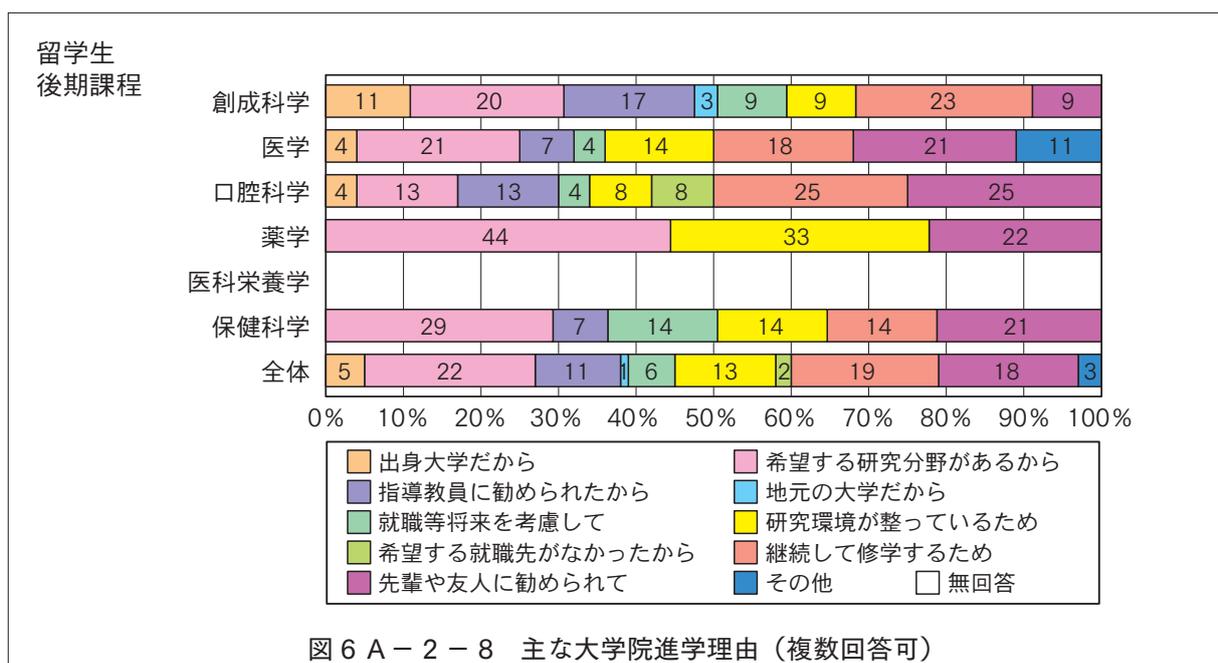
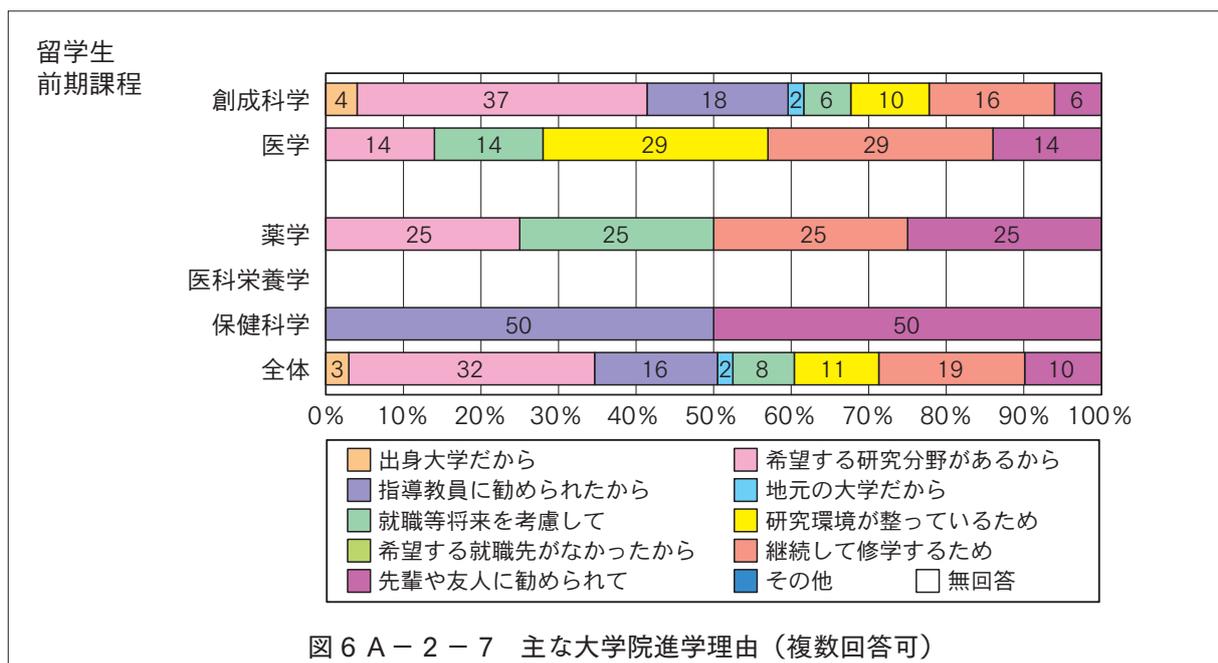


他大学を卒業した学生については、前期課程に進学した学生の75%が「第一志望だった」と回答しており、前回第9回の調査(89%)からわずかに減少していた(図6A-2-3)。一方、他大学を卒業して後期課程に在籍する学生については、「第一志望だった」が85%であり、前回調査の63%から大幅に増加していた(図6A-2-4)。本学の前期課程の情報発信力をより高めていく必要がある。

前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が31%、「希望する研究分野があるから」が20%、「継続して就学するため」が14%、「就職等将来を考慮して」が12%となっており、第9回調査とほぼ同様の結果であった(図6A-2-5)。研究科別に見ると、概ね「出身大学だから」、「希望する研究分野があるから」、「就職等将来を考慮して」が理由の上位を占めるが、その割合は薬学、創成科学、保健科学、医科栄養学では「出身大学だから」が多く、医学では「希望する研究分野があるから」が多い。また、「就職等将来を考慮して」の割合が高く、大学院進学後に希望の就職先に就けると考えている学生が多いことが伺える。後期課程の学生は、「希望する研究分野があるから」が最も多く(図6A-2-6)、留学生についても両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合



が最も多かった。これらは、本学の研究分野が進学希望の学生に選ばれ、大学院の教育・研究が正しい方向性にあること、また大学院修了後に希望の就職先に就職できていることの証拠であると思われる。



大学院での勉学で目指すものとして、前期課程全体では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」を目指す学生が最も多く（42%）、次いで、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が28%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」が25%と、前回第9回調査とはほぼ同じであった（図6A-2-9）。研究科別に見ると、保健科学（68%）と医学（62%）と創成科学（39%）では「高度専門職業人」を目指す学生が特に多いのに対し、薬学（65%）と医科栄養学（36%）では「研究者」を目指す学生が、それぞれ最も多い等、学生の意識の違いが現れる結果となった。後期課程の学生全体では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」（37%）と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」（32%）を目指す学生が多く、次いで「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が15%となっている（図6A-2-10）。今回の調査では「大学教員」を目指す学生が減少していた。大学教員が疲弊している現状を見て、学生にとってアカデミア職が魅力

前期課程

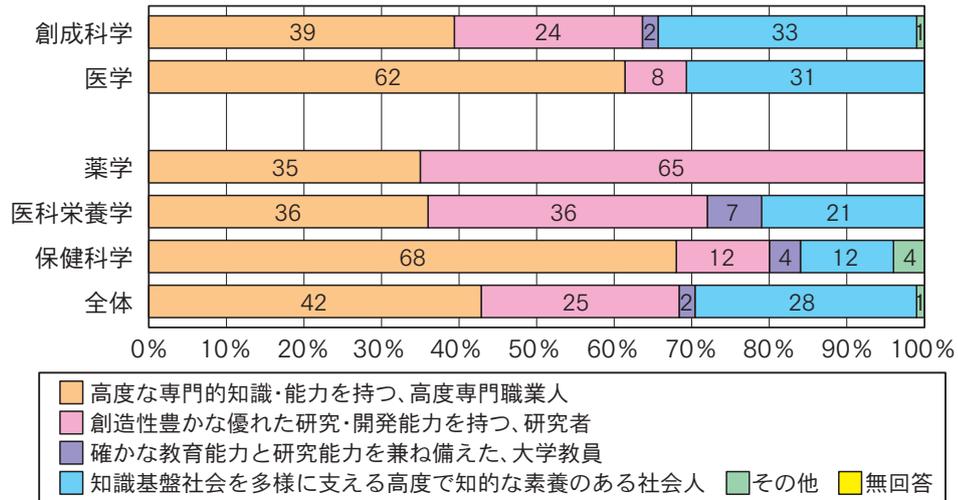


図 6 A - 2 - 9 大学院での勉学で目指すもの

後期課程

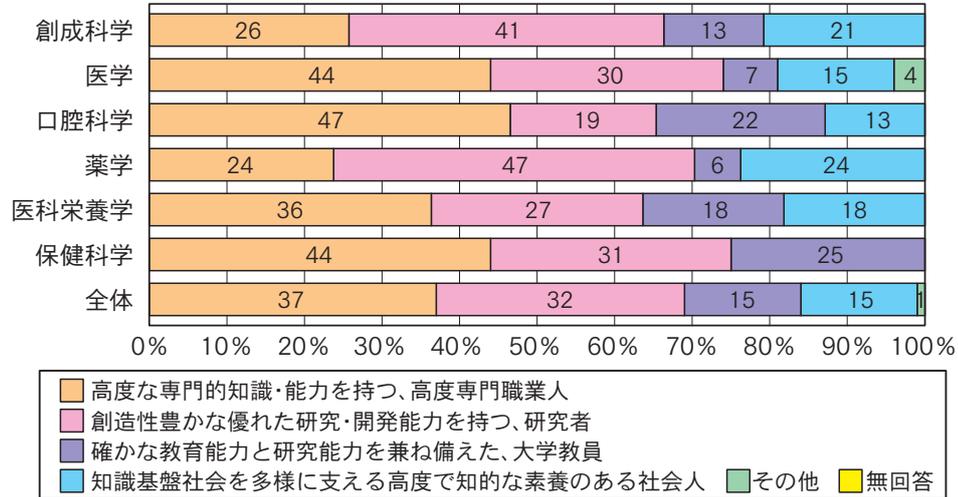


図 6 A - 2 - 10 大学院での勉学で目指すもの

留学生
前期課程

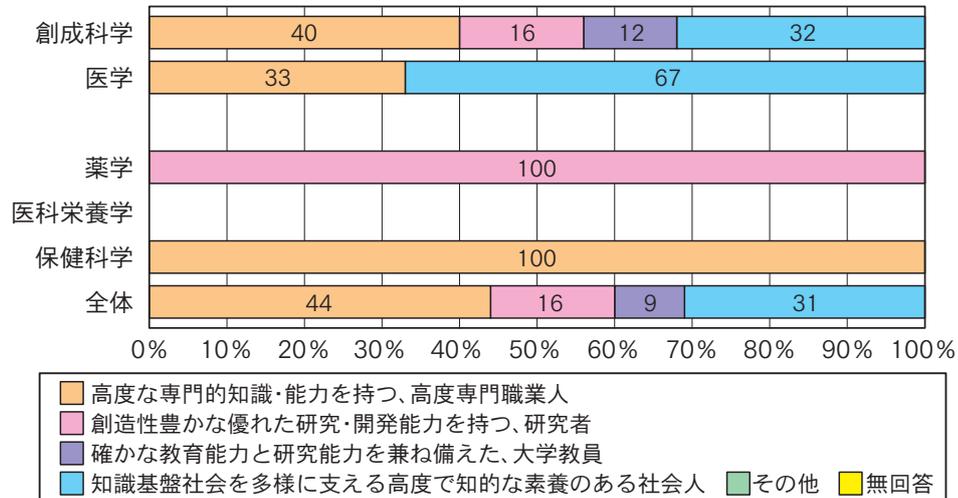


図 6 A - 2 - 11 大学院での勉学で目指すもの

ある職に映らなくなっているのかもしれない。留学生については、前期課程では「高度専門職業人」と「高度で知的な素養のある社会人」が多く、後期課程では「研究者」（30%）と「高度専門職業人」（43%）が多く、日本人学生と同様の結果となった。

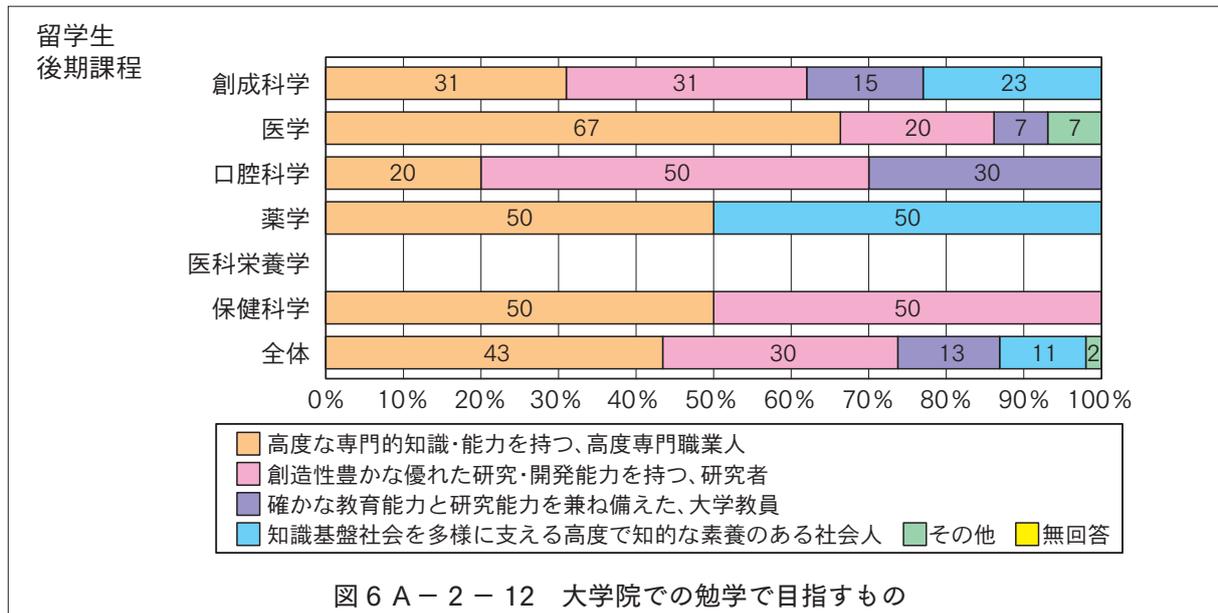
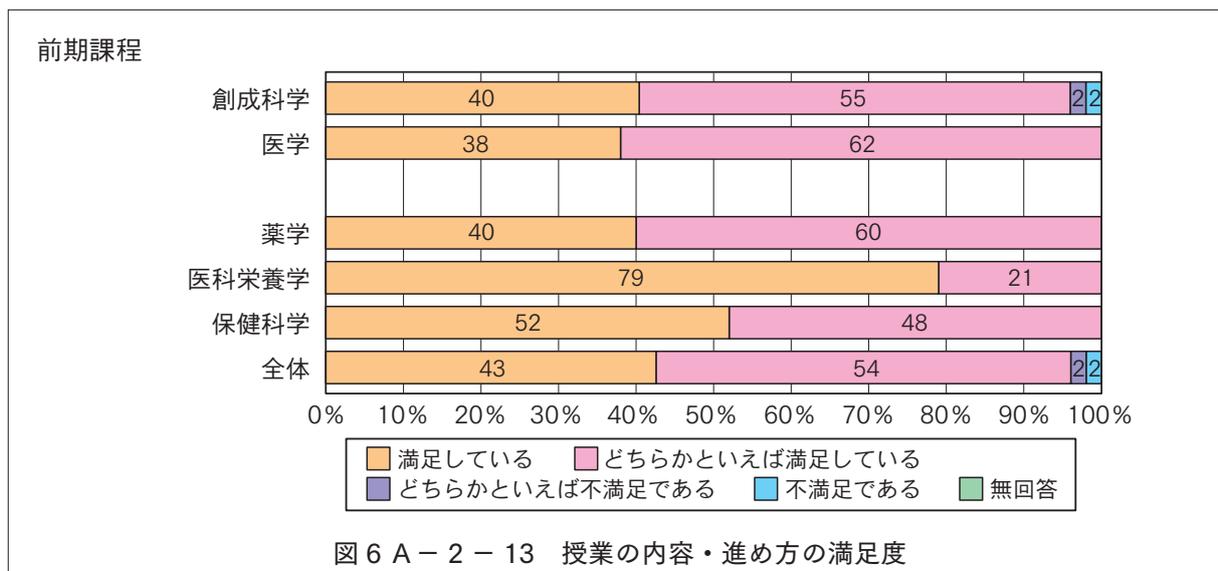
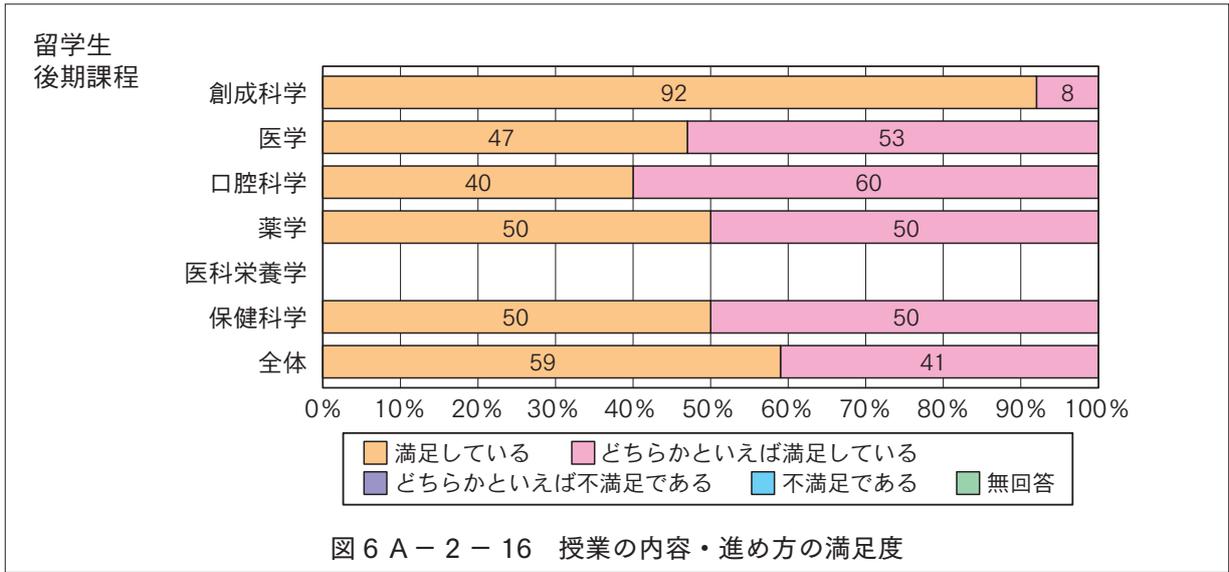
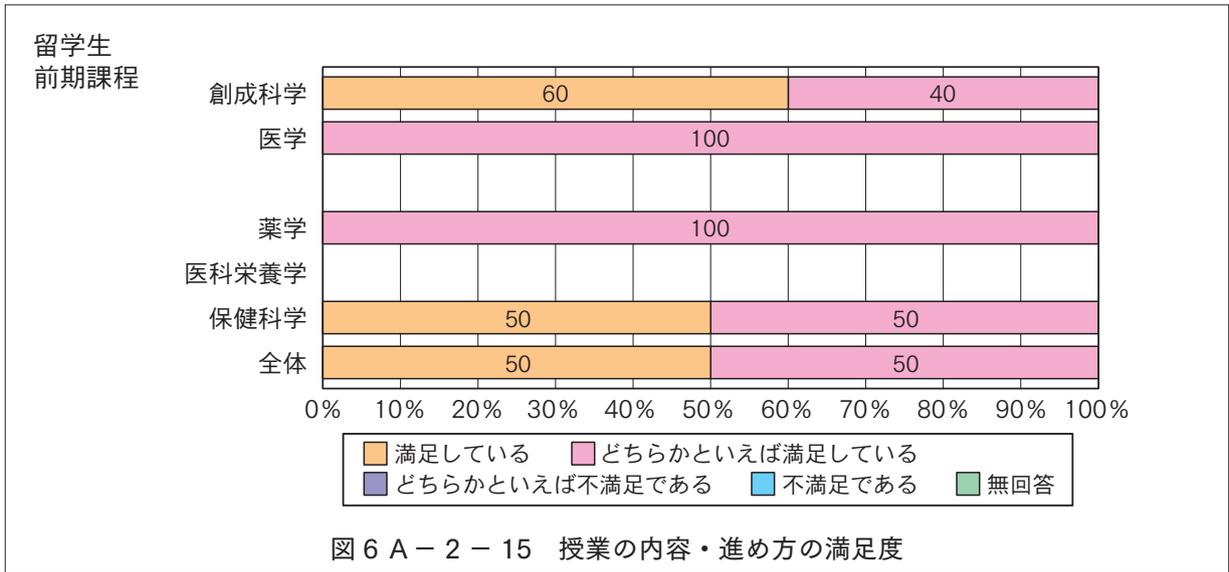
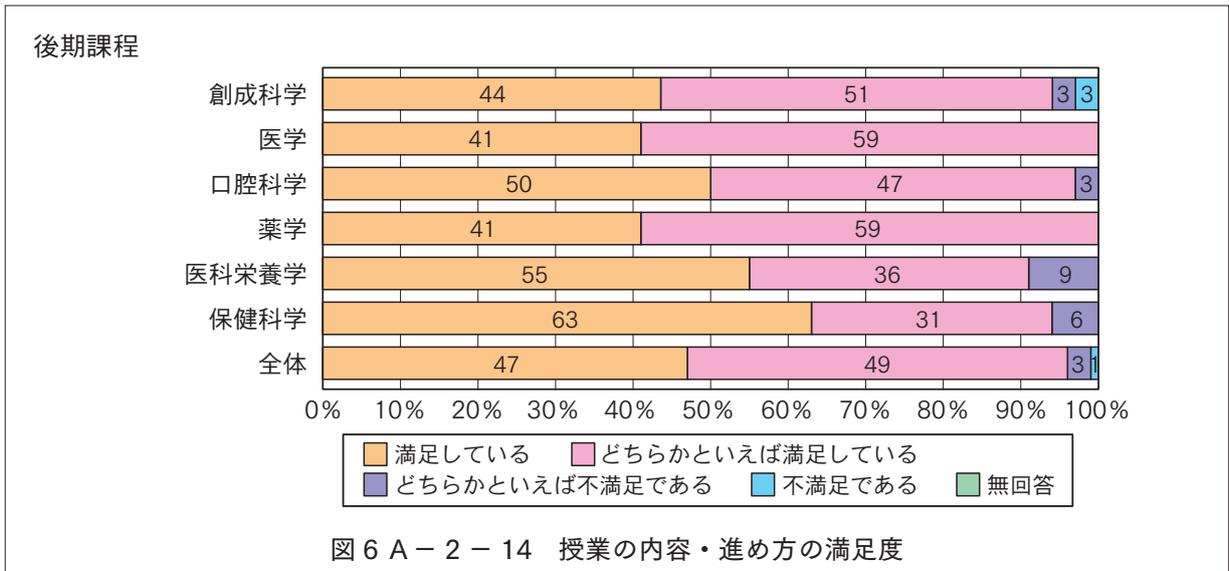


図 6 A - 2 - 13 および図 6 A - 2 - 14 に示した授業の内容や進め方に関する満足度については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程で 97%（満足している：43%、どちらかといえば満足している：54%）、後期課程で 96%（満足している：47%、どちらかといえば満足している：49%）であり、前回第 9 回調査同様授業に高い満足感を感じているようである。一方、「不満足」と回答した学生が前期課程では創成科学（2%）、後期課程では創成科学（3%）と、昨年度（前期後期ともに 10%）と比較して減少傾向にあった。留学生については、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程、後期博士課程共に 100%であり、こちらも授業に高い満足感を感じているようである。

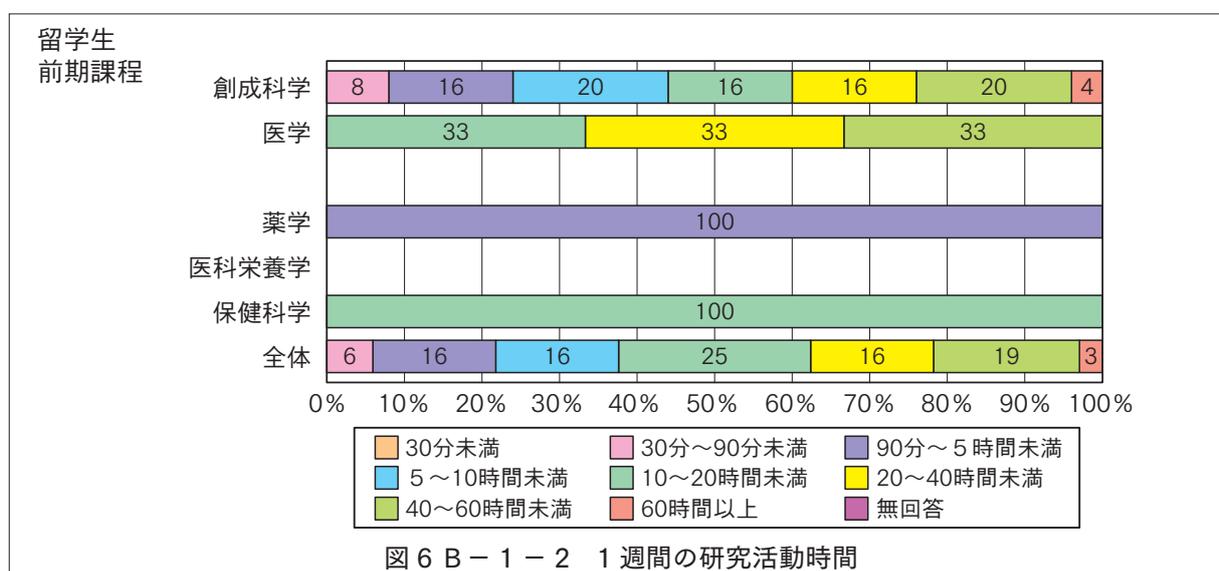
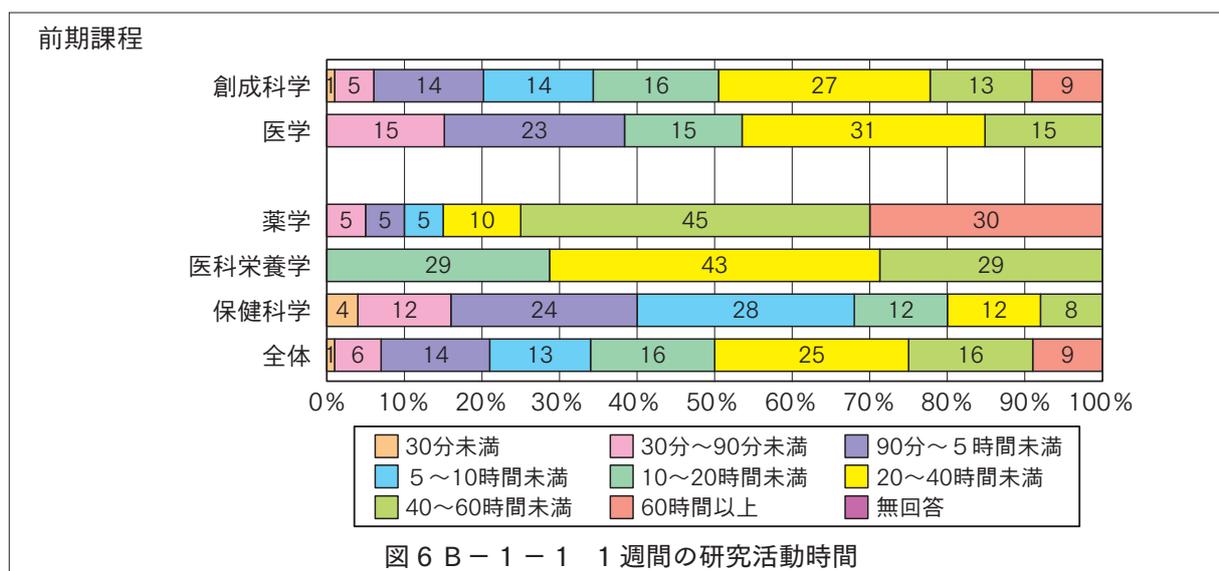




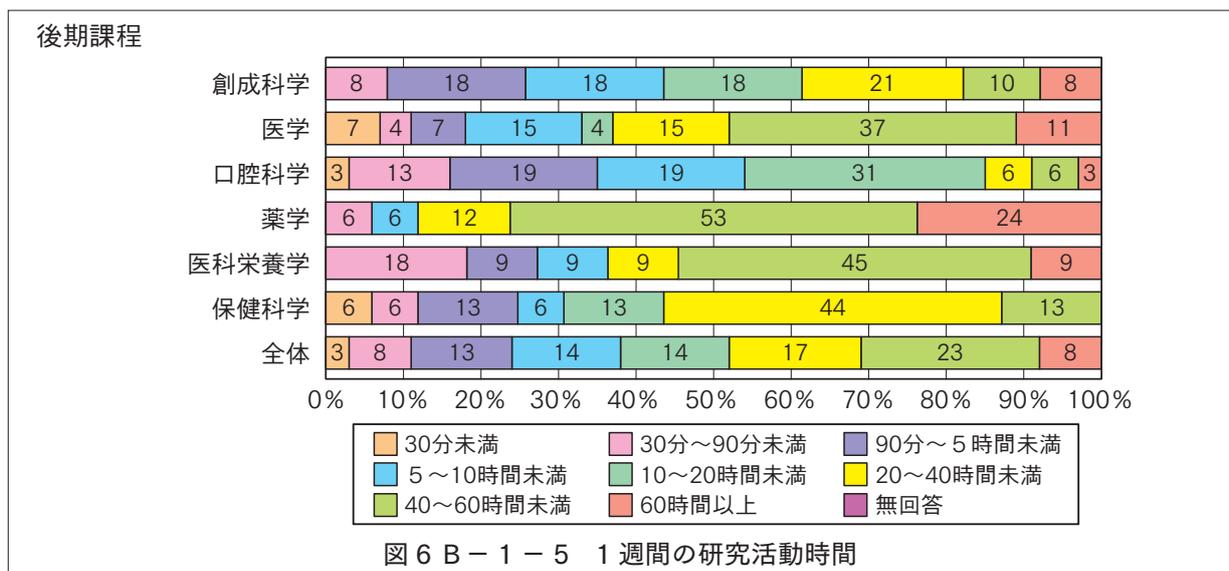
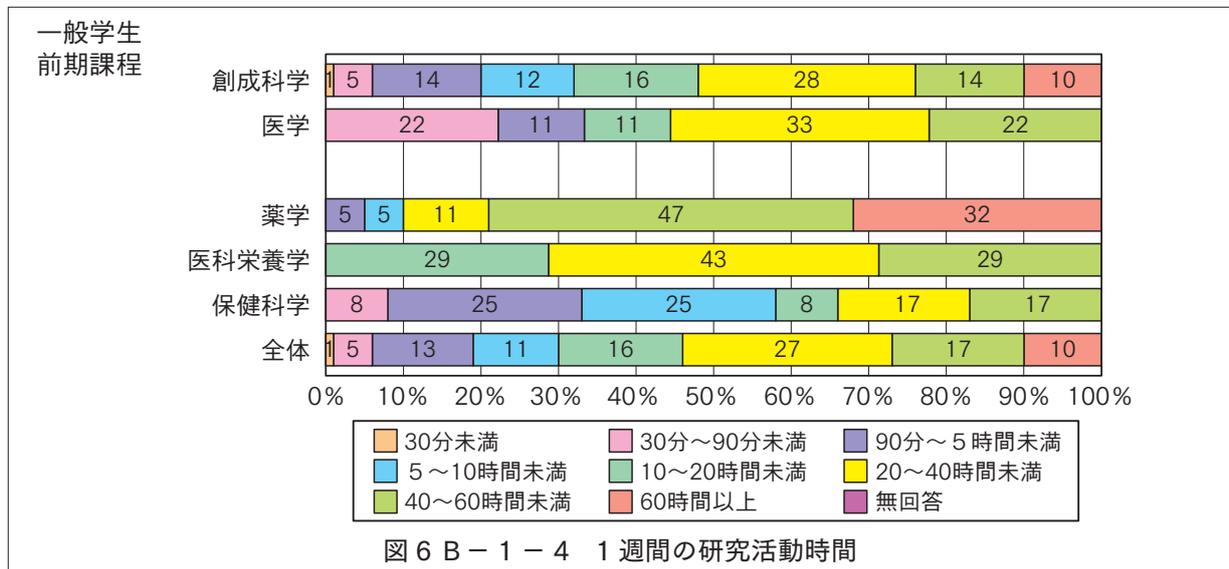
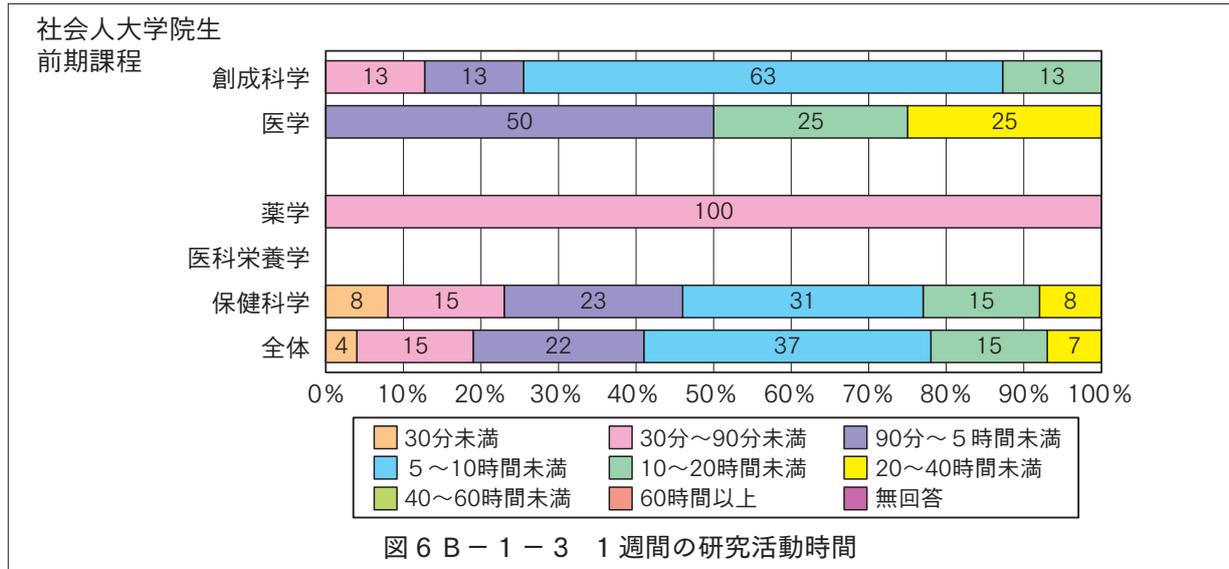
6 B - 1 研究活動と研究指導 (図 6 B - 1 - 1 ~ 図 6 B - 1 - 20)

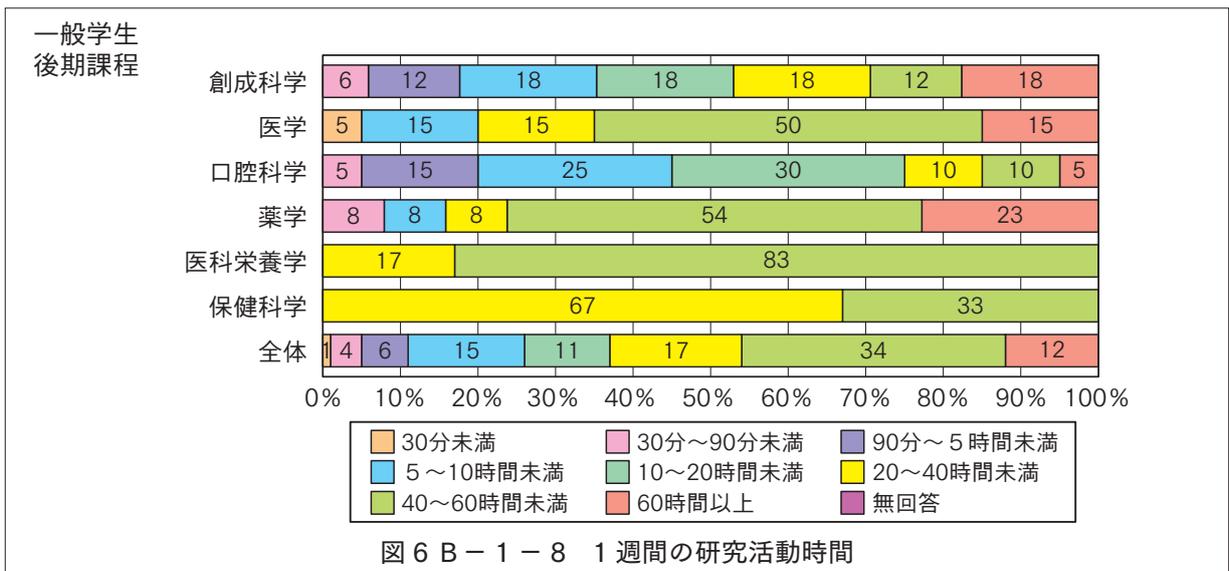
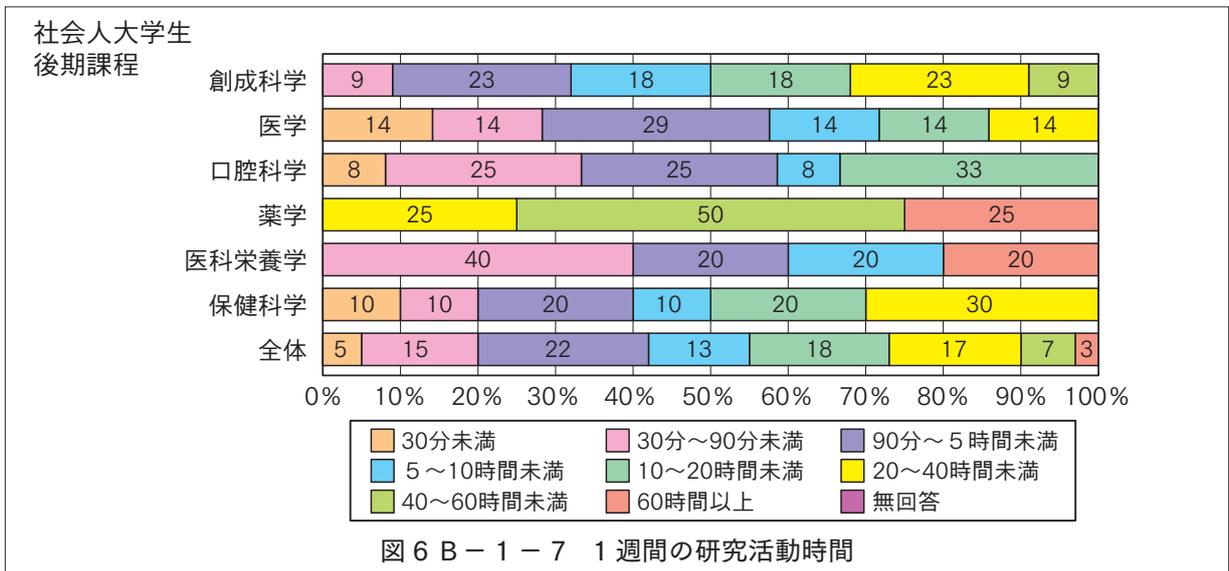
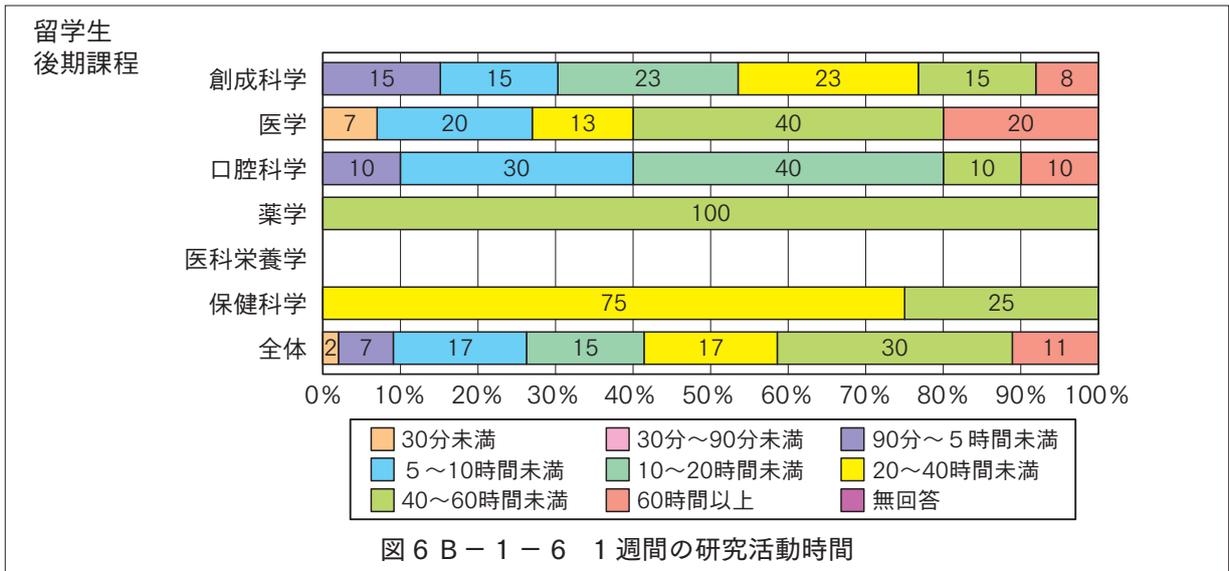
前期課程では、授業以外の研究活動時間について、全体として 2022 年度の調査と大きな変化はない(図 6 B - 1 - 1 ~ 図 6 B - 1 - 4)。週に 20 時間以上である大学院生が 50% 程度というのはいささか少ない印象を与える。研究科別では薬学と医科栄養学で研究活動時間について週 20 時間以上がそれぞれ約 85%、約 72% 程度で研究活動時間が長い。保健科学では社会人学生が全体の半分ほどで彼らの研究活動時間は週 20 時間以上が 10% 未満である。一般学生でもその値は 35% 未満なので他研究科と異なる事情があると考えられる。

後期課程においても、全体の傾向を 2022 年度の調査と比較すると大きな変化はない(図 6 B - 1 - 5 ~ 図 6 B - 1 - 8)。創成科学では社会人大学院生の比率が半分以上で彼らのうち、週の研究活動時間が 20 時間以上なのは 30% 強にすぎないが、一般学生も研究活動時間が 20 時間以上なのは 50% 未満であり、いささか少ない印象を受ける。医学も社会人大学院生が 1/4 ほどを占め、全体の研究活動時間は少ないが、一般学生では週あたり 20 時間以上が 80% 程度と、かなり研究活動時間が長くなっている。また医学では留学生が全体の半数以上を占めるが、研究活動時間が週 20 時間以上は 70% 台であり、研究活動時間は確保されている傾向がある。口腔科学は社会人、留学生、一般学生すべてのカテゴリーで研究時間が少ない傾向にあり、週 20 時間未満は 75 - 100% となっている。薬学はすべてのカテゴリーで

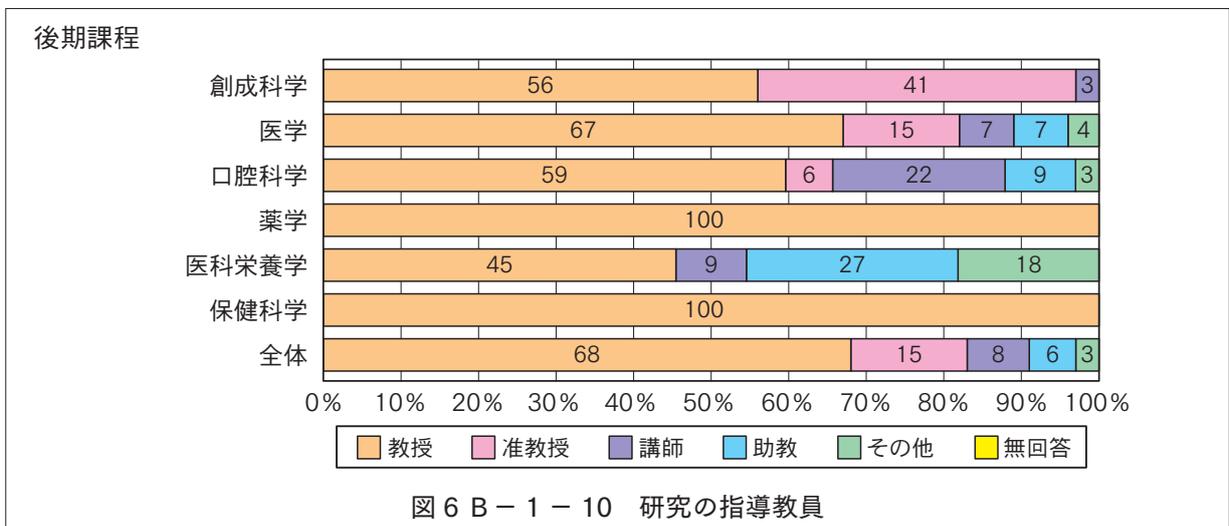
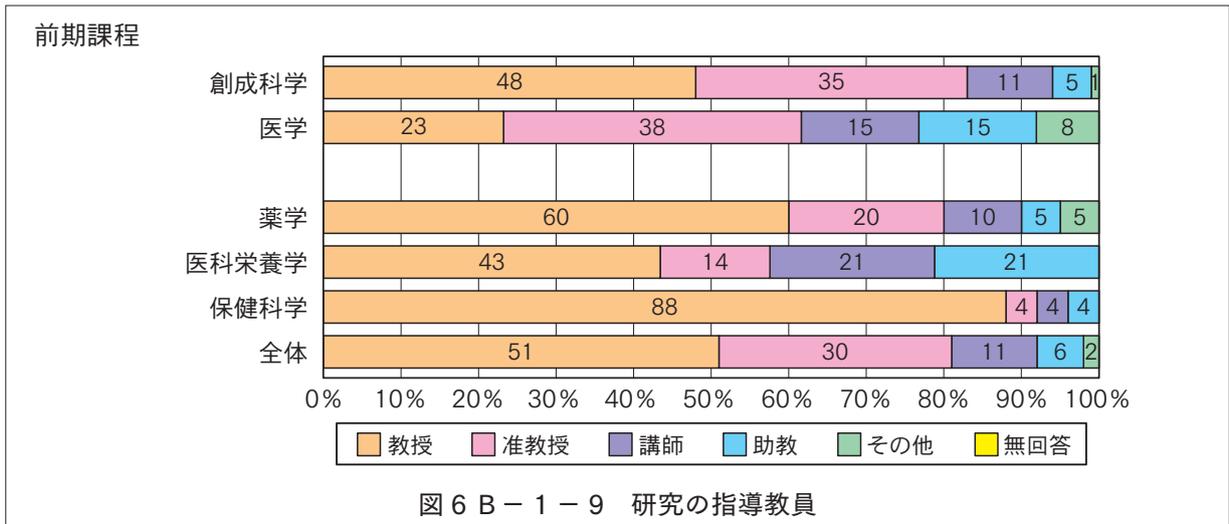


週 20 時間以上は 80% よりも多い。

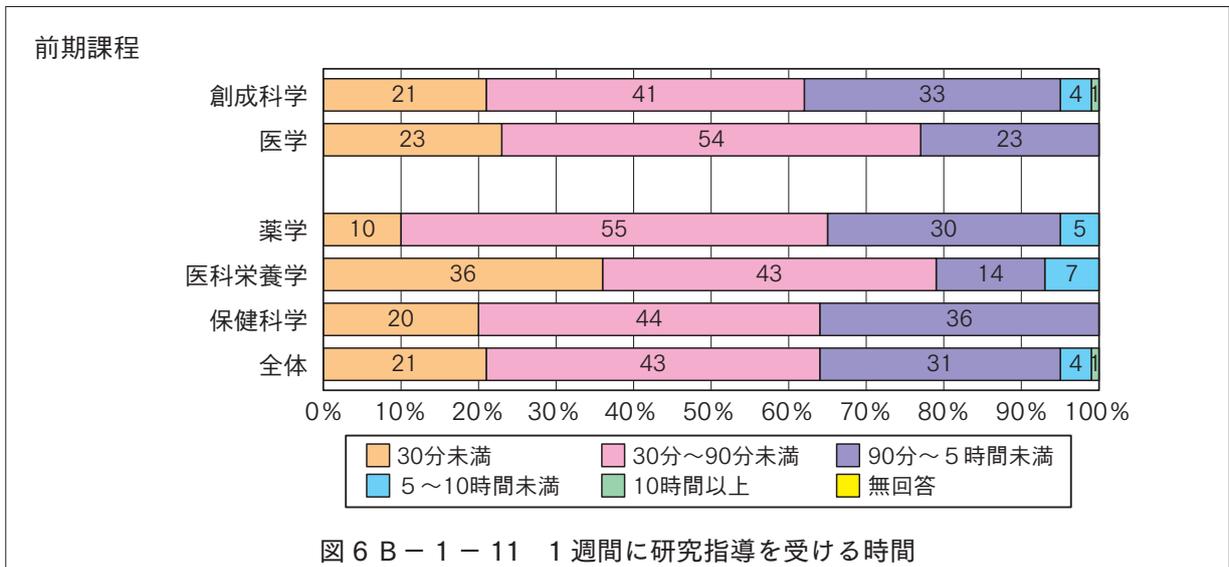


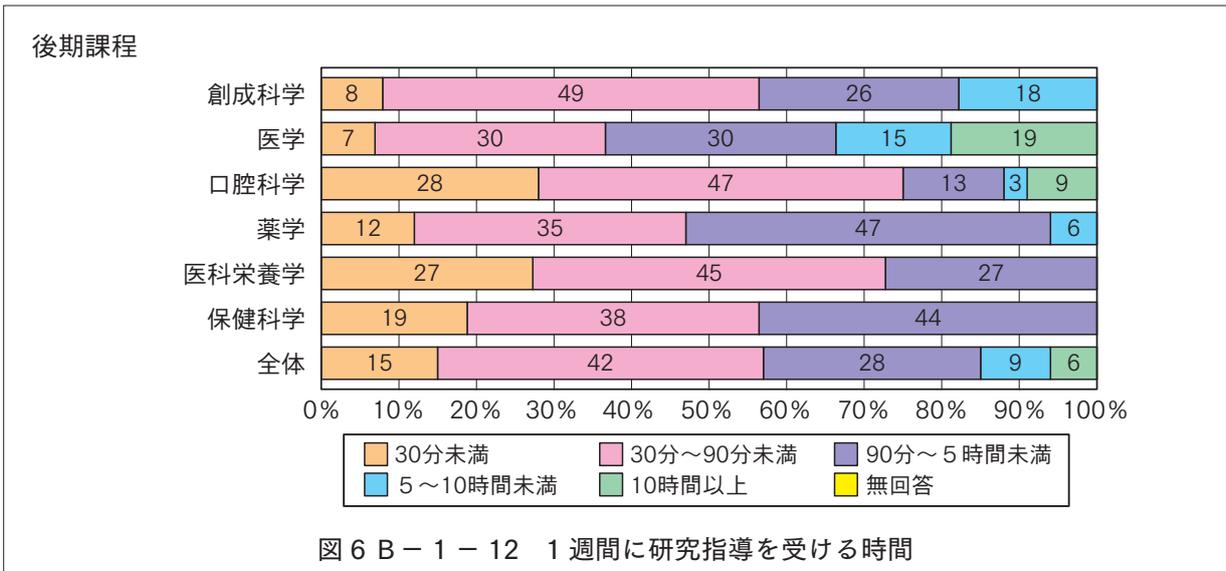


研究の直接の指導教員は、前期課程、後期課程ともに全体では教授、准教授、講師、助教の順となっており、大きな変化はない。各研究科の比較では後期課程の医科栄養学で、その他による指導の比率が高いのが目立っている（図 6 B - 1 - 9、図 6 B - 1 - 10）。

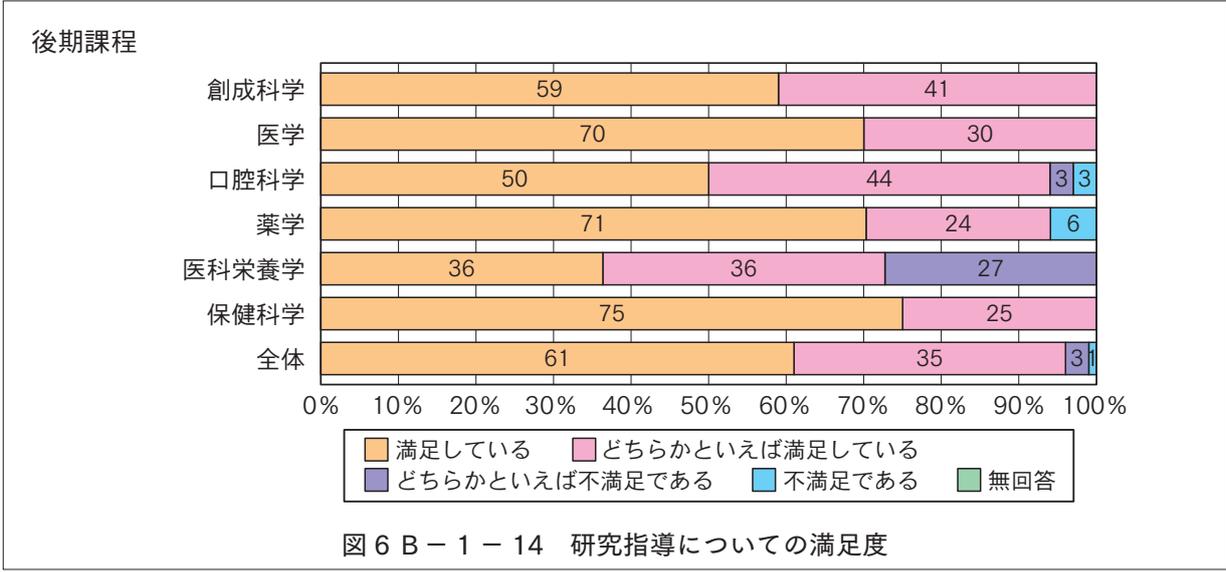
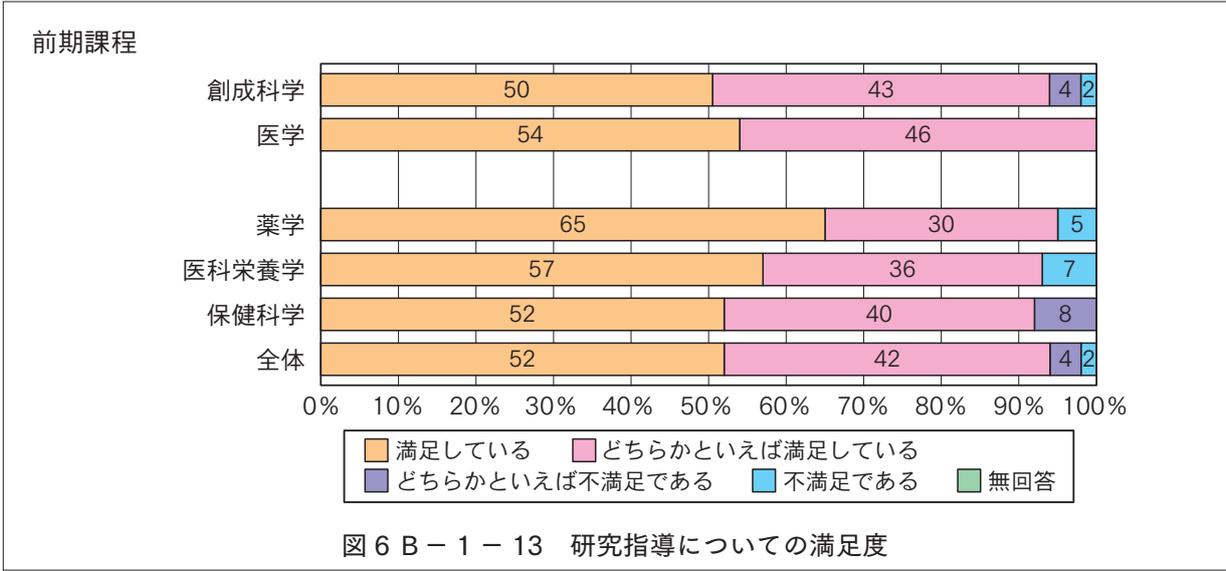


指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間が90分以上となっている学生は、前期課程、後期課程についてそれぞれ30%台、40%台となっており、前回調査と大きく変わらない（図6B-1-11、図6B-1-12）。留学生の方が長い指導を受ける傾向はあり、コミュニケーションのスピードの問題も一因かと思われる。



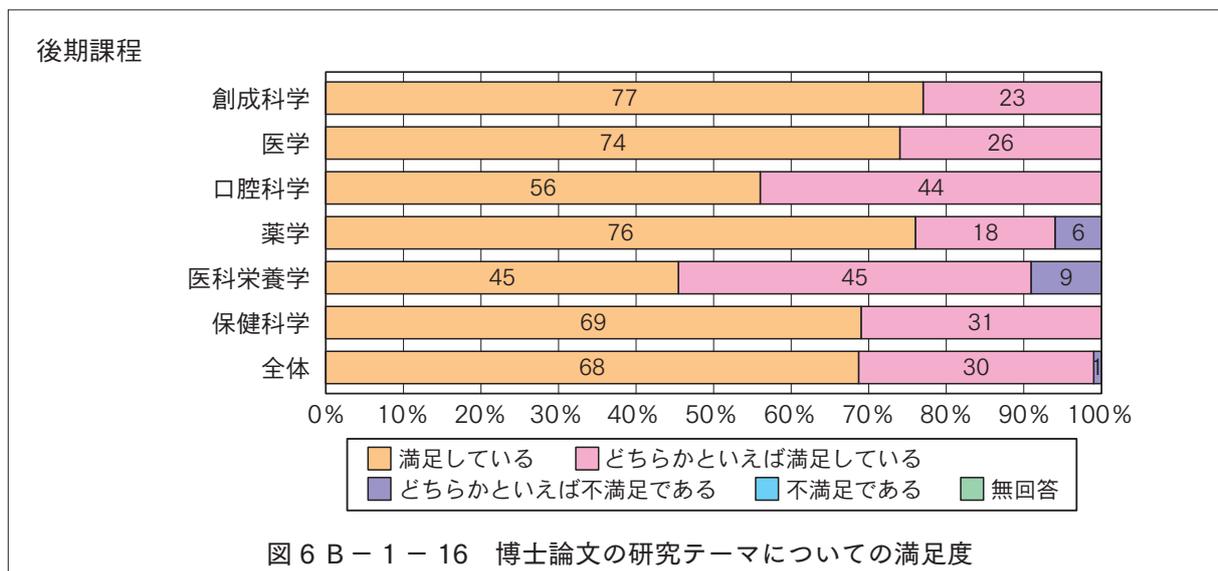
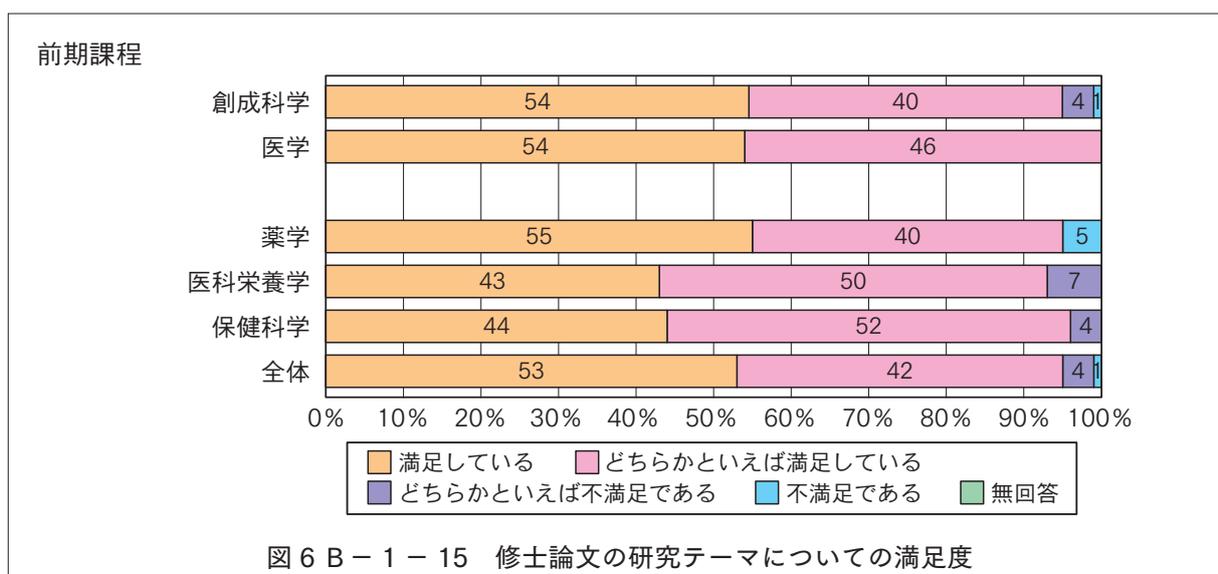


研究指導の内容や進め方に対して、「満足している」「どちらかという満足している」を加えたものは前期課程 94%、後期課程 96%と、全体として前回の調査と同様に非常に良好である（図 6 B - 1 - 13、図 6 B - 1 - 14）。目立つのは医科栄養学の後期課程で「どちらかといえば不満足である」が 27%

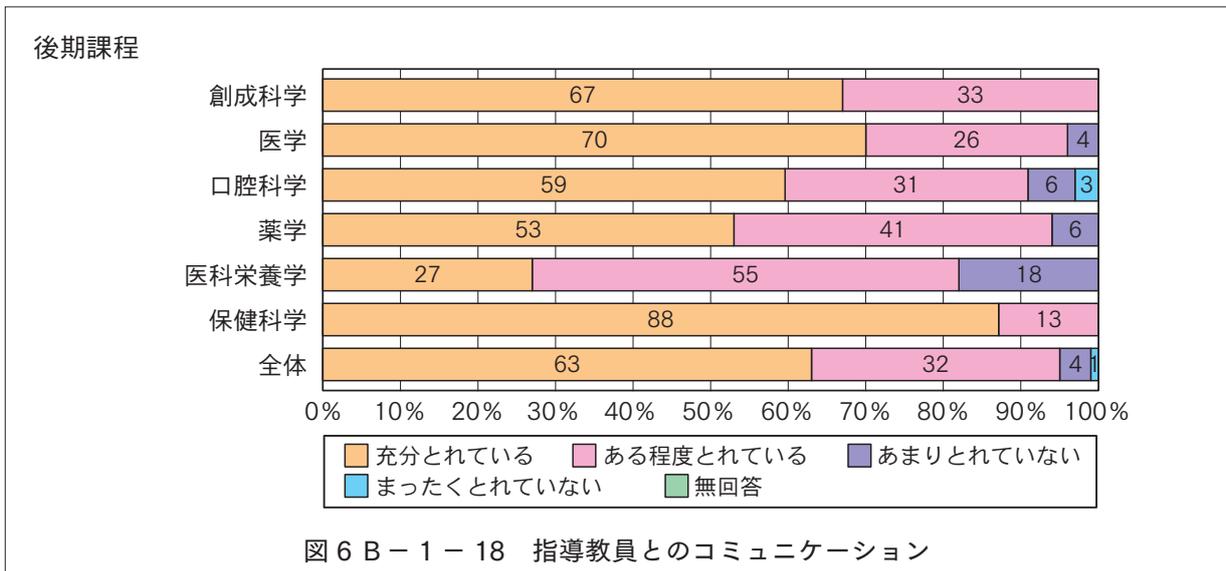
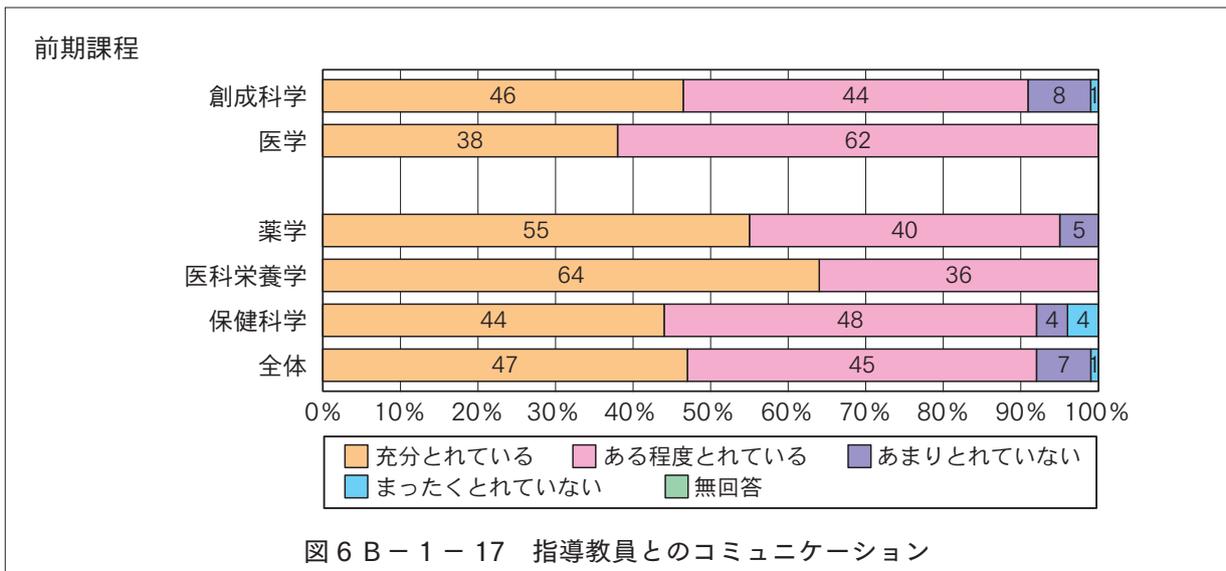


と飛び抜けて多い点である。前回の15%よりもかなり増えており、十分なコミュニケーションが必要かと考えられる。

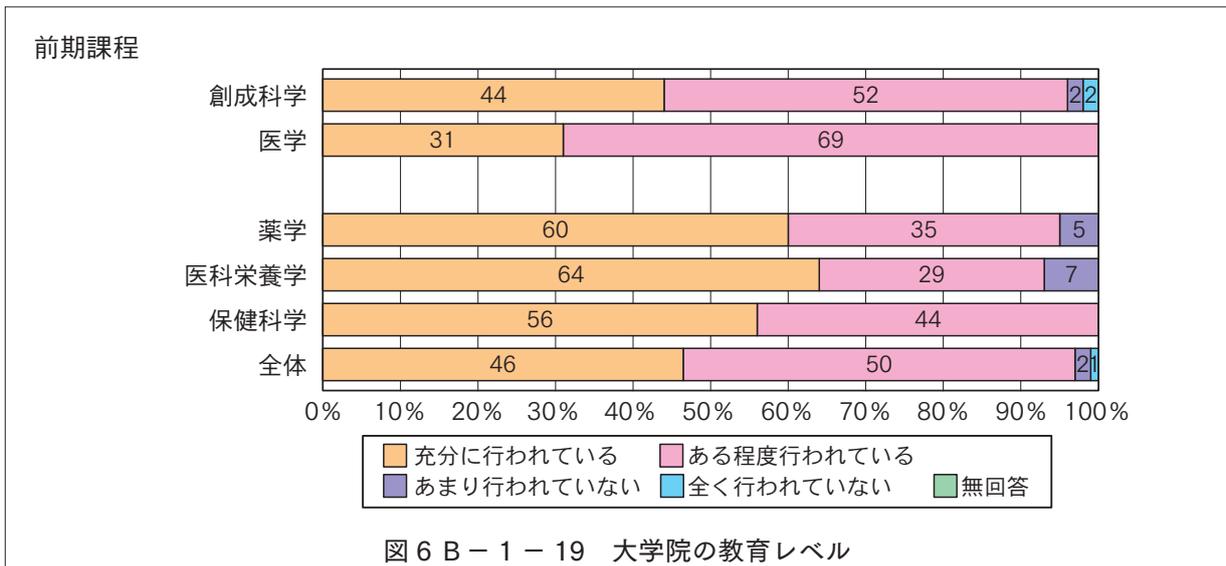
修士（博士）論文の研究テーマに関して、前期課程、後期課程ともに全体では「満足している」「どちらかといえば満足している」が95%以上となっていて前回の調査同様、非常に良好な状態である（図6B-1-15、図6B-1-16）。留学生においても同様であった。後期課程の薬学、医科栄養学において「どちらかといえば不満足である」がそれぞれ6%、9%と目立つ。研究活動時間が長く、研究に対する意欲、こだわりの表れとも解釈できる、十分なコミュニケーションが取れているかの確認も必要だろう。

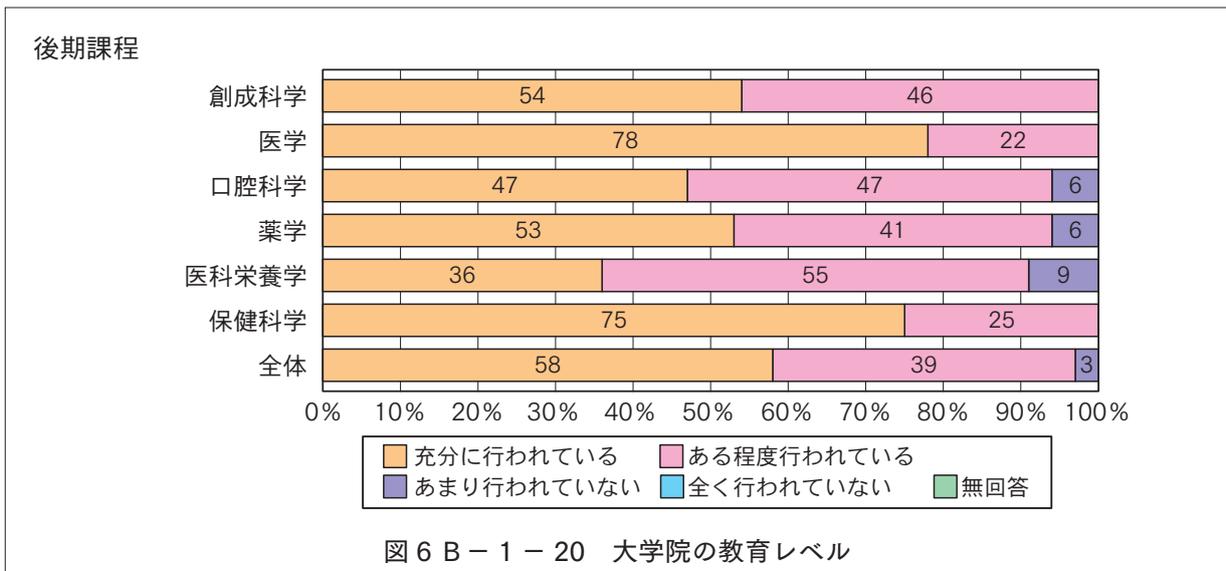


指導教員とのコミュニケーションに関しては、前期課程全体では「充分とれている」との回答が最も多く（47%）、次いで「ある程度とれている」（45%）であり、9割以上の学生が概ね満足している（図6B-1-17）。後期課程全体でもやはり9割の学生が「充分とれている」、「ある程度とれている」のいずれかに回答し（図6B-1-18）、留学生についても問題はない。前期課程、後期課程ともに全体では、「あまりとれていない」「まったくとれていない」がそれぞれ8%、5%であった。各研究科の比較では前期課程において「あまりとれていない」「まったくとれていない」と回答した学生の合計は薬学、保健科学でそれぞれ1名、2名なのに対し、創成科学では22名である。後期課程になると医科栄養学で「あまりとれていない」が18%が目立っている。それぞれ改善が望まれる。



大学院に相応しいレベルの教育がおこなわれているかどうかについては、前期課程、後期課程ともに全体では、「あまり行われていない」「全く行われていない」は3%であり、学生からの評価は概ね良好と考えられる（図 6 B - 1 - 19、図 6 B - 1 - 20）。留学生においても大きな違いはなかった。

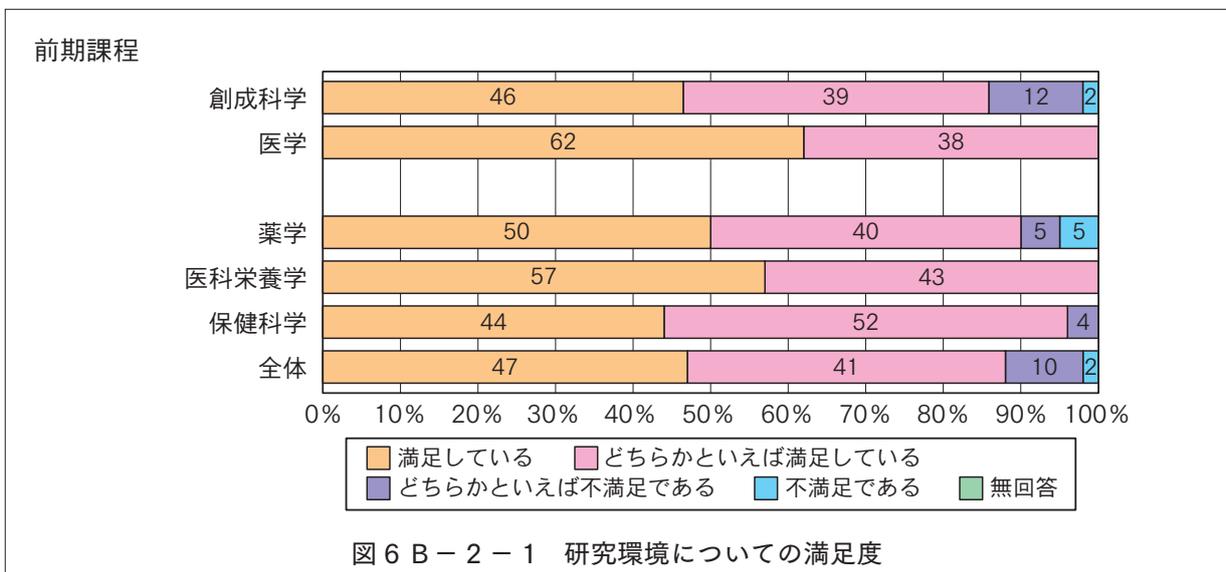


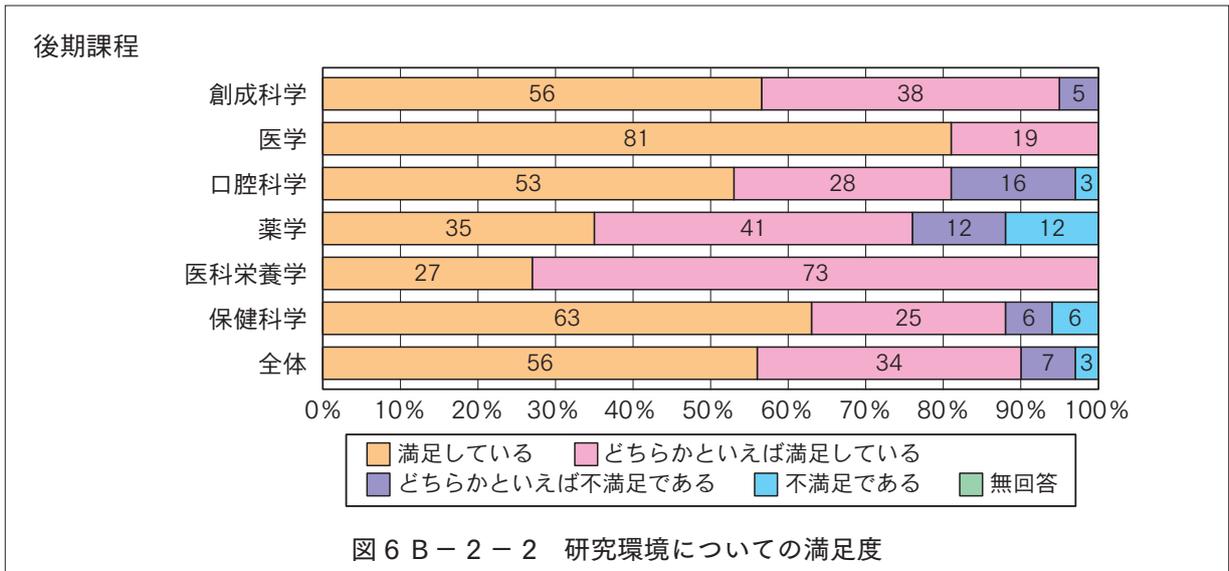


6 B - 2 研究環境と所属大学院に対する満足度

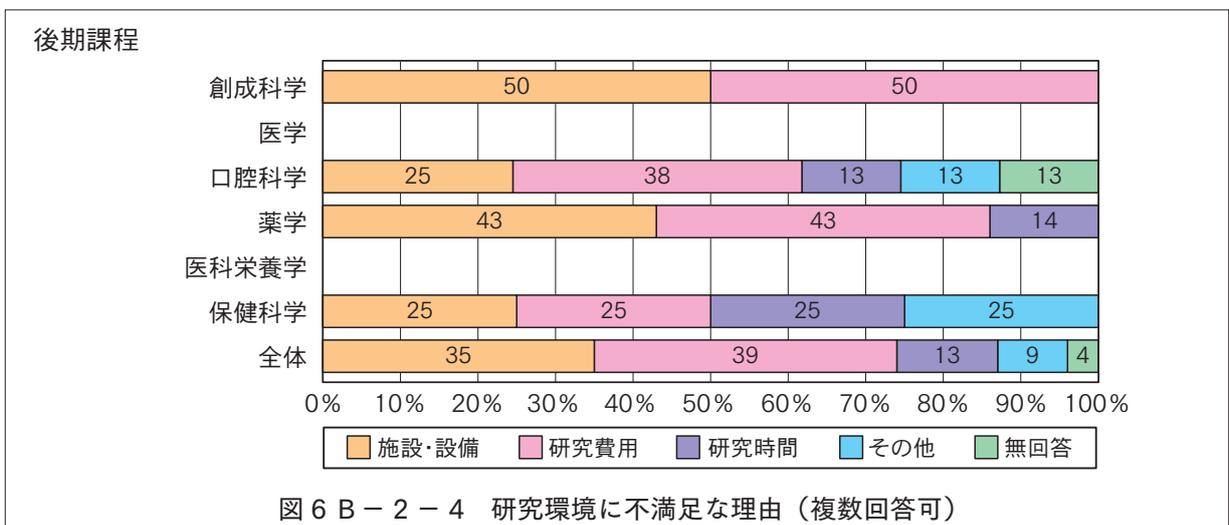
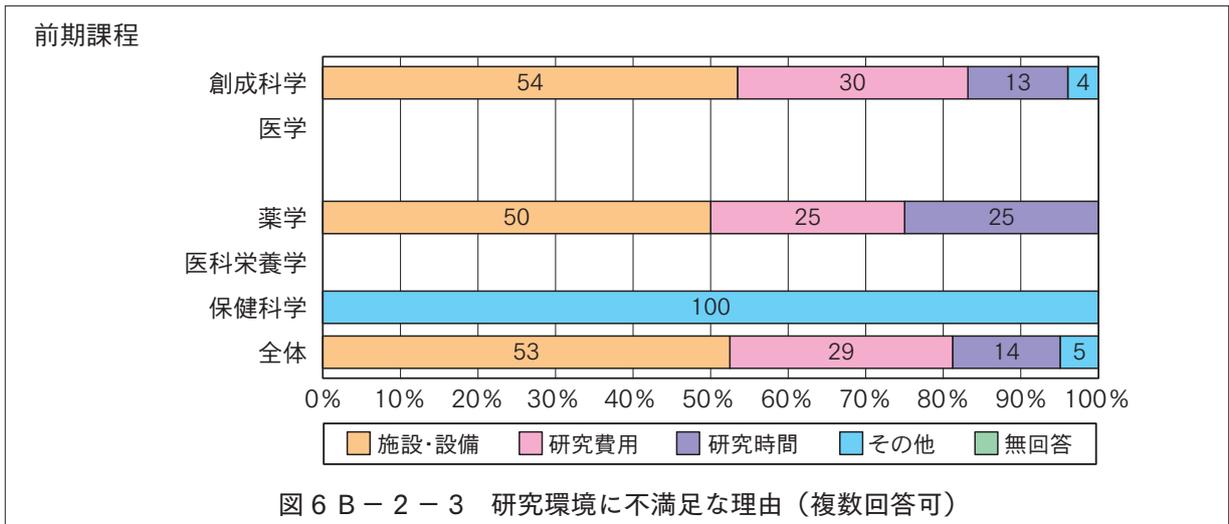
(図 6 B - 2 - 1 ~ 図 6 B - 2 - 6)

現在の研究環境について、前期課程、後期課程ともに全体では「満足している」「どちらかといえば満足している」を合わせたものはそれぞれ、88%、90%であり、概ね高評価を受けていると考えられる(図 6 B - 2 - 1、図 6 B - 2 - 2)。留学生においても概ね高い評価であった。前期課程において「どちらかといえば不満足である」「不満足である」の値は 12%だが、そのほとんどは創成科学の学生であった。後期課程においては、口腔科学、薬学において、「どちらかといえば不満足である」「不満足である」と回答した学生は、それぞれ 19%、24%と考慮すべき値になっている。

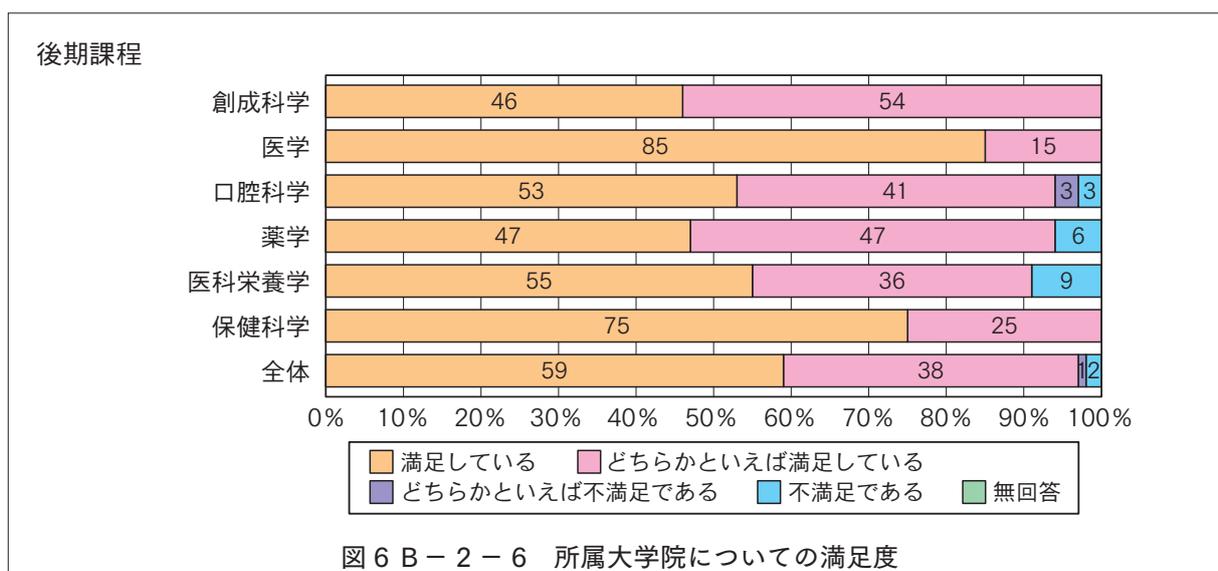
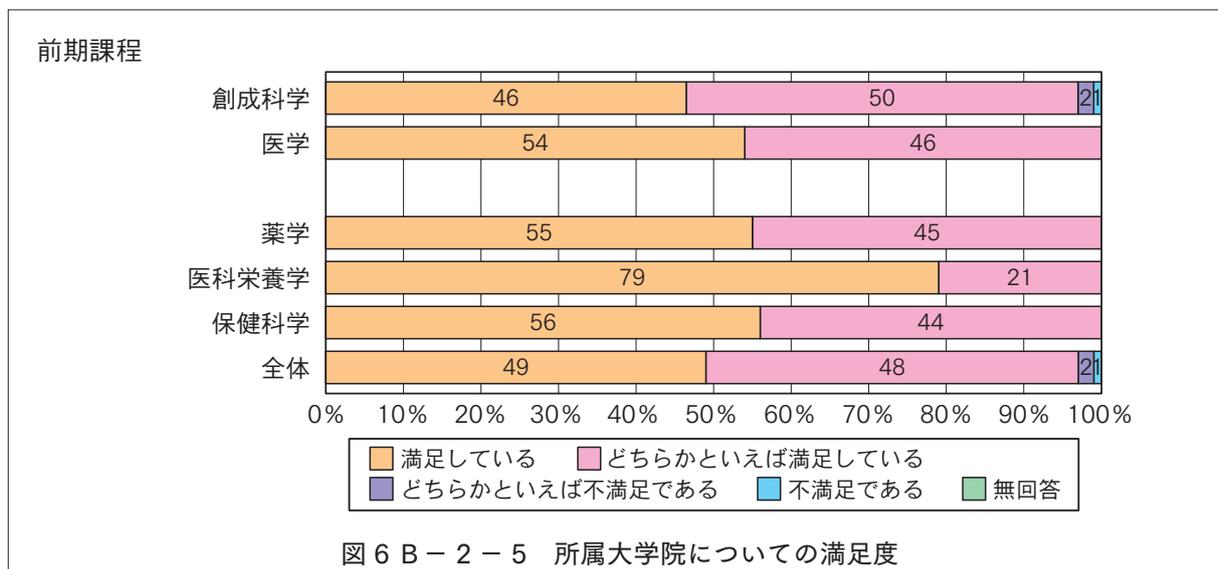




研究環境に不満足な理由について、前期課程、後期課程の全体では「施設・設備」「研究費用」を合わせたものはそれぞれ 82%、74%であり、大きな理由となっていた（図 6 B - 2 - 3、図 6 B - 2 - 4）。具体的に何がどのくらい不満足なのか、コミュニケーションを通じて理解を深め、ミスマッチをなくし、状況改善に繋げることが望まれる。



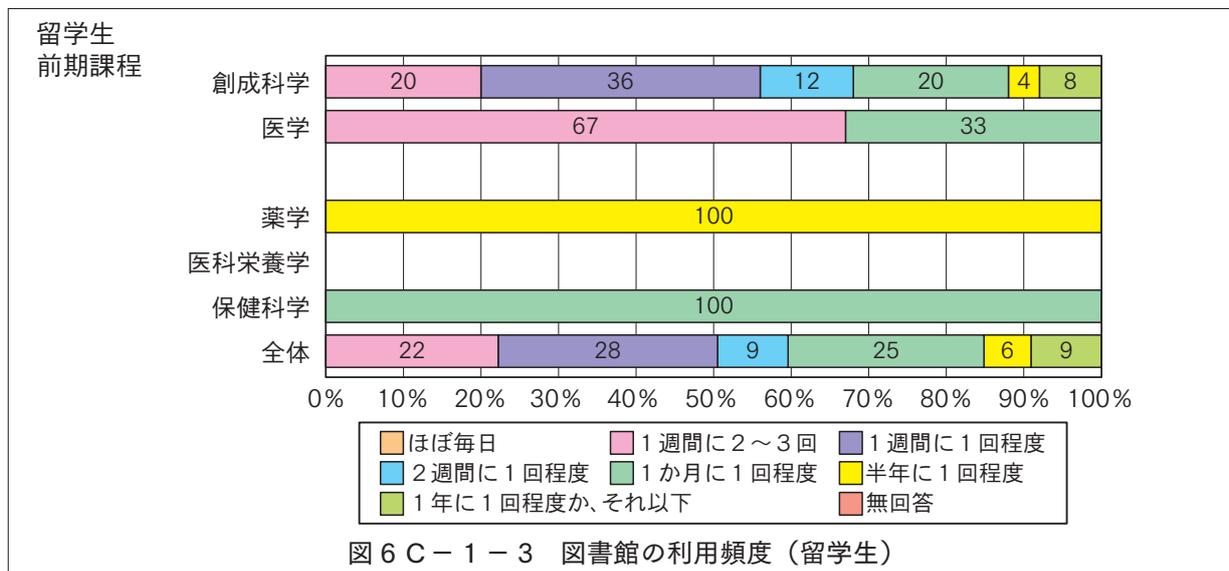
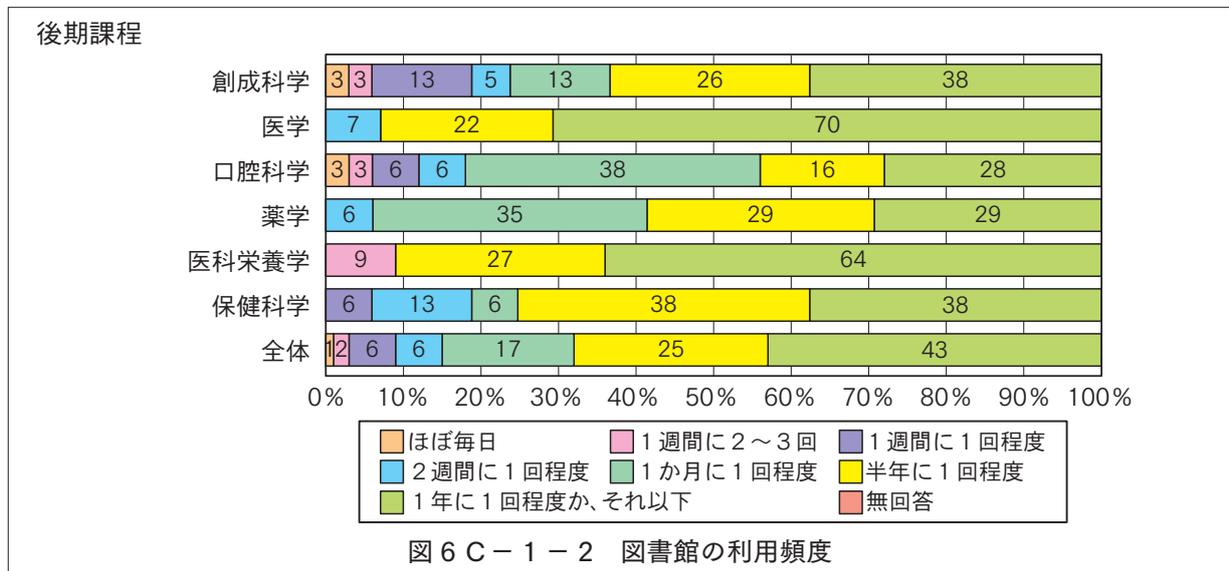
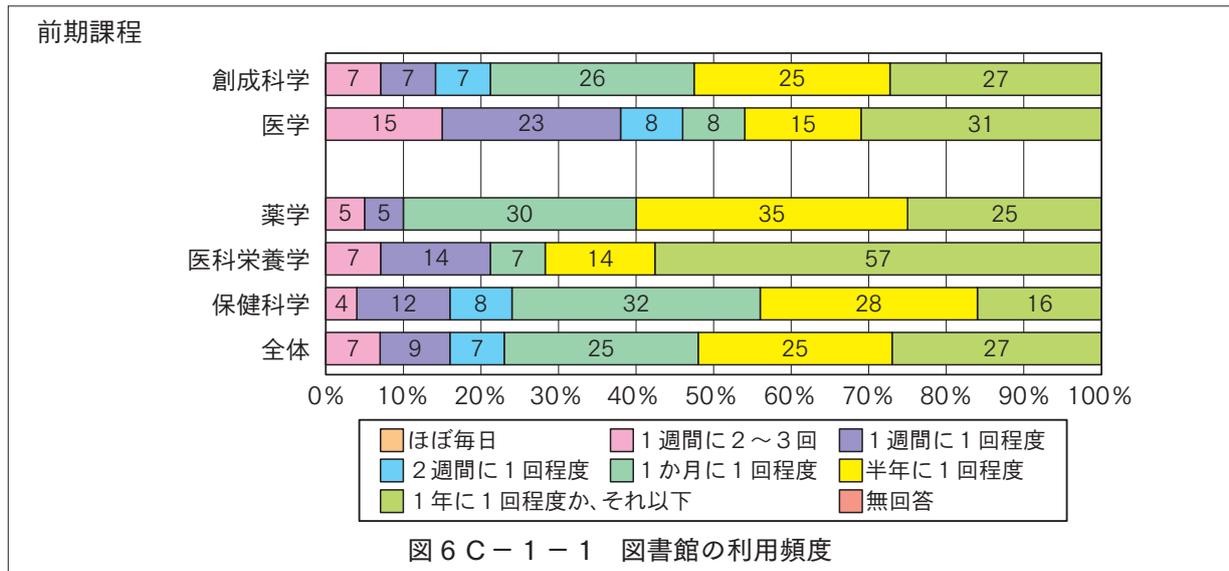
所属している研究科の満足度について、前期課程、後期課程について「どちらかといえば不満足である」「不満足である」を合わせたものは、どちらも3%であり、かなり良好な満足度だと考えられる（6B-2-5、図6B-2-6）。各研究科の比較では、後期課程における口腔科学、薬学、医科栄養学ではそれぞれ、6%、6%、9%となっており（それ以外の研究科では0%）、目立っている。留学生における満足度は全体に非常に高い。

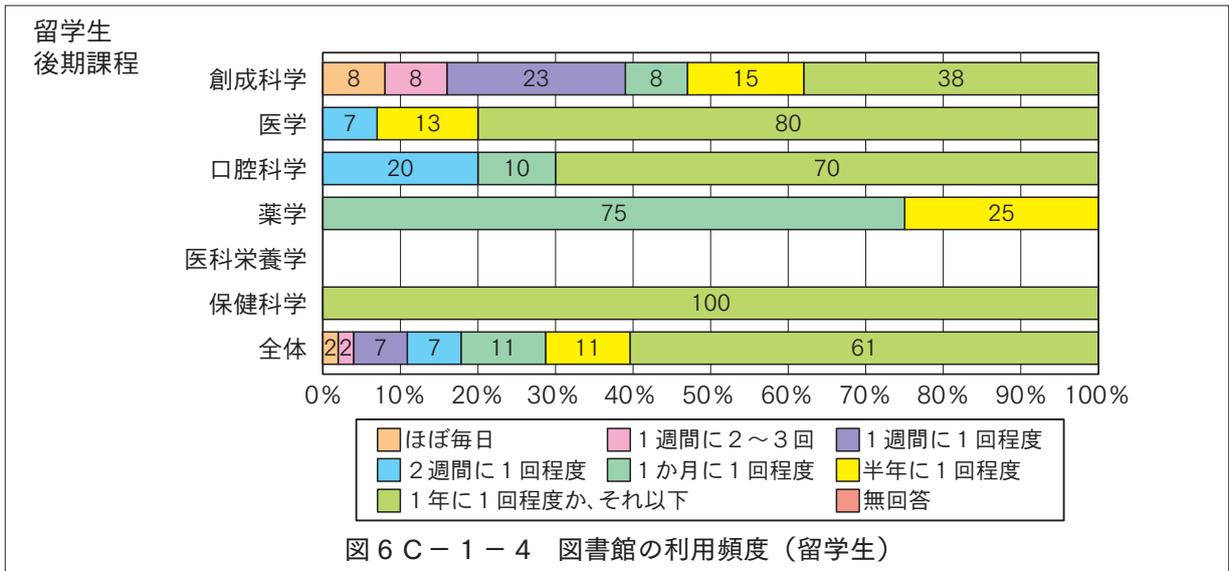


6C-1 図書館の利用状況 (図6C-1-1~6C-1-12)

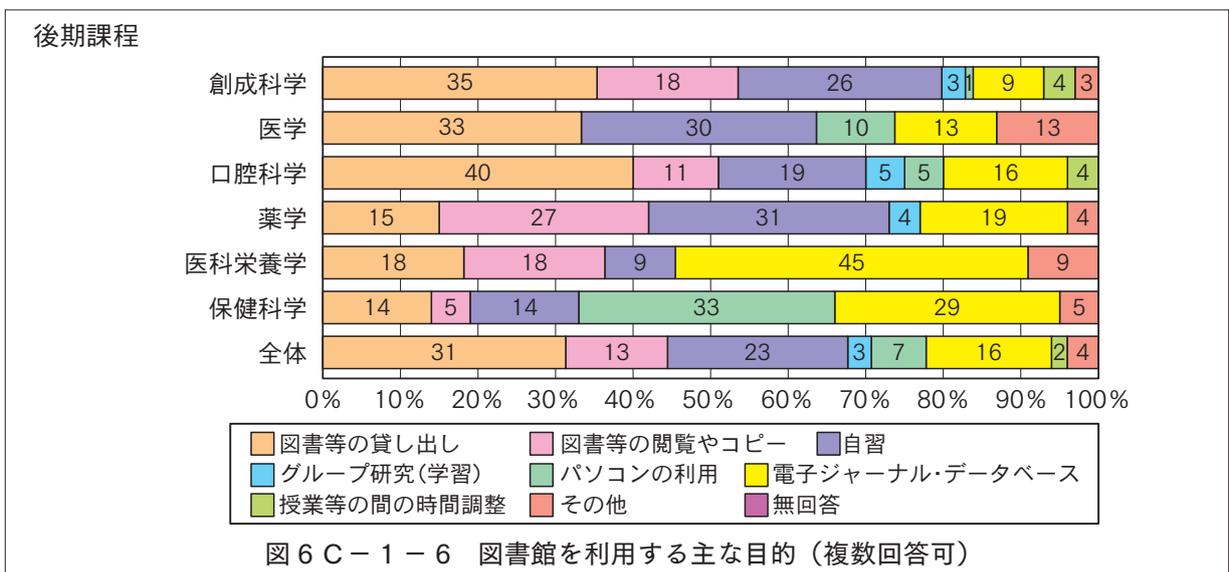
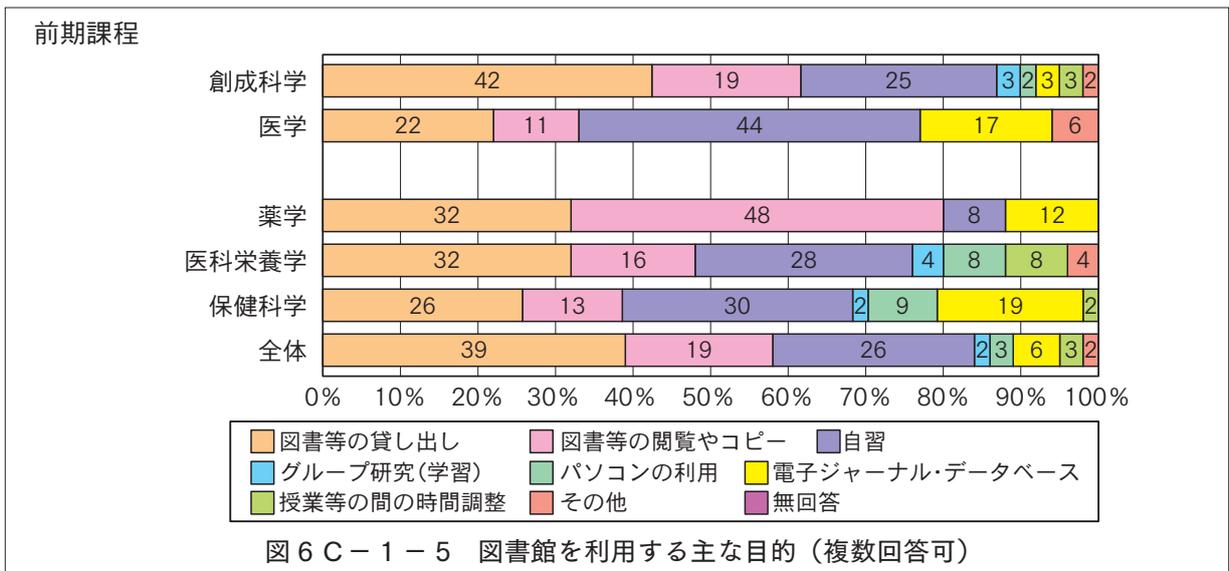
図書館を1週間に1回以上利用する学生は前期課程で16%、後期課程は9%であり、前回の第8回調査に比べると、前期課程は5%増加し、後期課程は増減なしであった（図6C-1-1、図6C-1-2）。前回の第9回の調査において、前期課程は第8回調査より3%減少していたことからすると、減少傾向が底打ちしたとも考えられる。後期課程は第9回調査では第8回調査から5%減少しており、第8回調査において第7回調査から変化がなかったことから、両課程ともに減少傾向が底打ちしたことが考えられる。利用頻度の割合は研究科・教育部間で大きく異なる結果であった。週に複数回利用する学生の多い研究科は、前回の調査と同様に、前期課程では医学、医科栄養学であり、後期課程では創成科学であった。ただし、研究科全体の利用頻度にはやや二極化の傾向が認められる。留学生については、回答数が

少ないので参考程度であるものの、創成科学において、特に後期課程の学生による活発な利用が窺われる（図6C-1-3、図6C-1-4）。

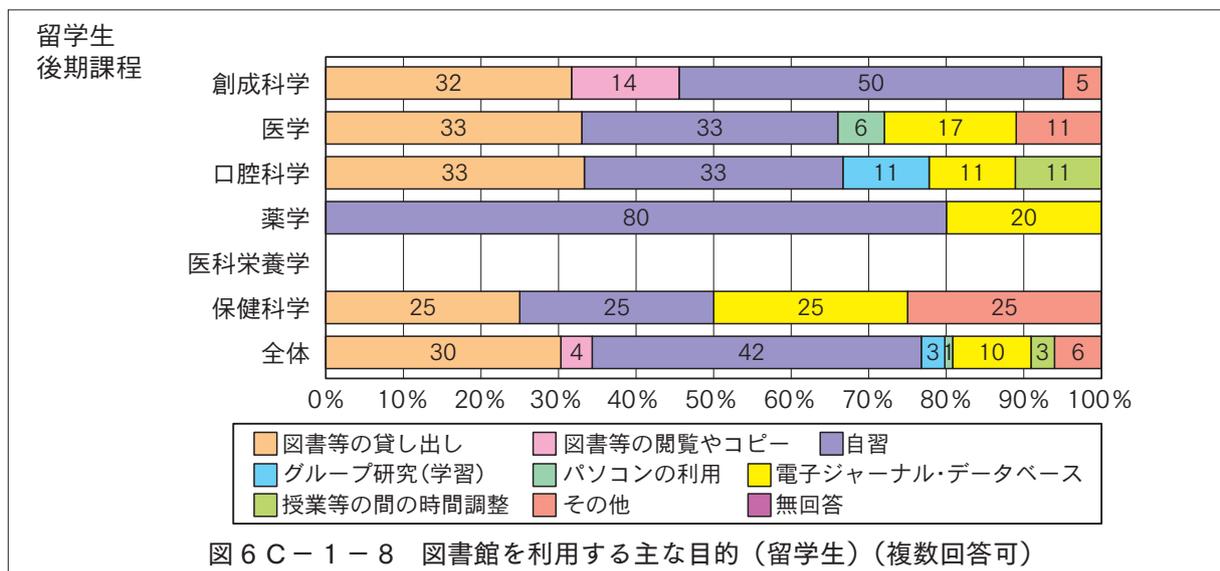
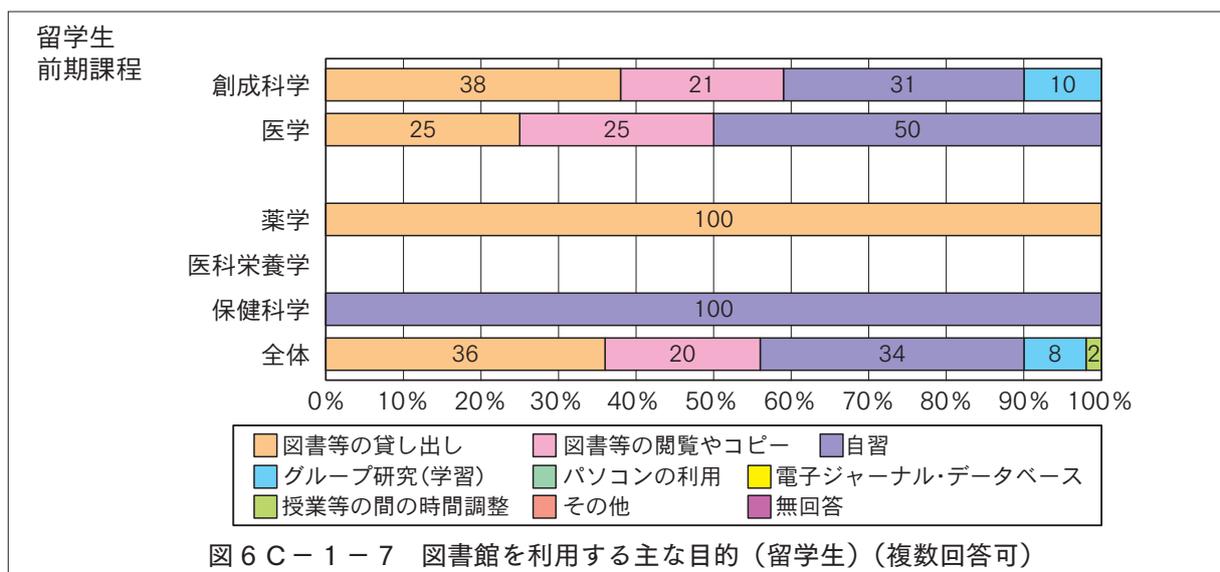




次に、図書館を利用する主な目的は、全体平均では、前期課程の58%、後期課程の44%の学生が「図書等の貸し出し」あるいは「図書等の閲覧やコピー」という結果であった(図6C-1-5、図6C-1-6)。前回の調査結果と比較して、前期課程が同じ、後期課程が8%減少していた。後期課程におい

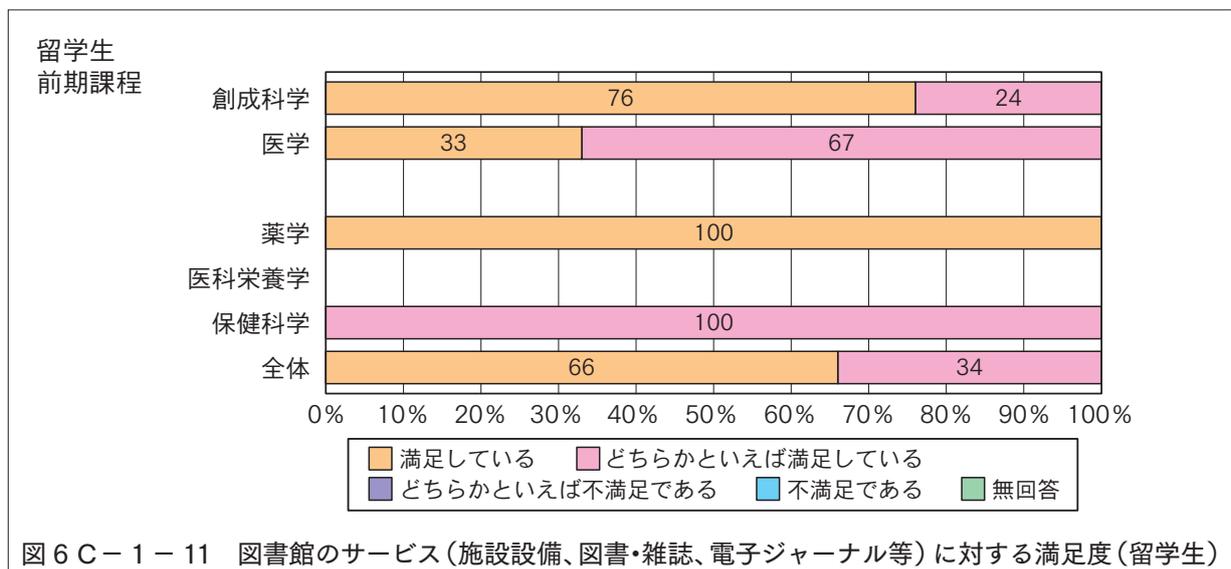
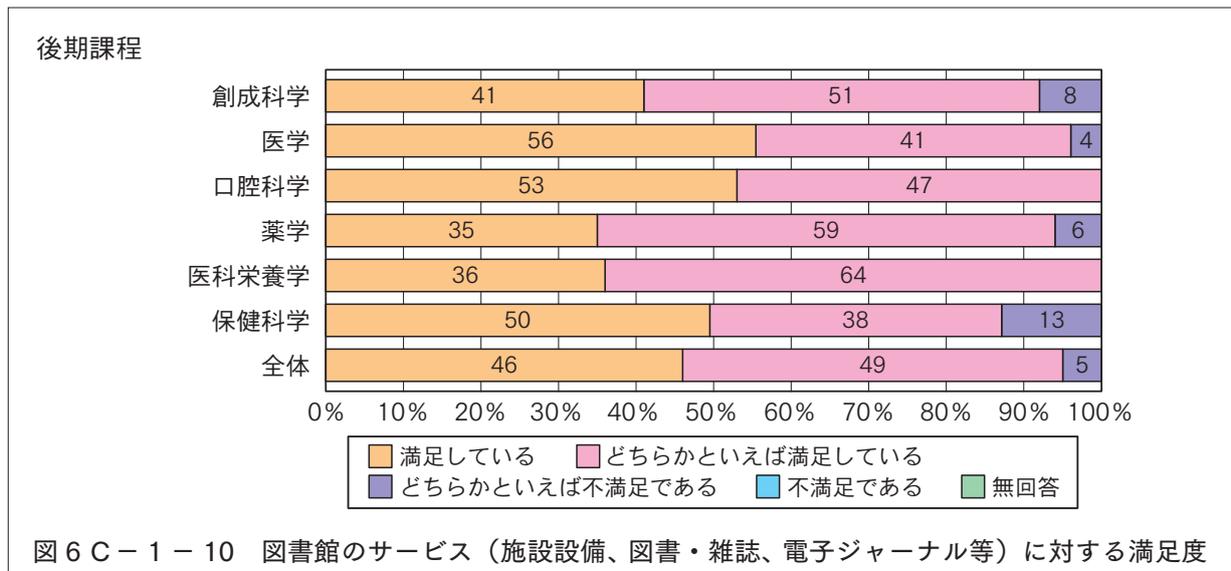
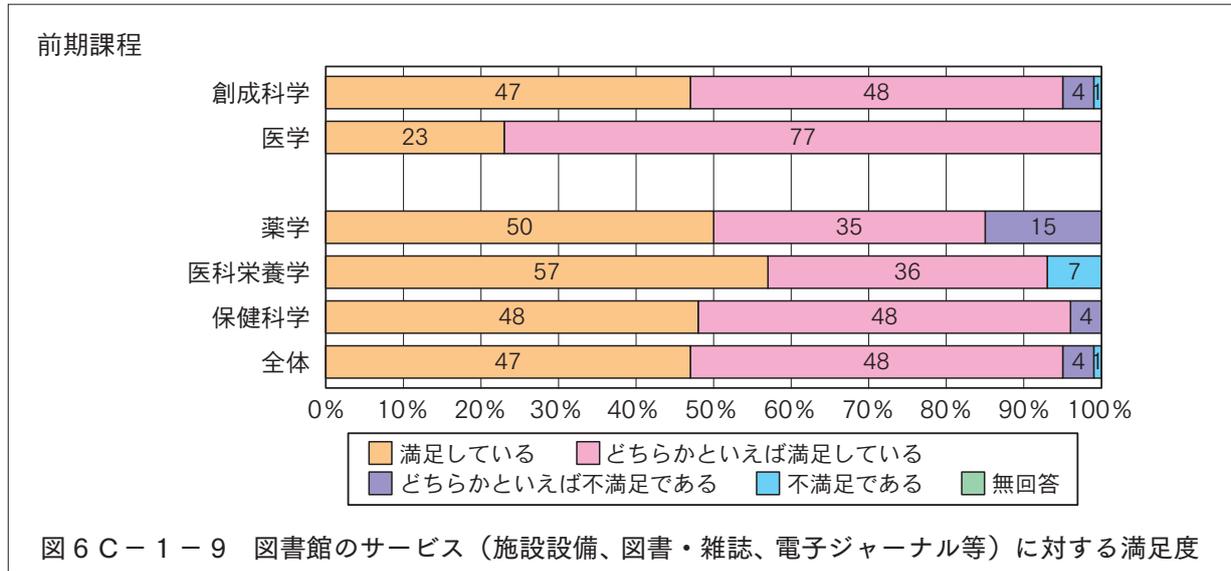


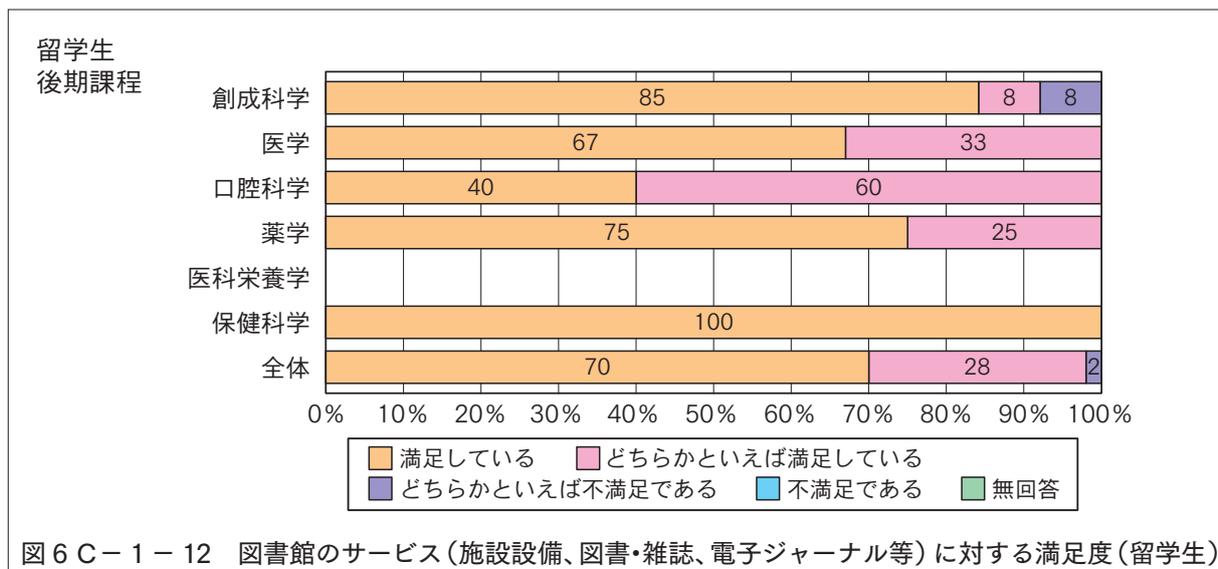
て「図書等の貸し出し」の割合が前期課程より低くなっており、一方で「電子ジャーナル・データベース」の割合が高くなっている。これは前回の調査結果と同様であり、後期課程における電子ジャーナル・データベース等の検索の重要性を反映したものと考えられる。また、前期課程において、「自習」の全体平均が前回の調査の22%から26%へ微増していた。しかし、研究科ごとに見ると、特に医学において自習を目的とした利用が前回の21%から44%に大きく増加したことが示された一方、薬学においては21%から8%に激減したなど、研究科の違いが大きいことが認められた。留学生では、前回の調査と同様に、前後期両課程で「自習」の割合が全学生平均より高い結果であった（図6C-1-7、図6C-1-8）。



図書館の提供するサービスに対する満足度は、全体平均において前期課程の95%、後期課程の95%の学生が、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」という結果で、前回の第9回調査に続いて概ね評価が高かった（図6C-1-9、図6C-1-10）。しかし、前期課程において、薬学と医科栄養学で、「どちらかといえば不満足である」と「不満足である」が増加している点が注目される。後期課程では、保健科学で「どちらかというとな満足である」と回答した学生が増加した。図書館を利用する主な目的についてのアンケート結果により、後期課程で「電子ジャーナル・データベース」の重要性が前期に対して高いことが示されており、電子ジャーナルやデータベース等の閲覧サービスの拡充を改めて検討する必要があると考えられる。留学生については、前期課程、後期課程共に

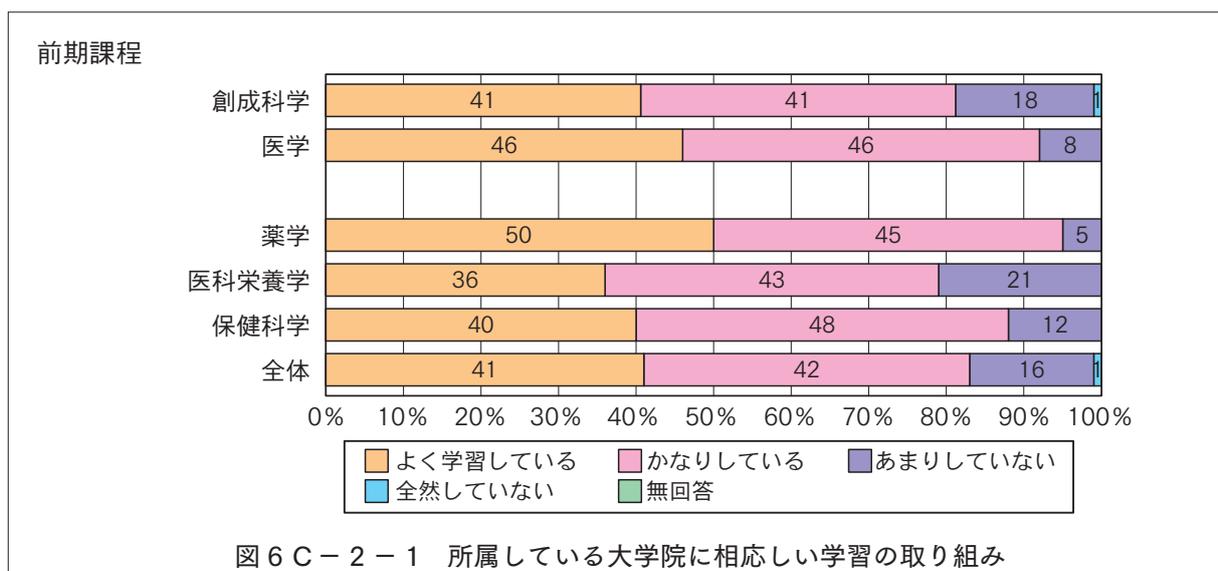
100%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、図書館の提供するサービスに関する満足度が全研究科を通じて高いことを示す結果となった（図6C-1-11、図6C-1-12）。

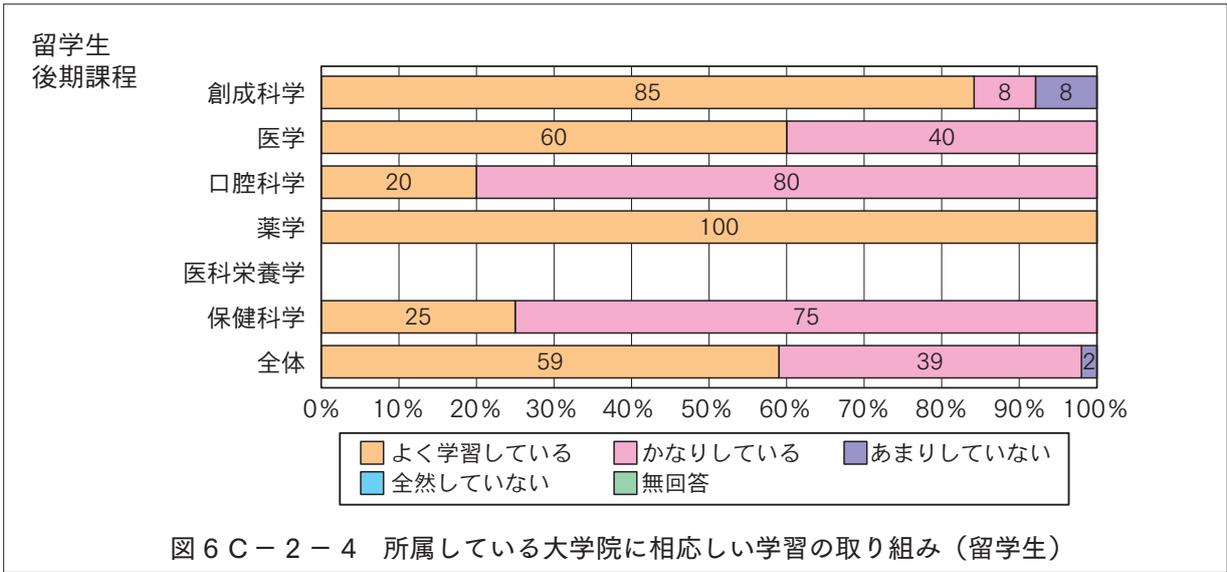
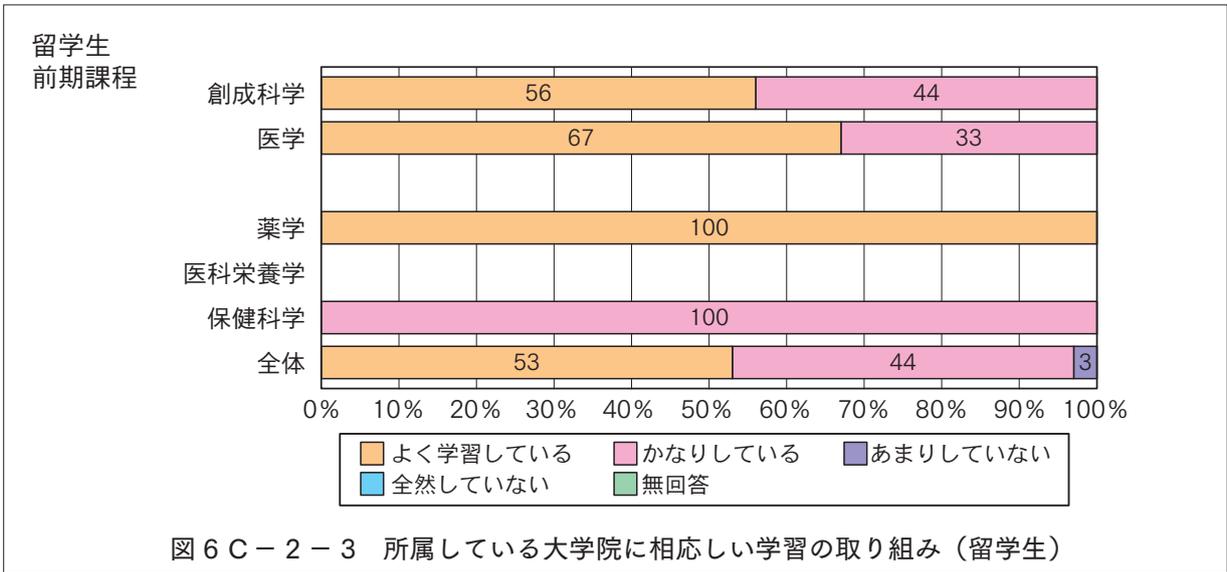
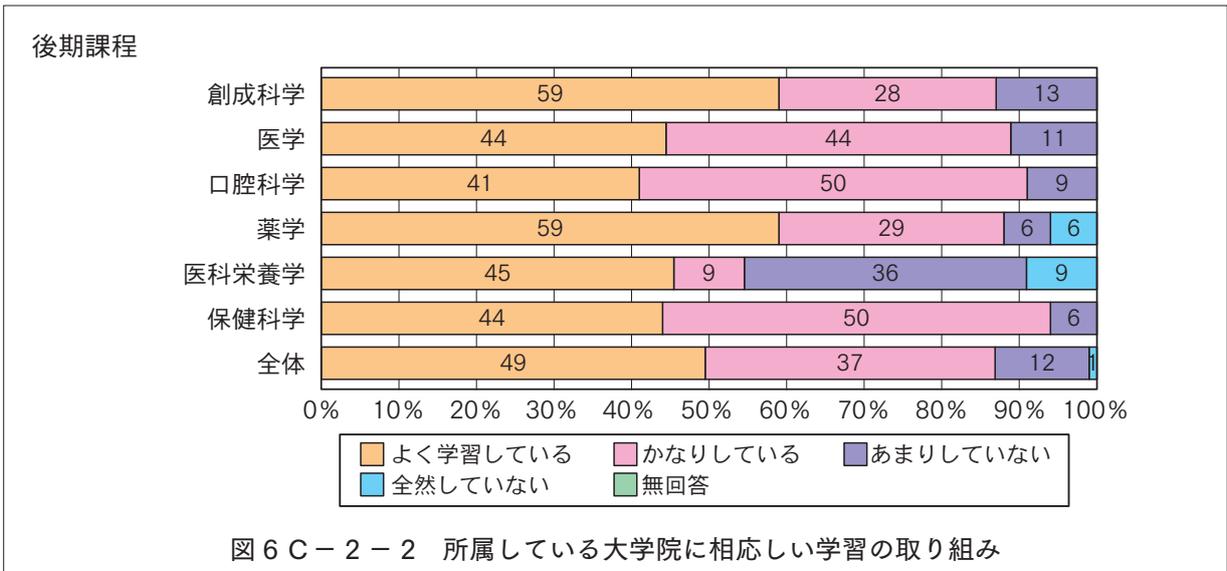




6 C - 2 学習への取り組み (図 6 C - 2 - 1 ~ 6 C - 2 - 4)

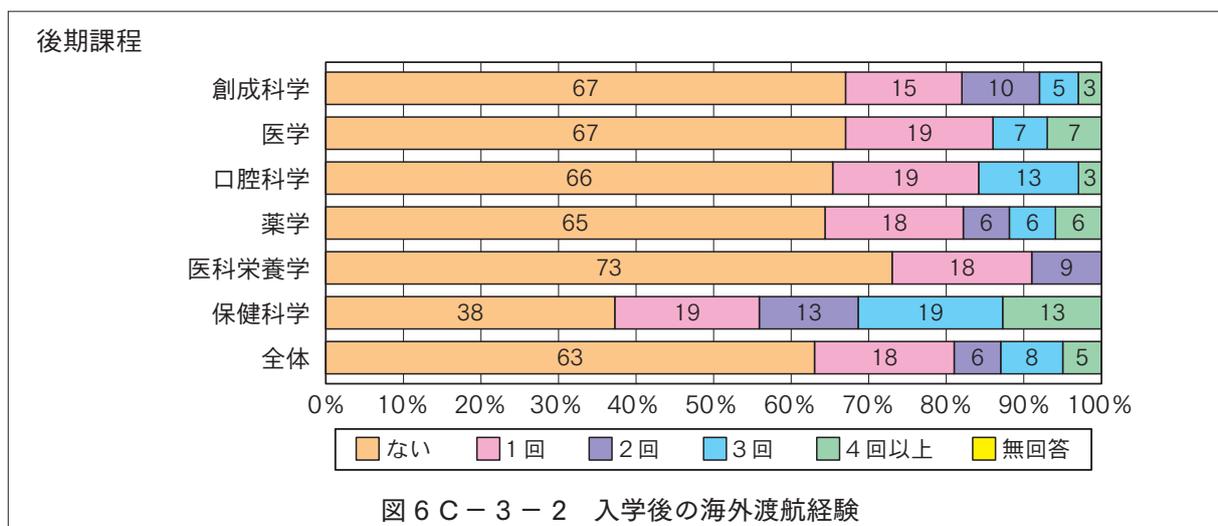
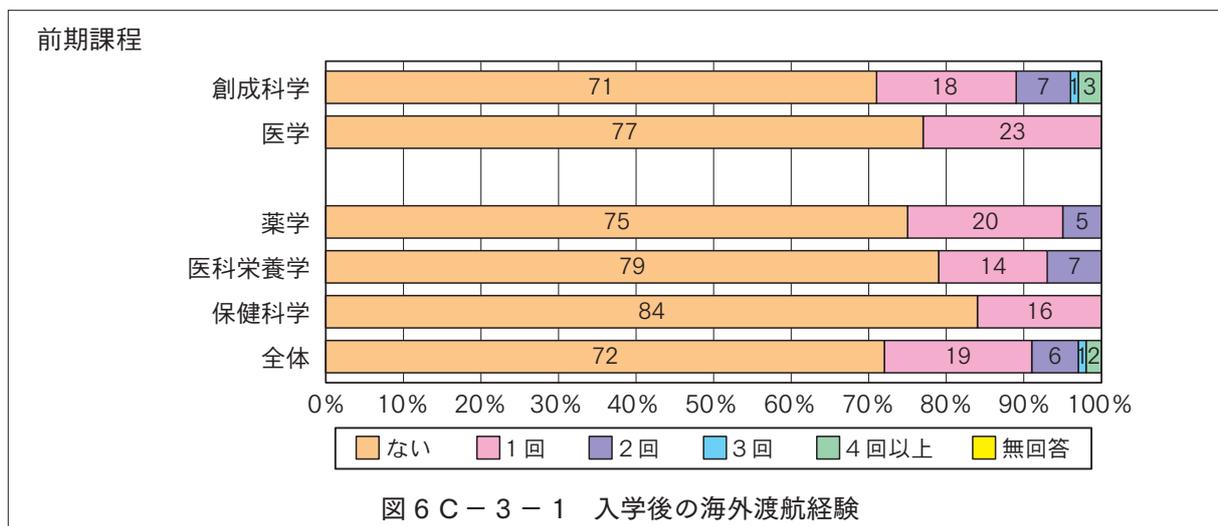
現在所属している大学院に相応しい学習への取り組み状況について、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した学生が、前期課程全体で 83%、後期課程全体で 86%であった(図 6 C - 2 - 1、図 6 C - 2 - 2)。前回の第 9 回調査ではそれぞれ 77%、78%であり、前期課程、後期課程共にやや増加している。研究科別に見ても、ほぼ違いはなく、前回の調査で薬学で低かったような研究科による差異は認められなかった。後期課程では、前回の調査で 62%だった医科栄養学で、今回も 54%と満足度が低かった。学習意欲の低い学生が増加している可能性があり、原因究明と対策の検討が望まれる。前回 50%だった保健科学は 94%と大きく増加した。留学生では、前期課程で 97%、後期課程で 98%の学生が「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答しており、前回の調査に引き続いて学生全体の数値を顕著に上回っていた(図 6 C - 2 - 3、図 6 C - 2 - 4)。前回の調査でも指摘されている通り、日本人学生の学習意欲を高める取組みが重要と考えられる。



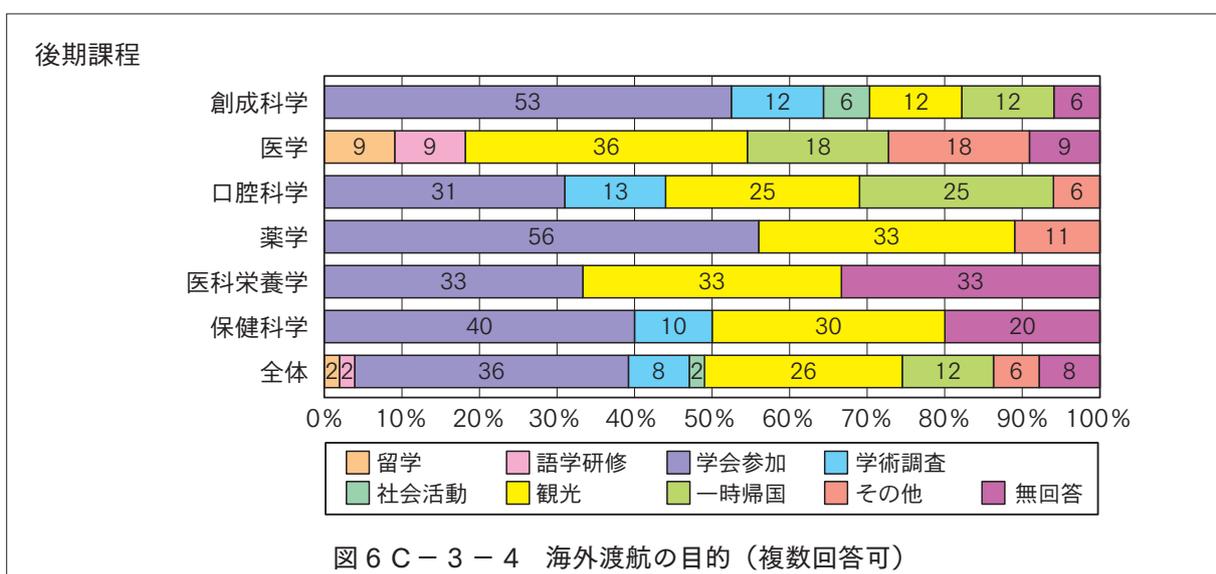
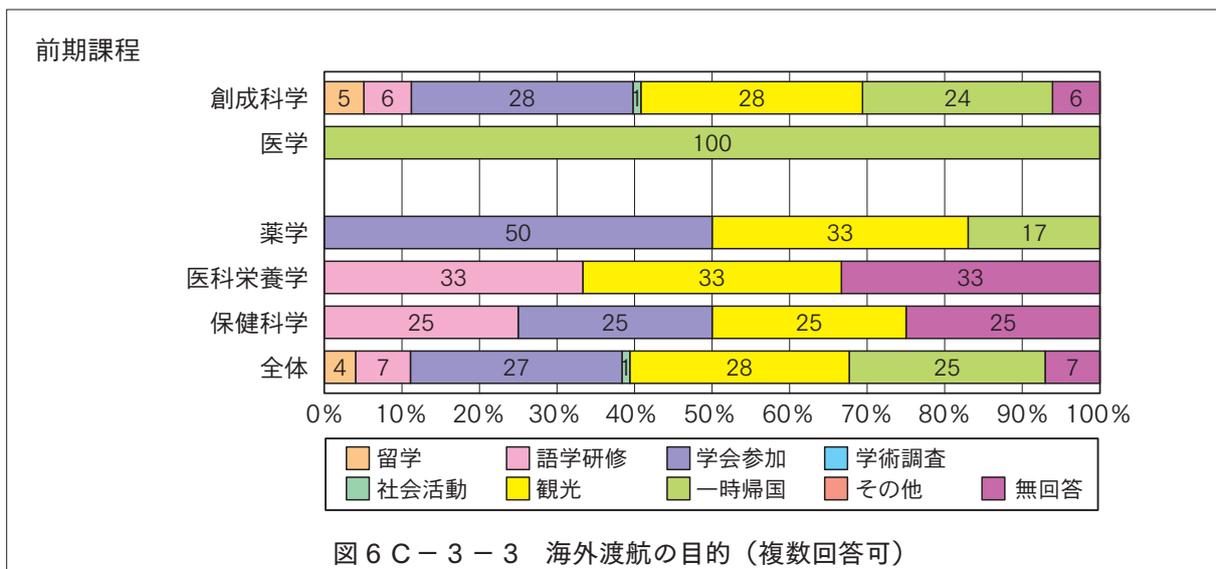


6 C - 3 海外渡航の経験と英会話 (図 6 C - 3 - 1 ~ 6 C - 3 - 10)

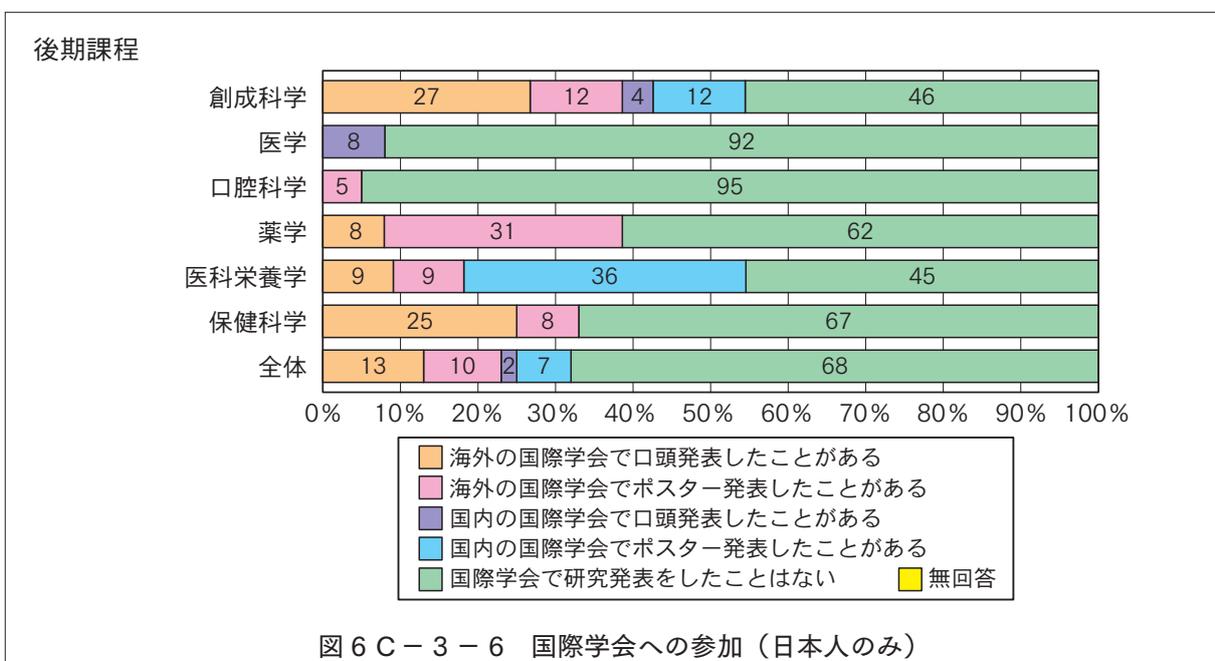
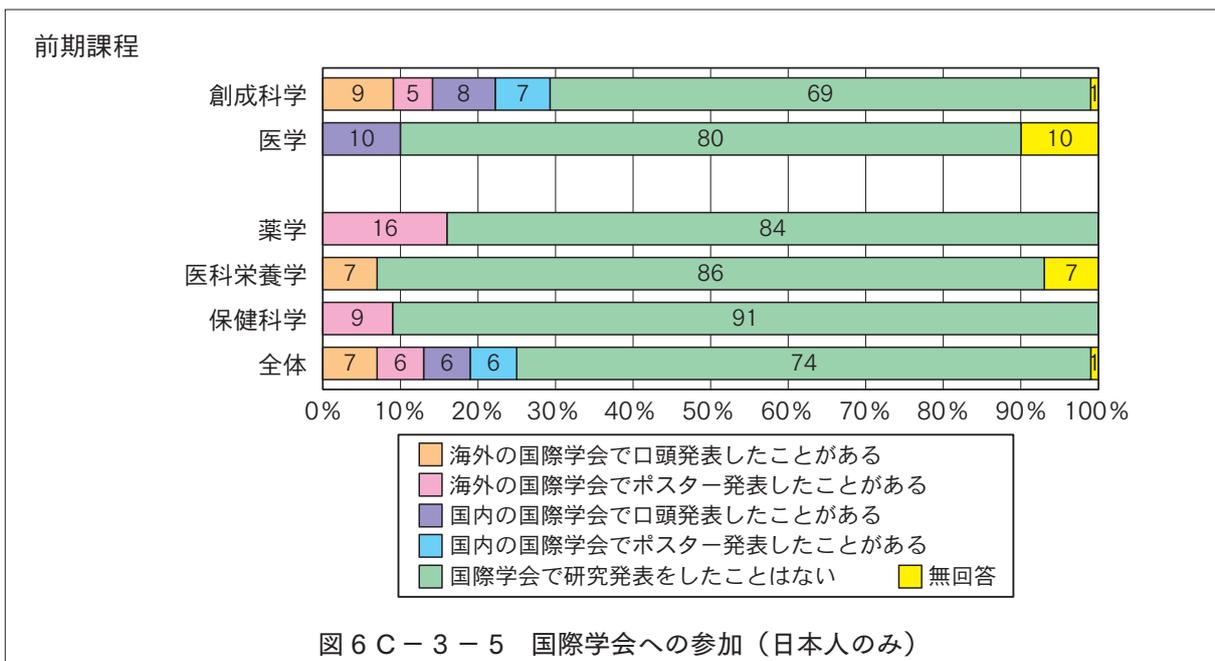
入学後の海外渡航経験については、前期課程全体の72%の学生が海外渡航経験が「ない」との回答であった(図6C-3-1)。渡航経験の無い学生は、前回の第9回調査で第8回調査の81%から87%へと増加していたが、今回ようやく底打ちしたように見える。加えて後期課程において、渡航経験が「ない」と答えた学生が前回調査の79%から今回63%へと顕著に減少した(図6C-3-2)。前期課程、後期課程を通じて、コロナ禍の大きな影響から脱却していることが窺える。



海外渡航の目的については、前期課程全体では観光が28%と最も多く、次いで学会参加が27%であった(図6C-3-3)。前回の第9回調査では観光に次いで多かった語学研修が18%から7%に減った代わりに、第8回調査で2番目に多かった学会参加が返り咲き、ここでもコロナ禍による影響からの脱却が窺える。後期課程においても、学会参加は、第8回調査の42%から第9回の28%へと大きく減少したが、今回は36%に増えている(図6C-3-4)。大学院生の段階で対面での国際学会に参加を経験することは国際性を身につけた人材としての成長に大変重要なことであり、ポストコロナでの国際学会参加が順調に復活していると推察される。他方、後期課程における観光目的の海外渡航が、前回の調査の17%から26%に大きく増えたのは、上記の学会参加の増加に引っ張られての副産物かもしれない。



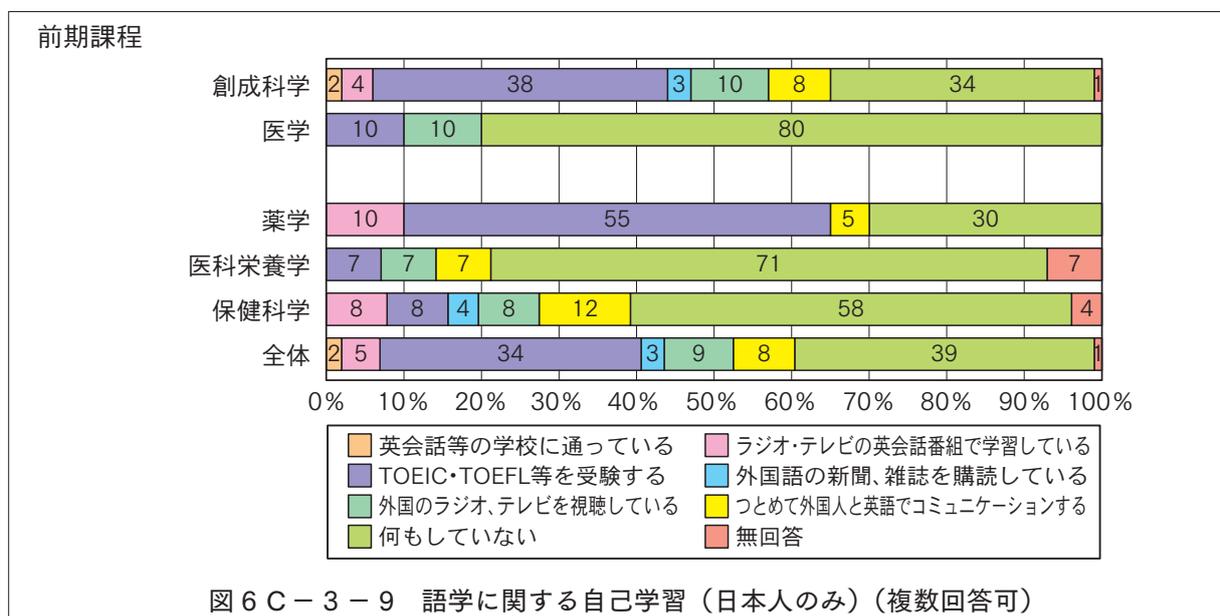
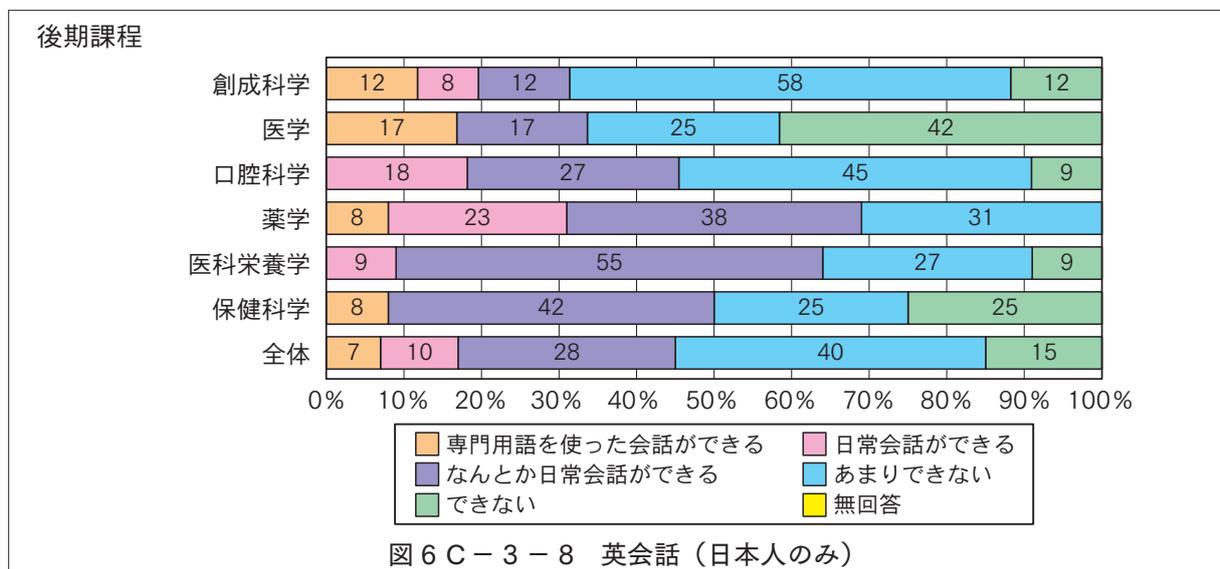
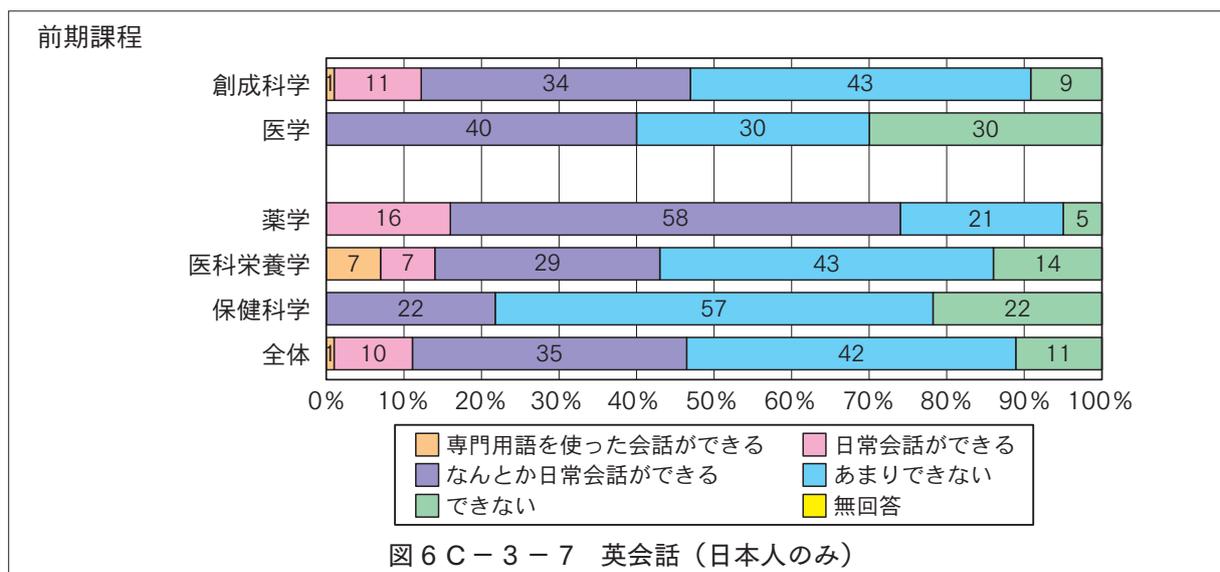
国際会議における研究発表については、前期課程全体では74%、後期課程全体で68%の学生が「発表をしたことがない」との回答であった(図6C-3-5、図6C-3-6)。上記の学会参加のための海外渡航の増加を裏付けるように、「発表をしたことがない」と回答した学生が減少し、「海外の国際学会で口頭発表をしたことがある」「海外の国際学会でポスター発表をしたことがある」と回答した学生が、第9回の6%から13%に増加した。後期課程では、全体で見ると国際学会での発表経験がない学生が68%にも上っており、総じて発表経験者の割合は低い。これは第9回の結果と概ね同様であるが、研究科別に見ると、個別に異なる変化があり、医学の海外学会での発表経験が、前回の40%から0%に激減した一方、創成科学では前回の17%から39%に激増した。国内の国際学会での発表を含めた発表経験では、前回の調査で50%と最も高かった保健科学では、海外での口頭発表は変わらないものの、国内国際学会での発表が減り、33%となった。他方、医科栄養学では、海外での発表が大きく増加し、国内での国際学会での発表と併せて54%と、創成科学の55%と並んで高い水準であり、これら二つの研究科で積極的な学生が育成されていることが想像される。



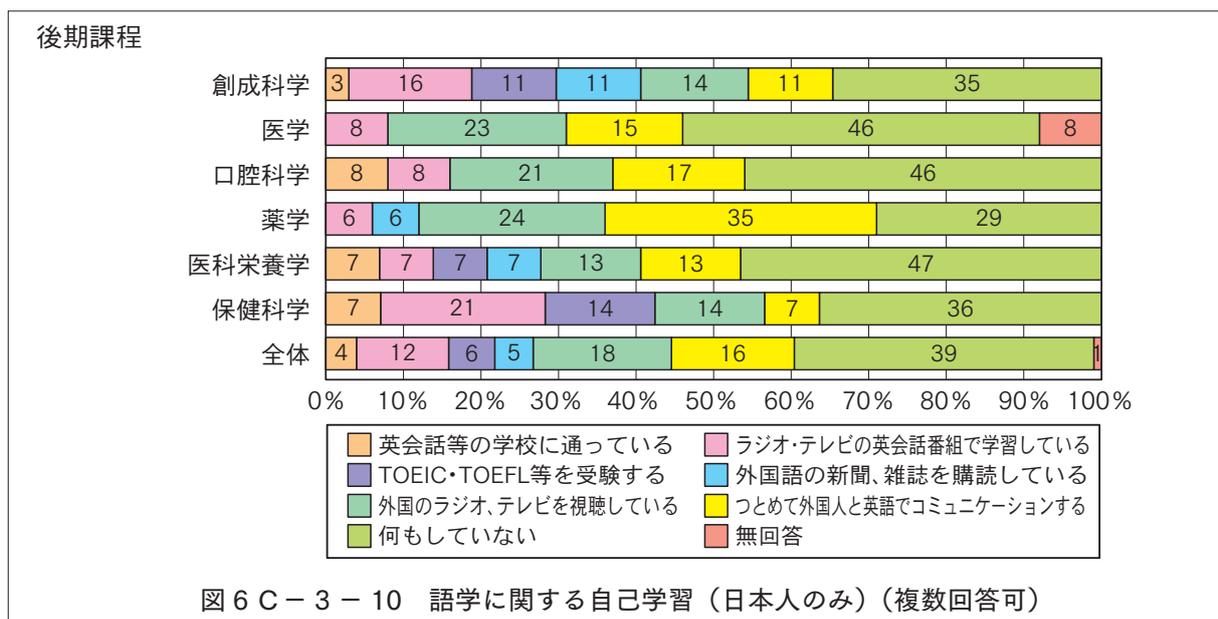
英会話能力については、前期課程の日本人学生全体では53%が、後期課程の学生では55%が「できない」もしくは「あまりできない」と回答した（図6C-3-7、図6C-3-8）。前回の第9回の調査ではそれぞれ57%と55%であり、ほぼ横ばい状態である。前期課程、後期課程共に、「専門用語を使った会話ができる」、「日常会話ができる」、「なんとか日常会話ができる」を合算しても50%に満たず、国際的な人材育成の観点から今後の改善が望まれる。国際会議発表を前提とした研究指導をより強く推進するなど、英会話能力向上へのモチベーションを高める工夫が重要であろう。

英会話に関する自己学習状況については、「何もしていない」という学生が前期課程、後期課程共に、39%であった。前回の調査結果の45%と46%からは、やや減少しており、観光であれ学会発表であれ、海外渡航の機会が増えたことと無関係ではないように思われる。しかし、研究科間で割合は大きく異なっており、前期課程においては創成科学、薬学ではTOEIC、TOEFL等の受験の割合が比較的高く、これらの研究科では語学力向上への何らかの取り組みを行なっている割合が50%を超えている。他方、医学、医科栄養学、保健科学では、前回の調査と同様に、「何もしていない」と回答した学生が50%

を大きく超えていた。しかし、後期課程では、医学以外の全研究科で何らかの取り組みをしている学生が50%を超えており、前期課程と異なる結果となった。また、後期課程の各研究科で、「外国のラジオ、



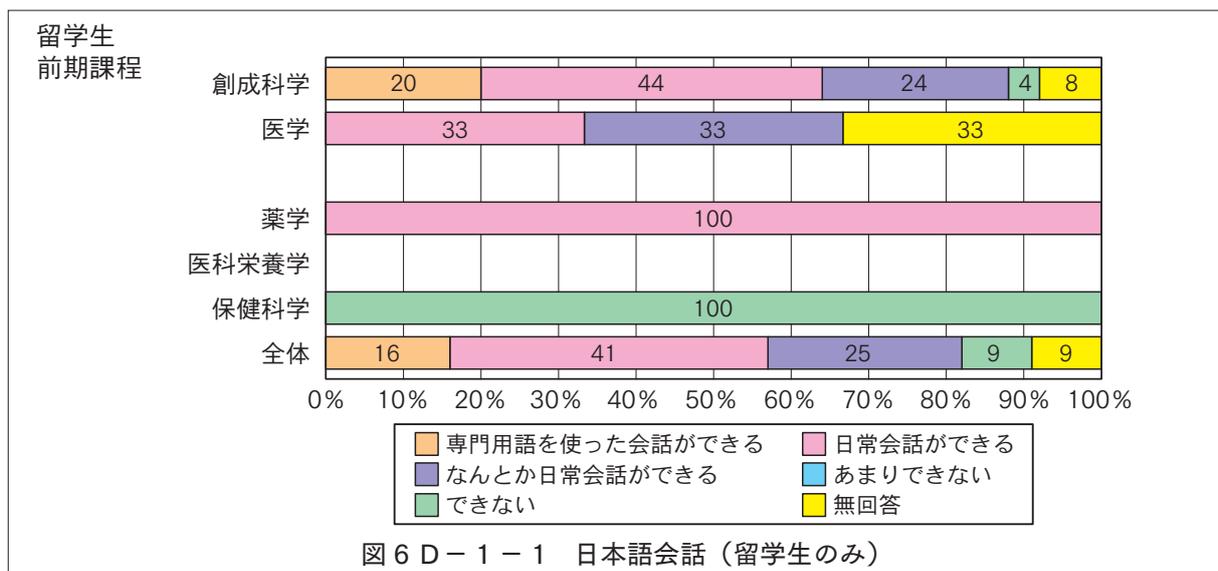
テレビを視聴している」と回答した学生の割合が前期より高くなっていった。これは前回の調査結果でも見られたことで、全体的に後期課程の方が取り組みの内容は多様化していると推察される。

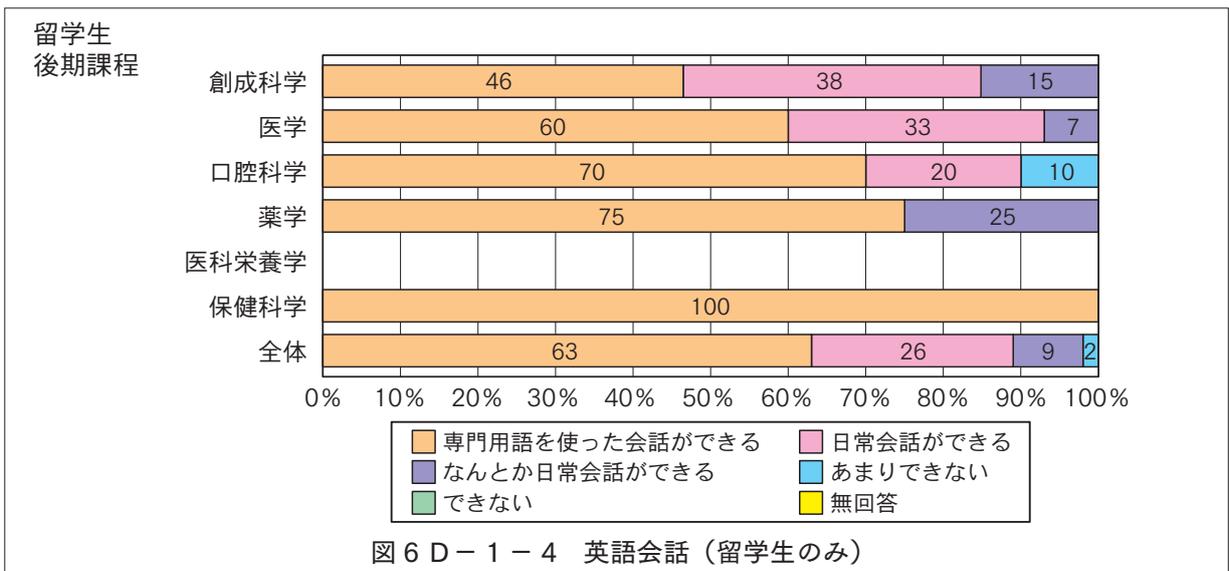
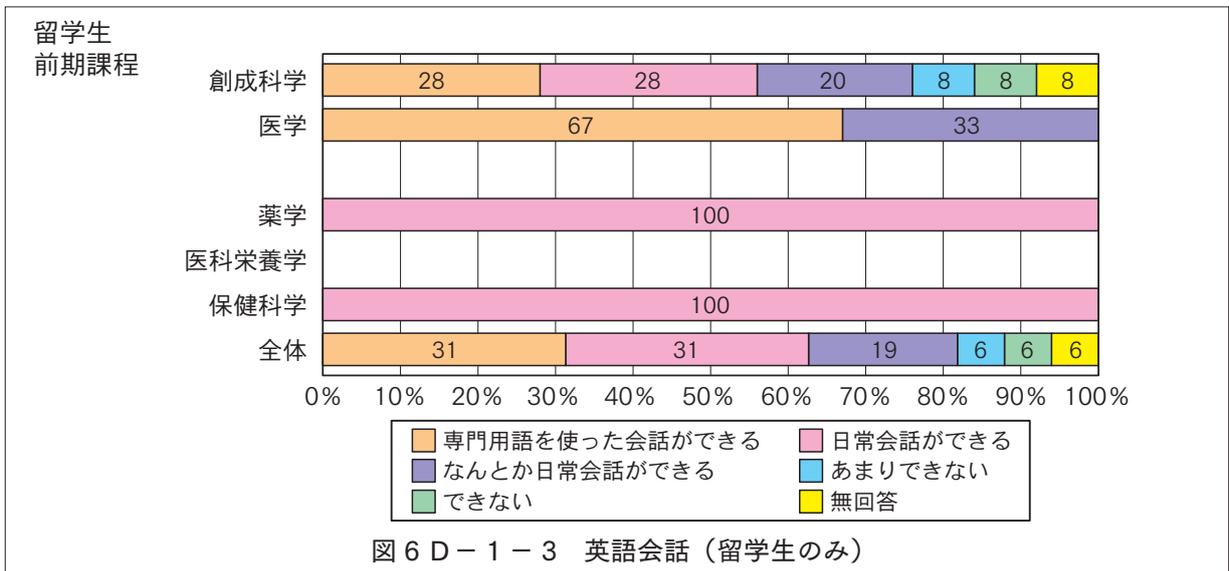
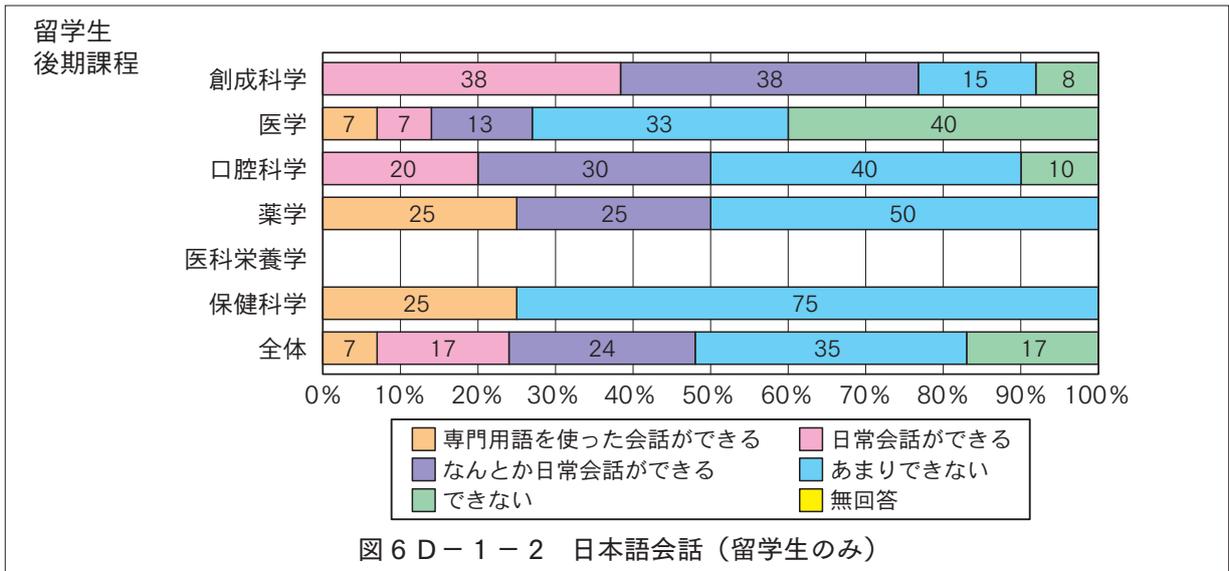


6 D - 1 日本語会話 (図 6 D - 1 - 1 ~ 6 D - 1 - 8)

留学生の日本語会話の能力について、前期課程では82%、後期課程では48%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上と回答した（図 6 D - 1 - 1、図 6 D - 1 - 2）。前回調査では前期課程で91%、後期課程で64%であり、かなり減少している。前期課程と後期課程両方の留学生における日本語会話に支障がある割合が前回に続き高いことから、事務手続き等の英語でのサポート体制や日本語習得へのサポートが十分であるか検討が必要と考えられる。

留学生の英語会話の能力について、前期課程では81%、後期課程では98%の留学生が「なんとか日常会話ができる」以上と回答した（図 6 D - 1 - 3、図 6 D - 1 - 4）。前期課程の留学生に英語でのサポート体制が十分であるか検討が必要と考えられる。

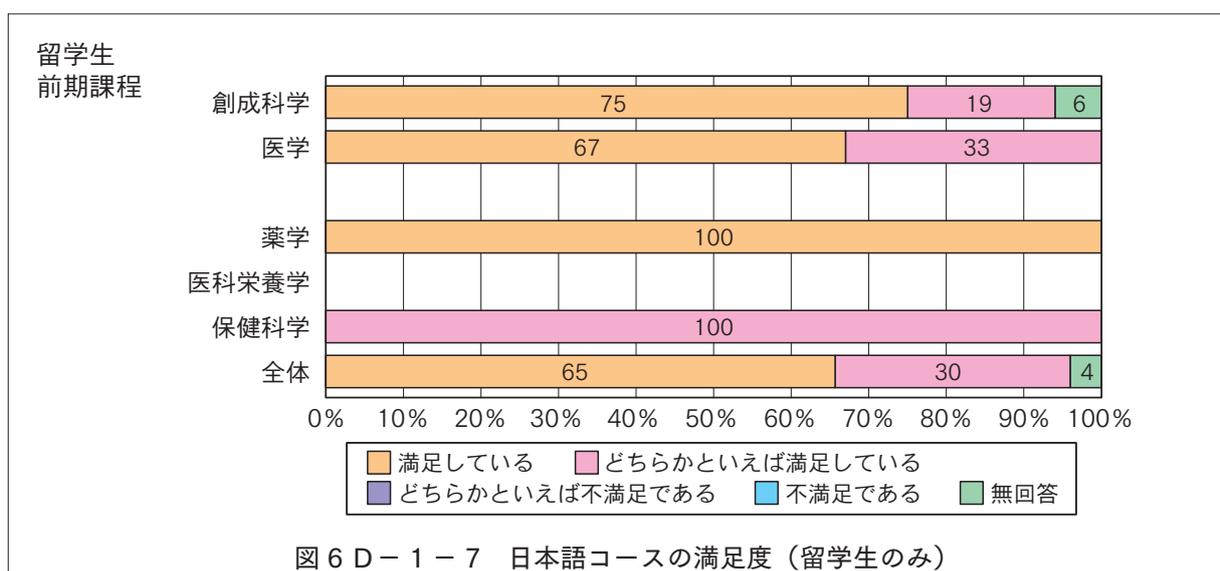
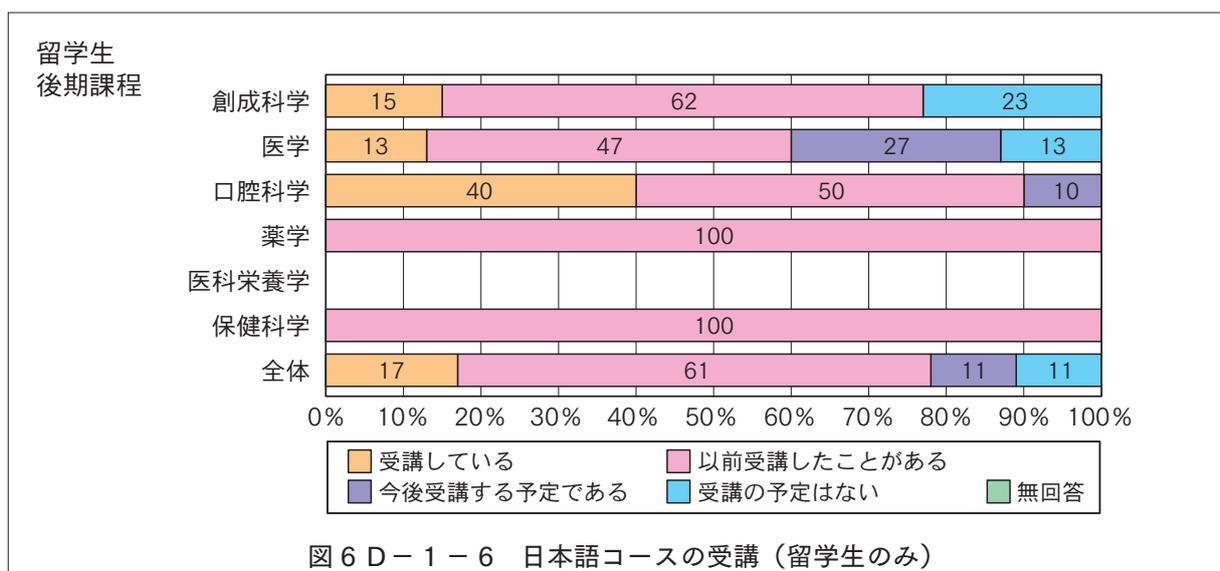
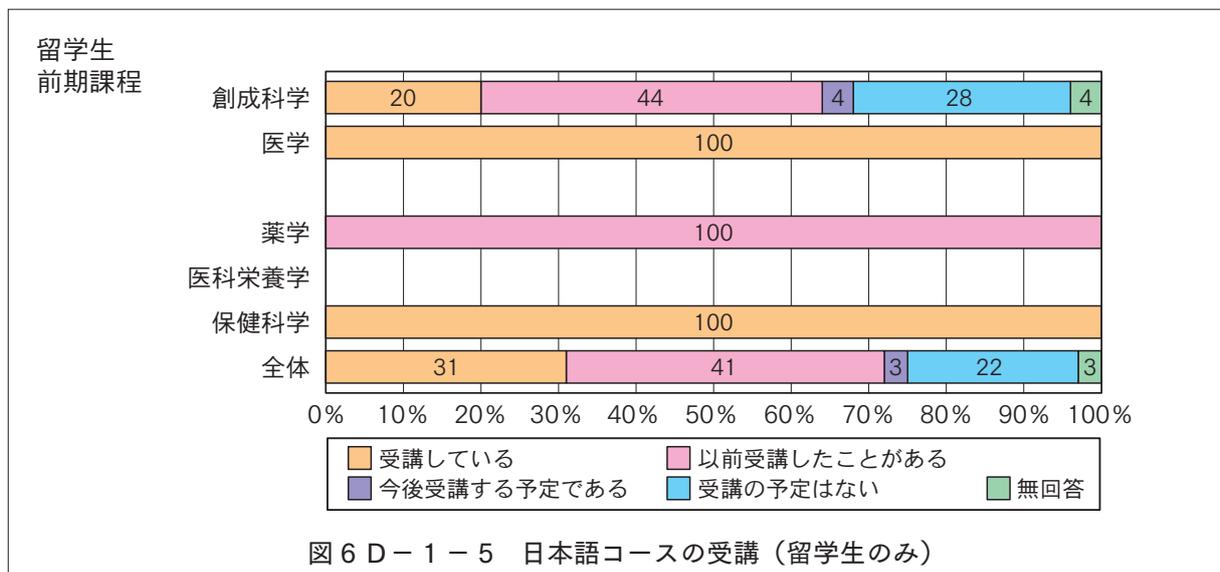




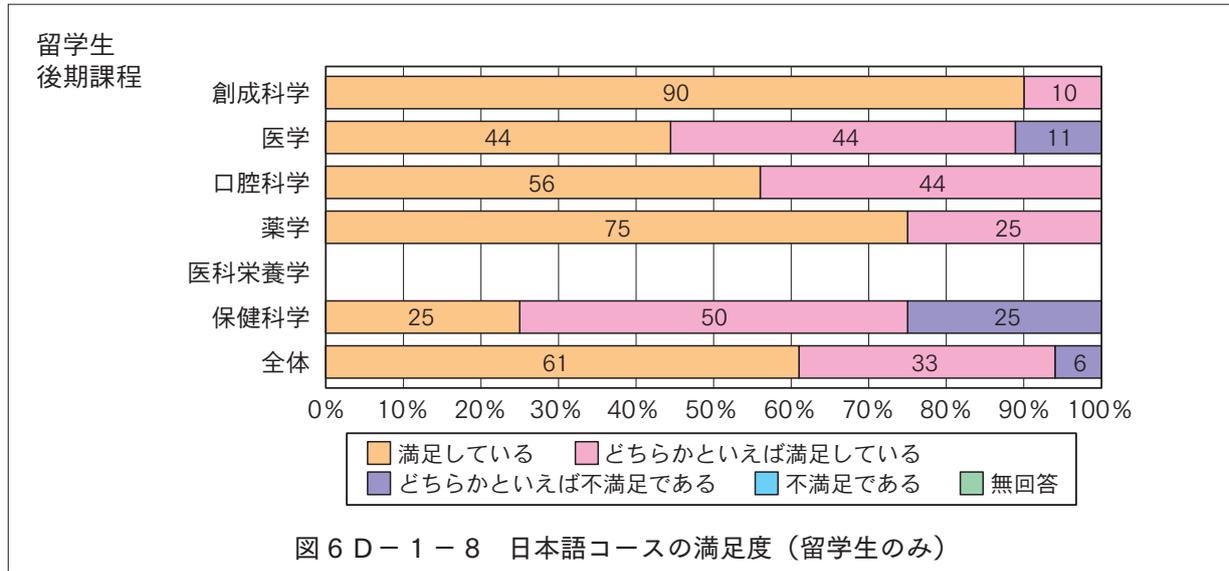
留学生の日本語コース受講については、前期課程では75%、後期課程では89%が「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、前回調査に続き日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示された（図6 D - 1 - 5、図6 D - 1 - 6）。前回調査で

はこれらの回答割合が前期課程で78%、後期課程で95%であり、今回両方で減少している。

一方、日本語コースの満足度については、前回調査で前期課程で72%、後期課程で82%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答したのに対し、今回の調査では前期課

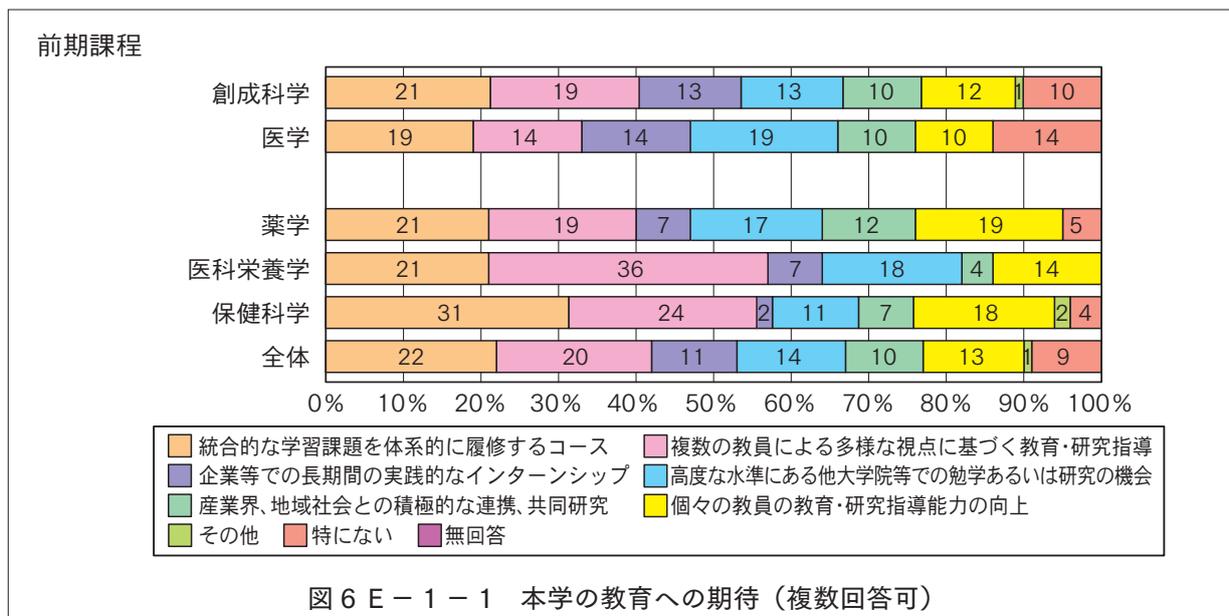


程で95%、後期課程で94%と両課程で向上していた（図6D-1-7、図6D-1-8）。回答数は前期23名、後期36名と増加しており、本学で開講されている「日本語コース」の内容のさらなる充実に向けた取り組みが望まれる。



6E-1 本学の教育への期待（図6E-1-1～6E-1-8）

学生が自身の将来のために本学の教育に望むものについては、前期課程、後期課程共に、6種類の選択肢が満遍なく選ばれており、前回までの調査に続いて学生ごとのニーズの多様性を示す結果となった（図6E-1-1、図6E-1-2）。留学生では、前回の調査結果と同様に、「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」を望む割合が学生全体に比べてやや高い（図6E-1-3、図6E-1-4）。多様なニーズを考慮しつつ教育プログラムや指導体制などの改善を続けることが重要と考えられる。



後期課程

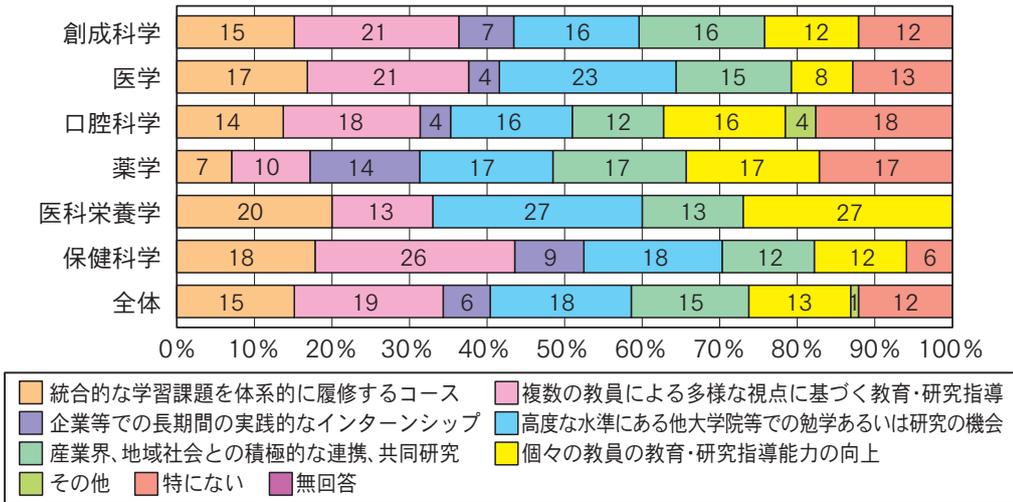


図 6 E - 1 - 2 本学の教育への期待（複数回答可）

留学生
前期課程

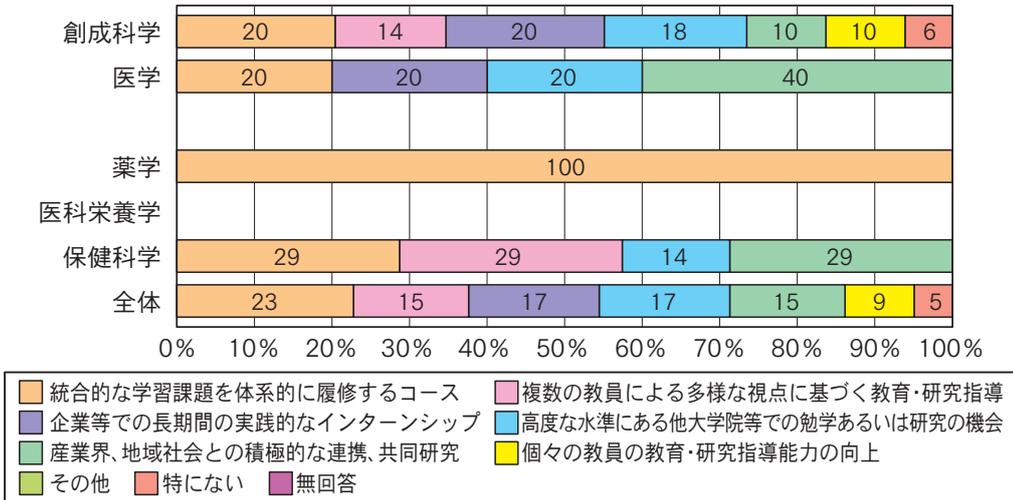


図 6 E - 1 - 3 本学の教育への期待（留学生）（複数回答可）

留学生
後期課程

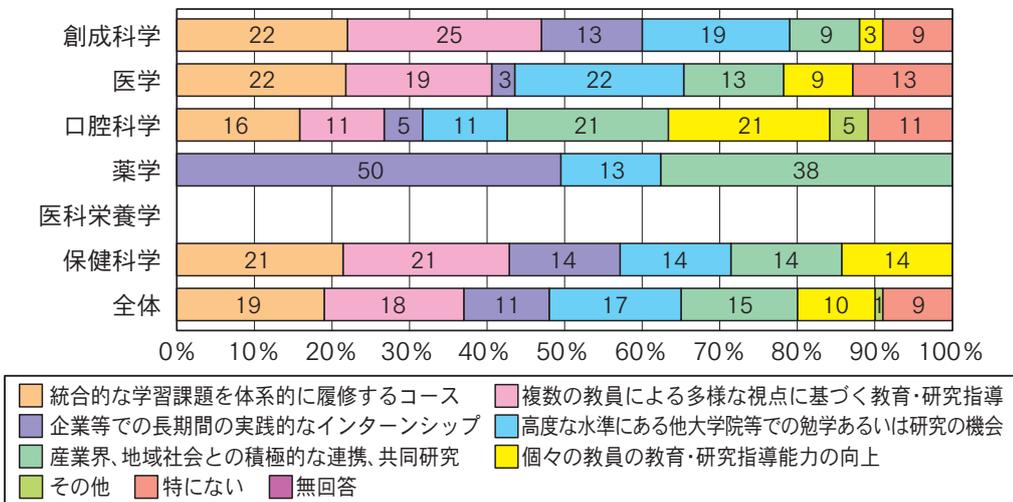
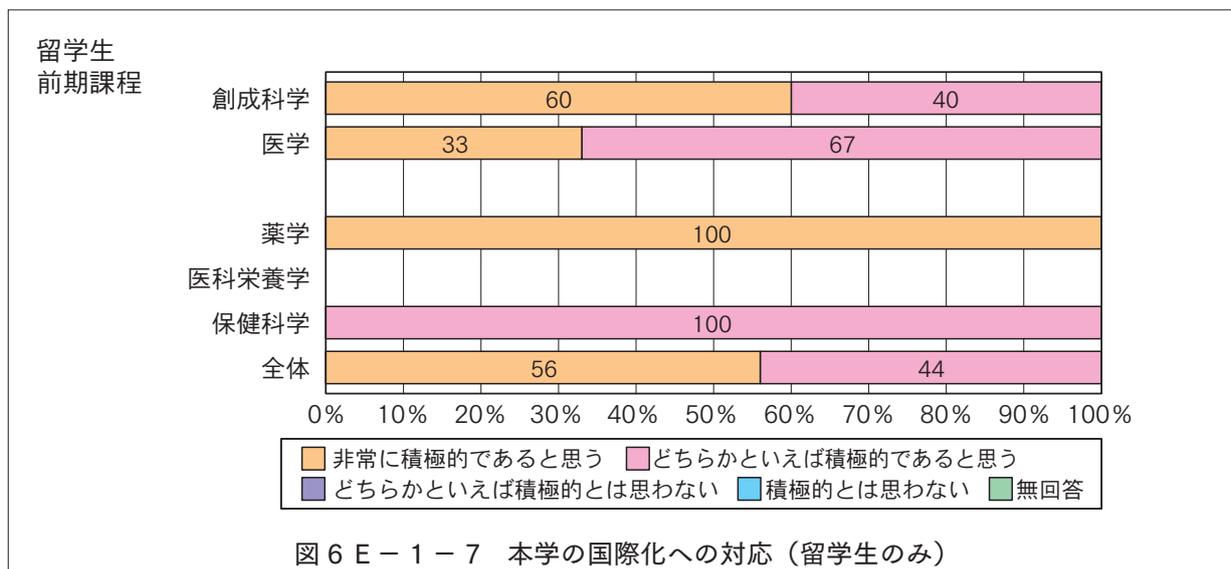
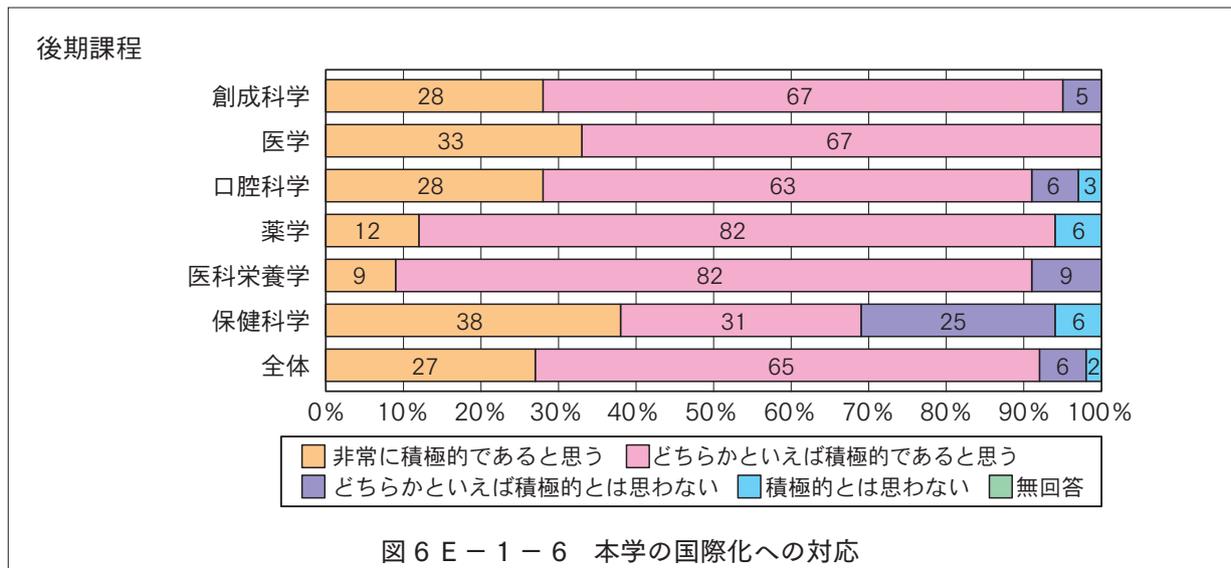
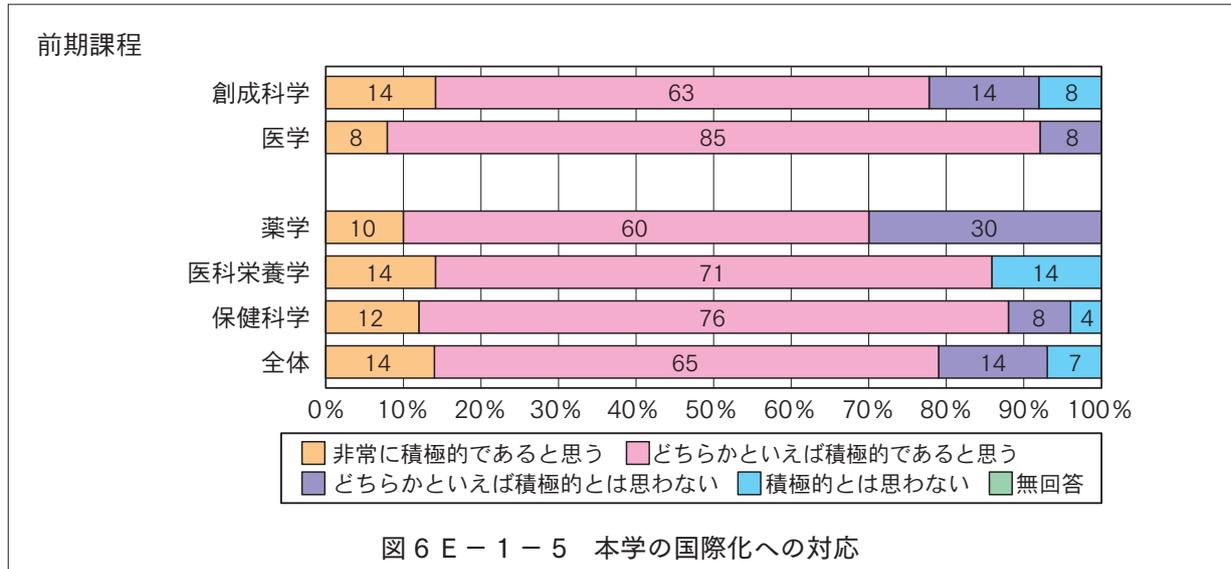
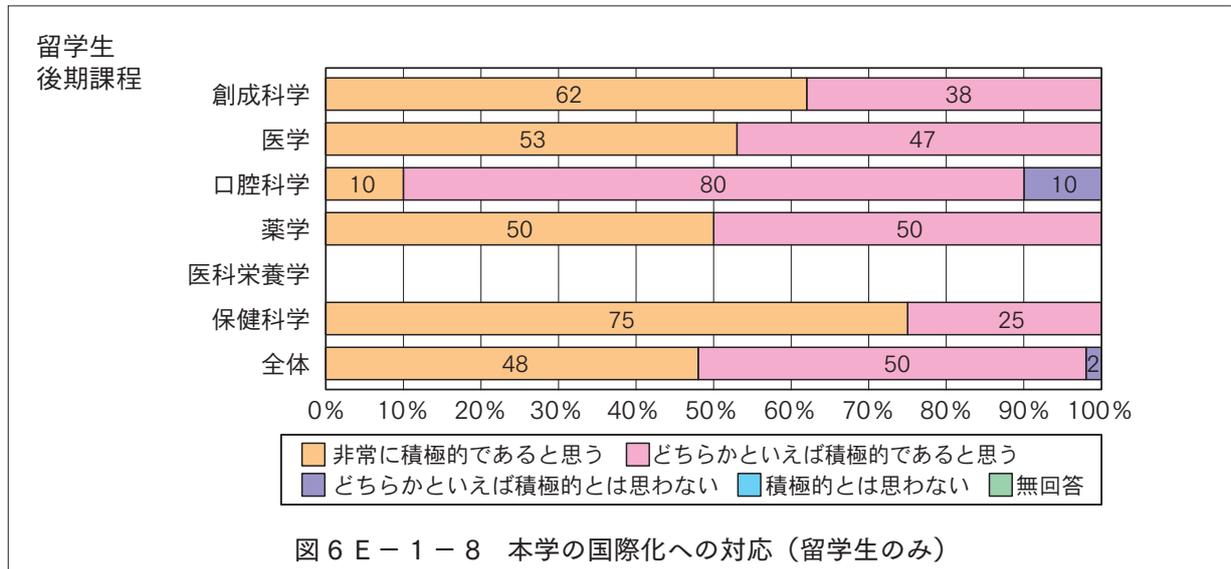


図 6 E - 1 - 4 本学の教育への期待（留学生）（複数回答可）

本学の国際化への対応については、前期課程全体の79%、後期課程全体の92%の学生が、「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した（図6E-1-5、図6E-1-6）。前回調査の77%、89%から両課程ともやや上昇しており、本学の国際化への取り組み



みに対する学生の評価の高さが感じられる。この傾向は留学生でも明確に表れており、前期課程で100%、後期課程で98%となっている（図6E-1-7、図6E-1-8）。ポストコロナでの留学や国際会議などの機会が増加するにつれて、国際化に向けた取り組みは今後ますます重要性を増すと考えられる。国際化の目的に沿う形での教育カリキュラムや研究指導体制の改善・強化の取り組みを継続することが重要であろう。

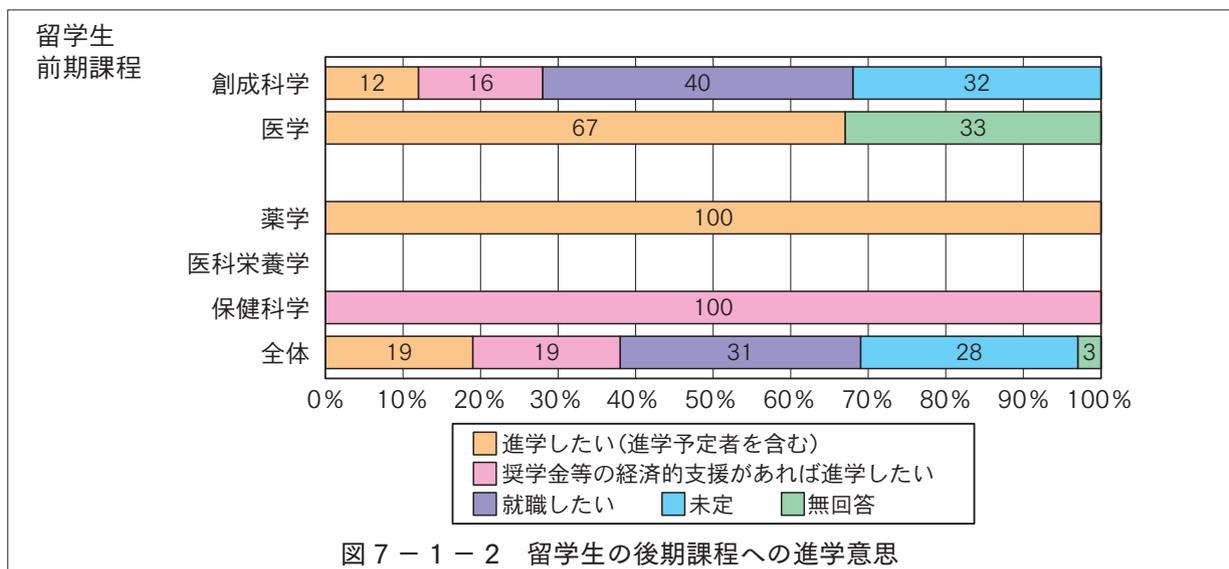
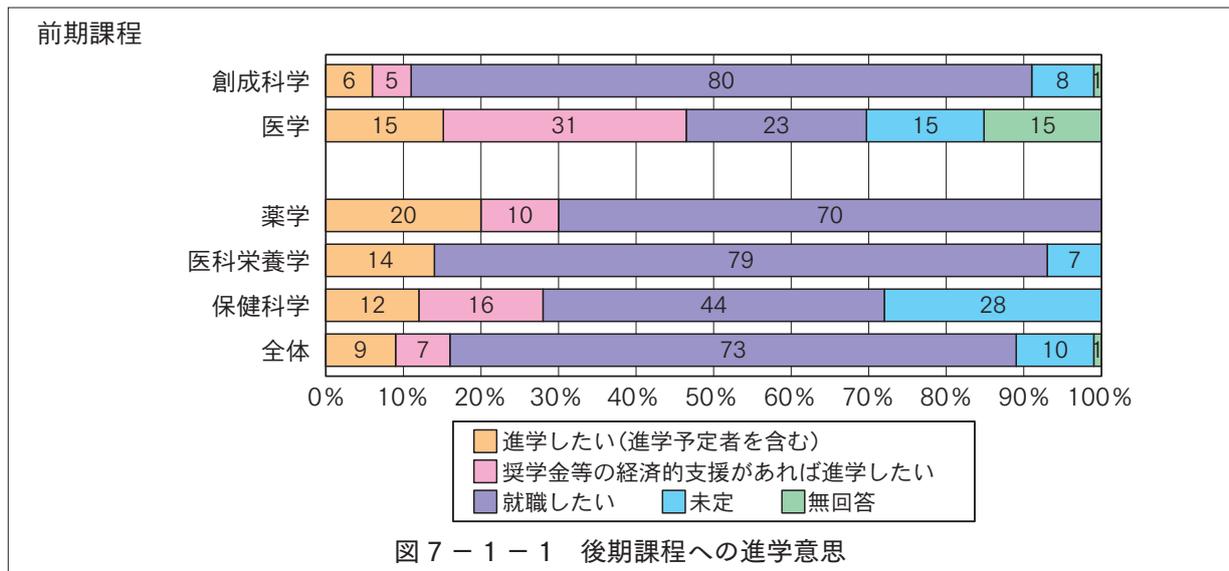


第7章 進路選択・就職について

7-1 後期課程への進学意思 (図7-1-1、図7-1-2)

前期課程学生の後期課程への進学意思について、全体では「進学したい」(9%、前回：8%)、「経済的支援があれば進学したい」(7%、前回：3%)で進学を考えている割合の合計は16%となり、前回調査と比べて5%アップしているものの、「就職したい」(73%、前回：81%)に比べるとかなり少ない。研究科別では、「進学したい」の割合は、薬学が最も高く20%、次いで医学(15%)、医科栄養学(14%)、保健科学(12%)の順で医歯薬系の割合が高い。一方、常三島地区の創成科学は6%と極めて低い。また、「経済的支援があれば進学したい」の割合は研究科でバラツキがあるが5~31%となっており、経済的な問題が解決されれば進学希望者を40%程増やす効果が期待できる。本学では、次世代研究者挑戦的研究プログラムに採択され、博士後期課程学生へ経済的支援や研究費支援を強化しており、経済的理由で進学を諦めることのないよう支援体制を整えているところである。本プログラムを有効に活用するため、学生への広報について、より一層強化する必要がある。

留学生については、全体では「進学したい」(19%、前回：22%)が日本人学生の2倍、「経済的支援



があれば進学したい」(19%、前回：9%)が日本人学生の2.7倍となっており、日本人学生に比較して後期課程への進学意欲は高い。前述の次世代研究者挑戦的研究プログラムは留学生も対象となるため、国際課と連携して情報発信を行い、後期課程への進学を促したい。

7-2 進学希望先 (図7-2-1、図7-2-2)

進学意思(「進学したい」「経済的支援があれば進学したい」)を示した学生(29名、前回：37名)の進学希望先大学院調査である。全体で79%(前回：81%)が本学の、また6%(前回：14%)が他大学の後期課程に進学することを希望しており、他大学への進学希望者が減っていることは本学にとってはプラス要因である。なお、薬学、医科栄養学では全員が本学の後期課程への進学を希望している。一方、前回に比べて未定とした学生が増えており(5%→13%)、進学先について迷っている学生への指導が極めて重要である。

留学生(8名)の場合は、67%(前回：86%)が本学、0%(前回：14%)が他大学への進学、25%が未定と回答しており、日本人学生と同様に進学先について迷っている学生への指導が極めて重要である。

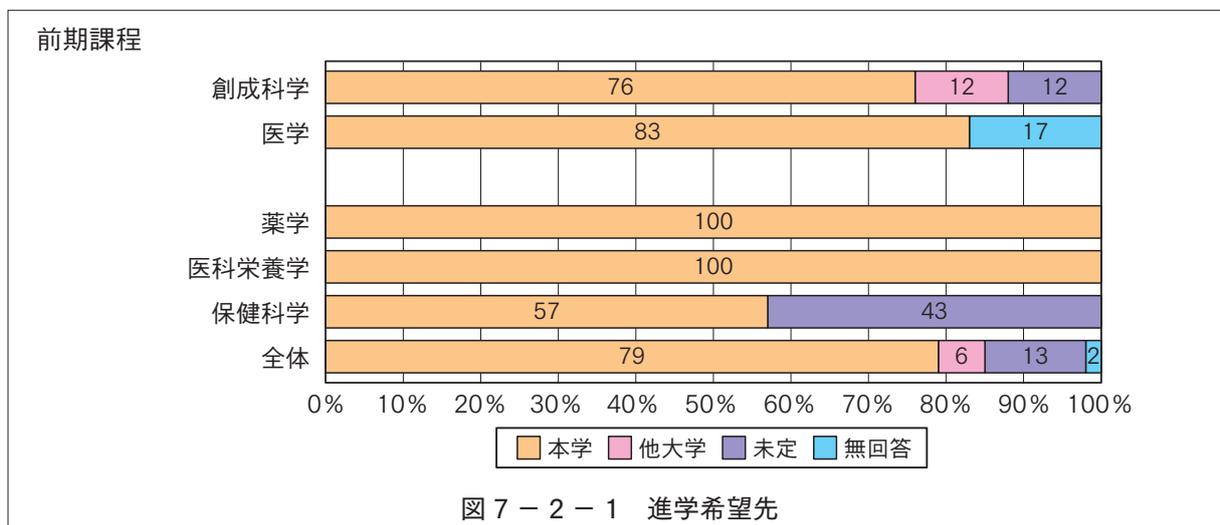


図7-2-1 進学希望先

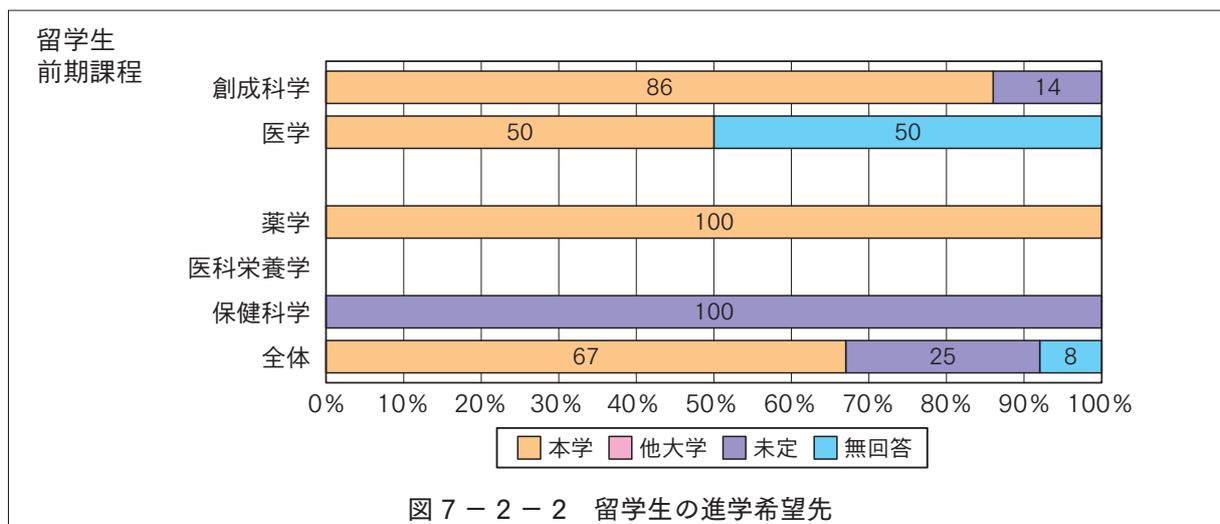


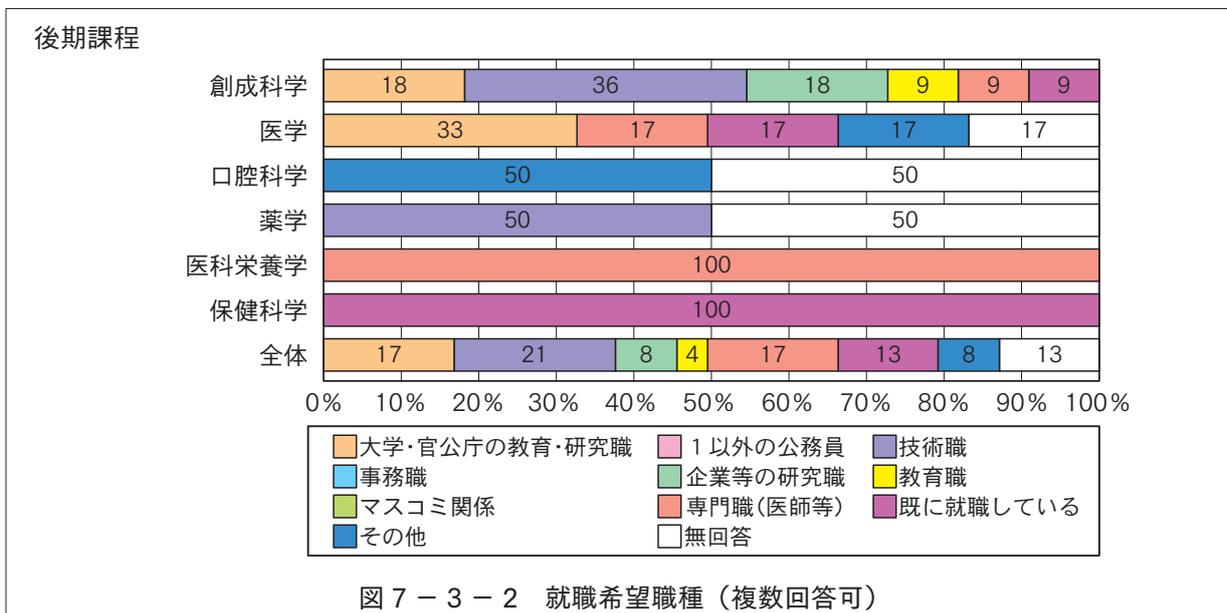
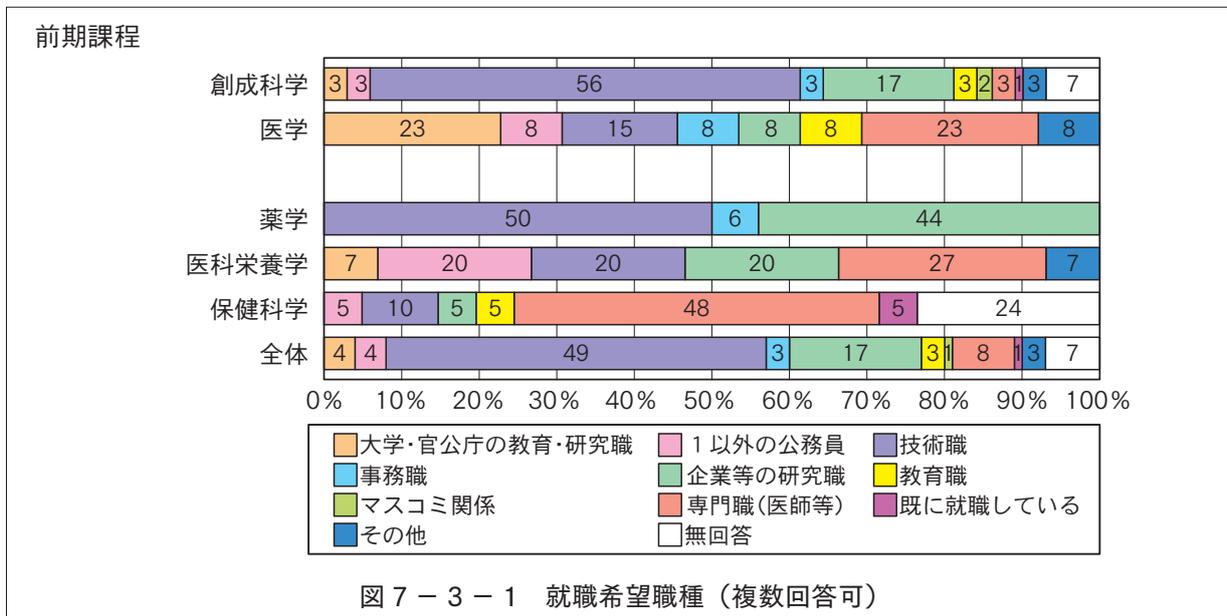
図7-2-2 留学生の進学希望先

7-3 就職希望職種 (図7-3-1～図7-3-4)

図7-3-1は、項目7-1で「就職したい」「未定」と答えた前期課程の学生(305名)の就職希望職種である。各研究科における主な希望職種は、①創成科学:「技術職」(56%)、「企業等の研究職」(17%)、②医学:「大学・官公庁の教育・研究職」(23%)、「専門職(医師等)」(23%)、③薬学:「技術職」(50%)、「企業等の研究職」(44%)、④医科栄養学:「専門職(医師等)」(27%)、「技術職」(20%)、「企業等の研究職」(20%)、⑤保健科学:「専門職(医師等)」(48%)、となっており、専門性や資格が活かせる職種に就きたいと考える学生が多い傾向である。

図7-3-2は後期課程の学生(24名)に就職希望職種を尋ねたものである。全体では、「技術職」(21%)、「大学・官公庁の教育・研究職」(17%)、「専門職(医師等)」(17%)に分散している。創成科学や薬学で「技術職」が50～36%と多い傾向であり、前回の調査で比較的多かった「大学・官公庁の教育・研究職」が減ったことから、大学等公的機関の研究職にこだわらず、専門性を活かし、企業就職にも目を向ける学生が増えている事が伺える。

留学生に関しては、前期課程の回答者は24名(創成科学23名、口腔科学1名)、後期課程の回答者



は11名（創成科学8名、医学3名）である。前期課程では「技術職」（21％）と「事務職」（17％）が多く、前回の調査と比べて事務職の割合が増加した事から、専攻での学び以外に、適性ややりたいことを踏まえ職業選択を行っていると考えられる。後期課程では「技術職」（27％）、「大学・官公庁の教育・研究職」（18％）、「企業等の研究職」（18％）、「専門職（医師等）」（18％）、となっており、日本人と同様の傾向となっている。

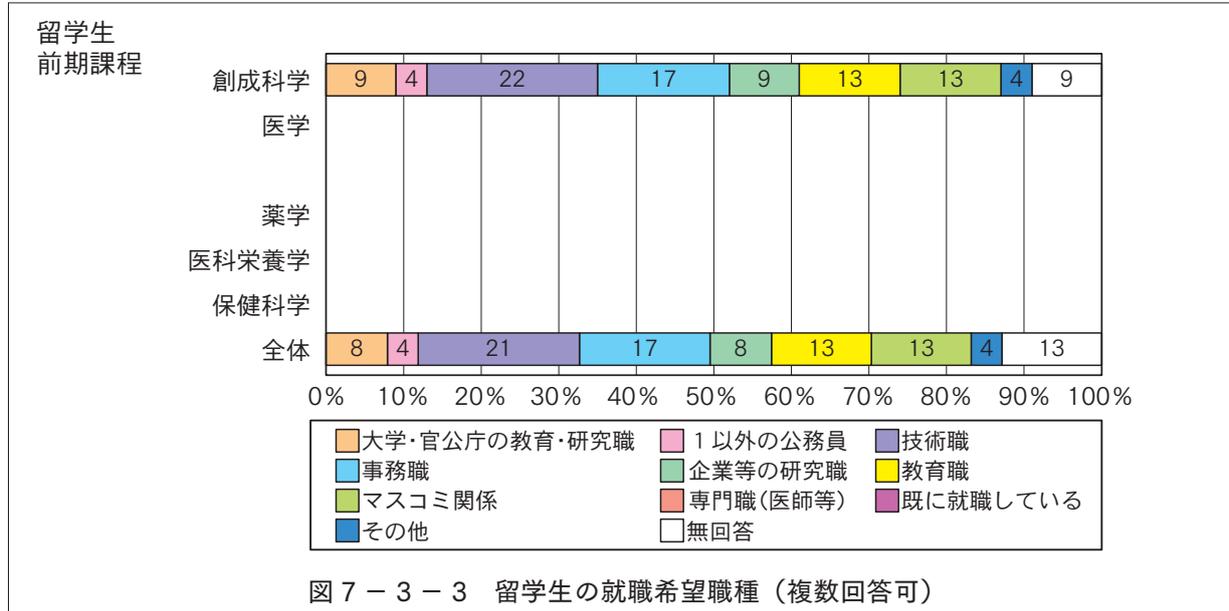


図 7 - 3 - 3 留學生の就職希望職種（複数回答可）

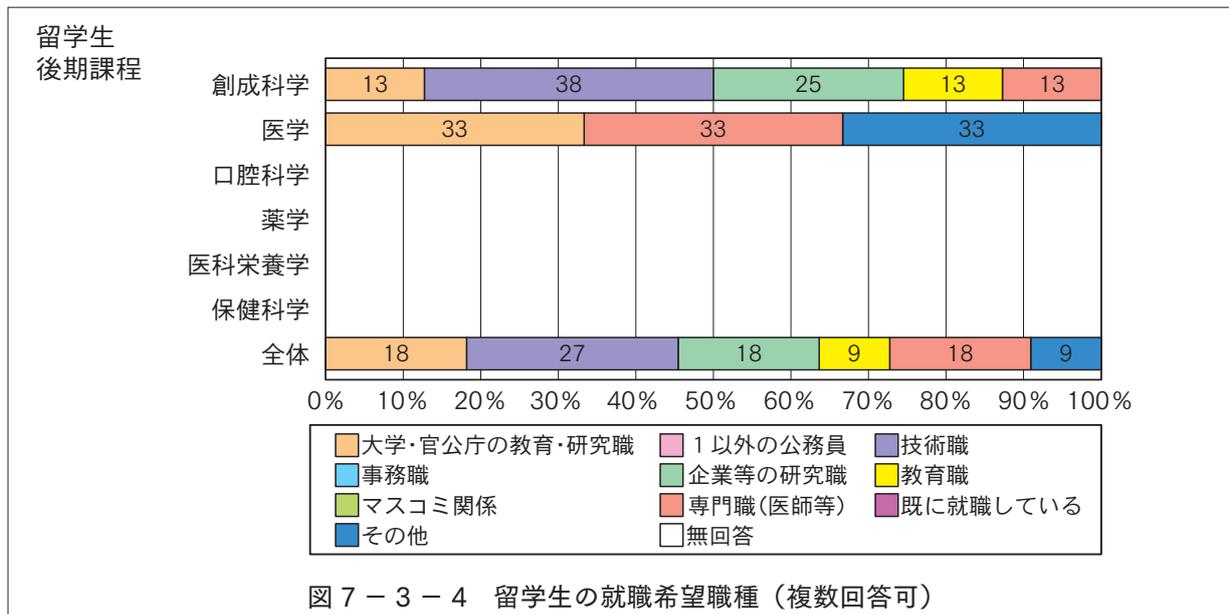


図 7 - 3 - 4 留學生の就職希望職種（複数回答可）

7 - 4 進路選択の要件 (図 7 - 4 - 1 ~ 図 7 - 4 - 4)

図 7 - 4 - 1 は前期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたもので3個以内の複数回答結果である。全体では前回の調査結果と同様の傾向であり、「収入」（23％）と「就職先の将来性・安定性」（22％）が最も高い比率を示し、「能力を発揮できること」（13％）、「勤務地の地理的条件」（11％）が続いている。全ての研究科においてほぼ同様の傾向が見られるが、医学では「能力を発揮できること」（26％）が他の研究科と比較して高いことが特徴的である。

図 7 - 4 - 2 は後期課程の学生に進路選択で重視する要件を尋ねたものである（3個以内で回答）。

前期課程

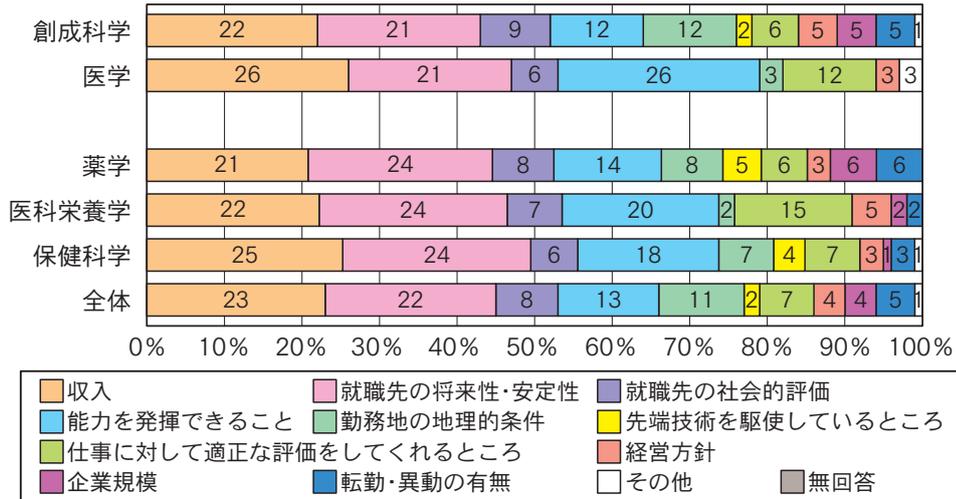


図 7-4-1 進路選択の要件 (3 個以内で回答)

後期課程

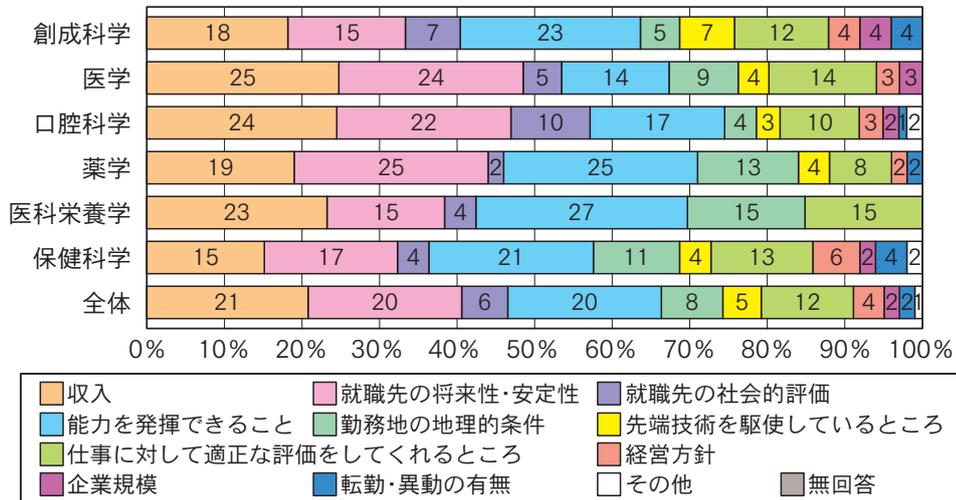


図 7-4-2 進路選択の要件 (3 個以内で回答)

留学生
前期課程

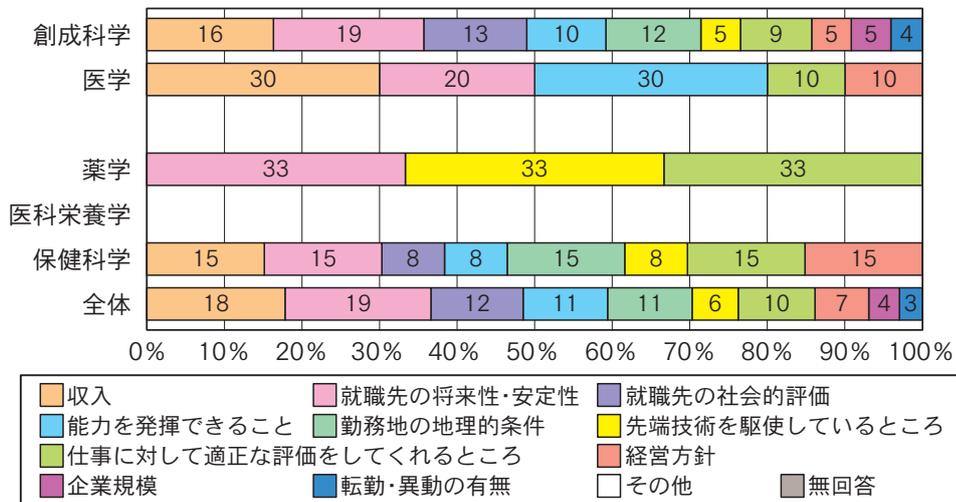


図 7-4-3 留学生の進路選択の要件 (3 個以内で回答)

全体では、「収入」(21%)、「就職先の将来性・安定性」(20%)、「能力を發揮できること」(20%)、が重視されており、前回と同様に前・後期課程ともこれら3つが共通して重視されている傾向がある。

留学生においても(図7-4-3および図7-4-4)、前・後期課程とも「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を發揮できること」が主要件となっており(前期課程では「就職先の社会的評価」も主要件に入っている)、日本人学生と類似した傾向がある。

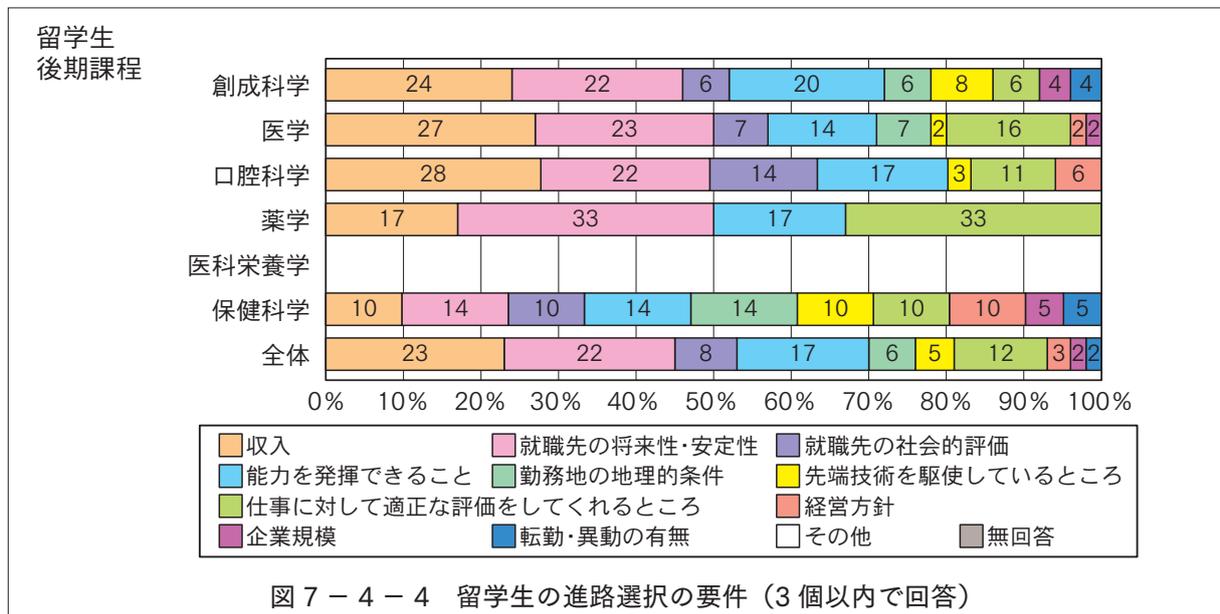


図7-4-4 留学生の進路選択の要件(3個以内で回答)

7-5 進路選択の情報入手手段 (図7-5-1~図7-5-4)

進路情報の入手手段においては、前期課程は前回の調査結果と同様であり、「Web・インターネット」が26%と最も高い比率を示しており、「先輩・知人」(19%)、「会社説明会」(15%)、「指導教員」(10%)と続いている。一方、後期課程においても前回の調査結果と同様の傾向であるが、前期課程と異なり「Web・インターネット」(24%)に次いで「指導教員」(22%)と指導教員の割合が高く、後期課程の学生は前期課程に比べて専門性が高いために指導教員の役割が大きいと思われる。

留学生においても、全体としては日本人学生とほぼ同様の傾向が見られているが、「キャリア支援室

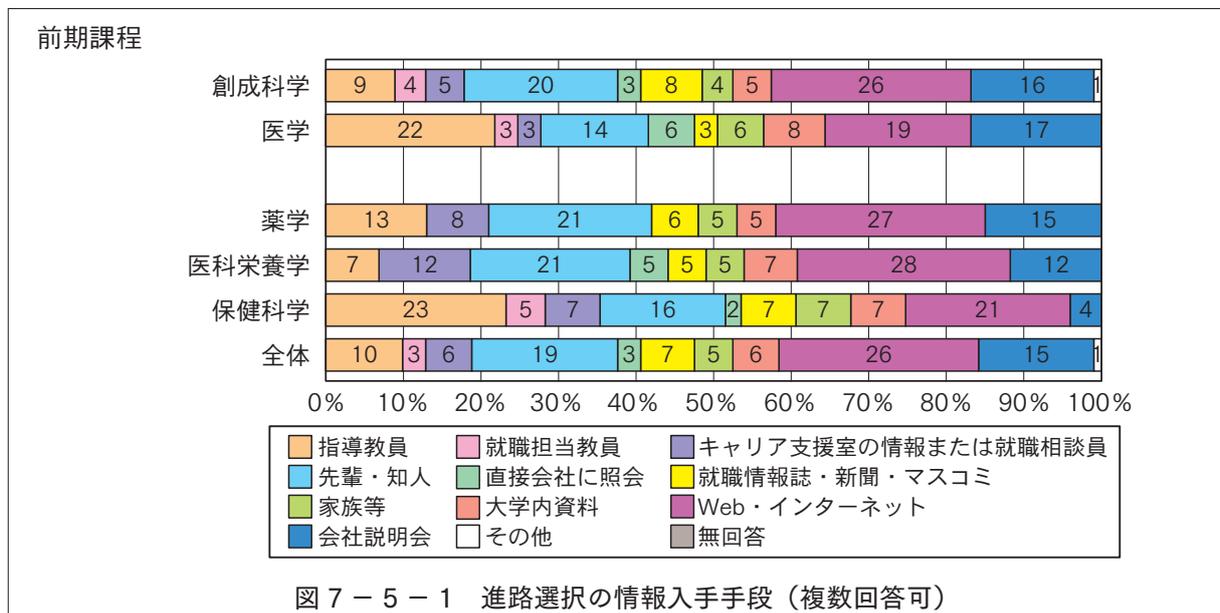


図7-5-1 進路選択の情報入手手段(複数回答可)

後期課程

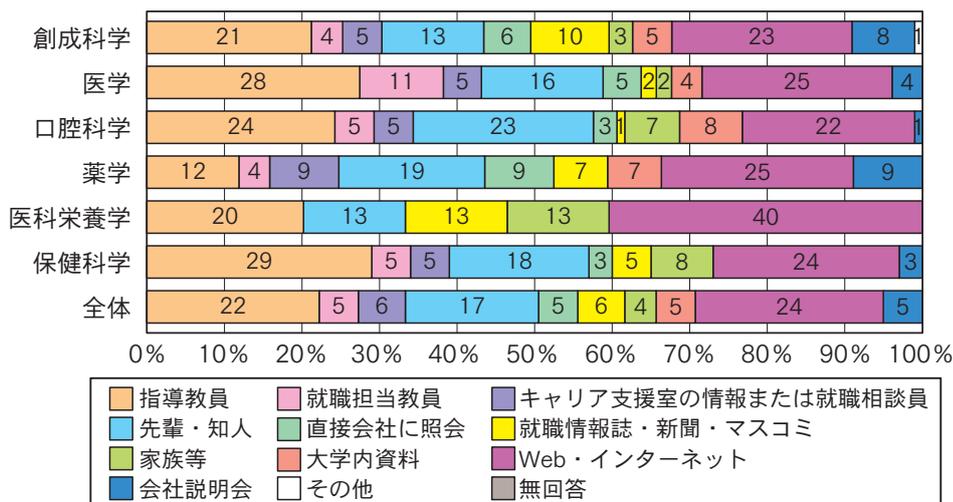


図 7-5-2 進路選択の情報入手手段（複数回答可）

留学生
前期課程

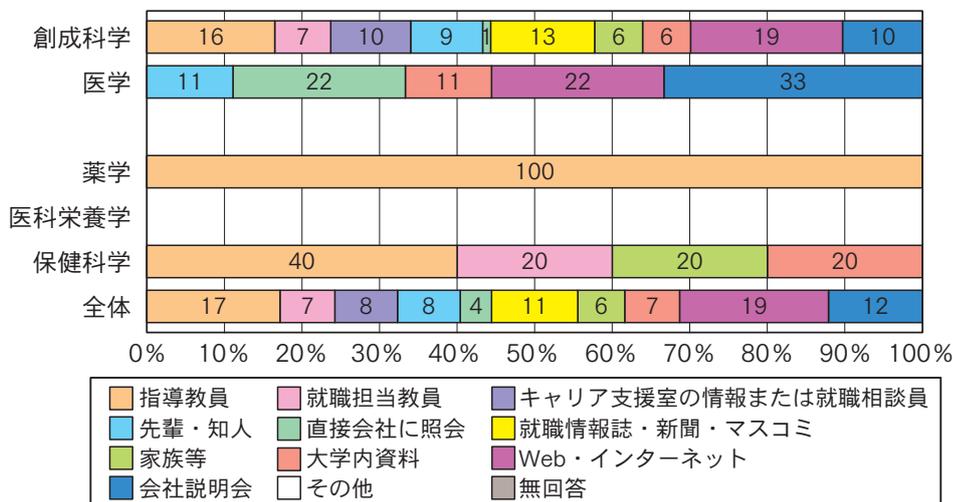


図 7-5-3 留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

留学生
後期課程



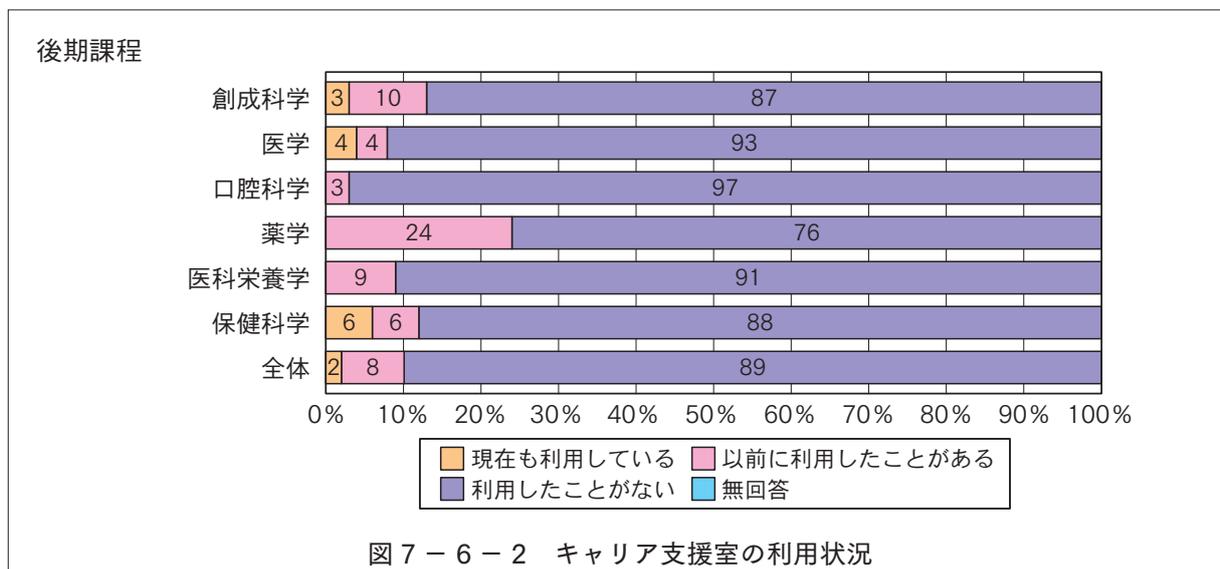
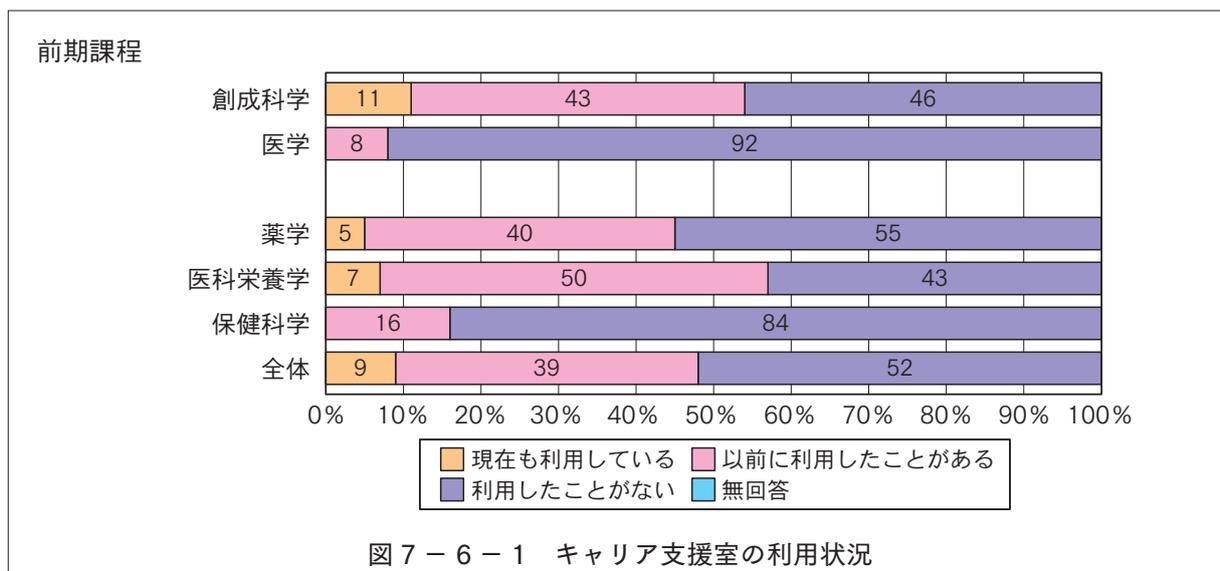
図 7-5-4 留学生の進路選択の情報入手手段（複数回答可）

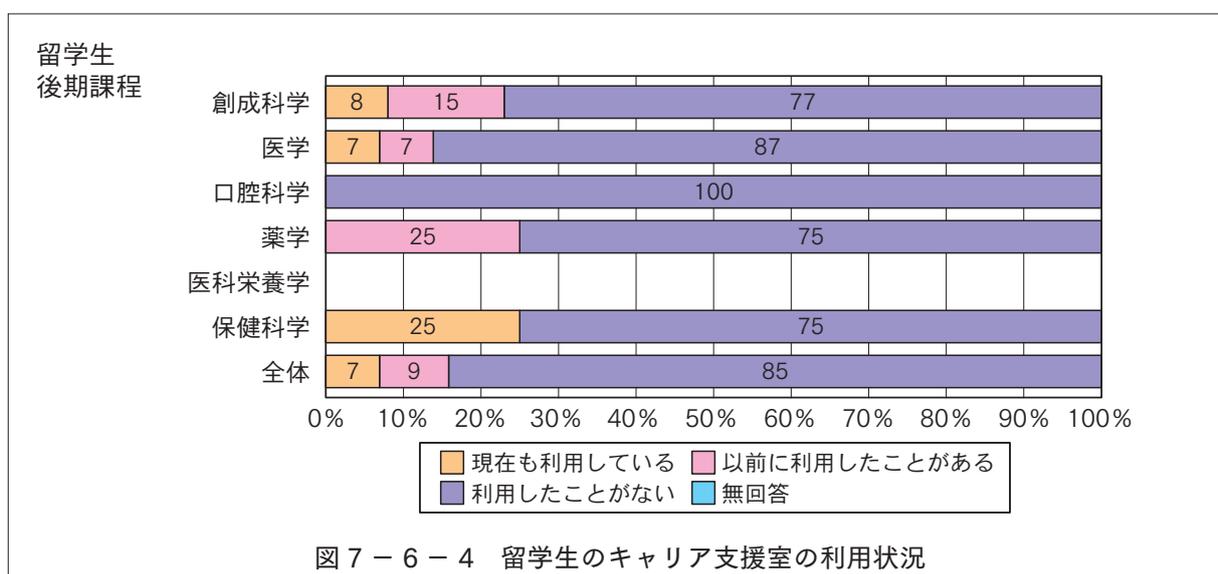
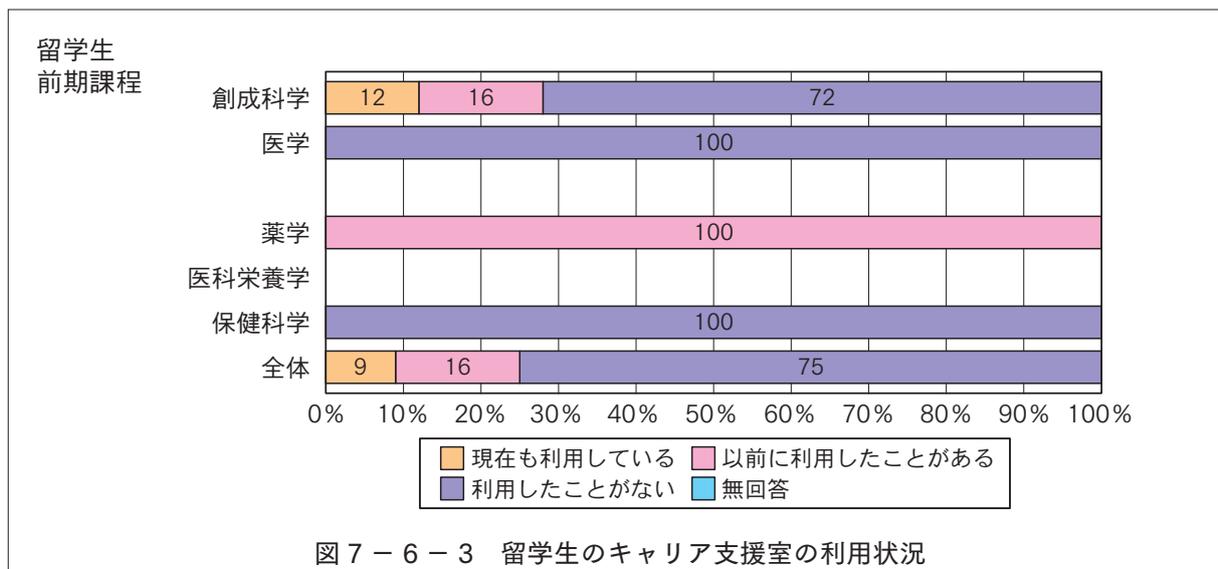
の情報または就職相談員」の割合が日本人よりも高いことから、キャリア支援室や国際課における情報提供が有効に機能しているものと思われる。

7-6 キャリア支援室の利用状況 (図7-6-1~図7-6-4)

キャリア支援室の利用状況について、全体では前期課程で52%（前回:52%）が、後期課程で89%（前回:84%）が「利用したことがない」と回答しており、利用率は依然としてかなり低い（図7-6-1、7-6-2）。研究科別に「利用したことがない」の割合を見ると、前期課程では医学、保健科学が84~92%（薬学では前回の調査結果よりかなり改善している71%→55%）、後期課程では、薬学（76%）を除いていずれも8割以上となっている。本学大学院生は、専門性の高い資格を求められる専門職（医師等）や技術職・研究職などの業種へ就職することが多く、そうした求人・就職情報は実態として各研究室や研究科経由で入手される場合も多い（7-5の結果と相関）。薬学のみ前回の調査結果から改善傾向がみられたことから、蔵本地区におけるキャリア支援室の活動が一定の成果を挙げており、利用率が向上したものと思われる。

留学生については、前回の調査結果と同様に前期課程では日本人学生に比べて利用率が低い、語学や文化など特異な支援項目もあり、国際課にも支援を求めながら就職活動が行われているものと思われる。





7-7 就職に関する大学への要望 (図 7-7-1~図 7-7-4)

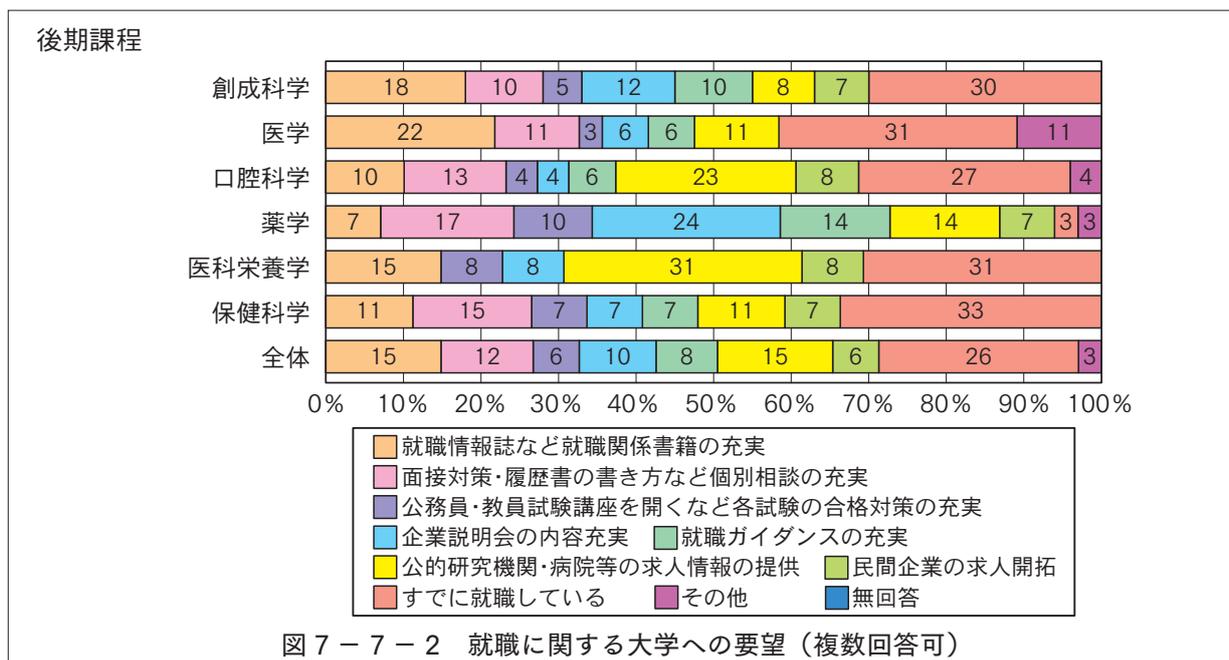
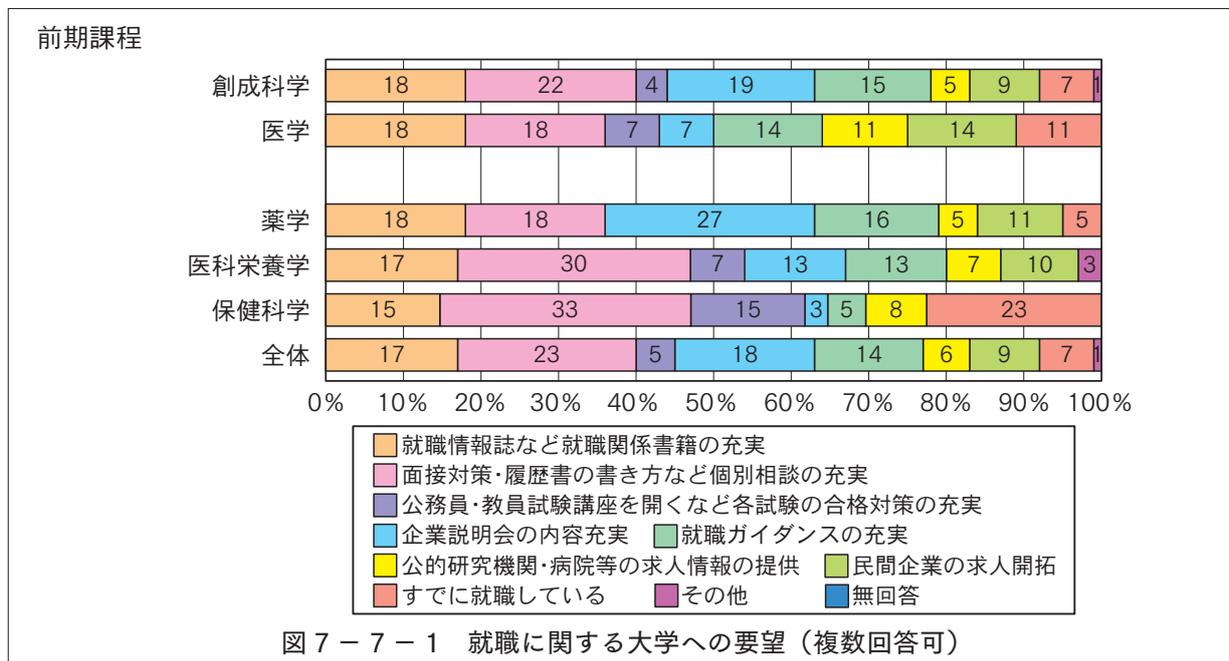
本質問・要望（複数回答）については延べ885件を数え、選択肢としたすべての項目について要望が寄せられている。その割合も前回と同様である。ただし、キャリア支援室側から見ると、今回選択肢とした項目はいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスでもある。前項目7-6で示されたように、キャリア支援室の利用状況は前回調査時から改善傾向であり、引き続き学生に利用を呼びかけ内容周知が徹底すれば、学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

以下に各要望に対する現状と対応等についてそれらの概略を示す。

- ① 要望1（就職関係書籍）：学生目線に立った書籍を備えるように、継続的に学生からの意見も聴きながら多種多様な就職関係書籍を増やしている。また、図書館にも就職関係書籍があるが、連携しながら双方で必要な図書が閲覧できる体制を構築している。
- ② 要望2（面接対策・履歴書の書き方）：面接対策・履歴書の書き方など個別相談の実施については、支援室の主業務の一つであり、専門のキャリアカウンセラー等が対応している。学生からの要望に応え、予約枠を増設し、夜間開室やオンライン相談、予約外の相談にも対応するなど相談体制を強化している。留学生に対しては、留学生専用枠を設け、国際課と連携して支援を始めており、徐々に利用

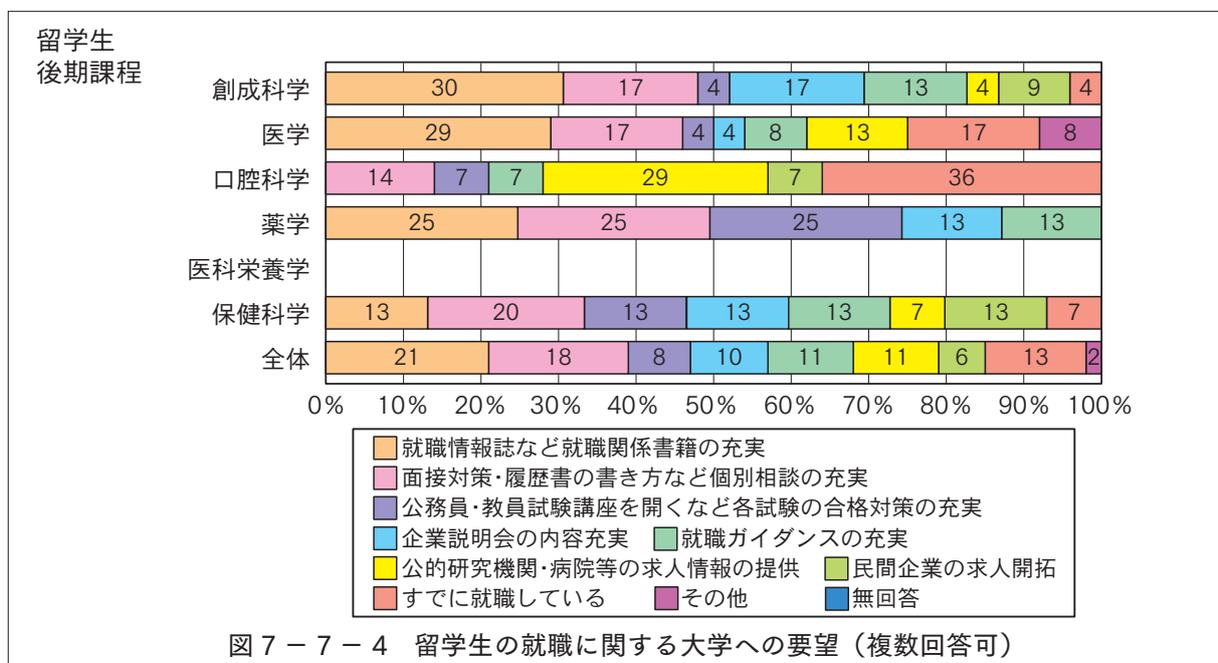
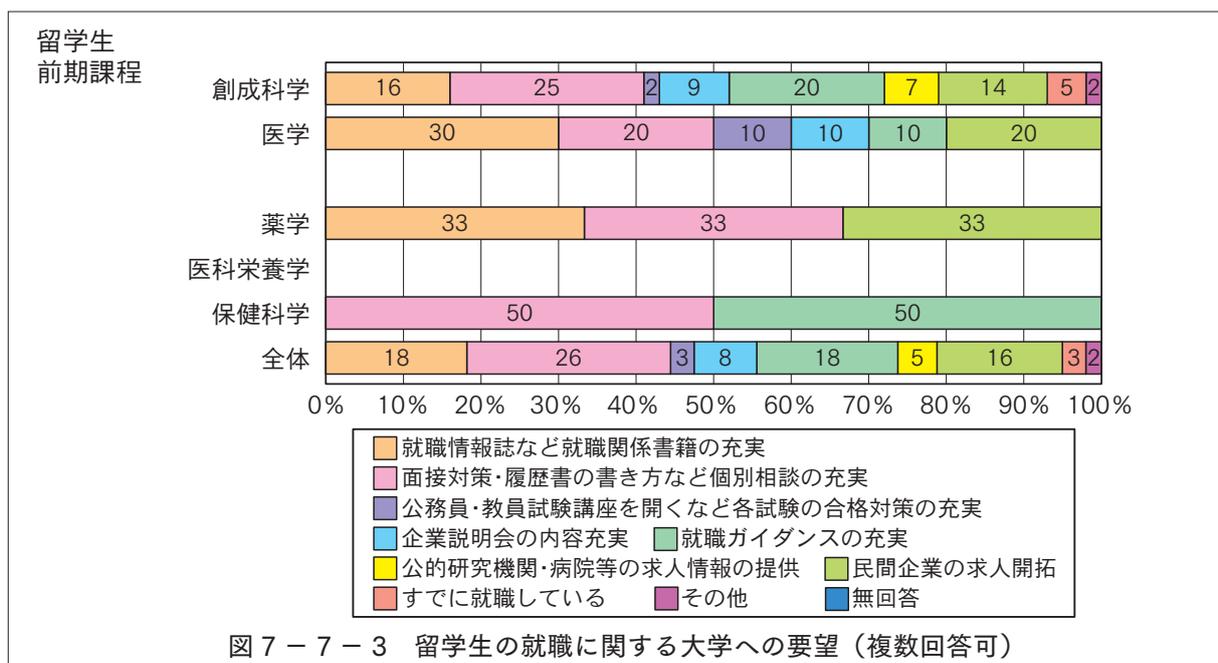
も増えている。また、就職相談の内容を分析した上で、キャリア支援室のセミナーやガイダンスに重点項目として反映している。

- ③要望 3（試験対策）：キャリア支援室と徳島大学生協の共催により、本学では公務員講座を開講している。また、集団面接や筆記試験に対してはキャリア支援室で独自のガイダンスを企画しており支援に努めている。
- ④要望 4 & 5（企業説明会&就職ガイダンス）：年間を通じてガイダンス・セミナーを開催し、スタイルもよりきめ細やかな支援を目標に少人数型やワークショップ型をより多く提供している。また、OB・OG 紹介、内定者による就職活動報告会及び学内での個別企業説明会や合同企業説明会を開催している。なお、毎年父母等に対する就職説明会も開催し、好評をいただいている。
- ⑤要望 6（求人情報提供・求人開拓）：各研究科ならびにキャリア支援室での継続的な努力により徐々に受入れ企業等が増加しつつある。また、平成 28 年度から令和元年度にかけて雇用主インタビューを実施し、企業側の求める学生像をより詳しく把握することで学生に対するキャリア支援業務に反映



している。さらに、令和4年度に実施した「学生の就職に関する意識調査」の結果を経営協議会等で共有し、企業側にも今どきの学生像（企業を選ぶ基準だけでなく、学生の価値観、将来ビジョン、企業へのニーズ、考え方等）を理解してもらえよう働きかけを行っている。来室企業には、求める人物像や待遇、企業の特徴、インターンシップ情報などの他、博士課程学生への求人についても聞き取りを行い、支援室が独自に構築したキャリア支援室企業情報システムを通じて公開し、学生の職業観の醸成及び県内外の企業認知度向上に役立てている。

留学生については、前・後期課程ともに日本人学生の場合と同様な傾向が見られる。よって今後も、国際課との連携をより一層強くしていく必要がある。



これまでの分析結果をもとに、①後期課程への進学意思と進学希望先、②就職希望職種と進路選択要件、③就職情報の入手手段、④キャリア支援室の利用状況、⑤就職に関する大学への要望、の5項目に整理し、それらのまとめを以下に示す。

① 後期課程への進学意思と進学希望先

前期課程学生の後期課程への進学意思は、前回調査に引き続き全般的に高いとは言えない。しかしながら、経済的な問題が解決されれば進学希望者がある程度増やす効果があるものと考えられる。

留学生については、日本人学生に比較して後期課程への進学意識は高く、留学生の確保が後期課程の定員を充足させるカギになると思われる。本学が実施している後期課程学生への経済的支援について、学生へ更なる周知を行い、進学を促していきたい。

進学希望先としては、日本人学生と留学生ともに本学を希望するものが約8割となり、各指導教員の努力の賜物であると思われる。

② 就職希望職種と進路選択要件

就職希望職種について、前期課程の場合、「就職したい」に「未定」を合わせた比率は、常三島地区の創成科学では約9割と高いのに対し、蔵本地区では常三島地区に比べて低い上にはらついている。蔵本地区では「既に就職している」が一定数存在することの影響と考えられる。多くの研究科で「企業等の研究職」や「技術職」、「専門職（医師等）」を希望するものが多い。

後期課程の場合、「技術職」の希望者が最も多く、次いで「大学・官公庁の教育・研究職」、「専門職（医師等）」、という回答となっており、前回調査から変化が見られたため、今後の支援に反映させる必要がある。

留学生に関しては、前期課程では「技術職」と「事務職」が多く、後期課程では「企業等の研究職」が最も多い。留学生の希望職種についても前回から変化が見られたため、キャリア支援室や国際課の更なるサポートが必要だと思われる。

進路選択要件については、前期課程・後期課程の別、あるいは日本人学生・留学生の別なく、いずれも前回と同様に「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を発揮できること」の3要件が重視されている。

③ 就職情報の入手手段

進路情報の入手手段について、日本人学生および留学生ともに「Web・インターネット」、「先輩・知人」、「指導教員」、「会社説明会」が主要手段となっている。キャリア支援室からの更なる情報発信も必要と考えられる。

④ キャリア支援室の利用状況

キャリア支援室の利用状況について、前期課程で5割程度、後期課程で9割弱が「利用したことがない」と回答しており、値だけ見れば利用率は必ずしも高いとは言えない。しかしながら、前期課程においては改善が見られた研究科もあり、キャリア支援室の提供するガイダンスや企業説明会など開催およびその周知努力によるものと思われる。今後も各研究科の就職担当の先生方との連携を図ることで、キャリア支援室の利用率を高める努力が必要だと思われる。

留学生については、特に前期課程で日本人学生の利用率に比べて利用率が低く、国際課とのより一層の連携を図る必要があると思われる。

⑤ 就職に関する大学への要望

学生からの要望の多くはいずれもキャリア支援室において既に取り組んでいるサービスであるが、利用状況が低い現状から、より一層広く学生に利用を呼びかけ内容周知を徹底することで、学生にとって貢献度の高い情報提供となると考えられる。

近年、学生からの要望に基づきキャリア支援室として改善ないしは力を入れている項目としては、キャリアカウンセラー・各コーディネーターによる相談体制の強化、少人数型やワークショップ型によるきめ細やかな就職ガイダンス・セミナー、OB・OG紹介、内定者による就職活動報告会、父母等に対する就職説明会、キャリア支援室企業情報システムの構築、新たな試みとして、学生と本学学生

を採用したい企業とのマッチングを支援する「就職マッチング支援事業」の実施などがあげられる。今後もアンケートを活用して学生・企業双方の要望を収集・分析しつつ、各研究科と連携しながら新たな企画の立ち上げや既存の企画の満足度を高める工夫に務めることで、両者のマッチング・サポートに貢献して行くつもりである。

第8章 研究科・教育部の現状と課題

8-1-1 創成科学研究科 地域創成専攻・臨床心理学専攻

創成科学研究科は、常三島キャンパスに存する「総合科学部」、「理工学部」および「生物資源産業学部」の3学部から接続する大学院として、2020年4月に修士課程（博士前期課程）が、そして2022年4月に博士後期課程が設置された。修士課程（博士前期課程）では、1つの研究科の下に各学部との関連性のある程度残した「地域創成専攻」、「臨床心理学専攻」、「理工学専攻」、「生物資源学専攻」の4専攻を設置しつつ、博士後期課程では専門性を高めるため「創成科学専攻」の1専攻のみという構成になっている。

在学者数は、前期課程790名（休学者を除く）、後期課程96名である。今回の調査における回収率は、前期課程28.9%、後期課程40.6%、合わせると30.1%であり、全体の回収率とほぼ同じ。

創成科学研究科は上述のように、3学部が合流し、前期課程は4専攻を抱えているため、理系と文系の双方にまたがり、学問分野も多岐にわたる。したがって本調査における創成科学研究科としての数字・データは、創成科学研究科としての一元的な固有の傾向というより、専攻ごとの多様な特徴が混在している特性があるので、その点、留意が必要である。また、そもそも在学生数の母数の少なさと調査票の回収率の低さもあり、本稿における調査分析には有意性、信頼性などの点でも一定の留保が必要である。以下、専攻ごとに特徴的な点や課題に言及する。

<地域創成専攻>

※回答者が22名と限られているので、統計的な有意性は限定的である。

出身地をみると、徳島県が9%あるが、海外出身者が圧倒的に多く73%を占める。本学出身者の割合も14%にとどまり、外国の大学・大学院の出身者が55%と多い。社会人学生は14%で、留学生が68%。

生計を支援している家庭の年収（税込み）（自活者は自己の年収、同居している者は同居者を含めた家庭の年収）をみると、250万円未満と250～500万円未満がそれぞれ23%で最も多い。住居はアパート・マンション（家族と別居）が最も多く59%、次いで自宅（家族と同居）、学生寮がそれぞれ18%。1か月の家賃（電気代、ガス代等諸費用を除く）は5～6万円未満が最多帯で39%、次いで3～4万円未満28%、3万円未満と4～5万円未満が11%。配偶者、子供のいる学生はほとんどいない。主な通学方法は、徒歩が41%、自転車32%。通学時間は15分未満が59%と最も多く、15～30分未満、30分～1時間未満がそれぞれ18%。

1か月の平均収入（親等からの援助を除く）は、3万円未満が55%、3～5万円未満が23%、また親等からの援助のない学生は32%いる。他方、平均支出（授業料支出は除く）は3～5万円未満から10～15万円未満までばらつきがある。奨学金を現在受給中だが、更に希望する学生は23%、受給していないが希望する学生は59%おり、8割を超す学生が希望している。これは5専攻の中で最も割合が高い。36%の学生がアルバイトをしている。アルバイトに従事している時間（移動に要する時間も含む）は週10～15時間未満が38%、5～10時間未満が25%、その目的は50%が学費や生活のためと答えており、社会貢献のためと答える学生もいる。収入は1か月平均で3～5万円未満が最も多く63%。64%はアルバイトでトラブルの経験はないが、少数、客とのトラブル、給料不払い、解雇などの経験者がいる。

1日の平均睡眠時間（休日を除く）は50%が7時間以上～8時間未満、36%が6時間以上～7時間未満で、全体平均より比較的、睡眠時間は多い方。気になる身体症状の有無をきくと、55%は「ない」、41%が「時々」と答えているが、平均的な傾向と同じである。悩み・不安としては、経済状態が50%

と最も多く、次いで勉学と、就職・進路が各45%。悩み事の相談相手は73%が友人で、次いで家族が59%、他方、指導教員は18%と低く、総合相談部門や学務係にもほとんど相談していない。精神状態について86%は「充実している」あるいは「普通」と答えているのは、おおよそ平均的である。キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門は、半数の学生が知ってはいるものの利用しておらず、健康診断で行く学生も他専攻より少ない。

犯罪の被害や迷惑行為にあった学生はほとんどいないが(86%)、少数とはいえセクハラなどが起きている。キャンパスライフ健康支援センターの総合相談部門は32%の学生に知られていない。59%は知っているが利用しておらず、利用したのは9%のみ。大学事務室の対応には77%の学生が「満足」し、残りの学生も「どちらかといえば満足」と答えている。

研究科の教育理念・方針を知っているかの問いには、87%が「知っている」あるいは「だいたい知っている」と答え、95%は「その理念・方針で教育を受けている」と答えた。学位授与に至る教育課程に対しては、全員が「満足」「どちらかといえば満足」と答えた。現在所属する研究科は本学出身者の全員が第1志望で、他大学出身者も75%が第1志望だったと返答、その理由で多いのは「希望する研究分野があるから」が42%、次いで「指導教員に勧められたから」が21%と多く、他専攻より高い数字。授業や研究指導の進め方・内容について、全員が「満足」あるいは「どちらかといえば満足」であり、指導教員とのコミュニケーションも全員が「充分」あるいは「ある程度取れている」という。研究指導の時間は、最も多いのが週90分～5時間未満で64%を占める。研究指導の時間は他専攻より比較的長い。全員が大学院にふさわしいレベルでの教育が「充分に行われている」あるいは「ある程度行われている」と答え、全体の満足度としても全員が「満足」あるいは「どちらかといえば満足」と答えている。

<臨床心理学専攻>

※回答者が7名と限られているので、統計的な有意性は限定的である。

出身地をみると、徳島県と近畿が各43%で、海外出身者はいない。本学出身者の割合が86%と高く、社会人大学院生と留学生はいない。

生計を支援している家庭の年収(税込み)(自活者は自己の年収、同居している者は同居者を含めた家庭の年収)は250～500万円未満が最も多く43%。住居はアパート・マンション(家族と別居)と自宅(家族と同居)がそれぞれ43%、学生寮が14%、全体傾向より自宅生が多い。1か月の家賃(電気代、ガス代等諸費用を除く)は4～5万円未満が33%だった。配偶者、子供のいる学生はいない。主な通学方法は、自転車57%と多く、徒歩はいない。通学時間は、15分未満が43%と多いが、1～2時間未満が29%と多い点特徴的。

1か月の平均収入(親等からの援助を除く)は、ほとんどが3万円未満で86%、親等から援助のない学生は43%いる。他方、平均支出(授業料支出を除く)は3～5万円未満が43%、3万円未満が29%で比較的支出が少ない傾向。奨学金を現在受給中だが、更に希望する学生は14%、受給していないが希望する学生は57%おり、7割を超す学生が希望している。43%の学生がアルバイトをしている。アルバイトに従事している時間(移動に要する時間も含む)は週5～10時間未満が67%、10～15時間未満が33%、その目的は生活や学費のためが43%と最も多い。日常の娯楽・嗜好品等の購入は29%。1か月の平均収入は、3万円未満、3～5万円未満、5～7万円未満が各33%。すべての学生がアルバイトで、客とのトラブルや事故・ケガ、雇用契約との違いなどを経験している。

1日の平均睡眠時間(休日を除く)は4時間以上～5時間未満が最も多く43%、次いで5時間以上～6時間未満が29%で、全体の傾向よりも睡眠時間が短い状況にある。気になる身体症状の有無をきくと、71%が「常にある」と答え、「ない」は14%のみ。「常にある」と答えた割合は他専攻より高い。具体的には、頭痛、めまい・たちくらみが多く、生理痛・生理不順や不眠も訴えている。すべての学生

が悩みや不安を持っており、最も多いのが勉強と、就職・進路についてで、それぞれ96%、次いで経済状態と身体的不調で57%。悩み事の相談相手は友人、家族が各71%と多く、他方、指導教員は29%と低く、総合相談部門や学務係にもほとんど相談していない。精神状態は43%が「やる気が出ない」、29%が「なんとなく不安」と回答、7割の学生が不安定な精神状態にあるという。キャンパスライフ健康支援センターの保健管理部門には診療や相談で、57%が訪れている。

犯罪の被害や迷惑行為について、ストーカー被害(25%)やセクハラ(13%)を受けたと答えた学生が少数おり、友人と教員に相談している。キャンパスライフ健康支援センターの総合相談部門は全員に知られているが、利用したのは14%にとどまっている。大学事務室の対応には71%の学生が「満足」し、残りの学生も「どちらかといえば満足」と答えている。

研究科の教育理念・方針を知っているかの問いに、「だいたい知っている」と答えた学生は43%で、「その方針・理念で教育を受けている」と答えたのは33%。学位授与に至る教育課程に対し、「満足」あるいは「どちらかといえば満足」と答えたのは43%。現在所属する研究科は、本学出身者も他大学出身者も全員が第1志望であり、その理由として多いのは「出身大学だから」が36%、次いで「継続して修学するため」が21%だった。大学院で目指すものは、高度な専門的知識・能力を持つ高度専門職業人と答えるのが86%で、研究者、大学教員などより高い。授業や研究指導の進め方・内容について不満があり、また指導教員とコミュニケーションが取れていないという学生がそれぞれ4割おり、指導を受ける時間は57%が週30分未満、29%が30分～90分未満と答えている。85%が「大学院にふさわしいレベルでの教育が充分に行われている」「ある程度行われている」と答えるが、全体の満足度としては3割が「どちらかといえば不満足」という。そして本学の教育に対して望むものとして、「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」(31%)、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」(25%)を挙げている。

進路選択で重視する点を訊くと、「能力を発揮できること」を最も重視しており、「収入」と並んで21%と高い割合。また就職に関して大学に求める点は、「公的研究機関・病院等の求人情報の提供」を44%が挙げており、高度な専門性のある公的な職業人をみざす傾向が認められる。

8-1-2 創成科学研究科 理工学専攻

創成科学研究科は、2020年4月に総合科学教育部と先端技術科学教育部を再編・統合して設置された研究科である。前回の第9回調査は前期課程の第1期生の修了後に行われたことより、今回の調査が本専攻について設置後初めての経時変化の比較調査である。今回の調査では、在学者数639名(休学者を除く)における回収率25.4%は、前回の629名における回収率29.4%よりやや少なかったのみならず、本研究科地域創生専攻の64.7%を筆頭にいずれの研究科・専攻でも30～60%程度であるのと比べると、全ての専攻のうち最低レベルであり、大きな問題である。回答率を大幅に上げる工夫が必要である。

「本調査の対象者について」より、出身地では、徳島県22%、徳島を除く四国が14%、中国が11%、近畿が42%となっており、前回と比べて徳島県がやや減っているものの、前回同様に全体の傾向と大差ない。本学出身者の割合も、前回同様90%である。

「家族・住居・通学について」より、家庭の年間所得では、前回同様に全体の傾向とほぼ同じだったが、住居区分では、家族と別居したアパート・マンションが、前回の68%から80%に増加した。自宅外通学者の家賃では、5万円未満が74%と、前回の69%から増加している。通学方法は、86%が徒歩か自転車で、通学時間は90%が30分未満だった。

「収入・支出について」より、1か月の平均収入額で3万円未満が37%で、全体の傾向と一致するものの、前回の50%から3割減となっており、前回みられた傾向が続いている。他方、「親等から援助を

受けていない」が19%と前回からわずかに減った。また、「奨学金受給希望（現在受けているかどうかに関わらず）」は45%と前回と同程度であり、家計に関しては個別の家庭事情の違いが大きいと思われる。さらにアルバイトについては、従事する学生が、前回の67%から77%に増加した。従事時間も増加傾向にあり、従前指摘されているように、アルバイトに頼る傾向が続いているものと思われる。特に、コロナ禍での前回からは、学会参加のためのアルバイトが増えている点が特徴的である。

「健康状態について」より、睡眠時間でも身体症状でも全般的に良好である。また、悩みや不安については、「ない」が36%で、「ある」のうち最も多いのは就職や進路についてだった。現在の精神状態については、「なんとなく不安」「落ち込みやすい」「やる気がでない」など何らかの問題を抱えている学生が25%ほどいることから、適切な対応が求められる。他方、男子の喫煙率は3割程度に高止まりしており、さらなる禁煙指導が必要である。

「学生生活上の問題点について」より、「入学以来迷惑行為を受けたことはない」は、前回の30%から大幅に減って85%だった。特に、前回38%あった「大学内でのセクハラ」の被害が激減している。犯罪被害については、「盗難に遭った」の9%のみだった。交通事故は、「被害者・加害者のいずれかになったことがある」が14%で、本研究科他専攻や他研究科と比べても少ない。また、違法薬物の使用について、前回同様に本専攻で1%が「経験がある」と回答しており看過できない。大学事務室の対応は、「満足」「どちらかといえば満足」が92%で、全体と比較しても概ね満足している。

「修学状況について」より、研究科の教育理念や教育方針については、「良く知っている」「だいたい知っている」が59%で、本研究科他専攻や他研究科に比べてやや低い。他方、教育理念や教育方針で教育を受けているかについては、「思う」が94%で、さらに教育課程の満足度は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が99%と、本研究科他専攻より良好だった。授業の内容や進め方については、「満足」「どちらかといえば満足」が99%だった。授業以外の研究活動の1週間平均時間は、20時間未満が55%で、本研究科他専攻や全体と同程度である。研究指導の内容や進め方、研究テーマ、指導教員とのコミュニケーションについては、「満足している」「どちらかといえば満足している」が、前回同様に95%前後で安定している。他方、現在の研究環境については、「満足している」「どちらかといえば満足している」が、前回の88%と同じく86%であり、本研究科の中では低くないものの、他研究科の90%以上と比べるとやや低い。不満足である理由のほとんどが、施設・設備と研究費用であり、この点は、前回や前々回でも課題とされている。入学後の海外渡航については、「ない」が前回の85%から76%に減り、「3回以上」の学生も増えた。増加した渡航目的は学会参加であるが、コロナ禍後の変化の予想に反し、留学は前回の16%から6%に大きく減った。国際学会への参加が増えたことと呼応して、海外での研究発表は、前回の23%から36%に大きく増加した。これは本研究科他専攻や他研究科と比較しても高い。しかし、日本人学生の英会話については、前回同様に、「あまりできない」「できない」が54%いる反面、語学力を高めるために「何もしていない」が34%だった。継続的に指摘されてきた点であるが、英会話の実践的な学習を促す必要がある。

「進路・就職について」については、85%が就職希望である。「経済的支援があれば進学したい」を含めると、後期課程への進学希望が10%あるが、希望進学先が「本学」は、前回の100%から76%に大きく下がった。魅力ある後期課程とすることが重要である。

8-1-3 創成科学研究科 生物資源学専攻

「本調査の対象者について」の出身地については、徳島県30%（令和4年度は38%）、近畿32%（令和4年度は28%）、四国（徳島県以外）11%（令和4年度は22%）であり、徳島県を含めて四国出身の割合が減っているものの、創成科学研究科全体と比べると徳島県の割合が多い。本学出身者の割合は

92%であり、創成科学研究科全体の73%と比べてかなり多い。社会人と留学生については、社会人が3%、留学生が8%で、前回調査時よりも若干増えているものの（令和4年度は共に0%）、創成科学研究科全体の社会人11%、留学生14%と比べて低い割合となっており、留学生の確保が今後の課題である。

「家族・住居・通学について」より家庭の年間所得は概ね全体の傾向と同じであるが、250万円未満が19%と前回調査時の9%から倍増している。住居区分では自宅の割合が前回調査時の41%から32%に減少しており、逆に学生寮が8%と増えている（令和4年度は0%）。自宅外通学者の家賃をみると、5万円未満が62%と前回調査時の59%から微増している。

「収入・支出について」より、1か月の平均収入額で5万円未満の学生は62%と高く、前回調査時の66%とほとんど変化していない。一方、親等から援助を受けていない学生は35%（令和4年度は22%）と増加しており、5万円未満の33%と合わせると約7割の学生がアルバイトと仕送りの半々で生活している状態である。一方、平均支出額は5万円未満が49%（令和4年度は63%）と低下した一方で、5万円以上の学生が増加しており、昨今の物価高に応じた生活費の増加が示唆される。また、奨学金受給希望（現在受けているかどうかにかかわらず）が60%と令和4年度の41%から増加しており、生活費の不足が懸念される。

「健康状態について」より、睡眠時間は6時間未満が44%、6～7時間未満が51%であり、全体平均よりやや短い睡眠時間である。悩みや不安については、就職や進路・勉学・経済状態の順に多く、内面的・精神的な悩みが比較的多かった前回調査と比べて現実的な悩みが多くなっている。相談相手として友人や家族を挙げる学生が多数である一方、総合相談部門や保健管理部門を利用する学生はごく少数であり（それも健康診断時の利用が大多数）、さらに誰にも相談しない学生も比較的多く、悩みを抱えている学生のケアが課題である。一方、現在の精神状態について何らかの問題を抱えている者が16%と前回調査時の50%から大きく低下しており、コロナ禍の影響は少なくなっていると思われる。

「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為を受けたことはない学生が82%と前回調査時の38%から大きく低下しているのは良い傾向だが、インターネットによる誹謗中傷やカルトのような集団への勧誘を受けた学生が13%と比較的多く、これに関連する講習会やセミナーを通じた教育が望まれる。また、50%の学生が誰にも相談せず、27%しか総合相談室を利用していないので（令和4年度は19%）、何らかの周知やアプローチが必要だと思われる。交通事故の被害者または加害者になった学生は8%と前回調査時の25%より減少しているが、近年は交通事故が多くなっているため周知徹底しているところである。大学事務室の対応は95%が満足あるいはどちらかといえば満足と回答しており、前回調査時の88%よりも増加していることから引き続き現状の対応をお願いしたい。

「修学状況について」より、研究科の教育理念や教育方針は、知っている学生が75%で、この教育を受けている学生が86%と比較的多い。一方、教育課程の満足度については概ね満足している学生が75%と全体平均の93%や前回調査時の94%に比べて低下しており、教育内容や質の改善が必要だと思われる。また、研究指導の内容や進め方・研究テーマについては9割の学生が概ね満足しているが、指導教員とのコミュニケーションがあまり取れていない学生が19%、大学院に相応しいレベルの教育が行われていないと思う学生が11%と全体平均や前回調査時よりも増加傾向であり、FD講演会を通じた教育改善が望まれる。研究環境に満足していない学生は前回は34%だったが、今回は17%に減少している。

「進路・就職について」をみると、78%が就職希望であるが、奨学金を受ける条件付きを含めて11%が進学を希望し（令和4年度は6%）、その進学希望先は100%が本学であったことから、条件次第では博士後期課程への進学者の増加が期待できる。情報入手手段は前回調査時と変わらずインターネットや会社説明会、知人・先輩が多い。一方、キャリア支援室の情報または就職相談員は5%と相変わらず低く、4割の学生がキャリア支援室を利用したことがないため、キャリア支援室の活動内容の周知が必要だと

思われる。

8-1-4 創成科学研究科 創成科学専攻

博士後期課程の創成科学専攻は令和4年度に設置され、3年目の本年度が完成年度となる。1～3年次（休学者を除く、総合科学教育部及び先端技術科学教育部を含む）に96名が在籍する。専攻としては2回目の生活実態調査であるが、全学年を対象とした調査としては初めてとなる。改組前の大学院組織は総合科学教育部（博士後期課程）および先端技術科学教育部（博士後期課程）であり、前回第9回調査との比較は1年次のみで創成科学専攻と2つの旧教育部との比較になる。前回調査の回答数は、創成科学専攻11人、総合科学教育部（博士後期課程）4人、先端技術科学教育部（博士後期課程）17人であることから、比較に際しては回答数が多い創成科学専攻と先端技術科学教育部（博士後期課程）を基準に比較する。また、教育・研究内容をはじめとして旧教育部と現行の専攻を直接比較することは難しいこともあるが、改組後の大学院組織への移行に伴う変化も含めて現状と課題を考える。なお、今回の調査において学生の回答数39、回答率40.6%であり、以前の教育部時代の第8回、第9回よりも若干高い回収率であった。

第1章「本調査の対象者について」より、出身地では海外が33%と前回54%、47%（創成科学専攻、先端技術科学教育部、以降同）より低下した。また、社会人学生が56%と増えており、おそらく博士前期課程からであろうそれ以外の進学者は10%と前回23%、35%から著しく減少している。就職に際して新卒者の給与待遇が改善しているため博士前期課程からの就職が好調であり、博士後期課程への進学者数が減少していると考えられる。

第2章「家族・住居・通学について」より、家庭の年間所得が250万円未満の割合は前回54%、59%から26%へと著しく減少している。社会人学生が増えたことによるためと考えられる。留学生においても250万円未満の割合が54%と依然高いことから、博士後期課程の学生には奨学金制度の拡充により家計の経済的負担が軽減されることを期待する。

第3章「収入・支出について」より、平均収入月額を見ると、3万円未満が38%、53%から5%へ、5万円未満も含めると46%、59%から15%へと大きく減少している。未回答33%があるので単純な比較はできないが、博士後期課程学生の収入が増えているように見える。これも、社会人学生が大幅に増えているためと考えられる。また、留学生については、3万円未満が57%、100%から8%へと大幅に改善している。奨学金を希望する学生は全体で49%、留学生で92%に達しており、奨学金を希望すれば受給できているようである。アルバイトをしている学生は21%であり前回調査の23%、12%から大きな変化は見られない。コロナ禍の収束によるアルバイト環境の改善の一方で、社会人学生の割合増加によるアルバイト不要の要因の両者が関係していると考えられる。アルバイトの目的は生活費や学費が57%と多く、収入額も5～7万円が38%と多くなっており、就学のために仕方ないことではあるが大学院での研究に支障がないか心配である。

第4章「健康状態について」より、睡眠時間が6時間未満の割合が31%となっており十分な休息が取れているか心配である。気になる身体症状が常にある学生が、前回調査の15%、12%から減っているものの少数ではあるが5%あり、十分な休息と関係すると考えられる。現在の精神状態として80%の学生が「充実している」、「気分は普通」を選び、概ね精神的な健康を保っていると考えられる。キャンパスライフ支援センター、保健管理部門の認知度は、「知らない」が前回の38%、12%から15%になっており、認知度は改善しているようである。

第5章「学生生活上の問題点について」より、迷惑行為を受けた割合が69%、94%から19%へと劇的に改善し、セクハラ案件がなくなっている。キャンパスライフ支援センター、総合相談部門の認知

度は、前回調査からあまり変化はない。交通事故の被害者、加害者になるケースが依然として散見され、注意を要する。大学事務室への満足度は90%以上が「満足している」「どちらかといえば満足である」であり、大きな問題はない。

第6章「修学状況について」より、教育理念や教育方針の理解度は「良く知っている」「だいたい知っている」を合わせて84%であり、創成科学専攻に改組されてもその教育内容などが周知されているようである。また、教育理念や教育方針に沿っていると感じているようであり、教育に対する満足度も高い。博士後期課程の勉学でめざすものとして、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が増えており、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」が減少傾向である。今後の博士課程教育のあり方を示すものであろう。一週間の研究活動が20時間未満の者は62%いて、留学生で53%、社会人学生で68%、一般学生で54%と各区分とも多いことが読み取れる。十分な研究時間が取れていないことを危惧する。教員からの指導時間は前回調査に引き続き、全員が週に10時間未満であり、30分未満の学生も相当数いる。教員、学生とも多忙なためと考えられる。一方で、研究指導についての満足度は高く、効率よく研究指導が進められているようである。短い研究指導時間は、大学院での研究を学生自身が主体的に進められていると受け取ることもできる。前回調査に引き続き、研究テーマの満足度、大学院教育のレベル、研究環境の満足度は概ね90%以上であり、博士後期課程として質の高い教育が進められていることが読み取れる。図書館の利用頻度は高くないが、電子ジャーナル・データベースの重要度、満足度は高い。オンラインでの学習が進んでいるためであろう。海外への渡航経験は、コロナ禍から開けて間もないためか33%にとどまり、コロナ禍前の第7回調査の47%と比較して低い。本学の国際化への対応について95%が積極的と肯定的であることから、今後の回復を期待したい。

第7章「進路選択・就職について」より、就職希望職種として「大学・官公庁の教育・研究職」が大幅に割合を減らし、「技術職」「企業等の研究職」が増えている。キャリアパスとしての博士後期課程がアカデミック指向から企業指向に変化していることが読み取れる。進路選択の情報手段として、「Web・インターネット」や「就職情報誌・新聞・マスコミ」が増加し、「指導教員」が減少している。就職に際してキャリア支援室の利用は低く、自身の専門性を理解した上での就職活動であることが伺える。

今回の調査結果では、時代の変化に加えて、博士後期課程の改組前後における学生の意識の変化を読み取ることができた。創成科学専攻への改組後も、大学院博士後期課程としての質の高い教育研究が進められており、それに対する学生の満足度も高いことが読み取れた。ポストコロナでの国際化の回復と推進が課題である。今回は専攻としては3学年がそろって初めての調査であり、今後も継続して創成科学専攻の調査を進め、学生のニーズなどを伺うことが重要と思われる。

8-2 医学研究科

医学の修士課程には21名の大学院生が在籍し、13名からアンケートが回収された（回収率61.9%）。修士課程の留学生は4名であり、3名が回答した（回収率75%）。博士課程には185名の大学院生が在籍し、アンケートが回収できたのは27名（回収率14.6%）である。博士課程の留学生は25名で15名からアンケートが回収された（回収率60%）。アンケートの回収率は十分ではなく、回収率を上げる対策が必要である。

1. 本調査の対象者について

修士課程では、近畿の出身が31%で最も高く、次いでその他（海外）が23%、徳島県と四国（徳島県以外）の出身がそれぞれ15%である。博士課程ではその他（海外）出身者が55%で最も多く、

次いで、近畿の出身が19%、徳島県と四国（徳島県以外）がそれぞれ11%、中部（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）が4%である。大学院生の中で本学出身者の割合は修士課程が46%、博士課程が26%であり、博士課程の本学出身者の割合は低い。社会人大学院生の割合は修士課程で31%、博士課程で26%であり、博士課程において留学生は56%を占めているので、日本人学生における社会人大学院生の割合はもっと高いことになる。

2. 家族・住居・通学について

大学院生の年間所得は、修士課程では、250～500万円未満が31%と高く、次に250万円未満と750～1,000万円未満がそれぞれ15%に減少し、500～750万円未満が8%である。博士課程では、250万円未満が63%と最も高く、次いで250～500万円未満が11%に減少して、750～1,000万円未満と1,000～1,500万円未満が7%と同じ割合である。

住居区分では、修士課程の大学院生の38%、博士課程では30%が自宅から通学している。アパート/マンション（家族と別居）から通学している大学院生は、修士課程で54%、博士課程で44%である。

住居費については、修士課程では、3万円未満と、3万円～4万円未満がそれぞれ25%、5万円～6万円未満が17%、8万円～9万円未満、10万円以上がそれぞれ8%である。博士課程では、3万円未満が30%と最も高く、次いで、3万円～4万円未満が26%、4万円～5万円未満が13%、5万円～6万円未満、7万円～8万円未満、9万円～10万円未満がそれぞれ4%である。

家族について、修士課程でも23%が「配偶者あり子供あり」と回答し、博士課程では「配偶者なし、子供あり」「配偶者あり、子供なし」「配偶者あり、子供あり」がそれぞれ4%、11%、22%であった。

通学方法については、修士課程では、自動車（原付自転車・自動二輪）が46%と最も高く、次いで、自転車（原付自転車・自動二輪）が15%、徒歩が8%であり、博士課程では、自転車（原付自転車・自動二輪）が56%で最も多く、次いで、徒歩が22%、自動車（原付自転車・自動二輪）が19%、バス・JRが4%である。修士課程、博士課程ともに、徒歩、自転車、自動車を主に使用している。通学時間については、15分未満が修士課程で62%、博士課程で74%であり、15分～30分未満が修士課程で0%、博士課程で11%である。大学院生の6～8割が蔵本地区周辺に居住していると思われる。

3. 収入・支出について

1か月の平均収入額（親等からの援助は除く）については、修士課程では3万円未満が38%で最も多く、次いで、30万円以上が23%、3～5万円未満が15%、7～10万円未満、15～20万円未満、20万～25万円未満が各々8%であり、収入額に個人差がみられる。博士課程では10～15万円未満が33%で最も多く、次いで、15～20万円未満が30%、3万円未満が11%、20～25万円未満、25～30万円未満、30万円以上がそれぞれ7%、7～10万円未満が4%であり、博士課程の大学院生の収入は低額と高額に分かれるようである。留学生の修士課程では、3万円未満が67%であり、博士課程では、10～15万円未満が53%で最も多く、次いで、15～20万円未満が33%、3万円未満と7～10万円未満がそれぞれ7%である。

親からの仕送りを受けず経済的に自立している大学院生の割合は、修士課程で46%、博士課程で74%である。仕送りを受けている大学院生は、修士課程で3～5万円未満が15%、3万円未満、5～7万円未満、7～10万円未満、10～15万円未満、20万円以上がそれぞれ8%であり、博士課程では仕送りを受けている大学院生は3万円未満と3～5万円未満と7～10万円未満がそれぞれ7%、3～5万円未満、5～7万円未満、10～15万円未満がそれぞれ4%である。留学生の修士課程では、親等からの援助がないが67%、3万円未満が33%であり、博士課程では、親等からの援助がないが80%、7～10万円未満が13%、10～15万円未満が7%である。大学院生の博士課程では経済的に自立している割合が高い。

1か月の平均支出額（授業料支出は除く）については、修士課程では、7～10万円が38%で最も多く、次いで、3～5万円未満と15～20万円未満が15%であり、博士課程では、10～15万円未満が33%で最も多く、次いで、15～20万円未満が22%であり、7～10万円未満が19%、5～7万円未満、25～30万円未満がそれぞれ7%、3万円未満、20～25万円未満、30万円以上が4%である。留学生の修士課程では、7～10万円未満が100%であり、博士課程では、10～15万円未満が47%で最も多く、7～10万円未満と15～20万円未満がそれぞれ20%、5～7万円未満が13%である。5万円以上の支出額の割合は、修士課程では77%、博士課程では95%である。

奨学金受給者／受給希望者の割合は修士課程では69%、博士課程では81%であり、留学生は修士課程、博士課程ともに100%である。修士課程、博士課程ともに大学院生の多くは奨学金を受給しているか希望している。

アルバイトに従事している大学院生は修士課程で31%、博士課程で11%であり、留学生の修士課程では67%、博士課程では7%である。週あたりの時間は、修士課程では5時間未満と5～10時間未満がそれぞれ50%であり、博士課程では10～15時間未満、20～25時間未満、25時間以上がそれぞれ33%である。留学生の修士課程は5時間未満が100%、博士課程では、10～15時間未満が100%である。アルバイトの目的は修士課程では社会体験のためが最も多く29%、博士課程では生活費や学費のためが60%であり、留学生の修士課程は社会体験のためが100%、博士課程では生活費や学費のためが100%であった。アルバイト収入は、修士課程では3万円未満が75%であり、博士課程では7～10万円未満、10～15万円未満、15万円以上がそれぞれ33%である。留学生の修士課程では、3万円未満が100%、博士課程が7～10万円未満が100%である。

アルバイトに関わるトラブルは修士課程、博士課程ともにゼロだった。

4. 健康状態について

睡眠時間が6時間以上は修士課程では69%、博士課程では89%であり、修士課程の大学院生の31%は睡眠時間が6時間未満である。博士課程の4%の大学院生で睡眠時間が4時間未満であるのは注視すべきである。

気になる症状があると回答した大学院生は修士課程で62%、博士課程で63%であり、症状の内容は、博士課程は頭痛、腹痛・嘔気、動悸・不整脈、めまい・立ちくらみである。

精神的な問題（悩みや不安）に関しては、修士課程では経済状態と就職や進路がそれぞれ38%であり、勉学が31%である。博士課程では勉学が48%であり、次いで、悩みがないが37%、経済状況が30%、就職や進路が22%である。これらの悩みの相談相手は、修士課程では、家族が69%で最も多く、次いで、友人46%であり、博士課程では、友人が63%で最も多く、次いで、家族が56%であり、誰にも相談しない大学院生は修士課程で15%、博士課程で11%である。総合相談部門（総合相談室）、保健管理部門などの学内の相談窓口が身近に感じられない状況にあると思われる。

現在の精神状態については、修士課程で61%、博士課程で81%の大学院生の気分は普通あるいは充実しているが、修士課程は39%、博士課程は19%の大学院生が、なんとなく不安、落ち込みやすい、やる気がでないなどの問題を抱えている。

キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の認識については、修士課程で15%、博士課程で26%が存在を知らず、修士課程で54%、博士課程で48%が存在を知っているが行ったことがない。健康の管理や相談に関して、キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門が有効に活用されるための方策が必要と思われる。

5. 学生生活上の問題点について

迷惑行為の経験について、迷惑行為を受けたことがないのは、修士課程で92%、博士課程で85%であるが、修士課程では、盗難が8%、博士課程では、大学内でセクハラを受けたが7%、いたずら

電話を受けたとストーカーにあったがそれぞれ4%である。セクハラを受けた時の相談者は、修士課程では、相談相手に関する回答はなかったが、博士課程では教員を相談相手にした人が最も多く67%。アカハラを受けた時の相談者は、博士課程では家族が100%である。総合相談部門を相談者にした人は、修士、博士課程ともに0%であった。総合相談部門（総合相談室）の利用の有無と認知度について、修士課程では、利用したことがあるが8%であり、総合相談部門（総合相談室）を知らないが15%、総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが、利用したことがないが77%であり、博士課程では、利用したことがあるが7%であり、総合相談部門（総合相談室）を知らないが33%、総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが、利用したことがないが59%である。総合相談部門（総合相談室）利用後の満足度については、修士課程では、満足であるが100%であり、博士課程では、満足である、どちらかといえば満足であるがそれぞれ50%である。さらに周知を行い、総合相談部門（総合相談室）を積極的に有効に活用することが望まれる。

交通事故遭遇の有無と加害・被害の別について、修士課程では、被害者・加害者両方ともなったことがないが69%、被害者になったことがあるが31%、博士課程では、被害者・加害者両方ともなったことがないが85%、被害者になったことがあるが11%、加害者になったことがあるが4%である。大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている違法薬物を使用したことがありますかについては、修士課程、博士課程ともに、使用したことがないが100%である。使用していても「ある」とは答えないだろう。

大学事務室の対応に満足していますかについては、満足あるいはどちらかといえば満足であるが、修士課程で85%、博士課程で89%、修士課程では、15%がどちらかといえば不満足であり、博士課程では、どちらかといえば不満足であるが、7%、不満足が4%である。

6. 修学状況について

教育理念や教育方針の理解度について、修士課程で85%、博士課程で78%が良くあるいはだいたい知っているが、修士課程で15%があまり知らない、博士課程で22%があまりあるいは全く知らない。

医学の教育理念や教育方針を知っている大学院生の多く（修士課程で91%、博士課程で95%）は教育理念や教育方針に沿った教育が行われていると考えている。教育課程の満足度については、修士課程、博士課程ともに100%が満足あるいはどちらかといえば満足であった。

医学の大学院に入学した理由について、現在所属する大学院が第一志望であったのは、徳島大学卒業生において、修士課程では83%、博士課程では86%であり、他大学卒業生において、修士課程では71%、博士課程では75%である。入学した主な理由について、修士課程では、希望する研究分野があるからが31%と最も多く、次いで、就職等将来を考慮してと研究環境が整っているためがそれぞれ15%、指導教員に勧められたからと継続して修学するためがそれぞれ12%であり、博士課程では、希望する研究分野があるからが19%で最も多く、指導教員に勧められたから、研究環境が整っているため、継続して修学するためがそれぞれ16%である。

大学院での勉強で目指すものについて、修士課程では、高度な専門知識・能力を持つ高度専門職業人が62%で最も多く、次いで、知識基盤社会を多用に支える高度で知的な素養のある社会人が31%、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者が8%であり、博士課程では、高度な専門的知識・能力をもつ高度専門職業人が44%で最も多く、次いで、創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者が30%、知識基盤社会を多用に支える高度で知的な素養のある社会人が15%、確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員が7%である。

受講している授業の内容や進め方についての満足度について、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、修士課程、博士課程それぞれ100%である。

授業以外の自分で行う週あたりの研究活動の時間について、修士課程では、20～40時間未満が

31%で最も多く、次いで、90分～5時間未満が23%、30分～90分未満、10～20時間未満、40～60時間未満がそれぞれ15%であり、博士課程では、40～60時間未満37%で最も多く、次いで、5～10時間未満、20～40時間未満がそれぞれ15%、60時間以上が11%である。博士課程は修士課程に比べて研究活動に使う時間が多い傾向にある。

研究の指導教員について、修士課程では、准教授が38%で最も多く、次いで、教授が23%、講師と助教がそれぞれ15%であり、博士課程では、教授が67%で最も多く、次いで、准教授が15%、講師と助教がそれぞれ7%である。

1週間に研究指導を受ける時間について、修士課程では、30～90分未満が54%で最も多く、次いで、30分未満と90分～5時間未満がそれぞれ23%であり、博士課程では、30～90分未満と90分～5時間未満がそれぞれ30%で最も多く、次いで、10時間以上が19%、5～10時間未満が15%、30分未満が7%である。

研究指導の内容や進め方の満足度について、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、修士課程、博士課程ともに100%である。

研究テーマに対する満足度について、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、修士課程、博士課程ともに100%である。

指導教員とのコミュニケーションがとれているかについて、充分あるいはある程度取れているが、修士課程で100%、博士課程で96%であり、あまり取れていないが、博士課程で4%である。

大学院に相応しいレベルの教育が行われているかについて、充分あるいはある程度行われているが、修士課程、博士課程でともに100%である。

現在の研究環境に対する満足度について、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、修士課程、博士課程ともに100%である。

図書館をどのくらいの頻度で入館利用（実際に登校して入館すること）について、修士課程では、1年に1回程度か、それ以下が31%で最も多く、次いで、1週間に1回程度が23%、1週間に2～3回、半年に1回程度がそれぞれ15%、2週間に1回程度、1か月に1回程度がそれぞれ8%であり、博士課程では、1年に1回程度か、それ以下が70%で最も多く、次いで、半年に1回程度が22%、2週間に1回程度が7%である。

図書館を利用する主な目的について、修士課程では、自習が44%で最も多く、次いで、図書等の貸し出しが22%、電子ジャーナル・データベースが17%、その他が6%であり、博士課程では、図書等の貸し出しが33%で最も多く、次いで自習が30%、電子ジャーナル・データベースとその他がそれぞれ13%、パソコンの利用が10%である。

図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対する満足度について、満足あるいはどちらかといえば満足しているが、修士課程で100%、博士課程で96%であり、どちらかといえば不満足であるが博士課程で4%である。

所属している大学院に相応しい学習をしているかについて、よく学習しているあるいはかなり学習しているが、修士課程で92%、博士課程で88%であり、あまりしていないが、修士課程で8%、博士課程で11%である。

入学後の海外渡航経験について、修士課程では、「ない」が77%であり、次いで1回が23%、博士課程では、「ない」が67%で最も多く、次いで1回が19%、3回と4回以上がそれぞれ7%である。

海外渡航の目的について、修士課程では一時帰国が100%、博士課程では、観光が36%で最も多く、次いで一時帰国とその他がそれぞれ18%、留学と語学研修がそれぞれ9%である。

国際学会への参加について、修士課程では、研究発表したことがないが80%、国内の国際学会で口頭発表をしたことがあるが10%であり、博士課程では、研究発表したことがないが92%、国内の

国際学会で口頭発表したことがあるが8%である。

日本人学生の英会話能力について、修士課程では、なんとか日常会話ができるが40%で最も多く、次いで、あまりできない、できないがそれぞれ30%、博士課程では、できないが42%で最も多く、次いであまりできないが25%、専門用語を使った会話ができる、なんとか日常会話ができる、がそれぞれ17%である。

語学力を高めるために何をしていますかについて、修士課程では、何もしていないが80%で最も多く、次いで、TOEIC、TOEFL等を受験すると外国のラジオ、テレビを視聴しているがそれぞれ10%であり、博士課程では、何もしていないが46%で最も多く、次いで、外国語のラジオ、テレビを視聴しているが23%、つとめて外国人と英語でコミュニケーションするが15%、ラジオ・テレビの英会話番組で学習しているが8%である。英語能力を高める必要性を感じる学生の割合はそれほど高くない。

留学生の日本語会話はどの程度できますかについて、修士課程では、日常会話ができるとなんとか日常会話ができるがそれぞれ33%であり、博士課程では、できないが40%で最も多く、次いで、あまりできないが33%、なんとか日常会話ができるが13%、専門用語を使った会話ができる、日常会話ができるがそれぞれ7%である。

留学生において徳島大学が開講する日本語コースの受講状況について、修士課程では、受講しているが100%であり、博士課程では、以前受講したことがあるが47%で最も多く、次いで、今後受講する予定であるが27%、受講していると受講の予定はないがそれぞれ13%である。日本語コースの満足度について、修士課程では満足している、どちらかといえば満足しているが100%であり、博士課程では、満足している、どちらかといえば満足しているが88%、どちらかといえば不満足であるが11%である。

あなたの将来のために本学の教育に何を望みますかについて、修士課程では、統合的な学習課題を体系的に履修するコースと高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会がそれぞれ19%で最も多く、次いで、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導、企業等での長期間の実践的なインターンシップがそれぞれ14%、産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究と個々の教員の教育・研究指導能力の向上がそれぞれ10%であり、博士課程では、高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会が23%で最も多く、次いで、複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導が21%、統合的な学習課題を体系的に履修するコースが17%、産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究が15%、個々の教員の教育・研究指導能力の向上が8%である。

本学の国際化への対応について積極的であると思いますかについて、どちらかといえば積極的であると思うが、修士課程で85%、博士課程で67%であり、非常に積極的であるが、修士課程で8%、博士課程で33%であり、どちらかといえば積極的とは思わないが、修士課程で8%である。留学生は、修士課程では、非常に積極的であると思うが33%であり、博士課程では、非常に積極的であると思うが53%、どちらかといえば積極的であると思うが47%である。

7. 進路選択・就職について

博士課程への進学意思について、修士課程では、奨学金等の経済的支援があれば進学したいが31%で最も多く、次いで、就職したいが23%、進学したい（進学予定者を含む）と未定がそれぞれ15%であり、進学希望先について、本学が83%である。就職すると答えた学生の希望職種について、修士課程では、大学・官公庁の教育・研究職と専門職（医師等）がそれぞれ23%であり、博士課程では、大学・官公庁の教育・研究職が33%で最も多く、次いで、専門職、既に就職している、その他がそれぞれ17%である。

進路選択の要件について、修士課程では、収入と能力を発揮できることがそれぞれ26%で最も多く、

次いで、就職先の将来性・安定性が21%、経営方針が12%、就職先の社会的評価が6%、勤務地の地理的条件3%であり、博士課程では、収入が25%で最も多く、次いで、就職先の将来性・安定性が24%、能力を発揮できることと仕事に対して適正な評価をしてくれるところがそれぞれ14%、勤務地の地理的条件が9%、就職先の社会的評価が5%、先端技術を駆使しているところが4%、経営方針と企業規模がそれぞれ3%である。

進路を考える上での情報入手手段について、修士課程では、指導教員が22%で最も多く、次いで、Web・インターネットが19%、会社説明会が17%、先輩・知人が14%、大学内資料が8%、就職担当教員、キャリア支援室の情報または就職相談員、就職情報誌・新聞・マスコミがそれぞれ3%であり、博士課程では、指導教員が28%で最も多く、次いで、Web・インターネットが25%、先輩・知人が16%、就職担当教員が11%、キャリア支援室の情報または就職相談員、直接会社に照会がそれぞれ5%、大学内資料が4%、就職情報誌・新聞・マスコミ、家族等がそれぞれ2%である。

キャリア支援室の利用状況について、利用したことがないが、修士課程では92%、博士課程では93%であり、以前に利用したことがあるが、修士課程では8%、博士課程では4%であり、現在も利用しているは博士課程では4%である。留学生について、利用したことがないが、修士課程では100%、博士課程では、87%であり、以前に利用したことがあるが、博士課程では7%である。

就職に関する大学への要望について、修士課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実と面接対策・履歴書の書き方など個別相談の充実がそれぞれ18%で最も多く、次いで、就職ガイダンスの充実と民間企業の求人開拓がそれぞれ14%、公的研究機関・病院等の求人情報の提供が11%、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実と企業説明会の内容充実がそれぞれ7%であり、博士課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が22%で最も多く、次いで、面接対策・履歴書の書き方など実践的指導の充実と公的研究機関・病院等の求人情報の提供がそれぞれ11%、企業説明会の内容充実と就職ガイダンスの充実がそれぞれ6%、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実と求人企業の開拓が3%である。留学生の博士課程では、就職情報誌などの就職関係書籍の充実が29%で最も多く、次いで面接対策・履歴書の書き方など個別相談の充実が17%、公的研究機関・病院等の求人情報の提供が13%、就職ガイダンスの充実が8%、公務員・教員試験講座を開くなど各試験の合格対策の充実、企業説明会の内容充実がそれぞれ4%である。

8-3 口腔科学研究科

口腔科学研究科には口腔科学専攻（博士課程）と口腔保健学専攻（博士前期課程と博士後期課程）が設置されている。本調査は口腔保健学専攻の博士前期課程（以後、前期課程）の大学院生6人中2人（回収率33%）と、同じく博士後期課程および口腔科学専攻（以後、後期課程）の大学院生81人中32人（回収率40%）から回答を得た。留学生は前期課程と後期課程を合わせて19人で、そのうち回答が得られたのは4人（回収率21%）であった。上記のうち、前期課程および留学生のサンプル数が不十分であることから、以降の分析では対象外とした。

第1章の「本調査の対象者について」をみると、徳島県出身者は31%と全研究科・教育部中もっとも高かった。次いで比率が高い順にその他（海外出身）、近畿地方、中部地方、九州地方であり、全体と大差なかった。最終学歴については、徳島大学が34%と全研究科・教育部中もっとも高かった。次いで外国の大学が22%、徳島大学以外の大学が19%と、全体と大差なかった。

第2章の「家族・住居・通学について」をみると、家庭の年間所得の中央値は250～500万円であり、全体と大差なかった。住居区分では、アパート・マンション住まいで家族と別居している学生がもっとも多く、全体と大差なかった。住居費の中央値は6～7万円と前回より上昇し、全体より高かった。生

計を共にしている配偶者・子供の有無については、いずれもなし、がもっとも多く、全体と大差なかった。授業や研究の時間中に子供の世話を担っているのは配偶者がもっとも多く、全体と大差なかった。通学方法は、自転車がかもっとも多く、全体と大差なかった。通学時間は15分未満がかもっとも多く、全体と大差なかった。

第3章の「収入・支出について」をみると、平均月収の中央値は10～15万円と15～20万円の境界にあり、全体より高い傾向にあった。78%は親等からの援助はなく、全体と大差なかった。平均支出額の中央値は10～15万円であり、全体と大差なかった。奨学金受給は72%が希望しており、全体より高い傾向にあった。アルバイトについては47%が従事しており、全研究科・教育部中もっとも高かった。また、アルバイト従事時間の中央値は5～10時間であり、全体と大差なかった。アルバイトの目的は、「生活費や学費」がかもっとも多く、次いで「学会参加のため」、「社会体験のため」であり、全体と大差なかった。アルバイト収入の中央値は7～10万円であり、全体と大差なかった。アルバイトでのトラブル経験は93%が「ない」と回答しており、全体より高かった。経験したトラブルの種類としては「雇用者との意見の不一致」が挙げられており、全体と大差なかった。

第4章の「健康状態について」をみると、睡眠時間の中央値は6～7時間であり、全体と大差なかった。気になる身体症状を訴える学生の比率は63%であり、全体と大差なかった。症状の内容は多岐にわたるが、「頭痛」、「動悸・不整脈」「不眠」が多かった。現在の悩みや不安は多岐にわたるが、「経済状態」、「勉強」、「就職や進路」が主なもので、全体と大差なかった。悩み事の相談相手は主に「友人」、「家族」であり、全体と大差なかった。現在の精神状態に特に問題がないとの回答は合計60%であり、全体と大差なかった。キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門については、25%が存在を認識しておらず、健康診断以外の利用経験者は多くはなかった。

第5章の「学生生活上の問題点について」をみると、迷惑行為の経験者は25%で、うち6%は大学内でのセクハラを、3%はアカハラを受けていた。大学内でのセクハラ、アカハラ以外の迷惑行為経験者のうち33%は誰にも相談せず、相談する相手として総合相談室を挙げたものはいなかったが、大学内でのセクハラやアカハラの相談相手としては「家族」、「教員」とともに「総合相談室」が挙げられていた。一方、アカハラやセクハラ以外の相談相手として総合相談室を挙げたものはいなかった。総合相談室を利用したことがあるものは16%で全体と大差なかった。利用したものは満足している比率が高く、全体と大差なかった。交通事故の被害者になったものは19%、加害者になったものは6%、その両方になったものは6%と、全体と大差なかった。また、違法薬物の経験があるものはいなかった。9%は大学事務室の対応に不満を感じており、全体と大差なかった。

第6章「修学状況について」をみると、60%が所属研究科の教育理念や教育方針を概ね理解し、全員が理念や方針に沿って教育が実践されていると感じており、全体と大差なかった。教育課程に不満を感じているものは9%で全体と大差なかった。大学院進学に際して、徳島大学卒業者は全員第1志望で入学しており、全体より高かった。他大学卒業者では24%が第1志望ではなく、全体より高かった。大学院入学理由では、「希望する研究分野があるから」、「指導教員に勧められたから」、「出身大学だから」が上位を占め、全体と大差なかった。大学での勉強で目指すものとしては、「高度専門職業人」、「大学教員」、「研究者」が上位を占め、全体と大差なかった。大学での教育に不満を感じているのは3%で全体と大差なかった。研究活動と研究指導では、授業外の研究活動時間の中央値は5～10時間で、全体より低い傾向にあった。直接の指導教員は59%が教授と回答しており、全体と大差なかった。指導時間の中央値は30分～90分であり、全体と大差なかった。研究指導の内容や進め方に不満を感じているのは6%、研究テーマに不満を感じているのは0%、指導教員とのコミュニケーションに不満を感じているのは9%、教育のレベルに不満を感じているのは6%、研究環境に不満を感じているものは19%で、いずれも全体と大差なかった。研究環境に不満を感じている対象は「研究費用」、「施設・設備」、「研究

時間」の順に多く、全体と大差なかった。所属大学院への満足度では、不満を感じているものは6%で、全体と大差なかった。図書館の利用について、入館利用頻度の中央値は1か月に1回程度で、全体より高い傾向にあった。利用目的は「貸出」、「自習」、「電子ジャーナル・データベース」、「閲覧やコピー」の順に多く、全体と大差なかった。図書館のサービスに不満を感じているものはいなかった。所属大学院にふさわしい学習をしていると感じていないのは9%で、全体と大差なかった。入学後の海外渡航経験は66%が0回で、全体と大差なかった。海外渡航の目的は「学会参加」が31%でもっとも多く、次いで「一時帰国」と「観光」が25%で全体と大差なかった。国際学会発表は95%が未経験であり、全体より高い傾向がみられた。英会話能力では、最低限の日常生活レベルに満たないものが55%いる反面、46%は語学力を高める努力をしていなかった。本学の教育への期待としては「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」を最多として分散しており、全体と大差なかった。国際化への対応が積極的とは思わないのは9%で、全体と大差なかった。

第7章「進路選択・就職について」をみると就職希望職種には特に傾向はみられなかった。進路選択の要件は「収入」、「将来性・安定性」、「能力を発揮できるところ」の順に多く、全体と大差なかった。進路選択の情報入手手段としては「指導教員」、「先輩・知人」、「Web・インターネット」が多く、いずれも全体と大差なかった。キャリア支援室の利用状況では97%が利用したことがなく、全体と大差なかった。就職に関する要望としては「公的研究機関・病院等の求人情報の提供」、「個別相談の充実」が挙げられており、全体と大差なかった。

以上のように、口腔科学研究科に特有の顕著な傾向は認められないため、大学院全体の課題として、以下の項目を挙げる。

1. ハラスメントの根絶に向け、予防のためのFD活動を継続するとともに、多角的な相談支援体制である総合相談室やメンター制度の広報を充実する。
2. キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門の利用促進のため、大学院生の需要を把握し、大学院生に対する広報を充実する。
3. 英語・英会話能力向上プログラムの敷居を下げ、始めやすく継続しやすい内容やスケジュールなどの需要を把握し、カリキュラムの多様化を図る。
4. キャリア支援室は、ネットからでは得られない多様で専門的な就職情報を把握し、その利用価値を高め、大学院生に対する広報を充実する。

8-4 薬学研究科

薬学研究科は、薬学専攻と創薬科学専攻の2専攻からなり、薬剤師養成のための専門教育を目的とする薬学部薬学科（6年制）と、創薬・製薬科学の研究者養成のための専門基礎教育を目的とする薬学部創製薬科学科（4年制）それぞれの特徴を継続した学部・大学院一貫教育により、新規医薬品の創製から医療現場での医薬品の適正使用に至る広範な分野の専門知識と高い研究能力を有する人材の養成を目指している。今回のアンケート調査対象者は、創薬科学専攻博士前期課程62名（うち留学生2名）、同専攻博士後期課程20名（うち留学生4名）、薬学専攻博士課程6名（うち留学生0名）であり、アンケート回収率は前期課程50.0%（第9回調査35.3%）、後期課程65.4%（第9回調査47.2%）と、前回調査から大きく向上した。前回調査では、COVID-19流行下での調査であったため、感染防止対策としてWEBによる回答を依頼したことが低回収率の主な要因と考えられた。今回の調査では各研究室に回答を依頼するなどの対策を講じたことが回収率の向上につながったと考えられる。

第1章「本調査の対象者について」より、徳島県内の出身者は前期博士課程で20%、博士後期課程では12%と低い割合であり、一人暮らしをしている院生が多いことがわかる。COVID-19による行動・

交流制限は解消されたものの、これら一人暮らしの院生のメンタルケアが引き続き重要である。

第2章「家族・住居、通学」より、家庭の年間所得は、前期課程では500万円未満が30%（第9回調査12%）、500～1,000万円未満が15%（第9回調査46%）、1,000万円以上が25%（第9回調査21%）であり、前回調査よりも500～1,000万円未満が減少し、500万円未満が増加した。社会経済悪化状態が反映されてきたものと考えられる。後期課程では、500万円未満は71%（第9回調査53%）と第9回調査より大幅に増加しており、500～1,000万円未満は6%（第9回調査6%）、1,000万円以上も12%（第9回調査12%）と前回調査と変わらなかった。前期博士課程に比べて500万未満の割合が高いのは両親が既に定年退職している家庭の割合が高いためと考えられる。住居費については、前期課程では「3万円～4万円未満」が45%（第9回調査42%）と最も多く、以下「4～5万円未満」20%（第9回調査33%）、「5万円以上」35%（第8回調査8%）、「3万円以下」0%（第9回調査4%）となった。前回調査と同様に3万円～5万円の範囲が大半を占めているが、5万円以上が前回調査よりも大幅に増加した。後期課程では、「3万円～4万円未満」が47%（第9回調査41%）と最も多く、「3万円未満」24%（第9回調査29%）と「4～5万円未満」24%（第9回調査18%）が続き、5万円以上が6%（第9回調査12%）と、後期博士課程でも大きな偏りはなかった。この住居費の変化は家庭の収入の変化を反映していると思われる。通学方法としては「自転車」（前期課程：85%、後期課程：71%）が、通学時間としては「15分未満」（前期課程：80%、後期課程：71%）が、それぞれ両課程ともに最も多く、本調査開始以来変わらない。

第3章「収入・支出」については、親等からの援助が「全くない」と回答した学生の割合は、前期課程20%（第9回調査0%）、後期課程82%（第9回調査59%）となった。後期課程では奨学金の充実により親からの援助を必要としない院生がさらに増加し、前期課程でも奨学金が充実している現状が分かる。奨学金については、前期課程で35%（第9回調査29%）、後期課程で65%（第9回調査65%）の学生が「現在受給中であるが、更に希望する」と回答している。前期課程では奨学金の受給を希望しない学生が45%と最も多く、家庭から十分に援助を受けている様子が伺える。後期課程では「現在受給していないし、希望もしない」学生が増加しており、前回調査時よりも家庭からの援助が充実している様子が伺える。アルバイトをしている学生の割合は、前期課程で45%（第9回調査25%）と増加する一方、後期課程で12%（第9回調査24%）と減少している。前期課程ではCOVID-19の影響が減少し、アルバイトの求人が増えたこと、後期課程では奨学金の充実が要因と考えられる。アルバイトの従事時間は前期課程では一週間に10時間以下が半数の55%となっており、後期課程でも10時間以下が100%であり、研究活動に影響を与えない程度にアルバイトに従事している様子が伺える。アルバイト収入の1か月の平均は、前期課程では「3万円未満」が44%と最も多かったが、後期課程では3～5万円と5～7万円がそれぞれ50%であった。前回調査と比べて、アルバイトの収入額は全体的に増加傾向にあった。近年の物価上昇に伴う人件費増加が要因と考えられる。アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した学生の割合が、前期課程29%（第9回調査42%）、後期課程40%（第9回調査60%）と最も多かったが、前回調査時と比べて減少傾向にあり、学会参加のためと回答した学生の割合は25%、後期課程で20%であった。アルバイト収入を学会の参加費用に使える経済的余裕が生じていることが伺える。

第4章「健康状態」について、「気になる症状が時々ある」あるいは「常にある」と回答した学生は、前期課程40%、後期課程47%と、第9回調査とはほぼ同じ結果（前期課程：54%、後期課程：41%）であった。「常にある」と回答した学生はわずかであるが（前期課程：5%、後期課程：12%）、症状は様々である。睡眠時間については、「6～7時間未満」と回答した割合（前期課程：35%、後期課程：47%）が最も多く、次に「5～6時間未満」が前期課程で30%、後期課程で41%となっており、殆どの学生の睡眠時間は6時間前後となっている。また、前回調査と同様に「4時間未満」の回答はなかった。精

神状態については、「充実している」あるいは「気分は普通」との回答が、前期課程では80%（第9回調査67%）、後期課程で88%（第9回調査53%）と大幅に増加しており、COVID-19禍の収束によって学生の精神状態が安定してきたことが伺える。悩みごとの相談相手としては、第9回調査と変わらず、「友人」と「家族」との回答が多く、精神面を含めた健康維持管理を目的とした専門相談機関である総合相談部門（学生相談室）や保健管理部門の利用は前期課程、後期課程共に0%と利用されていない。総合相談部門の利用を促す方策が必要である。一方で、「誰にも相談しない」が前期課程15%、後期課程6%と、第9回調査（前期課程：21%、後期課程：12%）から減少している。引き続き、総合相談部門や保健管理部門のサービス内容を学生に周知徹底し、有効利用を促す取り組みを継続していく必要がある。

第5章「学生生活上の問題点」について、前期課程で10%（第9回調査83%）、後期課程で6%（第9回調査94%）の学生が、何らかの迷惑行為（悪徳商法、ストーカー、セクハラなど）を受けたと回答している。両課程共に前回調査よりも大幅に減少しており、ガイダンス等での悪徳商法に対する注意喚起が有効であったことが伺える。薬学研究科ではセクハラ、アカハラの回答はなかったが、盗難の被害が多いため今後の注意喚起が必要である。充実した学生生活のためには、学生生活上の問題点に関して一層の注意喚起を行い、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。また、総合相談部門の利用は前期課程で10%、後期課程で24%と前回調査よりは増加しているものの、依然として低迷していることから、総合相談部門との緊密な連携のもとに、学生生活支援に係る啓発活動と指導を今後も継続的に進めていく必要がある。

第6章「修学状況」については、薬学研究科の教育理念や教育方針を「良く知っている」あるいは「だいたい知っている」と回答した学生の割合は、前期課程で85%（第9回調査83%）、後期課程で77%（第9回調査71%）前回調査と変わらず高い割合を維持しており、教育理念や教育方針はよく周知されている。教育課程に対する満足度は、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生が、前期課程は100%（第9回調査95%）であり、後期課程も94%と第9回調査（95%）と同様に高い満足度を維持していた。一方、後期課程で6%の学生が「不満足である」と回答しており、第9回調査の6%から下がっておらず、不満足と感じている学生が一定数いることに留意すべきである。教育理念や教育方針の入学前周知に一層努め、後期家庭でも学生の満足度が100%となるよう研究科全体での取り組みと教員個々の不断的な努力が求められる。授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間は、40時間以上が前期課程で74%、後期課程で77%と、大学全体（前期課程：27%、後期課程：31%）を大きく上回っており、これまでの調査結果同様、他の研究科・教育部に比べて研究活動時間が長い。引き続き、大学院生が研究活動に専念できる環境を整備していくことが重要である。研究指導の内容や進め方については、前期課程95%、後期課程95%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、研究テーマへの満足度については、前期課程では95%、後期課程では95%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答している。また、「全体として薬学研究科に満足していますか」との設問については、前期課程で100%、後期課程で94%の学生が「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答しており、これらの結果は第9回調査とあまり変わりなく、修学状況は比較的高い満足度が維持されている。しかし、後期課程では、わずかではあるが、研究指導の内容や進め方に満足していない（6%）と回答しており、また一定数の学生が現在の研究環境に「どちらかといえば満足していない」あるいは「満足していない」と回答している（前期課程10%、後期課程24%）。不満足と回答した理由の大半は「施設・設備」（前期課程50%、後期課程43%）および「研究費用」（前期課程25%、後期課程43%）であった。大学院生に充実した研究環境を提供するために、外部資金獲得に向けた教員個々のより一層の努力が求められる。図書館のサービス（施設設備、図書・雑誌、電子ジャーナル等）に対して、「満足している」

あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した学生の割合は、前期課程 85%（第 9 回調査 96%）、後期課程 94%（第 9 回調査 89%）で、全体として満足度は高いと言えるが、前期課程では満足度は低下している。これは、ダウンロードできるジャーナルが以前よりも削減されたことによるものと推察される。入学後に海外渡航経験があると回答した学生は、前期課程で 25%（第 9 回調査 13%）、後期課程で 36%（第 9 回調査 18%）であり、前回調査よりも向上傾向にある。これは、COVID-19 による規制が緩和されたことによるものである。前回調査では「観光」が前期・後期共に最も多かった（前期 67%、後期 67%）が、今回調査では「学会参加」が最も多くなった（前期 50%、後期 56%）。COVID-19 の影響で延期されていた国際学会が再開されたことが要因と思われる。なお、観光目的の海外渡航も引き続き高い割合となっている（前期 33%、後期 33%）。国際学会での発表経験については、前期課程では 18%、後期課程では 39%であった。前回調査よりわずかながら増加しており、今後は両課程ともに国際学会での発表経験は増加していくと期待できる。語学力を高めるために「何もしていない」と回答した学生が、前期課程 30%、後期課程 29%と、第 9 回調査（前期課程 46%、後期課程 47%）より大幅に減少している。国際学会での発表が英語学習のモチベーションとなるため、国際学会の再開が学習意欲の向上につながったと考えられる。薬学研究科では独自に薬学英語特論を必修科目として開講し、英語力強化に取り組んでいるが、今後も国際学会への参加を促すなど積極的な対策を行う必要がある。なお、本学の国際化への対応については、前期課程で 70%、後期課程で 94%の学生が「非常に積極的であると思う」あるいは「どちらかといえば積極的であると思う」と回答していたが、まだ十分とは言えず、国際化への取り組みをさらに加速していくことが望まれる。

第 7 章「進路選択・就職」では、前期課程学生の後期課程への進学希望者は 20%であり、第 9 回調査（21%）とほぼ同じである。前期課程の就職を希望する学生（70%）の希望職種は「技術職」（50%）および「企業等の研究職」（44%）が大半を占めており、専門性を活かした職種を希望している。後期課程学生の就職希望職種としては「技術職」（50%）が多かった。進路選択で重視する要件として、両課程ともに「収入」、「将来性・安定性」、「能力を発揮できること」が上位を占めていたが、後期課程では「勤務地の地理的条件」の割合も比較的高かった。県外からの学生が殆どであることを考慮すると、都心に近い勤務地を希望しているものと推察される。情報入手手段としては両課程ともに「Web・インターネット」との回答（前期課程：27%、後期課程：25%）が最も多く、情報源として中心的役割を果たしている。一方で、本学のキャリア支援室を「利用したことがない」と回答した学生が、前期課程で 55%、後期課程で 76%であった。薬学研究科では、独自の組織的な就職支援に加え、キャリア支援室とも連携した就職支援の強化を図っているところであるが、今後も学生のニーズに応じたきめ細かい就職支援に一層努力する必要がある。

最後に、本調査より明らかとなった薬学研究科の現状と課題を総括する。

1. 奨学金の充実が大学院進学を後押しするようになっている。引き続き、大学院生を対象とした経済的支援体制を充実させていく必要がある。
2. 研究・教育の現状には概ね学生は満足しているが、満足していない学生が一定数いることに留意し、修学環境等の改善に向けた一層の取組みが求められる。
3. 研究室で多くの時間を過ごす大学院生の心身の健康保持・増進のため、総合相談部門・健康管理部門との緊密な連携による学生支援体制のより一層の強化が望まれる。また、迷惑行為根絶に向け、注意喚起を徹底するとともに、教員ならびに学生の意識をさらに向上させる必要がある。
4. 就職支援に関しては、研究科およびキャリア支援室が行っている様々な支援活動への学生の積極的な参加や利用の啓発・促進に努めるとともに、学生の多様化するニーズにきめ細かく対応する支援体制の強化が望まれる。

以上、COVID-19 禍の影響が収束したことで第 9 回調査よりも改善された内容もあったが、全体的に

は大きく変わっておらず、上記課題の克服に向けて今後も学生のニーズという視点に立って鋭意努力していく必要がある。なお、対面でアンケートの回答を依頼するなどアンケート回収率の向上に向けた取り組みが必須である。

8-5 医科栄養学研究科

医科栄養学研究科において、前期課程在籍者は52人で、回答した者は14人、回答率は26.9%であった。留学生はいなかった。後期課程在籍者は25人で回答した者は11人、回答率は44%、留学生は2名で回答はなかった。

1. 本調査の対象者について

前期課程では、徳島県出身者と近畿地区出身者がそれぞれ29%と最も多く、次いで四国（徳島県以外）が21%であった。後期課程では、近畿地区出身者の割合が36%と最も多く、次いで徳島県と中部（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）出身者の割合がそれぞれ18%であった。出身大学別に見ると、前期課程では、徳島大学出身者が86%と多かった。後期課程では、徳島大学大学院修士・博士前期課程が36%で最も多かった。「社会人か留学生か」については、後期課程では、社会人が45%であった。

2. 家族・住居・通学について

「住居区分」では、前期課程では、全体で「アパート・マンション（家族と別居）」が64%、次いで「自宅（家族と同居）」が36%であった。後期課程では、「アパート・マンション（家族と別居）」が55%で一番多く、次いで「自宅（家族と同居）」が36%であった。

「住居費」に関しては、前期課程では、「8～9万円未満」が36%で最も多く、次いで「3万円未満」が21%となっている。後期課程では、「4～5万円未満」「5～6万円未満」「6～7万円未満」が同率で18%ともっとも多く、「3万円未満」、「3～4万円未満」、「8～9万円未満」、「10万円以上」がそれぞれ9%であった。

「配偶者・子供の有無」については、前期課程では93%が「配偶者・子供ともなし」であった。後期課程では「配偶者・子供ともなし」が64%であった。

「通学方法」では、前期課程では「自転車通学」が71%と一番多く、次いで「自動車」が14%であった。後期課程では、「自動車通学」が36%と一番多く、次いで「自転車」が27%であった。「通学時間」に関しては、前期課程では、「15分未満」が71%、後期課程では、「15分未満」が55%であった。

3. 収入・支出について

前期課程では、親等からの援助を除く平均収入額は21%が「3万円未満」、57%が「3～5万円未満」であった。後期課程では、27%が収入額「15～20万円未満」、27%が「20～25万円」、45%が「30万円以上」であった。

「親等からの援助」に関しては、前期課程では、14%が親等からの援助が全くなく、85%が10万円未満の援助を受けている。後期課程では、82%が親等からの援助が全くなく、18%が10万円未満の支援であった。

「1か月の平均支出額」については、前期課程では、「3～5万円未満」が43%と一番多く、次いで「7～10万円未満」が21%であった。後期課程では、「15～20万円未満」と「20～25万円未満」が27%と一番多く、次いで「7～10万円未満」と「25～30万円未満」が18%であった。

「奨学金の希望」においては、前期課程では、43%が「奨学金を受給しているが更に希望している」、後期課程では、27%が「奨学金を受給しているが更に希望する」と回答した。

「アルバイト」については、前期課程では、86%の大学院生が、後期課程では、18%がアルバイト

をしていると回答した。一方、1週間あたりのアルバイト従事時間は、前期課程では「5～10時間未満」が50%であったのに対し、後期課程ではデータなし、未回答であった。アルバイトの目的は、前期課程では、「生活費や学費のため」が29%、次いで「学会参加のため」が26%であった。「レジャー・旅行」と「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」を合わせると32%と全体で最も高い。後期課程では、「生活費や学費のため」が50%で、「日常の娯楽・嗜好品等購入のため」が50%であった。

「アルバイト収入金額」については、前期課程では「3～5万円未満」が50%、「3万円未満」が17%であった。一方で、後期課程では「3万円未満」が0%であり、「3～5万円以上」と「15万円以上」がそれぞれ50%であった。

4. 健康状態について

「睡眠時間」においては、前期課程では「6～7時間未満」が79%、「5～6時間未満」が21%であった。後期課程では、「6～7時間未満」が36%、「4～6時間未満」が45%であった。

「気になる症状」において、「ある」と答えた学生は、前期課程は「時々ある」と「常にある」を合わせて71%、後期課程では82%であった。主な症状は、前期課程はデータなし、未回答であった。後期課程は、「頭痛」、「下痢・便秘」、「めまい・立ちくらみ」「不眠」「その他」であった。

「主な悩みや不安」は、前期課程では「就職や進路」が43%、「勉学」が30%、「ない」が14%の順であった。後期課程は、「就職や進路」が36%と「勉学」「経済状況」が27%、「生きがいや目標」が18%であった。悩み事は、前期課程、後期課程ともに「友人」もしくは「家族」に相談する学生が多かった。悩みを最も身近な人に相談することで、ストレスを軽減したり、助言を得たり、問題解決をはかるなど、適切な対処行動をとっていることが推測される。また「悩みを誰にも相談しない」という学生は、前期課程7%、後期課程9%であった。

「現在の精神状態」として、前期課程では14%の学生が「充実している」、64%が「気分は普通」を選び、精神的な健康を保っていると考えられるが、21%は「なんとなく不安」あるいは「落ち込みやすい」と回答した。後期課程では、45%の学生が「充実している」または「気分は普通」と回答し、18%が「なんとなく不安」、18%が「落ち込みやすい」などのネガティブな回答が増加している。「キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門を知らない」と回答した学生は前期、後期課程それぞれ、7%、9%であり、概ね周知されている。

5. 学生生活上の問題点

「大学内でセクハラを受けた」が前期課程、後期課程とも0%であった。

「盗難、性犯罪・性暴力、悪徳商法にひっかかったなどの事件」の被害については、いずれかにあったと回答した者は、前期課程で21%、後期課程で18%であった。

総合相談部門（総合相談室）の利用の有無と認知度について、前期課程では、利用したことがあるが14%であり、総合相談部門（総合相談室）を知らないが21%、総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが、利用したことがないが64%であり、後期課程では、利用したことがあるが18%であり、総合相談部門（総合相談室）を知らないが27%、総合相談部門（総合相談室）があるのは知っているが、利用したことがないが55%である。総合相談部門（総合相談室）利用後の満足度については、前期課程、後期課程ともに、「満足である」が50%であり、「不満足」という回答はなかった。総合相談部門の周知はまだ十分ではないようである。

「交通事故」については、被害者・加害者のいずれかになったことがある者が、前期課程で28%、後期課程で55%であった。「大麻・覚醒剤などの法律上禁止されている薬物の使用」については、使用について「ある」と回答した学生はいなかった。使用していても「ある」とは答えないだろう。

「大学事務室の対応への満足度」に関して、「満足」と「どちらかといえば満足」をあわせた回答は、前期課程、後期課程どちらも100%であった。

6. 修学状況について

「教育理念・方針と教育に対する満足度」は、所属する教育部の教育理念や教育方針について、「良く知っている」、「だいたい知っている」と答えた人の割合は、前期課程で85%、後期課程で82%であった。

教育理念や教育方針を知っている学生に対して、教育理念や教育方針に沿って教育が行われていると思うかどうかを尋ねたところ、前期課程では92%、後期課程では89%が「思う」と答えた。

教育課程に「満足している」と回答した前期課程の学生は79%であり、「どちらかといえば満足している」と答えた学生（21%）と合わせて100%であった。後期課程も全体の72%がほぼ満足している（「満足している」36%、「どちらかといえば満足している」36%）と回答した。後期課程では「満足している」が半減している。

大学院進学における志望順位について、当大学院を第一志望としていたものの割合は、本学出身者では前期課程で83%、後期課程で100%に対し、他大学出身者では、前期課程、後期課程ともに100%であった。

「本学を選んだ理由と目的」において、前期課程の学生の主な入学理由は、「出身大学だから」が26%、「希望する研究分野があるから」が24%、「研究環境が整っているため」が18%、「継続して修学するため」が15%であった。後期課程の学生は、「出身大学だから」が最も多く23%、次いで「希望する研究分野があるから」「就職等将来を考慮して」「継続して修学するため」がそれぞれ14%、「指導教員に勧められたから」「地元の大学だから」「研究環境が整っているため」「先輩や友人に勧められて」がそれぞれ9%であった。

「大学院での勉学で目指すもの」では、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」と「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ、研究者」がそれぞれ36%、「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」が21%、「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた大学教員」が7%であった。後期課程では、「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が36%、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」が27%「確かな教育能力と研究能力を兼ね備えた、大学教員」と「知識基盤社会を多様に支える高度で知的な素養のある社会人」がそれぞれ18%であった。

「授業の内容や進め方」に対して、前期課程では、「満足している」79%、「どちらかといえば満足している」21%、後期課程では、「満足している」55%、「どちらかといえば満足している」36%であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」は、前期課程では「20～40時間未満」が43%、「10～20時間未満」「40～60時間未満」がそれぞれ29%であった。これは他の研究科と比較してもかなり長い。後期課程は、「60時間以上」が9%、「40～60時間未満」が45%、「20～40時間未満」9%とさらに研究時間は増えている。

研究指導としては、前期課程において、教授から指導を受ける院生の割合は43%で最も多く、次いで講師、助教がそれぞれ21%、准教授が14%であった。後期課程では、教授が45%と最も多く、次いで助教が27%、その他が18%、講師が9%であった。

「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」の設問で、前期課程では「30～90分未満」が43%と最も多く、次いで「30分未満」が36%、「90分～5時間未満」が14%、「5～10時間未満」が7%の順であった。後期課程では、「30～90分未満」が45%、「30分未満」「90分～5時間未満」がそれぞれ27%であった。「研究指導の内容や進め方について」の設問に対する前期課程の回答は、「満足している」が最も多く57%、「どちらかといえば満足している」の36%と合わせると、93%であったが「不満足である」が7%であった。後期課程の回答は、「満足している」36%と「どちらかとい

えば満足している」36%をあわせて72%であった。

論文のテーマについての満足度では、前期課程の「満足している」、「どちらかといえば満足している」をあわせた人の割合が93%、後期課程でも90%であった。

「指導教員とのコミュニケーションに関する」設問では、前期課程の学生は、「充分とれている」が64%、「ある程度とれている」が36%であった。同じ設問に対して、後期課程では「充分とれている」が27%、「ある程度とれている」が55%で、「あまりとれていない」が18%を占め、後期課程ではコミュニケーションに関して注意を払う必要があるようである。「まったくとれていない」という回答は前期課程、後期課程ともになかった。

「大学院の教育レベル」に関する設問では、「充分に行われている」と「ある程度行われている」とをあわせて前期課程で93%、後期課程で91%であった。

「研究環境に対する満足度」においては、前期課程では、研究環境に「満足している」57%、「どちらかといえば満足している」43%であった。後期課程では、研究環境に、「満足している」が27%、「どちらかといえば満足している」73%であった。

「所属大学院に対する満足度」の設問では、前期課程では、「満足している」が79%、「どちらかといえば満足している」が21%であった。後期課程では、「満足している」が55%、「どちらかといえば満足している」が36%であり、「不満足である」は後期課程で9%であった。

「図書館の利用頻度」については、前期課程で「1年に1回程度か、それ以下」の57%が最も多く、次に「1週間に1回程度来館する」と「半年に1回程度」がそれぞれ14%であった。後期課程では「1年に1回程度かそれ以下」が64%、次いで「半年に一回程度」が27%、「1か月に1回程度」が9%であった。図書館利用の目的では、前期課程では「図書等の貸し出し」が32%、「自習」が28%、後期課程では、「電子ジャーナル・データベース」が45%、「図書等の貸し出し」「図書等の閲覧やコピー」がそれぞれ18%であった。「図書館のサービスに対する満足度」については、前期課程では「満足している」、「どちらかといえば満足している」の合計で93%、後期課程は同様の合計が100%であった。あまり利用しないので、不満もないと考えられる。

所属している大学院に相応しい学習をしているかの問については、前期課程では、「良く学習している」が36%、「かなりしている」が43%、「あまりしていない」が21%であった。後期課程では、「良く学習している」が45%、「かなりしている」が9%、「あまりしていない」が36%、「全然していない」が9%であった。

「入学後の海外渡航経験」に関しては、1回以上渡航経験のあるものが前期課程で21%、後期課程で27%であった。「国際学会での研究発表」に関しては、「海外の国際学会で口頭発表したことがある」が7%、後期課程では、「海外の国際学会で口頭発表をしたことがある」と「海外の国際学会でポスター発表をしたことがある」がそれぞれ9%、それ以外は、前期課程、後期課程ともに国際学会での発表経験がないと回答した。

日本人学生の「英会話」に関して、「日常会話ができる」と「なんとか日常会話ができる」をあわせて前期課程では36%、後期課程で64%であった。一方で、「語学に関する自己学習」は、「何もしていない」が前期課程では71%、後期課程では47%であった。必要性がそれほど高くないのか、意欲が高くないのかについて不明である。

「本学の教育への期待」に関して「あなたの将来のために、本学の教育に何を望みますか」について、前期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」が最も多く36%、次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が21%、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」が18%、「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が14%、「企業等での長期間の実践的なインターンシップ」が7%、「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」が4%であった。

後期課程では、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」と「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」がそれぞれ27%、次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が20%、「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究」と「産業界、地域社会との積極的な連携、共同研究」がそれぞれ13%であった。

「本学の国際化への対応」については、「非常に積極的であると思う」、「どちらかといえば積極的であると思う」を合わせると、前期課程では85%、後期課程では91%であった。

7. 進路選択・就職について

「進路選択・就職について」に関する設問の中で、前期課程の大学院生の「後期課程への進学意思」があるのは14%で、「奨学金等の援助があれば進学したい」は0%であった。なお、進学希望先を本学としたものは100%であった。前期課程の学生の就職希望職種は、「専門職（医師など）」が27%、「大学・官公庁の教育・研究職以外の公務員」「技術職」「企業等の研究職」がそれぞれ20%、「大学、官公庁の教育・研究職」と「その他」がそれぞれ7%であった。後期課程では「専門職（医師等）」が100%であった。

「進路選択で重視する要件」を尋ね、3個以内での複数回答結果では、前期課程では「就職先の将来性・安定性」が24%、次いで「収入」が22%、「能力を發揮できること」が20%であった。後期課程では、「能力を發揮できること」が27%で最も多く、「収入」が23%、「就職先の将来性・安定性」「勤務地の地理的条件」「仕事に対して適正な評価をしてもらえるところ」がそれぞれ15%であった。

「進路選択の情報の入手手段」について、前期課程では、「Web・インターネット」28%、「先輩・知人」が21%、「キャリア支援室の情報または就職相談員」12%、「指導教員」と「大学内資料」がそれぞれ7%の順であった。後期課程では、「Web・インターネット」が40%、「指導教員」が20%、「先輩・知人」「就職情報誌・新聞・マスコミ」「家族等」がそれぞれ13%、であった。

「キャリア支援室利用状況」については、前期課程は過去の利用も含めてキャリア支援室の利用は57%、後期課程は過去の利用も含めて9%であった。

8-6 保健科学研究科

保健科学研究科における前期課程在籍者は50人、回答者は25人、回収率は50%であった。後期課程在籍者は28人で、回答者は16人、回収率は57.1%であった。留学生は、前期課程在籍者は1人、後期課程在籍者は5人である。第9回調査の回収率と比較すると、前期課程では約16.7%低下し、後期課程では同じであった。

第1章「本調査の対象者について」では、回答者の出身地は、前期課程の44%が「徳島県」で、第9回調査よりも2%増加した。次いで「四国（徳島県以外）」が24%であった。後期課程では、「近畿」と「その他（海外）」がそれぞれ25%、「徳島県」が19%、「九州」「中国」「中部（新潟、富山、石川、福井、山梨、長野、岐阜、静岡、愛知）」「関東（茨城、栃木、群馬、埼玉、千葉、東京、神奈川）」「北海道」が6%ずつで、第9回調査と比較し、徳島県の割合は約6%低下した。

回答者の出身大学（大学院）は、前期課程では「徳島大学」が68%で、第9回調査より8%低下した。後期課程は「徳島大学大学院」が38%、徳島大学以外の「国内の大学院」が31%であった。社会人が占める割合は、前期課程52%であり、第9回調査よりも28%増加した。後期課程については63%で第9回調査よりも18%低下するも、全研究科の中で社会人学生の割合が最も高い。

第2章「家族・住居・通学について」の「家庭の収入」では、前期課程は250～500万円未満が28%で最も多く、次いでわからないが24%、750～1,000万円未満が20%、250万円未満が16%、500～750万円未満が12%であった。後期課程は、250万円未満が38%で最も多かった。

「住居区分」では、前期課程で最も多かったのが、「アパート・マンション（家族と別居）」で76%、次いで「自宅（家族と同居）」が24%で、第9回調査と比べて「アパート・マンション（家族と別居）」の割合が増加した。社会人学生の割合が高い後期課程は、「アパート・マンション（家族と別居）」が38%、「自宅（家族と同居）」が63%となった。

「住居費」は、前期課程では「3万円～4万円未満」と「5万円～6万円未満」がそれぞれ24%、「4万円～5万円未満」は16%「3万円未満」と「6万円～7万円未満」がそれぞれ8%であった。社会人学生の割合が高い後期課程は「3万円未満」が31%、次いで「3万円～4万円未満」「4万円～5万円未満」がそれぞれ13%だったが、無回答が25%であった。

「婚姻状況」は、前期課程では「配偶者なし・子供なし」が84%で、第9回調査より3%低下した。「配偶者あり・子供あり」は12%で、第9回調査より4%増加した。授業や研究をしているとき、子供の世話をしているのは「配偶者」が50%であるのに対し、「親や親戚」が33%、「その他」が17%であった。後期課程の「配偶者あり・子供あり」は50%で、研究科の中では一番高い値である。授業や研究をしているとき、子供の世話をしているのは、「配偶者」と「親や親戚」を合せると53%で、第9回調査より29%低下した。

「通学方法」は、前期課程では、「自動車」通学が44%で最も多く、次いで「自転車」が40%であった。後期課程では、「自動車」が69%である。「通学時間」は、前期課程では、「15分未満」が48%、「15分～30分未満」が20%で「30分以内」が約7割を占めた。後期課程は、「15分未満」が31%、「15分～30分未満」が25%で、第9回調査に比べ「30分以内」が約6割を占めた一方、「2時間以上」も19%いる。

第3章「収入・支出について」の「1か月の平均収入額」については、前期課程では36%の学生が5万円未満の収入であるが、36%は20万円以上の収入を得ている。前期課程留学生では、「3万円未満」が100%であった。後期課程では、30万円以上が6%いるが、第9回調査より19%低下した。「親等からの援助」は、前期課程の56%が全くないと答えており、「3万円未満」(28%)や「3～5万円未満」(8%)と合わせると9割を超え、収入面での独立傾向がうかがえる。後期課程は、94%は援助が全くないと回答していた。

「1か月の平均支出額（授業料支出は除く）」は分散しているものの、前期課程で「5～7万円未満」が28%で最も多く、次いで「15～20万円未満」が24%であった。10万円未満の区分を合算すると、第9回調査に比べ13%減となる68%が支出を10万円未満に抑えていた。後期課程では、「15～20万円未満」が31%で最も多く、研究科の中で15万円以上の割合が43%と2番目に高かった。

「奨学金」について、前期課程では、「現在受給中であるが、更に希望する」が36%だが、残りの64%は受給も希望もしていない。また、後期課程で奨学金を希望するのは44%で、56%は奨学金を受給も希望もしていない。第9回調査と比べ、受給希望者は前期課程で7%増加し、後期課程は同水準であった。

「現在アルバイトをしているか」では、前期課程では、アルバイトをしている割合は44%で第9回調査より24%減少した。後期課程では19%と少なくなっていた。前期課程のアルバイトをしているもののうち、「アルバイトの従事時間」は、54%が週に10時間未満で、20時間を越えるものは0%であった。後期課程では25時間以上が67%を占めていた。アルバイトの目的は、「生活費や学費のため」が42%(前期課程)、67%(後期課程)が最も多かった。「アルバイトの収入額」は、前期課程では「3～5万円未満」「5～7万円未満」が最も多くそれぞれ36%であり、後期課程では「15万円以上」が67%であった。社会人大学生の社会人としての収入であり、「アルバイト」と見なすべきでないようにも思える。「アルバイトのトラブル」は、前期課程では、「雇用契約と異なる（給料、業務内容、業務時間）」と「アルバイト同士の人間関係」がそれぞれ15%おり、54%はトラブルがなかった。後期課程では、「ない」が13%

であり、それ以外はなんらかのトラブルを経験している。他の研究科と比べて突出してアルバイトにおけるトラブルを回答する割合が高く、状況を把握する必要があるだろう。

第4章「健康状態について」では、「睡眠時間」は前期課程で「4～6時間未満」が48%、「6～8時間未満」が52%であった。後期課程では、「4時間未満」が6%、「4～6時間未満」が38%、「6～8時間未満」が51%であった。「気になる身体症状」については、前期課程では「ない」が52%、「時々ある」「常にある」がそれぞれ24%であった。症状として「頭痛」(67%)、「下痢・便秘」(67%)、「生理痛・生理不順」(33%)、「不眠」(33%)、「その他」(33%)、「腹痛・嘔気」(17%)、「動悸・不整脈」(17%)、「めまい・立ちくらみ」(17%)、と多岐に渡り、分類しにくい多様な症状を抱えている。後期課程では81%が気になる症状を抱えており、その内訳は、「頭痛」(40%)、「めまい・立ちくらみ」(40%)、「不眠」(40%)、「生理痛・生理不順」(20%)、「アトピー・アレルギー」(20%)、「その他」(20%)と様々であった。大学院生としてより社会人としての健康上の問題と捉えられるかもしれない。

「主な悩みと不安」については、前期課程の16%は「ない」と回答しており、第9回調査の37%より21%悪化した。最も多い悩みは「勉強」(40%)、次いで「経済状態」(36%)、「身体的不調」(28%)、「就職や進路」(28%)であった。後期課程では、「勉強」が56%、「就職や進路」が19%で、前回調査に比べ「勉強」や将来の「就職や進路」に対する悩みや不安はそれぞれ18%上昇、19%低下した。一方「経済状態」が50%であった。「相談相手」は、前期課程は、「家族」が68%、「友人」が64%、「指導教員以外の教員」、「保健管理部門」がそれぞれ4%と、「誰にもしない」が12%であった。後期課程は、「家族」が56%、「友人」が50%、「指導教員」が19%と、「誰にもしない」が19%であった。

現在の「精神状態」は、前期課程では「気分は普通」が48%で最も多い一方で、「いらいらする」「なんとなく不安」「落ち込みやすい」「やる気がでない」を合わせると36%で、精神状態への支援が必要である。後期課程では、「いらいらする」「なんとなく不安」「やる気がでない」を合わせると50%で、特に「やる気がでない」は31%で研究科の中でも突出しており、注意が必要である。

「キャンパスライフ健康支援センター保健管理部門」の利用については、「健康診断のために行ったことがある」が前期課程で48%、後期課程では38%であった。(存在を)「知らなかった」は前期課程、後期課程それぞれ、8%、6%なので、周知自体にはあまり問題がないように思われる。

第5章「学生生活上の問題点」において、「迷惑行為を受けたことがあるか」では、前期課程では「強盗」が4%おり、後期課程では「悪徳商法に引っかかった」が6%、「カルトのような集団への勧誘を受けた」が11%であった。

また、前期課程で交通事故の「被害者となったことがある」と回答したのは16%、「被害者・加害者の両方になったことがある」が4%であった。後期課程では「被害者となったことがある」が44%、「被害者・加害者の両方になったことがある」はいなかった。大麻・覚せい剤などの薬物使用は前期課程、後期課程ともに0%であった。

「総合相談部門(総合相談室)の利用」について、「利用したことがある」学生は前期課程で4%、後期課程では19%が「利用したことがある」と回答した。「知らない」と回答した学生は前期課程44%、後期課程25%で、「知らない」と回答した割合は第9回調査よりもそれぞれ2%、6%増加し、この周知の必要性は高い。

「大学事務室の対応満足度」は、「満足している」と「どちらかといえば満足である」を合わせた割合は、前期課程で96%、後期課程は94%であった。

第6章「修学状況について」の「教育理念・方針と教育に対する満足度」では、前期課程において、「教育理念や教育方針を知っている」割合は、「良く知っている」「だいたい知っている」の合計が64%で第9回調査より5%減少した。後期課程は「良く知っている」と「だいたい知っている」の合計が81%で、第9回調査より12%増加した。教育理念や教育方針に沿った教育を受けていると「思う」は、前

期課程で94%、後期課程が100%であった。教育課程の満足度は、前期課程では、「満足している」「どちらかといえば満足している」が92%、「どちらかといえば不満足である」が8%であった。後期課程は、「満足している」「どちらかといえば満足している」が100%で、第9回調査と比べ、前期課程はほぼ同じ割合であったが後期課程は12%増加した。

徳島大学出身者は、前期課程は94%が第一志望で入学していた。他大学卒業者の大学院進学の際には、前期課程の86%、後期課程の100%が「第一志望だった」と回答した。「現在所属する大学院に入学した主な理由」について、前期課程では「出身大学だから」が最も多く29%、次いで「希望する研究分野があるから」(27%)、「指導教員に勧められたから」(12%)、「地元の大学だから」(6%)、「就職等将来を考慮して」(6%)、「研究環境が整っているため」(6%)、「継続して修学するため」(6%)であった。後期課程では、「希望する研究分野があるから」が32%で最も多く、次いで「出身大学だから」(16%)、「研究環境が整っているから」(13%)、「継続して修学するため」(13%)、「先輩や友人に勧められて」(11%)であった。

「大学院での勉学により目指すもの」については、前期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」が68%と最も高かった。後期課程では「高度な専門的知識・能力を持つ、高度専門職業人」(44%)、「創造性豊かな優れた研究・開発能力を持つ研究者」(31%)であった。

「授業の内容や進め方」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で100%、後期課程では94%であった。

「授業以外の研究活動に費やす1週間の平均時間」について、前期課程では「5～10時間未満」が最も多く28%、また、5時間未満の区分をまとめると40%になり、他の研究科と比較しても、研究に費やす時間がかなり少ない傾向にある。社会人大学院生の割合の多さが影響しての数値と思われる。後期課程では「20～40時間未満」が44%と増加している。

「研究を直接指導している教員」について、「教授」と回答した学生は、前期課程では88%、後期課程は100%であった。また、「指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間」について、前期課程では「30分～90分未満」が44%で最も多く、次いで「90分～5時間未満」が36%であった。後期課程では「90分～5時間未満」が44%、「30～90分未満」が38%、「30分未満」が19%であった。

「研究指導の内容や進め方についての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程が92%、後期課程は100%であった。「修士/博士論文の研究テーマに関する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は前期課程が96%、後期課程は100%であった。

「指導教員とのコミュニケーション」について、前期課程では「充分とれている」「ある程度とれている」の両区分で92%と高い割合を示す一方、「まったくとれていない」学生が4%いた。後期課程では「充分とれている」と「ある程度とれている」を合わせると100%、「まったくとれていない」学生はいなかった。一方、「あまりとれていない」が前期課程で4%おり注視が必要である。

「大学院の教育レベル」に関しては、大学院に相応しいレベルでの教育が「充分に行われている」と「ある程度行われている」を合わせて前期課程で100%、後期課程で100%と肯定的な回答を得ている。

「現在の研究環境についての満足度」は、前期課程の96%が「満足している」と「どちらかといえば満足している」と回答した。後期課程においても、「満足している」と「どちらかといえば満足している」の合計が88%となり、肯定的意見が大半を占めた。不満足と回答した学生に対する追加質問「研究環境に満足していない理由」については、前期課程では「その他」が100%、後期課程では「施設・設備」、「研究費用」、「研究時間」、「その他」がそれぞれ25%であった。

「所属している研究科・専攻の全体としての満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で100%、後期課程で100%であった。

「図書館の利用頻度」について、前期課程では「1か月に1回程度利用する」学生が最も多く32%、次いで「半年に1回程度利用する」が28%、「1年に1回程度か、それ以下の来館頻度である」が16%であった。後期課程ではさらに利用頻度が低下し「半年に1回程度利用する」と「1年に1回程度か、それ以下」が最も多くそれぞれ38%であった。電子ジャーナルやデータベース等、非来館利用も含めた利用目的では、前期課程では「自習」が最も多く30%、次いで「図書等の貸し出し」が26%、「電子ジャーナル・データベース」が19%であった。一方後期課程では「パソコンの利用」が最も多く33%、次いで「電子ジャーナル・データベース」が29%、「図書等の貸し出し」と「自習」それぞれ14%であった。「図書館のサービスに対する満足度」について、「満足している」「どちらかといえば満足している」と回答した学生は、前期課程で96%、後期課程が88%で、高い満足度であった。

「現在所属している大学院にふさわしい学習をしているか」について、「よく学習している」「かなりしている」と回答した学生は前期課程では88%で第9回調査と比較して12%増加した。一方、後期課程では94%で、第9回調査より44%増加した。

「入学後の海外渡航の経験」について、前期課程で「ない」と回答した学生は84%、「1回」と回答した学生が16%であった。後期課程は38%のみが「ない」と回答し、海外渡航経験者の比率は他の研究科と比較して突出して高い。前期課程で海外渡航の経験のある学生のうち「学会参加」目的が25%であった。後期課程は「学会参加」が40%であった。

「国際学会での研究発表」について、「国際学会で研究発表をしたことがない」学生が、前期課程で91%、後期課程で67%であった。

「英会話能力」について、「できない」「あまりできない」と回答した学生は前期課程で79%、後期課程では50%であり、第9回調査から前期課程は11%増加、後期課程は7%低下した。また、後期課程において「専門用語を使った会話ができる」「日常会話ができる」を合わせた区分は前回調査では14%であったが、今回調査では8%に低下した。

「語学力を高めるためにしていること」では、前期課程の58%は「何もしていない」と回答したが、少ないながらも、「ラジオ・テレビの英会話番組で学習している」「TOEIC、TOEFLを受験する」「外国のラジオ、テレビを視聴している」がそれぞれ8パーセント、「外国語の新聞、雑誌を購読している」が4%であった。後期課程では「何もしていない」が36%、「外国のラジオ、テレビを視聴している」が14%、「つとめて外国人と英語でコミュニケーションする」が17%、「ラジオ・テレビの英会話番組で学習している」が21%、「TOEIC、TOEFL等を受験する」が14%、「外国語の新聞、雑誌を購読している」が0%、「英会話等の学校に通っている」が7%であった。

「あなたの将来のために本学の教育に望むこと」について、前期課程では「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」が最も多く31%、次いで「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が24%「個々の教員の教育・研究指導能力の向上」が18%、「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」11%であった。後期課程では「複数の教員による多様な視点に基づく教育・研究指導」が最も多く26%、次いで「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」と「高度な水準にある他大学院等での勉学あるいは研究の機会」がそれぞれ18%であった。

「本学の国際化への積極性」について、「非常に積極的であると思う」「どちらかといえば積極的であると思う」と回答した学生は、前期課程で88%、後期課程は69%で、前期課程は第9回調査とほぼ同様の肯定的意見が得られたが後期課程では低下した。

第7章「進路選択・就職について」では、前期課程の学生で「博士（後期）課程への進学」について「進学したい」、「奨学金等の経済的支援があれば進学したい」と回答したのは28%であった。また「就職したい」と回答したのは44%であり、第9回調査よりも14%就職志向が減少した。後期課程への進学意志のある学生のうち、本学を希望しているのは57%で、前回調査と比べ32%減少した。前期課程

で就職を希望する学生のうち「専門職（医師等）」と回答した学生が48%で最も多かった。「進路選択で重視する要件」は、前期課程では「収入」が最も多く25%、次いで「就職先の将来性・安定性」（24%）、「能力を発揮できること」（18%）であり、これら3項目が主要件になっていた。後期課程も同様の傾向であった。

「進路を考える上での情報入手手段」について、前期課程では、「指導教員」が最も多く23%、次いで「Web・インターネット」が21%、「先輩・知人」は16%で、第9回調査と比べ指導教員の割合は11%増加した。一方、後期課程では「指導教員」の割合が高く29%で、前回調査と同じ割合であった。

「キャリア支援室の利用状況」については、前期課程の84%、後期課程の88%がキャリア支援室を「利用したことがない」と回答しており、前回調査とほぼ同様の結果を示した。保健科学研究科の大学院生は専門性の高い免許や資格を持ち、比較的限定された業種へ就職することが多いため、キャリア支援室の情報や支援よりも他のサポートを利用していることが推測される。「就職に関する大学への要望」は前期課程では「面接対策・履歴書の書き方などの実践的指導の充実」が33%で最も多く、後期課程でも「すでに就職している」を除くと最も多かった（15%）。実践的な内容の就職活動支援に加えて、専門性の高い業種への就職支援の充実が望まれる。

（特記）留学生の現状と課題

留学生の現状と課題をアンケートの関連項目から検討する。本学大学院に在籍する留学生は、前期課程58名、後期課程87名の合計145名であり、前回の第9回調査と比較して前期課程で17名、後期課程で6名、計23名の増加となった。留学生の占める割合は、前期課程5.9%、後期課程19.7%と、前回調査時よりそれぞれ1.6%、0.9%増加している。留学生の回答率は、前期課程53.4%、後期課程44.8%であり、前回調査より前期課程で2.7%減、後期課程では2.8%増であった。

学生の住居区分に関しては、前期課程では、アパート・マンション（家族と別居）が59%と最も高く、次いで学生寮が31%、自宅（家族と同居）が9%で、後期課程ではアパート・マンション（家族と別居）が65%で最も高く、次いで学生寮22%、自宅（家族と同居）9%であった。前回調査と比較すると、学生寮での居住（前回：前期課程57%、後期課程31%）は著減し、アパート・マンション居住（前回：前期課程35%、後期課程36%）は著増している。住居費用では、前期課程では、3万円未満が18%（前回：20%）に減少し、3～4万円未満が45%（前回：70%）に著少し、5～6万円未満が27%（前回：0%）に著増して、後期課程では、3万円未満が44%（前回：28%）に著増し、3～4万円未満は39%（前回：28%）に増加し、4～5万円未満が8%（前回：24%）に著少し、5～6万円未満が0%（前回：8%）に著少し、7万円以上は9%（前回：4%）と続いた。

配偶者や子供については、前期課程において、配偶者と子供がない割合が94%、配偶者あり子供ありが6%、後期課程において、配偶者与孩子がない割合が65%、配偶者あり子供なしが15%、配偶者あり子供あり20%であった。後期課程において、子供の世話をするのは、30%が配偶者、40%が保育施設に預けられ、30%が小学校等に通っている。

通学方法については、全体として主な手段は自転車であるが、後期課程になると自動車の割合が増加している。前期課程で自転車の割合が50%と高く、徒歩は28%、バス・JRとバイク（原付自動車・自動二輪）が各9%、自動車が3%であった。後期課程でも自転車が61%と最も多いが、自動車が増え20%を占め、徒歩11%、バス・JR7%、バイク（原付自動車・自動二輪）が2%となっている。

通学時間については、前期課程において、15分未満の割合が63%と最も高く、逆に30分～1時間未満と15分～30分未満がそれぞれ22%、13%であった。後期課程は、15分未満が54%で最も高く、次いで15分～30分未満が33%、30分～1時間未満が13%であった。

収入については、前期課程において、1か月平均収入が3万円未満の割合は53%（前回：52%）に変動がないし、収入が3～5万円未満の割合は22%である。後期課程において、1か月平均収入が3万円未満の割合は15%（前回：44%）に減少しているが、1か月平均収入10万円以上が65%となっている。親からの援助を受けていない割合では、前期課程で34%（前回：39%）に減少し、後期課程で80%（前回：61%）に著増している。アルバイトをしている学生は、前期課程で38%、後期課程で15%であり、前期課程では前回調査と変わっていないが、後期課程では著少している。平均支出では、7万円未満の留学生の割合は前期課程で41%（前回：56%）に減少し、後期課程で21%（前回：56%）に著少している。奨学金支給を受けることを希望する割合は、前期課程では35%（前回：65%）に著減し、後期課程では91%（前回：61%）に著増して、現在受けていない学生でも、ほとんどの学生が受給を希望している。

留学生の健康状況については、気になる症状が「ある」が前期課程で5割、後期課程で6割となったが、気になる症状が「常にある」留学生はほとんどいなかった。留学生の悩みや不安も、前期・後期課程とも、「勉強」、「経済状態」、「就職や進路」が多かったが、前期課程では悩みや不安が「ない」とした者が13%（前回：3割）と少ない傾向にあった。前回調査では「経済状態」の悩みと不安をもつ者が約5割であったが、今回少ない傾向になった。また、悩み事の相談者として、友人、家族、教員が挙がっていたが、約1割弱は悩みを誰にも相談しないと回答していた。現在の精神状態では、8～9割が「充実している」または「気分は普通」であり、前回と同様である。嗜好品では、留学生ではほとんどが飲酒習慣はないとの回答であったが、男子の喫煙率は18%で、前回とほぼ同じである。

教育課程に「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した割合が、前期・後期課程ともに100%であり、前回と同様である。本学を選んだ理由と目的では、両課程ともに「希望する研究分野があるから」と回答した学生の割合が最も多く、前回と同様であった。大学院での勉強で目指すものとして、前期課程では「高度専門職業人」と「高度で知的な素養のある社会人」が多く、後期課程では「高度専門職業人」と「研究者」が多かった。授業に対しては前期・後期課程の全学生が、「満足している」または「どちらかといえば満足している」と回答した。

留学生の研究活動では、週20時間以上研究活動を行っている割合が、前期課程38%（前回調査より12%増加）、後期課程58%（前回調査より8%減少）である。一方、指導教員から研究指導を受けている1週間の平均時間は「30～90分未満」と「90分～5時間未満」に集中しており、前回調査と同様の傾向である。留学生の方が長い指導を受ける傾向はあり、コミュニケーションのスピードの問題も一因かと思われる。研究指導の内容や進め方については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」の回答が97%以上であり、前回の調査と同様に良好である。同様に、全員が概ね大学院に相応しいレベルの教育が行われていると回答している。現在の研究環境は、留学生からも概ね高い評価を得ていた。所属大学院の満足度に関しても、留学生における満足度は全体に非常に高い。大学院での学習への取り組み状況については、「よく学習している」あるいは「かなりしている」と回答した留学生は、前期課程で97%、後期課程で98%であり、前回調査同様高い割合を示した。

日本語会話の能力について、「なんとか日常会話ができる」以上の回答した留学生は、前期課程では82%、後期課程では48%で、前回調査より前期課程で9.0%減、後期課程では13%減であった。英語会話の能力について、「なんとか日常会話ができる」以上の回答した留学生は、前期課程では81%、後期課程では98%で、学習や研究するために十分高いと考えられる。また、前期課程では75%、後期課程では89%が、日本語コースを「受講している」、「以前受講したことがある」あるいは「今後受講する予定である」と回答しており、前期課程では前回調査より3%減、後期課程では前回調査より6%の減少が見られた。日本語コースの満足度については、「満足している」あるいは「どちらかといえば満足している」と回答した留学生は、前期課程95%、後期課程94%で、前回調査（72%と82%）と比較す

ると大幅に増加していた。前回調査に続き、日本語習得のための日本語コースの需要度の高さが示されたが、コロナ禍において対面授業が制限されるなどの制約が影響していることも考えられ、日本語コースの満足度は低下する結果となった。今回、日本語コースの満足度は対面形式に戻したことにより、高い満足度が回復したと考えられる。

学生が自身の将来のために本学の教育に望むものについては、前回の調査結果と同様に、「統合的な学習課題を体系的に履修するコース」を望む割合が学生全体に比べてやや高い。本学の国際化への対応については、前期・後期課程のほぼ100%が「非常に積極的である」あるいは「どちらかといえば積極的である」と答えている。従って本学が行っている国際化への対応は留学生に評価されているものと考えられる。

前期課程学生の進学選択に関して、「進学したい」は学生全体では9%だが、留学生のみでは19%（前回は22%）、「経済的支援があれば進学したい」は学生全体では7%だが、留学生のみでは、19%（前回9%）であり、日本人学生に比較して後期課程への進学意欲は高い。後期課程への進学を促すため、留学生も対象となる次世代研究者挑戦的研究プログラム等の取り組みについて、今後情報発信を行う予定である。

進学希望者8名のうち、67%（前回：86%）が本学、0%（前回：14%）が他大学への進学と回答しており、日本人学生と同様に進学先について迷っている学生への指導が極めて重要である。

希望の職種については、前期課程の回答者は24名（創成科学23名、口腔科学1名）、後期課程の回答者は11名（創成科学8名、医学3名）である。前期課程では「技術職」（21%）と「事務職」（17%）が多く、前回の調査と比べて事務職の割合が増加したことから、専攻での学び以外に、適性ややりたいことを踏まえ職業選択を行っていると考えられる。後期課程では「技術職」（27%）、「大学・官公庁の教育・研究職」（18%）、「企業等の研究職」（18%）、「専門職（医師等）」（18%）、となっており、日本人と同様の傾向となっている。進路選択で重視するものでは、前・後期課程とも「収入」、「就職先の将来性・安定性」、「能力を發揮できること」が主要件となっており（前期課程では「就職先の社会的評価」も主要件に入っている）、日本人学生と類似した傾向がある。進路情報の入手手段については、前・後期課程とも「Web・インターネット」に次いで「指導教員」の割合が高く、留学生に指導教員の役割が大きいと思われる。キャリア支援室の情報または就職相談員）を利用する割合が、後期課程は日本人学生よりも高いことである。就職に関する大学への要望では、「面接対策・履歴書書き方」、「就職情報誌」、「就職ガイダンスの充実」などが多かった。留学生については、日本人学生に比較して後期課程への進学意識は高く、留学生の確保が後期課程の定員を充足させるカギになると思われる。本学が実施している後期課程学生への経済的支援について、学生へ更なる周知を行い、進学を促していきたい。

進学希望先としては、日本人学生と留学生ともに本学を希望するものが約8割となり、各指導教員の努力の賜物であると思われる。留学生に関しては、前期課程では「技術職」と「事務職」が多く、後期課程では「企業等の研究職」が最も多い。留学生の希望職種についても前回から変化が見られたため、キャリア支援室や国際課の更なるサポートが必要だと思われる。

今後の課題

本学では、第4期中期目標期間中に300人以上の外国人留学生を受け入れる目標を立てている。また、中期計画「徳島大学のグローバル化に資する新組織の構築とグローバル人材の育成」を実施するため、外国人留学生を日本に定住させることを目標に、学部留学生を増加させ、外国人留学生の在籍者率を引き上げる目標を掲げ、加えて日本人学生のグローバル化を推進するため、海外派遣を倍増する目標も掲げている。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症の位置づけが5類に移行したことにより、本学の国際交流活動の制限がなくなり各評価指標とも目標値を達成した。外国人留学生の受け入れ数が増加し

- た。コロナ前の状況に戻ったが、これから第4期中期計画の目標を達成するにはいくつかの課題がある。
- 渡日前入学制度により、優秀な留学生が集まっている。新型コロナウイルス感染症は終息したが、渡日前入学制度に関する説明会は現地での実施を中心としつつ、一部はオンラインでも行う予定である。2023年度からモンゴルの日本語学校が対象に加えられるほか、将来的には台湾の日本語学校も新たに対象となる予定である。こうした募集活動の充実に加え、優秀な人材を受け入れるために、大学院生の同窓会や現地拠点との連携を推進する必要がある。
 - 物価の上昇とともに、学生寮ではなくアパートに住む学生が増えている。学習や研究が忙しく、アルバイトをする学生の割合が減少している。奨学金に関しては、以前より後期課程において奨学金を受給する学生が増加する傾向にある。奨学金を受給していない学生は全員が受給を希望している。経済状況が恵まれてない留学生に対する住宅、奨学金や授業料免除制度の拡充、TA / RA 制度の活用などを含むさらなる支援を充実し、安心して勉学できる環境を整備する必要があると思われる。
 - 学生寮への入居を希望する留学生はいる。将来的には、通学に便利な留学生用宿舎の定員を増やすことを検討する必要がある。
 - 健康状態については、コロナ後の時代に入り、学生の悩みや不安は減少傾向にあるものの、前期課程・後期課程ともに『学業』『経済状況』『就職・進路』に関する悩みは依然として多い。また、誰にも相談していない学生も約1割にのぼる。相談体制は整備されているが、より多くの学生に利用してもらうためには、何らかの工夫が必要である。
 - 留学生の日本語習得ニーズは高く、日本での就職活動に迅速に対応できるビジネスレベルを身につけるためには、より実践的なアプローチが必要となる。
 - 留学生の日本文化体験や国際交流の機会が制限されている。留学生が日本文化理解や日本語能力を向上するため、日本人学生や地域住民との交流に関して取り組み等を整備する必要があると思われる。同様に、日本人学生の国際化意識の向上および異文化体験、英語能力、コミュニケーション能力の向上を強化する必要もある。すでに実施されている海外留学プログラムなどを維持・拡大することが求められる。
 - 留学生の就職が困難になっている。国際課、インターナショナルオフィス、キャリア支援室など学内外の関連機関が引き続き連携し、学生の就職支援、特に県内就職支援を強化する必要がある。

第9章 総括と提言

大学院生を対象とした学生生活実態調査は、大学院生の就学及び生活の実情を的確に把握し、大学として支援する事項を見出すことが主な目的である。今回(第10回)の調査は、本学大学院に在籍する1,422名(前期課程981名(うち留学生31名)、後期課程441名(うち留学生871名))を対象に行い、全体のアンケート回収率は31.2%であった。回収率は、前回34%より若干減少した。本調査目的である学生の生活実態を正確に把握するためには、より高い回収率が望まれることから、特に回収率の低い研究科においては今後、回収率の向上に向けた取り組み・工夫が求められる。

今回の調査結果は、2年前に実施した前回(第9回)調査から数値の変動はあるものの、傾向は大きくは変わっていない。研究科間で結果にバラつきがあるが、本調査の目的である大学院生の支援に大学全体としてどう活かすかという観点から、以下に総括と提言を取りまとめた。

1. 経済状態について

大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しいことが窺われ、奨学金希望者の割合は両課程ともに約半数に上る。いずれの研究科においても保護者等からの経済的支援を受けていない大学院生の割合が最も多く、前期課程27%、後期課程82%に上る。そのため、収入面での独立傾向が強く、アルバイトの目的を「生活費や学費のため」と回答した割合が後期課程(48%)の方が前期課程(35%)よりも高く、また、10万円以上のアルバイト収入を得ている大学院生が後期課程で36%(前期課程3%)という結果に繋がっていると思われる。アルバイトに25時間以上従事している大学院生も少なからずいることから、学業への支障が危惧される。徳島大学では、研究に専念できるような環境を提供するとともに、多様なキャリアパスの形成に向けた支援として、大学院博士課程又は博士後期課程対象に生活費相当額と研究費が支給・配分される事業(うずしおプログラム)を実施している。学生がこのような制度を有効に利用できるよう、全学的に周知を行っていく必要がある。経済的に援助が必要な大学院生が学業に専念する時間を持つことができる支援の構築は、大学院の充実に向けて取り組むべき継続的重要課題の一つである。

2. 健康状態について

身体的健康については、約半数の大学院生が「気になる症状がある」と回答しており、症状の多くは生活習慣の不良を原因として発生していると考えられることから、健康管理に対する学生の意識向上対策が求められる。精神的健康については、約3割の大学院生が悩みや不安などの何らかの精神的不調感を持っており、その多くは「勉強」、「就職」、「経済状態」といった学生特有の問題である。この結果から、健康面・精神面の問題に対する支援の強化が望まれるが、悩みや不安の相談相手は身近な友人や家族が主であり、専門家による支援が得られる総合相談部門(学生相談室)や保健管理部門の利用は依然として低調である。支援窓口としてのキャンパスライフ健康支援センターを気軽に利用してもらうための一層の啓蒙活動に加え、指導教員が学生の変調を早く把握し、必要に応じて大学院生に当センターの利用を促すことも必要であろう。

3. 生活上の問題点について

大学院生の約1割が、何らかの迷惑行為を受けている。ハラスメントについて、さらに適切な予防啓発の活動と対策が必要である。支援窓口となる総合相談部門(学生相談室)の利用率は約1割であり、利用後の満足度が高い。なお、同部門の認知率、利用率はともに蔵本地区で低い傾向にあり、認知度向上対策が求められる。

交通事故(前期課程15%、後期課程26%)、盗難被害(前期課程5%、後期課程3%)を経験している大学院生がいることから、身近な事件・事故防止に向けた啓蒙活動の強化・継続が必要である。

4. 修学状況について

前期・後期課程ともに、授業および研究指導に対して高い満足度が維持されており、教員との意思疎通も良好で、全体として大学院生の90%以上が研究科に満足しており、今後も高い満足度が維持されるように努力を継続することが求められる。研究環境に対しても約9割以上が概ね満足しているが、一方で、満足していない大学院生が少なからずおり、その理由として「施設・設備」、「研究費用」が多い。大学の財政事情が厳しく、教員個々の研究費獲得への依存度が今後更に高まることが予想される状況から、直ぐに改善するのは難しいと言わざるを得ない。また、「研究時間」を不満の理由にあげる大学院生も1割程度いることから、指導教員による何らかの対応が望まれる。

図書館の利用頻度は研究科間で大きなばらつきがあるが、図書館のサービスに対して約90%の大学院生が満足しており、評価が高い。今回の調査においても、ウェブを介した学術雑誌やデータベースの利用頻度が高いことが再確認され、大学院生の日々の学習や研究活動に必要なこれら閲覧サービスの質・量の維持・充実が強く望まれる。

徳島大学の国際化への取組みは大学院生から一定の評価を受けているが、一方で、学生の英会話習得に向けた学習努力や、海外渡航経験、国際学会における発表経験などは低調に推移しており、学生の国際化意識は高いとはいえない。今後、オンラインを有効活用した研修や学会参加など状況に合った新しい方法を検討する必要がある。また、この傾向の原因を分析し、国際的に通用する有能な人材育成に向け、グローバル化教育の整備・推進、国際学会への発表支援などを組織的に強化していくことが求められる。

5. 進路・就職について

前期課程から後期課程への進学を希望する大学院生の割合が16%であり、高いとはいえない。後期課程への進学を促すためには、経済的支援や修了後の就職先の開拓など大学院生が安心して進学できる環境整備を進めていくことが必要である。

キャリア支援室の利用は、依然として「利用したことがない」との回答が両課程とも半分以上あり、まだ十分に活用されていない。学生の就職希望先は高度な専門職、研究職、技術職など研究科・教育部間で異なるが、就職に関する学生の要望の多くはキャリア支援室が主に取り組んでいるサービスであることから、キャリア支援室は各研究科と連携してサービス内容の周知を徹底すれば、大学院生にとって貢献度の高い情報提供ソースになると期待される。

6. 留学生について

留学生の学習への取り組み状況は良好で、日本人学生の学習意欲や国際化意識の向上に良い影響を及ぼしていることが期待される。留学生の良好な学習への取り組み状況や教育課程への高い満足度を維持し、大学院の国際化を加速していくためには、日本人学生と同様にニーズの高い経済的支援と健康面に関する支援、就職支援を充実し、安心して学習できる環境を整備することが望まれる。また、修学・生活支援に繋がる日本語学習の充実と英語による留学生への各種サポート体制の整備に、継続して取り組んでいく必要がある。

あ と が き

平成 17 年度から隔年で継続的に行われている大学院生を対象とした生活実態調査は、今回で 10 回目となりました。アンケート結果はこれまでと全体的に大きな変化は見られませんが、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行したことで、大学院生の生活にも活気が戻って来たように感じます。特に、国際学会の再会が英語学習のモチベーション向上につながるなど、学習意欲を向上させる様々なイベントが復活したことは喜ばしいことです。しかしながら、急速に進む物価高は学生の日常生活はもちろんのこと、研究室での研究活動にも大きな影響を及ぼしており、アンケート結果の数字だけからは窺い知れない事態が進行していることが懸念されます。引き続き、学生生活の実態に注視していくことが求められます。生活実態調査の解析は、アンケート結果のデータを基にしています。新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行した後もアンケートの回収率は 4 割以下であることから、次回の調査では回収率を高める改善の対策が望まれます。大学院生を取り巻く経済状態は依然として厳しい状況が続いていますが、うずしおプロジェクトなど奨学金の充実が進められているため、今後は博士後期課程への進学者の増加が期待されます。ここ数年間にわたる社会情勢の急激な変化によって、大学院生の修学ならびに健康にも影響が及んでいることが考えられることから、学生生活の実態を正確に把握し、どのようにして改善や対策を行いフィードバックすることが有効で継続的な取り組みになるのかを課題として考えることが望まれます。海外から本学で勉学に励んでいる留学生においても状況は同じであり、充実した各種のサポートが受けられる一層の対応が求められます。

最後になりましたが、今回の調査にご協力いただいた大学院生、調査結果を分析して報告書を分担執筆された委員の先生方、ならびに、ご協力をいただいた事務職員の皆様方に深く感謝いたします。

学生生活支援室長

難 波 康 祐

徳島大学

令和7年3月



徳島大学は、学校教育法第109条第2項の規定による「大学機関別認証評価」を受け、「大学評価基準を満たしている」と認定されました。(令和2年3月24日)

- ・認定評価機関：独立行政法人大学改革支援・学位授与機構
- ・認定期間：7年間
- ・(令和2年4月1日～令和9年3月31日)

